関西大学大学院

〒564-8680　大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学入試センター 大学院入試グループ
TEL:06-6368-1121（大代表）

■お問い合わせ
https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/qa/

関西大学大学院　Information 2025

関西大学
KANSAI UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOLS
大学院

INFORMATION
2025

沿革

2022年に大学昇格100年を迎えた関西大学は、1886年、関西における唯一の法律学校として創立されました。爾来、真理の討究、自由の尊重、自治の訓練による穏健醇厚な学風を持って成長し、1922年には大学令による大学に昇格。1924年には大学令による大学院（旧制）の設置が認可され、一層教育内容の充実に努め、今や大学院15研究科（2専門職大学院を含む）と13学部のほかに留学生別科、高等学校、中学校、小学校、幼稚園を有する一大総合学園として発展し、名実共に私学の雄としてその偉容を誇っています。
本大学院は、1950年に他大学にさきがけ新制大学院修士課程、1953年に博士課程を設置し、1975年に大学院設置基準による博士課程の大学院として位置づけられました。また、2004年からは専門職学位課程を設置し、現在に至っています。

1950年　新制大学院を法学、文学、経済学の3研究科で設置
1962年　商学研究科、工学研究科を設置
1971年　社会学研究科を設置
1998年　総合情報学研究科を設置
2002年　外国語教育学研究科を設置
2004年　法科大学院を設置
2006年　会計専門職大学院を設置
2008年　心理学研究科を設置
2009年　臨床心理専門職大学院を設置
（2020年心理学研究科心理臨床学専攻博士課程前期課程に改組）
工学研究科を理工学研究科に改称
2010年　社会安全研究科を設置
2011年　東アジア文化研究科、ガバナンス研究科を設置
2014年　人間健康研究科を設置

学位

博士課程を前期2年、後期3年の課程に分け、前期2年を修士課程として取り扱い、修了者には修士の学位を授与する。後期課程への進学は、前期課程を修了し、進学試験に合格しなければならない。後期課程に所定の期間在学し、学位論文の審査に合格した者には、博士の学位を授与する。
法務研究科（法科大学院）の専門職学位課程修了者には、「法務博士（専門職）」の学位を、会計研究科（会計専門職大学院）の専門職学位課程修了者には「会計修士（専門職）」の学位を授与する。

目的

博士課程前期課程
広い視野に立って清深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

博士課程後期課程
専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

専門職学位課程
高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を養うものとする。

CONTENTS

SUPER RESEARCH TOPICS
関西大学の研究力 → 02

RESEARCH SUPPORT
研究生活への支援制度 → 04

LIBRARY
図書館案内 → 06

STEP
大学院出願のSTEP（博士課程前期課程・後期課程） → 08
関西大学大学院に関する情報の入手方法 → 09

COURSE
設置課程・研究科 → 10

GRADUATE SCHOOLS
法学研究科 → 12
文学研究科 → 16
経済学研究科 → 22
商学研究科 → 26
社会学研究科 → 30
総合情報学研究科 → 34
理工学研究科 → 38
外国語教育学研究科 → 46
心理学研究科 → 50
社会安全研究科 → 54
東アジア文化研究科 → 58
ガバナンス研究科 → 62
人間健康研究科 → 66
専門職学位課程（法科大学院、会計専門職大学院） → 70

OTHER SUPPORT
教職支援体制 → 72
外国人留学生へのサポート → 73
キャリアサポート → 74

CAMPUS & ACCESS
施設案内 → 76
キャンパス紹介 → 78
アクセスマップ → 79

TUITION
学費・諸費 → 80
奨学支援制度 → 82

ADMISSIONS & GUIDANCE
入学試験日程 → 83
2024年度入学試験結果 → 86
2024年度進学説明会 → 88
Q&A（博士課程前期課程・後期課程） → 89

人以上に
人を理解してくれる
ロボットは実現可能か

ロボットが
人のホントを見抜いている

理工学研究科

前 泰志 教授

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

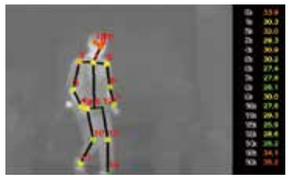
PROFILE

大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。大阪大学大学院基礎工学研究科助手、福井大学工学部助教授、大阪大学大学院基礎工学研究科准教授を経て、2019年本学に着任。実世界の視覚センシングと知能情報処理を基盤として、人間中心のシステムの知能化、人と機械が調和した知能システムデザインを探究している。2023年現在、HSR（ヒューマン サポート ロボット）コミュニティのメンバーとしても活動中である。

研究室紹介

超高齢化社会において、人が快適、豊かに暮らすためには、ロボットがいかに個々人に適応して日常生活をサポートできるかがカギになります。サポートを行うロボットには、状況を把握するためのカメラや距離センサーによる画像や動画、距離データを取得するセンシング技術に加え、センサーで取得したデータを処理するAI（人工知能）や情報処理技術、処理・分析に基づきサポートを行うロボット技術が必要です。ゼミではこれらの技術を統合し、人と調和する知能ロボットシステムの研究をしています。

「そろそろ休んでは？」と提案するロボット



興味があるのは、人が日常生活を送る空間で、人のために働くロボットです。日常空間で働くために必要なのが、複雑な空間のリアルなデータのセンシングやAIを使った情報処理の技術。それらとロボット技術を融合させて、「人と機械が調和する知能ロボットシステム」の実現を目指しています。研究の軸に据えているのは、画像認識の技術です。ディープラーニングなどAIの技術が進化したことで、日常生活のような情報量の多い複雑な場所でも画像認識が可能になり、その精度も向上しています。ロボットがカメラを通して得た画像や映像を認識して動くようになることで、人に役立つさまざまなサービスの可能性が広がると考えています。

現在研究室で進めている研究テーマの一つに「人の姿勢と体表面の温度分布を同時に推定するセンシングシステム」があります。カラー画像に加えて赤外線を使って対象物の表面温度を計測するサーモグラフィカメラで人の姿勢を計測し、サーモグラフィカメラでセンシングした温度分布のデータを組み合わせてリアルタイムに表示するというものです。

例えば、夏の戸外で作業や運動をしている人に対して、ロボットが熱中症の傾向がないかをチェックしたり、『そろそろ水分補給や休憩をしてはどうですか』と提案できるといいですよね。人が気づかない早期の段階でロボットがデータを分析して体調不良の兆候に気づくことができれば、応用範囲も広いと思います。例えば、ある動作に対して、どの部分の体表面温度が上がりやすいのかがわかると、その時の運動量がどれくらいになるかといった推定ができます。健康づくりやリハビリテーションなどの分野での活用にもつながるのではないかと考えています。

人の日常動作を予測する

研究室では人の姿勢を推定する技術をさらに展開させ、カラー画像に加えて距離（深度）データも計測できるRGB-Dカメラを使い、人の姿勢を三次元でとらえてリアルタイムに計測し、人の日常動作を予測させる研究を進めています。

最近の実験では、椅子の周りに4つの地点を設定し、どの場所の物体を取ろうとしているのかを予測させました。椅子に座っている人が各地点に置かれた物体を取る動作を動画に撮り、ディープラーニングの手法で情報を処理します。人が取ろうとしている物体を予測して、ロボットが先回りして物体を取ってあげるという想定です。実験の結果、かなりの精度で予測できることがわかりました。動作のし始めは動きが少ないために予測が難しいようでしたが、その段階を過ぎるとかなり正しい予想が可能になりました。今後は、もっと複雑な動作についても実験を積み重ねていきたいと考えています。

WEB会議中の集中度を見抜けるか

人の行動の一歩先を読むだけでなく、人の心の状態を推測する研究も手掛けています。コロナ禍以降、リモート会議やリモート授業がポピュラーになりましたが、対面とは違って相手の状態がわかりにくい場合があります。そこで、モニターに映し出される画像から心拍数を推定できれば、人が緊張しているのかリラックスしているのかぐらいは分かるのではないかと考えました。

心拍数を推定する仕組みは、画像から人の顔を検出し、肌色の変化を時間を追って調べています。肌の血液量の増減によって肌色が変化するのをリアルタイムで追いかけ、血液量の変化を推定して数値化します。この値が心拍に応じて上下するため、そのピークの数から心拍数を割り出しています。

実際にWEB会議システムの利用時に計測した結果では、心拍センサーとの差が毎分5回以内だった時間が全体の5〜8割でした。仕草や顔の向きによって顔検出ができないと精度が落ちるので、それも考えに入れるとまずまずの精度ではないかと思っています。顔画像を認証に使うようなシステムは既に実用化されていますが、私たちの顔は想像以上にいろんなことを教えてくれるのだと改めて実感しています。

人と関係を構築できるロボットの開発をめざして

画像認識システムを組み込んで、働くロボットとして稼働させる研究も行っており、その一つがロボットによるゴミの分別回収です。

具体的には、ロボットにRGB-Dカメラを付け、画像からペットボトルか缶かを識別させようとしています。日常の生活空間のように雑多な情報がある中で、ペットボトルや缶を見つけて、物体をつかみ、所定の回収箱まで運んで捨てるという、一連の動作ができることが目標です。事前にペットボトルや缶のデータを学習させておきますが、実際には、物体の一部が隠れていたり、汚れていたり、光が反射したりといった、さまざまな条件によって全く違う形状や色になってしまいます。それをいかに正しく認識させられるかがカギとなりますが、この課題を解決するには、今の段階では缶とペットボトルのデータについてなるべく多くのバリエーションを学習させておくしかなく、ビックデータを扱えるような開発環境が不可欠です。

人の近くで働くロボットには、安全であることはもちろん、できるだけ機械を意識せずに自然に人に接することができること、安心や親しみを感じられることが重要ではないかと考えています。人の生活をずっと見ていて、人以上にその人のことがわかれば、そんな接し方が可能になるかもしれません。例えば、『あれ取って』と対象がはっきりしない言い方で頼まれても望むものを取ってあげられる、そんな人との関係を構築できるロボットを実現したいと思っています。

未来を問い、そして挑戦する。
関西大学の研究力

ワーケーションがもたらす、
地方創生と
ウェルビーイング

自分に合ったワークスタイルで
働く社会へ

社会学研究科

松下 慶太 教授

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

PROFILE

京都大学文学研究科、フィンランド・タンペレ大学ハイパーメディア研究所研究員、実践女子大学人間社会学部、ベルリン工科大学訪問研究員などを経て、2020年に本学に着任。専門はメディア論、ソーシャル・デザイン。近年は特にデジタルノマドやワーケーション、コワーキングスペースなどモバイルメディア・ソーシャルメディア時代におけるワークプレイス・ワークスタイルを都市論、観光学の視点も含めて研究している。

研究室紹介

研究室ではメディアや観光、食などをテーマにしながらそれぞれ独自の切り口で研究しています。例えば、観光情報を発信する素人ブロガーのコミュニケーションを実際に活動しながら明らかにしていったり、メタバース上でのアバターファッションのあり方をそのコミュニティに参加しながら考察する、中国におけるデジタルノマドを対象に彼ら彼女らが働くコワーキングスペースが発行する雑誌を素材として地域との関係を明らかにする、日本の地域における観光まちづくりワークショップを実際にデザインするなどさまざまなアプローチで研究しています。どれも自分が足を運んだり、手を動かすことを重視しています。

コロナ禍と人口減で柔軟なワークスタイルが普及

専門分野はメディア論、ソーシャルデザイン、コミュニケーションデザインです。近年はリモートワークやワーケーション、デジタルノマドなどのワークスタイル、またコワーキングスペースやクリエイティブオフィスなどのワークプレイスを対象に研究しています。

私は地方での働き方に特に関心があります。例えば、普段は渋谷にあるオフィスで働き、夏の間は軽井沢で2週間働くなどのワーケーションや、軽井沢の自宅やコワーキングスペースからリモートワークをして、必要がある時に渋谷のオフィスに出向くワークスタイルなど、多様な働き方が少しずつ増えてきています。ヤフージャパンやメルカリなどのIT関連企業では、居住地・通勤手段の制限を撤廃したため、オフィスは都心にありますが、住居は地方に構えるという社員も多くなってきています。

理由として、オンラインでできる仕事が増えたこと、コロナ禍でオフィスに出勤できない中自宅などからのリモートでも意外に仕事ができたという経験、人口減による人手不足が挙げられます。育児や介護で毎日出社することが難しい人、のどかなところで子育てしたい人など、自分に合った働き方ができる職場を選ぶ人は増えつつあります。時間や場所に関して柔軟な勤務体制を用意できない会社には、人材獲得競争は厳しいものになってきています。

ワークスタイルの再構築が人材確保・育成の鍵

フルリモート希望の人もいれば、毎日出社したいという人もいます。極端に言えば、オフィスに行きたい時は行く、行きたくない時は行かない。選べるのであれば、多分それが一番心地よい。オンラインとオフライン、どちらが良いかの二項対立ではなく、どう組み合わせるのか、その設計やデザインが重要だと思います。

今後は雇用する側が「当社はフルリモートです」や「ハイブリッドです」、「週5回出社したい人に来てほしい」というように、ワークスタイルを開示しないと、ミスマッチが生じるようになるでしょう。ワークスタイルへの満足度が離職率を下げ、定着率を上げるポイントになってくると思います。求職者側は業界研究、職種研究に加えて、ワークスタイルを吟味しないといけない。ワークスタイルはライフステージによっても変わります。若い頃は毎日オフィスに出社できるかもしれませんが、育児や介護問題が出てくる年齢になるとそれが難しくなることもあるでしょう。雇用する側は、終身雇用でずっと同じワークスタイルを継続させるよりは、ライフステージによってワークスタイルを選べる柔軟性を提供することが重要になってくると思います。

大学から企業等に就職する節目においても、大学側は単なる就職活動支援にとどまらず、学生一人一人が大学卒業後の人生の中で、自分に合ったワークスタイルを見つけられるようなキャリア教育を実践していくことが必要だと思います。

ウェルビーイングを高める道を模索する

ワーケーションやリモートワークで効率や生産性は上がるのか、という質問をよく受けますが、個人的には下がらなければ良いと思っています。リモートワークで生産性を上げなければいけないのは一種の「呪い」になります。生産性が上がるかどうかは、人や仕事の種類によってケースバイケースです。それよりも下がらないようにして、ウェルビーイングを高める道を模索するほうがそれこそ生産的な議論になるでしょう。

私はワーケーションやデジタルノマドを研究しているからといって、日本人全員にワーケーションしましょう、デジタルノマドになろうと呼びかけているわけでありません。大多数ではないにせよ、やってみたい人が増えているのだから、職場環境を整えて、できるようにしておこうということです。これは、社会や組織でマイノリティを認めることにも通じる。大きな意味では、ダイバーシティやインクルージョンの研究にも関わってくると思います。

広がるワーケーション、受け入れる地方の反応は

近年、国内外でデジタルノマド誘致が叫ばれるようになりました。海外のデジタルノマドは受け入れ先の住民との交流はあまり考えていません。一方で日本の場合は、積極的に交流してほしいという要望が受け入れ側にあるのが大きな違いですね。その先には、地方が抱える社会課題解決のためにゆくゆくは移住してもらいたい、企業に移転してもらいたいという本音もあるでしょう。ただ、ワーケーターはそういう思惑を感じると敬遠してしまう人もいるので、受け入れ側はその距離感を探っていますね。

さまざまな土地に赴いてみると、その土地その土地でワーケーション資源が眠っていることに気づきます。名所や名産、名物料理などを観光資源と思っている方が多いですが、とらえ方を変えてみると、その地域の何気ない場所やものが、やってきた人には魅力になったりします。長期滞在をすると、自炊のために地元の商店で買い物したり、クリーニングを利用したりと、いわゆる観光以外のいろいろなところでお金を使います。そういった意味でも、地方はワーケーションの特長や効果をうまく使ってほしいなと思います。

ICTやAIの進化によって、人間に何ができるかが問われるようになってきました。創造性やイノベーションが求められる時に、自分にとって無理のあるワークスタイルで創造力を発揮できるかといえば、なかなか難しい。イノベーションにつなげる発想の転換、新しい刺激を得るために、ワーケーションのように異質なものに出会うことを認める、促進する環境を整えている企業が、それに向く人材を採用できるでしょう。どういう人材を採りたいのか、AIの導入やDXが進んでいく中で、人は何をするか、今の働き方でクリエイティビティの高い人を育成できるのかが問われています。

研究生活への支援制度

院生研究室（千里山キャンパス）

院生研究室（高槻キャンパス）

院生研究室（高槻ミューズキャンパス）

院生研究室（堺キャンパス）

院生研究室

千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパスおよび堺キャンパスには、大学院生専用の院生研究室を設けており、落ち着いた環境で研究活動を行うことができます。千里山キャンパスについては、研究科に応じて、尚文館（大学院棟）や以文館などに院生研究室を設けており、24時間365日使用することができます。

長期履修学生制度

大学院入学者の多様なニーズに対応し、教育研究の機会を拡充するため、従来の博士課程前期課程における2年コースの他に修業年限を3年とし、授業科目を計画的に履修する「3年コース」を一部の研究科・入試種別で実施しています。授業料の詳細については、80~81ページの「学費・諸費」を参照してください。なお、3年コースから2年コースへ在学期間を途中で変更する場合は、2年次に、3年次に納入する授業料を合わせて納入することが必要となりますが、正確な納入金額については、手続き時にご確認ください。

実施研究科

- ■ 法学研究科
- ■ 文学研究科
- ■ 総合情報学研究科
- ■ 外国語教育学研究科
- ■ 心理学研究科（心理学専攻）
- ■ 東アジア文化研究科
- ■ ガバナンス研究科
- ■ 人間健康研究科

※経済学・商学研究科では一部の入試種別に限って長期履修学生制度を利用できます。

先輩の声

長期履修学生制度の利点は、修士論文の執筆に時間を充てるだけではなく、自分自身の可能性を広げるための猶予が与えられることだと思います。
時間をかけて研究に取り組み、より深いものをめざしながら、自身で立てたさまざまな目標に挑戦しスキルアップができるでしょう。

関西四大学大学院単位互換履修生

本学は、関西学院大学、同志社大学、立命館大学との間で「関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定」を締結しています。この協定により単位互換履修生の相互受入を行い、各大学大学院での授業科目の履修および単位の修得を認めています。また、指導教員の許可を得て修了所要単位に含めることもできます。

大学院共通科目

大学院共通科目は、学部教育から大学院教育へのスムーズな接続を図るとともに、大学院生に共通して求められる知識・能力等を獲得させることを目的に設置された科目です。研究科により修了所要単位に含めることもできます。単位の取扱いの詳細は、入学後、大学院要覧にてご確認ください。

コピーカード

大学院生には授業で発表する際のレジュメや研究用資料の複写のために、年度始めに1人につき1枚のコピーカードを配付します。コピーカードは、尚文館（大学院棟）や図書館などに設置されている所定のコピー機で複写することができます（限度枚数あり）。

国際学生寮

本学には、大学が運営する5寮と提携国際学生寮が１寮あります。寮では人材育成プログラムを実施している他、国内学生と留学生が共に居住して多文化共生をめざすことにより、双方のグローバルマインドを醸成しています。加えて、寮生の日常生活をサポートし、寮での交流をリードするレジデント・アシスタントが入寮しており、6寮それぞれの特長から理想とする生活スタイルにあわせて、寮を選ぶことができます。

関西大学運営寮

【男女共生寮】
グローバルハウス

【男女共生寮】
学生国際交流館・秀麗寮

【女子寮】
ドミトリー月が丘

【男女共生寮】
南千里国際プラザ留学生寮

【男女共生寮】
南千里国際学生寮

提携国際学生寮

【男女共生寮】
KU I-House

学会等での研究発表に対する補助

大学院生が、研究発表等で学会に出席した場合には、それにかかる交通費や参加費に対し補助を行っています。補助限度額は、発表の場合は1回につき2万円、出席の場合は1回につき1万円です。ただし一定の制限や限度額があります。

先輩の声

学会は関西地区だけでなく、東京などで開かれることもあります。自分の研究成果を発表する、または自身の研究のために発表を聞きに行くこともあり、一定額を補助していただけるこの制度は大変ありがたく、とても助かっています。
また、研究発表に要した資料（専門図書）の購入、コピー代に対する補助もあります。資料代には、他の図書館から本を取り寄せた場合や複写を依頼した場合（相互利用）も含まれます。関西大学図書館に蔵書がない資料を他の図書館から取り寄せる、あるいは複写依頼をすることもよくあり、意外と費用がかかります。資料を取り寄せる費用にも補助制度があることを知っておくと、とても便利です。

外国の学会等での研究発表に対する補助

外国の学会等で研究発表を行う場合には、研究を奨励し経済的負担を軽減するために、通常の「学会補助費」とは別に、当該年度中１回に限り、往復航空運賃の半額を補助します。なお、限度額は10万円です。

先輩の声

毎年、日本国内の学会での研究発表に対する補助費をもらっています。それに加え、外国の学会で研究発表するときにも、往復航空運賃の半額を補助していただいています。
これらの補助制度を利用することで、外国での学会にも積極的に参加することができ、各国の研究に触れ、学術的な刺激を受けられる機会につながっています。

ティーチング・アシスタント（TA）

ティーチング・アシスタント（TA）は、授業の教育効果を高めることを目的として導入している制度です。ティーチング・アシスタント（TA）は、授業担任者の管理のもとに学習者に対して専門知識に基づく助言を行ったり、授業（実験・実習科目含む）の補助を行います。ティーチング・アシスタント（TA）の業務は報酬が支給されるだけでなく、将来、教育・研究者等になるためのトレーニングの機会として、大学院生自身の重要なキャリア形成の場となっています。ティーチング・アシスタント（TA）となれるのは原則として、博士課程前期課程、博士課程後期課程、専門職学位課程の大学院生であり、学部・大学院の授業科目について実施しています。

先輩の声

TAの業務では、主に学部科目の実習をサポートしています。実習前の予習や実習での補助業務は、自身の知識習得につながり、とても良い機会になったと思います。また、学外でのアルバイト等と異なり、移動に時間を要することなく、授業の空いている時限に業務に就けることも良いポイントだと思います。

先輩の声

私は将来、研究者をめざしているため、TAとして専門分野の調査、論文執筆の現場に携わることは貴重な経験でした。特に調査技法やデータ分析の手法を学びながら、教員がどのようにフィールドワークを組織しているかを間近で見ることができ、自身の研究強化につながりました。
また、教員とともに授業前から授業後の一貫した授業運営を経験することは、常に実習現場にいるような体験でした。

リサーチ・アシスタント（RA）

関西大学が遂行する共同研究プロジェクトまたは教育研究プログラムに、優秀な博士課程後期課程在籍者が「研究補助者」として参画することで、研究プロジェクト等の実施体制の充実を図るとともに、若手研究者としての研究遂行能力の向上を図ることを目的としています。また、業務に対しては給与が支給されるため、経済的支援にもなります。

博士課程後期課程学生への経済的支援プログラム

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の選定を受け、優秀な博士課程後期課程学生の経済的支援を強化するとともに、挑戦的・融合的な研究を支援しています。選抜学生には、採用期間中、生活費相当額：204万円（年額）と研究費：30万円+α（年額）に加え、国際活動経費等（研究計画により別途）が原則3年間支給されます。本プログラムに関する情報や選抜学生の募集に関する情報については、以下の特設ウェブサイトをご確認ください。

▶ **関西大学「考動力」・「革新力」人材育成プロジェクト特設ウェブサイト** https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/jisedai/

図書館案内

関西大学図書館は、関西大学の千里山・高槻・高槻ミューズ・堺の各キャンパスに設置された4つの図書館で構成されています。在学生は自分の所属以外のキャンパス図書館も直接利用することができ、予約をすれば希望する図書館に資料を取り寄せて利用することもできます。

総合図書館（千里山キャンパス）

総合図書館の大きな特徴は、全学部・研究科の専門分野に関係した図書や学術雑誌を集中して所蔵し、研究機能と学習機能の両方を備えている点です。蔵書数は約222万冊です。総合図書館は、地上3階、地下2階の5層構造になっています。館内各階には無線LANが利用できるKU Wi-Fiエリアがあり、持参した個人のノートPC等でインターネットを利用できます。
3階には、貴重書庫、一般閲覧室、グループ閲覧室、Global Smart Classroomが設置されており、貴重書庫には、約1万6千点の貴重書を保存しています。2階は開架閲覧室で、図書、辞書・事典、AV資料等を配置しています。フロアは、東側の自然科学・工学系エリア、西側の人文・社会科学系エリア、中央の参考図書エリアに分かれています。1階はレファレンス室で、新着雑誌、参考図書、新聞、地図等を備えており、インターネット環境を備えた情報検索用パソコンを設置しています。図書館ウェブサイトで提供している「データベースポータル」や「電子リソースポータル」等を利用して、雑誌論文や新聞記事等資料の検索が可能です。

学術リポジトリ

関西大学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果（学術雑誌掲載論文・学位論文・紀要論文など）をインターネットを通じて学内外に公開しています。在学生以外も利用可能であるため、受験をご検討の方にも活用いただけます。

電子リソース

研究活動に役立つ多様な電子リソース（電子書籍、電子ジャーナル、データベース）がオンラインで利用できます。電子リソースの一部は、EZproxyや学認（学術認証フェデレーション）、VPN接続といった仕組みを使って、学外からでも閲覧することができます。

ラーニング・コモンズ

ディスカッション、プレゼンテーションの練習など、さまざまなグループワークが可能なスペースです。カウンターではノートパソコンやプロジェクター等の機器の貸出も行っています。

関大Myプリント

持参したノートパソコンやスマートフォン等を館内に設置された無線LANに接続することで、オンデマンドプリンタから印刷することができます。

NDL（国立国会図書館）デジタル化資料送信サービス

NDL（国立国会図書館）がデジタル化した資料のうち、絶版等で入手が困難なものをNDLからデジタルデータの送信を受け、利用提供しています。

地下書庫（閉架式）

地下1階には研究用図書を、地下2階には主に雑誌や新聞のバックナンバーを収蔵しており、総合図書館の全蔵書の約90%がここにあります。

学外相互利用

利用したい資料が本学にはなく、学外の図書館等で所蔵している場合は、本学以外の機関が所蔵している図書資料の借用や複写物の取り寄せが可能です。特に、相互利用協定を結んでいる大学図書館※では、所定条件のもとで、原則として事前の手続きなしに直接訪問することができます。
※関西学院大学、同志社大学、立命館大学、大阪大学、大阪公立大学、早稲田大学、津田塾大学、法政大学、明治大学、武庫川女子大学

EndNote online（文献管理システム）

データベース「Web of Science」に組み込まれた文献管理ツールEndNote onlineで、研究に必要な文献情報を管理し、引用等に活用できます。

修了生の利用について

博士課程前期課程修了者は、校友として図書館を利用することができます。
博士課程後期課程修了者は、地下の書庫への入庫が可能です。

複写

図書館の資料は、著作権法に定められた範囲内で、コピーすることができます。なお、図書館内では、大学院生に配付されるコピーカードを利用して複写することができます。

研究個室

地下1階・2階ともに、研究者のための個室があり、予約して使用することができます。
全20室とも情報コンセントを設置しています。また、地下フロアでも自然光が入るように工夫され、窓の外には光庭と呼ばれるスペースが作られています。

一般閲覧室

2タイプの閲覧室が用意されています。日の光が注ぐ明るく広々としたイメージの閲覧室と、落ち着いた書斎のような雰囲気の閲覧室があり、気分・目的にあわせて、自分の好きな座席を選べます。

インターネット検索コーナー

図書館Webサイト提供の「文献・情報検索」から電子ジャーナルや各種データベースなど、研究や学修のための情報収集に役立つさまざまなサイトへアクセスできます。

貴重書庫

図書館の蔵書の中でも特に貴重な資料が保存されています。内部は四季を通じて湿度・温度が一定に保たれるよう設定されおり、カビや害虫から貴重な資料を保護するための燻蒸ができる施設も備えています。

新着雑誌コーナー

和・洋合わせて、2,000タイトルを超える学術雑誌が揃っています。雑誌の表紙がわかりやすい書棚が、利用者に好評です。

マイクロ資料閲覧コーナー

マイクロリーダーを使って、古い新聞のマイクロフィルムなど、各種マイクロ資料が閲覧できます。この機械は資料を見るだけでなく、複写することもできます。

新聞コーナー

五大紙（朝日・読売・毎日・産経・日経）のほか、地方紙、業界紙、英字新聞、英字以外の外国の新聞もあります。

高槻キャンパス図書館（高槻キャンパス）

図書教室棟（B棟）地下1階

高槻キャンパス図書館には、パソコンや情報に関係する図書を備えつけています（蔵書数約61,000冊）。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

ミューズ大学図書館（高槻ミューズキャンパス）

西館1階

ミューズ大学図書館には、社会安全に関する文理融合的な図書を備えつけています（蔵書数約50,000冊）。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

堺キャンパス図書館（堺キャンパス）

B棟2階

堺キャンパス図書館には、アスリートの著書をはじめ、健康に関する図書が充実しています。また、福祉の資格取得に役立つ図書も備えつけています（蔵書数約54,000冊）。館内では、KU Wi-Fiが利用できます。

■ 貸出冊数と貸出期間

対象	大学院生
貸出冊数	20冊以内
貸出期間	3ヵ月以内

■ 開館時間　※夏季休業期間中および冬季休業期間中は休館

図書館	曜日	学部の授業・試験期間	学部の授業・試験以外の期間
総合図書館	月~金	9時~22時	10時~20時
	土		10時~18時
	日・祝日	10時~18時	休館
高槻キャンパス図書館 ミューズ大学図書館 堺キャンパス図書館	月~金	9時~20時	10時~17時
	土	9時~17時	10時~17時※
	日・祝日	休館	休館

大学院出願のSTEP（博士課程前期課程・後期課程）

大学院で研究したいテーマや研究計画を考える → 研究指導を受けたい教員を探して連絡をとる（POINT 1） → 入学試験情報を調べる（POINT 2） → 出願資格を満たしているかを確認する（POINT 3） → 出願手続 ・Webエントリー ・入学検定料納入 ・出願書類提出

POINT 1　研究指導を受けたい教員を探して連絡をとる

関西大学大学院では、研究内容に応じた教員の紹介を行っていません。まずは本冊子の研究科ページで教員の研究テーマなどを参考にして研究指導を受けたい教員を探してください。より詳細な情報を得るため、各研究科Webサイトのほかにも次のWebサイトを活用してください。

教員情報検索

関西大学学術情報システム [教員検索]

「所属別検索」「詳細検索」「専門分野別検索」「キーワード検索」が可能です。研究者の「氏名」を選択すると、所属学部・学科等の基本情報、研究活動・業績等を調べることができます。

関西大学先端科学技術推進機構 研究員紹介

関西大学先端科学技術推進機構に所属する研究員（本学教員）について、キーワードによる検索が可能です。
理工学研究科の全ての教員、総合情報学研究科と社会安全研究科の一部の教員について、情報を掲載しています。

関西大学学術リポジトリ

関西大学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など）を学内外に公開しています。
キーワードやタイトル、著者などによる検索が可能です。在学生・修了生の論文を掲載している研究科もあり、研究科の学びを知るツールとして有効です。

関西大学大学院では、教員への電子メールの転送は行っていないため興味がある分野やテーマをもとに、研究指導を受けたいと思う教員へ、直接、電子メールを送ってください。教員がメールアドレスを公開していない場合は、手紙（郵送）により連絡を取ってください。授業期間外は教員との連絡が取りにくくなる場合があります。期日に余裕をもって連絡を取るようにしてください。なお、教員への連絡が必須ではない場合も、自身の研究内容と教員の専門分野・学問領域とのミスマッチが入学後に生じないよう、あらかじめ連絡を取ることを推奨しています。

教員への連絡方法

社会学研究科、総合情報学研究科、理工学研究科、心理学研究科（心理学専攻）、人間健康研究科では、出願に先立ち、教員への事前連絡・承諾が必須となります。
また、外国人研究生選考においては全ての研究科で出願前に指導教員の承諾が必須です。

※心理学研究科（心理臨床学専攻）では、受験に先立ち、教員への連絡は不要です。なお、事前連絡（メールや手紙等）での相談には応じておりませんが、本学で開催する進学説明会では演習担当教員による個別相談を行います。

POINT 2　入学試験情報を調べる

- 入学試験をいつ実施しているか　➡ 83~85ページ「入学試験日程」をチェック
- 必要な出願書類はどのようなものか　➡ 学生募集要項または外国人研究生募集要項でチェック
- 入学試験はどのような問題が出題されるか　➡ 学生募集要項で試験科目を確認のうえ、入学試験問題集で過去問題をチェック

学生募集要項

学生募集要項、外国人研究生選考募集要項は、本大学院入試情報サイトよりご確認ください。
なお、学生募集要項および出願書類（所定用紙）は、PDF形式のファイルで提供しています（冊子など紙媒体では提供しておりません）。
入学試験問題集は、本大学院入試情報サイト上「資料請求ページ」からご請求ください（無料）。

POINT 3　出願資格を満たしているかを確認する

学生募集要項で各研究科の定める出願資格を確認し、学歴事項や求められる語学能力・社会人経験などに不明な点があれば、メールや電話で問い合わせてください。場合によっては出願に先立ち、「個別の入学資格審査」を申請する必要のある受験生もいます。
「出願資格」の有無について判断できない場合、右表の情報を添えて、大学院入試グループ（メールフォーム：https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/qa/）までご連絡ください。必要に応じて、成績証明書や卒業証明書等を確認することがあります。

希望研究科	：	＿＿＿＿＿＿＿＿ 研究科
希望入試種別	：	＿＿＿＿＿＿＿＿ 入試
希望課程	：	前期課程もしくは後期課程
学歴事項	：	○○○○年○月～○○○○年○月　××××小学校　卒業
		○○○○年○月～○○○○年○月　××××中学校　卒業
		○○○○年○月～○○○○年○月　××××高等学校　卒業
		○○○○年○月～○○○○年○月　××××大学　卒業
		最終学位学士（△△学）

個別の入学資格審査

関西大学大学院に関する情報の入手方法

Webサイトで最新情報をチェックしよう！

関西大学大学院入試に関する最新情報については「関西大学大学院入試情報サイト」で確認することができます。学生募集要項やパンフレットだけでなく、「教員情報検索・連絡方法」や「資料請求」、「個別の入学資格審査」など、さまざまな情報を掲載しています。

合同進学説明会
研究科単独　進学説明会
大学院進学フェア

研究科Webサイトへのリンク
過去の入試結果

教員情報の検索

学生募集要項の確認
入学試験問題集の請求

最新情報※

重要情報

※担任者一覧の変更などがありましたらお知らせしますので、出願前に必ずご確認ください。

Webサイトの情報・構成は変更されることがあります。
2025年度の学生募集要項は2024年4月下旬頃より順次公開予定です。

関西大学大学院 入試情報サイト　検索

URL：https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/

設置課程・研究科

正規生

研究科	博士課程前期課程・専門職学位課程	博士課程後期課程	掲載ページ
法学研究科	法学・政治学専攻 法政研究コース／高度専門職業人養成コース／国際協働コース	法学・政治学専攻	12
文学研究科	総合人文学専攻 英米文学英語学専修／英米文化専修／国語国文学専修／哲学専修／芸術学美術史専修／日本史学専修／世界史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／地理学専修／教育学専修／文化共生学専修／映像文化専修	総合人文学専攻 英米文学英語学専修／国語国文学専修／哲学専修／史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／地理学専修／教育学専修／映像文化専修	16
経済学研究科	経済学専攻 研究者養成コース／高度専門職業人養成コース	経済学専攻	22
商学研究科	商学専攻 研究者養成・後期課程進学コース／高度専門職養成コース	商学専攻	26
社会学研究科	社会学専攻 専門研究コース／課題研究コース 社会システムデザイン専攻 メディア専攻	社会学専攻 社会システムデザイン専攻 メディア専攻	30
総合情報学研究科	社会情報学専攻 知識情報学専攻	総合情報学専攻	34
理工学研究科	システム理工学専攻 数学分野／物理・応用物理学分野／機械工学分野／電気電子情報工学分野 環境都市工学専攻 建築学分野／都市システム工学分野／エネルギー環境・化学工学分野 化学生命工学専攻 化学・物質工学分野／生命・生物工学分野	総合理工学専攻 数学分野／物理・応用物理学分野／機械工学分野／電気電子情報工学分野 建築学分野／都市システム工学分野／エネルギー環境・化学工学分野 化学・物質工学分野／生命・生物工学分野	38
外国語教育学研究科	外国語教育学専攻	外国語教育学専攻	46
心理学研究科	心理学専攻 心理臨床学専攻	心理学専攻	50
社会安全研究科	防災・減災専攻	防災・減災専攻	54
東アジア文化研究科	文化交渉学専攻	文化交渉学専攻	58
ガバナンス研究科	ガバナンス専攻	ガバナンス専攻	62
人間健康研究科	人間健康専攻	人間健康専攻	66
法務研究科（法科大学院）	法曹養成専攻		70
会計研究科（会計専門職大学院）	会計人養成専攻		71

非正規生

外国人研究生制度

外国人研究生制度は自分の研究しているテーマを持ち、特定の研究科で研究指導を受け、本大学院への進学を希望する外国人を対象とした制度です。「外国人留学生」は正規の大学院生ですが、「外国人研究生」は正規の大学院生ではなく、数科目の授業を聴講することができるという身分です。外国人研究生が受講した科目は、単位認定されません。ただし、研究科が指定した科目を履修し、当該科目の試験に合格し、関西大学大学院に入学した場合、4単位まで（法学・文学・社会学・総合情報学・理工学・心理学・社会安全・東アジア文化・ガバナンス研究科は6単位まで）を入学前既修得単位として認定される場合があります。

POINT
外国人研究生選考においては、必ず出願前に指導を受けることを希望する教員の承諾を得なければいけません。

日本語能力について

外国人研究生の方が本学での授業を受けるにあたっては、「汎用日本語能力」に加えて、専門分野にかかわらず大学院での勉学に必要な「アカデミックな日本語能力」、さらに専門分野に特化した「専門分野別の日本語能力」が必要となります。
関西大学大学院には日本語を学習する特別なプログラムはありませんが、外国人研究生は、各自の学習レベルに応じて、学部が開講する日本語科目を1学期に2科目まで受講することができます。これらの科目の履修を通じて「汎用日本語能力」を磨くとともに、大学院の講義を理解し、スピーチや意見交換、レポートや小論文を作成し、発表することのできる「アカデミックな日本語能力」「専門分野別の日本語能力」を向上させる努力・訓練を重ねる必要があります。

外国人留学生入学試験と外国人研究生選考の併願について

「外国人留学生入学試験（博士課程前期課程）」と「外国人研究生選考」は、併願が可能です。「外国人留学生入学試験」の選考方法は書類選考、筆記試験と口頭試問、「外国人研究生選考」の選考方法は書類審査および口頭試問となります。併願する場合、選考時の口頭試問は同時に行います。また、併願の場合は「外国人研究生選考」の選考料は免除となります。なお、「外国人留学生入学試験（博士課程前期課程）」と「外国人研究生選考」の出願書類は様式が異なります。それぞれの出願書類を準備する必要があるので注意してください。

出願書類	外国人研究生選考	外国人留学生入学試験（博士課程前期課程）
共通書類	志願票（外国人留学生・外国人研究生の併願）	
	出身大学等の成績証明書	
	出身大学等の卒業（見込）証明書	
	研究計画書	
	研究科の求める日本語能力に関する証明書	
	在留カードの写し/パスポートの写し	
外国人研究生選考 志望理由書[所定用紙]	志望理由書[所定用紙]	
推薦状 ※	—	

※必要となる研究科は募集要項でご確認ください。

外国人研究生選考　募集要項の取得方法

本大学院入試情報サイトのTOP画面にある「留学生の方へ」からダウンロードのうえ、PDF版の外国人研究生選考募集要項を印刷してご使用ください。

外国人研究生選考 募集要項
https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/international/#a_entry

科目等履修生制度

科目等履修生制度は教学の基本方針のひとつである「開かれた大学」構想の一環として学習機会の拡大のために設けられている制度です。4年制大学を卒業した者等を対象としており、関西大学大学院で開講をしている授業科目を履修し、一定の単位を修得することができます。ただし履修できる授業科目は、1学期につき3科目以内です。選考のうえ、博士課程前期課程および専門職学位課程の各研究科の履修を許可しています。

■ 単位　3科目以内/学期
■ 費用　45,000円～

POINT
履修を許可された授業科目の試験に合格した場合は、願い出により単位修得証明書を交付します。

聴講生制度

聴講生制度は科目等履修生制度と同様に、教学の基本方針のひとつである「開かれた大学」構想の一環として設けている制度です。4年制大学を卒業した者等を対象としている点、履修できる授業科目が1学期につき3科目以内という点、選考のうえ履修を許可している点は科目等履修生と変わりませんが、聴講生の場合は単位を修得することはできません。

■ 単位　3科目以内/学期
■ 費用　35,000円～

POINT
自分の興味や関心のある授業を受講してみたい方に適しています。

Graduate School of Law

法学研究科

千里山キャンパス
法学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_law/

博士課程前期課程
法学・政治学専攻（入学定員 30名）
法政研究コース／高度専門職業人養成コース／国際協働コース

博士課程後期課程
法学・政治学専攻（入学定員 8名）

2022年度より新たに高度専門職業人養成コースを設置、さらに多様な進路・ニーズに対応、学生の志望に即したきめ細かい指導と充実した研究環境

特色

法学研究科では、前期課程に、法政研究コース、高度専門職業人養成コース、国際協働コースの３コースを設置し、時代の変化と社会の多様な要求に応えうる研究指導体制を提供する。

法政研究コースは、法学・政治学の研究者をめざす者、より深い学識を得ようとする者を対象としており、原則として後期課程への進学を前提とするコースである。

高度専門職業人養成コースは、2022年４月より新たに設置された高度な専門的知識や技能を取得して３つのコースのもと、キャリアに生かすことを目的とする総合的なコースであり、従来以上に個別のニーズに対応する柔軟性・多様性に富んだカリキュラムとなっている。本コースからは、司法書士、税理士、弁理士、社会保険労務士などの資格取得を目標とする者、企業の法務担当を志望する者、国家・地方公務員、国際機関職員、マスコミをめざす者などさまざまな職業志向が想定される。

国際協働コースは、JICA（独立行政法人国際協力機構）プログラムや国費留学等によって来日する留学生を対象とした、英語による指導を行うコースである。

以上の体制のもと、幅広い分野で活躍する教員が、大学院生一人ひとりの関心や志望に沿った丁寧な指導を行っている。なお、前期課程の修学年限については、社会人の修学を容易にすることを目的として、長期履修学生制度（３年）も設けている。

大学院の２年間（５年間）のイメージ

		研究者の養成	高度専門職業人の養成	
		研究者を志望する者	司法書士、税理士、社会保険労務士、弁理士、企業法務担当者 公務員、国際機関職員、マスコミ等志望者、リカレント教育など	JICA留学生、国費留学生対象
		法政研究コース	高度専門職業人養成コース	国際協働コース
博士課程前期課程（標準2年）	1年次	１年次より修士論文執筆のための演習科目を受講する。	１年次は、基礎科目、講義科目、演習科目の中から目的や関心に応じて幅広く授業を履修する。	指導教員のもとで、講義科目を選択・履修しつつ、演習科目において修士論文・特定課題研究成果報告書執筆の指導を受ける。
	2年次		２年次は、演習科目を履修しながら指導教員から修士論文・特定課題研究成果報告書執筆の指導を受ける。	
		修士論文の提出・審査	修士論文・特定課題研究成果報告書の提出・審査	
博士課程後期課程（標準3年）	1年次	博士論文執筆をめざしてさらに研究を続ける。		
	2年次			
	3年次			
		博士論文の提出・審査		

多様な進路

- 研究者へ
- 法律関係の事務所や企業へ
- 国や地方自治体等職員へ
- 国際機関やマスコミへ
- 各国の政府機関等へ

授業紹介

本研究科では、柔軟性のあるカリキュラムを採用し、幅広い授業科目を設定しているため、大学院生は、興味関心に応じてさまざまな科目を履修できるようになっている。

大学院の授業は、大きく講義と演習に分かれるが、大学院では、学部とは異なり定員が少ないことから、いずれも少人数の授業となる。その内容は、判例・論文の研究、外国書の講読など多岐にわたるが、高度な専門的知識の修得を目的とした授業が行われるため、授業のレベルは高く、毎回十分な準備が必要となる。

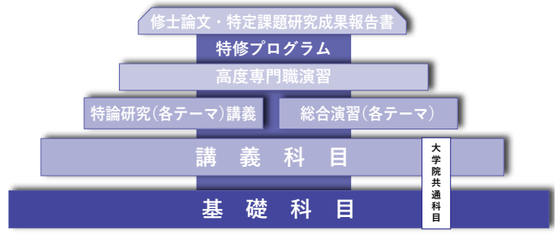
前期課程の法政研究コースでは、指導教員による講義および論文作成の指導が軸となる。高度専門職業人養成コースでは、１年次に比較的幅広く科目を履修し、１年次秋学期には２年次の演習で修士論文または特定課題研究成果報告書作成を指導する教員を決定していく体制がとられている。

さらに、個別の必要性に対応して、基礎的学力、リサーチスキルの向上を図る基礎科目、特定のキャリア志向・前記論文や報告書作成をサポートする演習も１年次に設置されている。

後期課程の授業では、博士論文または公表を念頭に置いた学術論文等の作成指導が行われることになる。

高度専門職業人養成コースの設置

2022年度より設置された高度専門職業人養成コースでは、より広く科目の履修を可能としつつも、個別のニーズにも対応しやすいカリキュラムになっている。特に、租税法務、政策法務、企業法務、国際関係の４方面のキャリア形成をめざす学生には、キャリアに関連性のある科目がパッケージ化された各々の特修プログラムを設置。本コース生は基礎科目・講義科目・演習科目を通じて、実務にも生かせる専門教育を受けることができる。



特修プログラム

高度専門職業人養成コースの学習・履修指導の一環として、特定のキャリア形成をめざす学生の履修の道筋となる「特修プログラム」を設置。

租税法務プログラム	政策法務プログラム	企業法務プログラム	国際関係プログラム
税理士をめざす大学院生のために 租税法に関する科目の他、実務に必要となる法律科目を中心に科目を配置し、税理士として求められる資質や知識を身につける	**公務員をめざす大学院生のために** 法律学・行政学・政策学・実務など、政策法務の担い手となるための科目を配置し、公務員に求められる多様な資質や知識を身につける	**企業における法律の専門家たる存在をめざす大学院生のために** 企業法務に必要な私法系の科目を配置して、実務に直結する専門知識とリーガルマインドを備えた人材を育成	**企業やNGO、国家機関、地方公共団体、国際組織等において、国際的な問題に強く関わる業務に携わることをめざす大学院生のために** 国際法、国際政治学、国際政治経済論等の科目を配置し、国際社会において重要な課題を主体的に考察し、専門性に裏付けられた自己の見解を構築する能力を養成

	科目一覧	科目一覧	科目一覧	科目一覧
講義科目	「租税法研究　講義」 「国際租税法研究　講義」 「金融法研究　講義（１）」 「金融法研究　講義（２）」 「民法研究Ⅳ（家族法）　講義」 「商法研究Ⅰ（企業組織法）　講義」 「財政学研究　講義」 「公共経済学研究　講義」 「特論研究（課税要件論）」 「特論研究（租税条約論）」 「特論研究（会社法と税務会計）」	「憲法研究Ⅰ（人権論）　講義」 「憲法研究Ⅱ（機構論）　講義」 「行政法研究Ⅰ（行政法総論）　講義」 「行政法研究Ⅱ（行政救済法）　講義」 「公共政策学研究　講義」 「行政学研究　講義」 「社会保障法研究　講義」 「財政学研究　講義」 「公共経済学研究　講義」 「特論研究（地方自治法）」 「特論研究（政策法務）」 「特論研究（自治体ガバナンス）」	「民法研究Ⅰ（財産法１）　講義」 「民法研究Ⅱ（財産法２）　講義」 「民法研究Ⅲ（財産法３）　講義」 「知的財産法研究　講義」 「商法研究１（企業組織法）　講義」 「商法研究２（商取引法）　講義」 「経済法研究　講義」 「労働法研究　講義」 「民事訴訟法研究　講義」 「国際取引法研究　講義」 「特論研究（会社法と税務会計）　講義」	「国際政治学研究　講義」 「国際法研究　講義」 「国際私法研究　講義」 「西洋政治史研究　講義」 「西洋・ローマ法史研究　講義」 「外交史研究　講義」 「法哲学研究　講義」 「国際政治経済論研究　講義」 ＊以上の他、ガバナンス研究科の開講科目もいくつか含まれる予定です。
総合演習	「総合演習（租税法）」	「総合演習（政策研究）」 「総合演習（政策法務）」	「総合演習（企業法務）」	「総合演習（国際関係）」

修士論文・特定課題研究成果報告書

法政研究コース以外の学生は、前期課程修了要件として、修士論文のほか、「特定課題研究成果報告書」という選択肢をとることができる。特定課題研究成果報告書は、高度な専門性を要する職業等に必要な高度な能力を示す内容をまとめるものであるが、修士論文とは目安となる文字数も少ない点等において区別されるものである。

税理士試験の試験科目の免除について

法学研究科において、税法に属する科目に関する研究で学位（修士）を取得した者は、税理士試験の一部科目にすでに合格している場合、税法に属する科目の受験免除申請をすることが可能である。ただし、免除申請に係る「認定・不認定」は国税審議会によるため、学位（修士）を取得することで必ず認定されるとは限らない。

税理士試験の試験科目の免除についての詳細は、必ず国税庁のWebサイトなどで確認すること。

大学院生活

前期課程においては、在学期間中に学則所定の単位を修得し、修士論文または特定課題研究成果報告書を提出してその審査に合格すれば、課程を修了し、修士（法学）の学位が与えられる。後期課程では、学則所定の単位を修得し、博士論文を提出して審査に合格すれば、３年間でいわゆる「課程博士」と呼ばれる学位を取得することが可能である。前期課程、後期課程ともに、大学院生は、各自の目標を見据えつつ、主体的に学位取得へ向けて研究に励むことになる。

また、関西大学大学院法学研究科院生協議会は、大学院生が研究成果を発表する場として、学術雑誌「法学ジャーナル」を年１回刊行しており、積極的な投稿が期待されている。その他、学会や学内外の研究会に所属したり、法学研究所や経済・政治研究所等の学内研究機関の準研究員やリサーチ・アシスタントに就任して研究実績を上げる者も多い。

修了者の進路

前期課程の修了者には、研究者をめざして本研究科または他大学大学院の後期課程に進学する者のほか、各種の資格試験や公務員試験などに合格してそれぞれの専門職に就き有能な実務家になる者もいる。一方で、民間企業（金融・保険業、製造業、サービス業等）に就職して、企業法務関係のスペシャリストとして活躍する者も多い。国際協働コースに入学する留学生は、各国政府機関および民間企業からの派遣である場合が多く、修了後は帰国し、各組織においてスペシャリストとしてのさらなる活躍が期待される。

後期課程の修了者には、その研究成果が評価されて、大学その他の教育・研究機関に就職する者が多い。教育・研究機関への就職機会については、その門戸は必ずしも広くないのが実情であるが、本研究科修了生については、着実な実績を上げてきたといえるだろう。

❖2025年度　博士課程前期課程　演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶専門分野　❷研究テーマ　❸E-mail/HP

基礎法学

粟辻　悠　教授
❶ローマ法
❷古代ローマ世界における法廷での紛争解決と、それを支えた専門家について研究している。
❸awatsuji@kansai-u.ac.jp

木原　淳　教授
❶法哲学
❷主権を前提とする近代の法概念と法秩序が、どのように維持され、また変容していくか研究。
❸kiharaj@kansai-u.ac.jp

佐立 治人　教授
❶中国法制史
❷法律なければ刑罰なし、という罪刑法定主義の思想は、中国で生まれ、中国で発達したことを証明しようとしている。

小石川 裕介　准教授
❶日本法制史
❷20世紀前半期における法と法学、およびそれを取り巻く環境との相互影響について研究している。
❸https://researchmap.jp/koishikawa

公　法

荒木　修　教授
❶行政法
❷これまで土地利用規制を中心に研究してきたが、最近は、インフラストラクチャーに関する法に関心を有している。

小泉 良幸　教授
❶憲法
❷①近代立憲主義と社会契約論
②現代リベラリズムと個人の自律・自己決定権
③思想・良心の自由と信教の自由・政教分離
❸koizumi@kansai-u.ac.jp

髙作 正博　教授
❶憲法
❷議会制と民主主義をめぐる諸問題について、比較憲法学の観点も用いて研究する。
❸mtakasa@kansai-u.ac.jp

田中　謙　教授
❶行政法
❷行政の法システムについて、「解釈法学」および「政策法学」の視点から、研究している。

西村 枝美　教授
❶憲法
❷基本権の第三者効力問題、その前提にある連邦憲法裁判所の権限問題、民事法と憲法の関係。

村田 尚紀　教授
❶憲法学の基礎理論
❷憲法学の方法、フランス憲法の歴史分析・現状分析、日仏比較研究。

国際法

中野 徹也　教授
❶国際法
❷現代国際法における条約法体系のあり方について研究を行っている。
❸nakanot@kansai-u.ac.jp

西　平等　教授
❶国際法
❷歴史的に見れば決して普遍的な思考とは言えない近代法的思考によって世界秩序を構想するという途方もない営為の意義と限界を把握し、主権国家間法の後に現れる「国際法」の可能性を考える。

刑事法

飯島　暢　教授
❶刑法
❷刑法解釈学の基礎理論。特に犯罪と刑罰の関係を法哲学的知見に遡りながら研究を行い、それを具体的な解釈学のレベルに反映させる点に関心がある。

葛原 力三　教授
❶刑法
❷刑法解釈論、特に、故意、過失、責任を巡る諸問題、そして共犯論において、自由、自律、自己決定が果たす役割の特定。

佐伯 和也　教授
❶刑法
❷刑法の理論的諸問題、特に刑法総論と各論に関連した諸問題（危険犯・結果的加重犯等）の比較法的検討を通して、刑法的処罰・刑の加重処罰の諸要件とその限界等について明らかにしようとしている。

永田 憲史　教授
❶刑事学・刑事政策
❷財産的刑事制裁、死刑選択基準・死刑執行、オセアニア諸国の刑事司法。
❸https://penology.jimdofree.com/

松代 剛枝　教授
❶刑事訴訟法
❷証拠開示や監視型捜査といった具体的テーマの検討を通して、刑事訴訟法の基礎理論のありよう（当事者主義のあり方、強制処分と任意処分との区別基準の変容可能性等）について考える。

民　法

白須 真理子　教授
❶民法、特に家族法
❷親権に第三者がどのように関わるべきか。一方で、親権が適切に行使されない場面に、他方で、多様な家族観に対応するために、第三者による親権への介入・援助の根拠・基準という観点から研究している。

寺川　永　教授
❶民法、特に契約法・消費者契約法
❷わが国の民法典の典型契約に属さない役務提供契約の多くは「準委任」と解する法律構成が採られている。現代の多様な役務内容に鑑みて、役務提供契約一般に適用される法理の構築およびその可能性を検討している。

松尾 知子　教授
❶民法
❷特に財産法と家族法とが交錯する領域を研究する。今日の家族をめぐる財産関係の基本構造と取引社会で通用する様々な法原則との調整はどう図られるべきか。ドイツ・フランスを比較の対象とする。

水野 吉章　教授
❶民法
❷〈1〉詐害行為取消権による債権者－債務者の規整。〈2〉入浜権、居住権による社会環境の形成。〈3〉公法私法協働論による借上げ公営住宅または公営住宅における法律関係の解明。〈4〉政策論・現地調査など法学方法論。

民　法

今野 正規　教授
❶民法
❷民事責任の変遷をリスクに対するアプローチの変化と関連づけて研究している。最近では、社会人類学からの示唆をもとに、モノの受け渡しによって作り出される関係性に焦点を当てて所有概念や責任概念の再定義を試みている。

馬場 圭太　教授
❶民法
❷契約関係における情報提供義務や諸外国における債権法改正の動向について研究している。最近は、消費者法、とりわけ広告規制に関心をもっている。
❸ktbaba@kansai-u.ac.jp

村田 大樹　教授
❶民法
❷他人の権利を侵害することによって利益が生じた場合に、その利益をどのように扱うのか――権利者と侵害者の利益調整がどのように行われるべきか――について関心がある。
❸dmurata@kansai-u.ac.jp

❶専門分野　❷研究テーマ　❸E-mail/HP

商　法

伊藤 吉洋　教授
❶会社法
❷M＆A（企業買収）における諸問題

上田 真二　教授
❶会社法・金融商品取引法
❷インサイダー取引とはどのような行為か、また、なぜ法は禁止するのか、について、外国法や他の学問分野を参考にしながら研究している。最近は、金融商品に関わる他の不公正取引にも研究対象を拡げている。

金　玲　教授
❶海商法
❷国際海上物品運送法を中心とした日中韓比較研究
❸jinling@kansai-u.ac.jp

笹本 幸祐　教授
❶民事法全般
❷商取引に関する経済分析に基づく法解釈。
❸sasamoto@kansai-u.ac.jp

原　弘明　教授
❶商法・会社法・保険法
❷会社法と他の法領域との交錯・融合分野および保険法の研究。現在は特に会社分割法制・保険契約法について研究している。
❸hara-h@kansai-u.ac.jp
http://harahiroaki.web.fc2.com/

社会法

植村　新　教授
❶労働法
❷労働協約法制をはじめとする労使関係法の基礎理論について、ドイツ法を対象とする比較法的方法により研究を行っている。
❸a_uemura@kansai-u.ac.jp

福島　豪　教授
❶社会保障法
❷現在の研究テーマは、障害者に関わる社会保障・労働法制の基本構造を、ドイツ法との比較を通じて明らかにすることである。
❸gfuku@kansai-u.ac.jp

河野 奈月　准教授
❶労働法
❷（1）働き方の多様化と今後の労働法制（2）AIと労働法

経済法

笠原　宏　教授
❶経済法
❷経済環境の変化の中、経済社会とその参加者に必要な競争法・政策の在り方を見出していきたい。

知的財産法

山名 美加　教授
❶知的財産法
❷知的財産権の国際的保護について（医薬品アクセス、強制実施、遺伝資源をめぐる出所開示問題等）、知的財産法制の国際比較。
❸yamana@kansai-u.ac.jp

民事訴訟法

吉田 直弘　教授
❶民事手続法
❷民事訴訟における当事者の法的地位の解明。
❸yoshida@kansai-u.ac.jp

政治学

池田 慎太郎　教授
❶外交史
❷1950年代以降の日本政治外交史を研究している。日米関係だけでなく、東アジアの視点を重視する。沖縄・奄美の戦後史や、基地を抱える自治体の政治・歴史にも関心を持っている。

石橋 章市朗　教授
❶公共政策学・政治学
❷国や自治体の政策が形成されるメカニズムや政策デザインのあり方について研究している。
❸shoich@kansai-u.ac.jp

河村　厚　教授
❶政治哲学
❷哲学と精神分析学を用いて、政治と社会の諸問題を政治哲学的・政治心理学的に研究する。
❸kawamura@kansai-u.ac.jp

坂本 治也　教授
❶政治過程論、市民社会研究
❷現代日本政治と市民社会の分析。政治参加、利益団体、NPO、協働、ボランティア、寄付などを研究している。
❸sakamotoharuya@gmail.com

津田 由美子　教授
❶西洋政治史
❷西ヨーロッパ諸国を中心とする政治史研究（特にベルギーを中心とした政治史が専門）・比較政治。
❸y-tsuda@kansai-u.ac.jp

廣川 嘉裕　教授
❶行政学
❷これまでNPOと政府・行政との連携・協働を中心に研究してきたが、現在は地域活性化・まちづくり等に関心を持っている。

若月 剛史　教授
❶日本政治史
❷近現代日本の官僚制について、政治史的な観点から研究を進めている。特に官僚の専門性や地域社会との関わりなどが歴史的にどのように形成されてきたのかについて関心を持っている。
❸wakatuyo@kansai-u.ac.jp

百木　漠　准教授
❶政治思想史
❷ハンナ・アーレントを中心とした思想史研究
❸b-momoki@kansai-u.ac.jp

吉沢　晃　准教授
❶国際政治経済論、EU政治
❷国際政治経済論・国際機構論・地域統合論などに関心がある。特にEUの政治経済（競争政策など）とグローバル・ガバナンスについて研究している。
❸hyoshiza@kansai-u.ac.jp

❖2025年度　博士課程後期課程　専修科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

法哲学特別研究	行政法特別研究	民法特別研究Ⅱ（財産法２）	民事訴訟法特別研究	政治思想史特別研究
西洋・ローマ法史特別研究	刑法特別研究	民法特別研究Ⅳ（家族法）	公共政策学特別研究	日本政治史特別研究
東洋法史特別研究	刑事訴訟法特別研究	知的財産法特別研究	政治過程論特別研究	西洋政治史特別研究
憲法特別研究Ⅰ（人権論）	国際法特別研究	商法特別研究Ⅰ（企業組織法）	行政学特別研究	外交史特別研究
憲法特別研究Ⅱ（機構論）	民法特別研究Ⅰ（財産法１）	商法特別研究Ⅱ（商取引法）	政治哲学特別研究	国際政治経済論特別研究

Graduate School of Letters

文学研究科

千里山キャンパス
文学研究科Webサイト
https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_let/

博士課程前期課程
総合人文学専攻（入学定員 92名）
英米文学英語学専修／英米文化専修／国語国文学専修／哲学専修／芸術学美術史専修／日本史学専修／世界史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／地理学専修／教育学専修／文化共生学専修／映像文化専修（副専攻）
EU－日本学教育研究プログラム

博士課程後期課程
総合人文学専攻（入学定員 19名）
英米文学英語学専修／国語国文学専修／哲学専修／史学専修／ドイツ文学専修／フランス文学専修／地理学専修／教育学専修／映像文化専修※（副専攻）
EU－日本学教育研究プログラム
※2024年度から新設

充実した教育指導とともに、学際的な研究体制を実現

特色

総合人文学専攻のもつ総合性・独創性を生かし、専門教育科目を体系的に配するとともに、専修の枠を越えて広く人文学諸分野の共通科目を学ぶことのできるカリキュラム編成をとっている。学生一人ひとりが専門分野の権威ある教員から入念な指導のもとで専門分野の研究を深化させるとともに、既成の学問分野にとらわれない総合的な学問研究を行う場となっていることが本研究科の大きな特色である。

将来の展望

学生は学部からの進学者のほか、社会人、留学生が多数在籍し、指導教授のサポートのもとで切磋琢磨しつつ学問研究を進めている。学生同士の研究会活動やフィールドワーク、実習なども盛んである。学生は各専修の演習・講義、共通科目を受講するとともに、さまざまな活動を通して高度な研究能力を身につけ、修士論文もしくは博士論文を作成していくことになる。

研究者養成および高度専門職業人の育成の双方に対応しうるカリキュラムのもと、修了者は研究者として自立し大学の教員となるほか、中学・高校の教員その他の各種専門職に就くとともに、高度な専門職業人としてさまざまな企業にも進出している。

文学研究科副専攻「EU－日本学」教育研究プログラム

文学研究科では、文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「関西大学EU－日本学教育研究プログラム」（2006～2009年度）終了後も、引き続き文学研究科（総合人文学専攻）における教育改革をさらに発展させるために、「文学研究科（副専攻）EU－日本学教育研究プログラム」として、新しい人文学教育・研究を担う次世代を育成し、人文学教育研究における「学際化と国際化」をはかるべく取り組んでいる。

現在、世界の日本研究と国内の日本研究との間で生じている視点・方法の隔たりを埋めることを目的に、EUの協定校と協力して、次世代の若手研究者の育成を図っている。日本学に関する多様な講義科目のほか、学外でのフィールドワークや日本とヨーロッパの各大学でのワークショップを実施している。

デュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）

2015年度より、韓国・嶺南大学校大学院東アジア文化学科との間でデュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）が開始された。関西大学から嶺南大学校に２セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学から修士（文学）、嶺南大学校から東アジア学修士の学位が授与される。

日本語教師養成講座（大学院コース）

2016年度より、文学研究科では日本語教師養成講座（大学院コース）を開講している。文学研究科の学問領域、人材養成の目的に鑑み、広く人文学研究に携わる大学院生が、みずからの専門性を生かせる場を広げるために、日本語教育の基礎的な知識・技能・実践経験を得ることのできるプログラムである。海外での日本語教育実習も実施している。

❖2025年度　博士課程前期課程　専修科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶研究テーマ　❷概要説明　❸E-mail

英米文学英語学専修

英文学研究　髙橋美帆、干井洋一　　米文学研究　R.ドノバン
英語学研究　岩田彩志、野々宮鮎美

岩田　彩志　教授
❶英語学　語彙意味論
❷統語論・意味論・語用論の現象を広く対象としながら、構文理論の枠組みを用いて、特に英語動詞の項構造を中心とした研究を行っている。
❸t140028@kansai-u.ac.jp

髙橋　美帆　教授
❶19世紀以降の英語圏詩文学
❷19世紀ではブラウニング夫妻、ロセッティ兄妹、ホプキンズ等の英国詩人を、20世紀ではパウンド、プラスなど英米両国で活躍した詩人を、主に研究している。あわせてマザーグース等の児童文学や、日英女性詩人の比較も研究対象としている。
❸miho@kansai-u.ac.jp

干井　洋一　教授
❶英国長編小説・短編小説・文学理論
❷文化と社会という大きなコンテクストの中で作品を捉える訓練を行うとともに、文学理論の基礎を身に付けることを推奨している。優れた研究論文を完成させるには研究テーマを掘り下げるとともに、そのテーマに最も適した理論的枠組みを用いることが重要である。
❸hoshi_well@yahoo.co.jp

野々宮　鮎美　准教授
❶英語学、英語史
❷近代英語・現代英語期における二人称代名詞の変遷、現代英語に残る古語表現など、時代的変化を量的・質的に研究している。
❸nonomiya@kansai-u.ac.jp

リチャード・ドノバン（Richard Donovan）　准教授
❶翻訳学・英語圏文学・比較文学
❷文学翻訳の理論と実践を調和させる研究を行う。日本語と英語の言語的かつ社会的な相違という視点から翻訳学の主な課題を分析する。同じ原文に対する異なる翻訳を比較し、さまざまなアプローチの長所と短所を鑑みながら翻訳の可能性を追究していく。
❸donovanrichardn@hotmail.com

英米文化専修

英米文化研究（1）　J.カーワン
英米文化研究（2）　M.メリ

ジェイムズ・カーワン（James Kirwan）　教授
❶Aesthetics. Ethics. Literary theory. Exoticism.
❷My research is in fundamental concepts in aesthetics and ethics. I am also working on literary theory and on a history of exoticism.
❸james_kirwan@hotmail.com

マーク・メリ（Mark Meli）　教授
❶環境哲学、エコクリティシズム、比較食文化論、飲食文化論
❷文化がどのように自然環境と結びついているか、欧米と日本では、環境がどのように思考されたか、という問題を歴史的や文化論的に考察している。それに、世界の飲食文化がどのように発展し、どのように環境と関係しているか、特にビールに関して調べている。
❸mfmeli@yahoo.co.jp

国語国文学専修

日本上代文学研究　村田右富実　　日本中古文学研究　岸本理恵、松本　大　　日本中世文学研究　大島　薫
日本近世文学研究　山本　卓　　日本近代文学研究　関　　肇、増田周子　　国語学研究　乾　善彦、日高水穂、森　勇太

大島　　薫　教授
❶日本文化史　Japanese popular culture
❷「日本の古典文学」は、作品が形成された時代、そして作品を読み継いだ人々の知的営為を復元することにより、さらなる解釈が可能になる。現存する種々のテクストを題材に、日本文化の諸相や、日本人のアイディンティを明らかにしたい。
❸ANB33756@nifty.ne.jp

岸本　理恵　教授
❶平安時代の和歌文学、文献書誌学
❷平安・鎌倉時代の写本や古筆切を中心に、写本のあり方や平安時代の作品がいかに伝えられてきたかを研究している。また、初期歌合を中心に和歌の変遷を分析し和歌の注釈もおこなっている。
❸riekishi@kansai-u.ac.jp

関　　肇　教授
❶近代文学、明治・大正期の文学の研究
❷尾崎紅葉・徳冨蘆花・村井弦斎・菊池幽芳・夏目漱石など、明治・大正期の新聞小説を中心とする研究を行う。新聞メディアと文学、およびそれを享受する読者との関係について、同時代の歴史的・社会的な問題を視野に入れながら実証的に検討する。
❸h-seki@kansai-u.ac.jp

増田　周子　教授
❶日本近現代文学、比較文学
❷大正、昭和文学研究、および日本近現代文学を諸外国との関係の中でとらえる研究を行っている。宇野浩二、芥川龍之介、織田作之助、火野葦平、西条八十、大阪のカフェと文芸運動、関西の出版・文壇研究などの論文がある。
❸nrb49634@nifty.com

村田　右富実　教授
❶日本上代文学
❷『万葉集』を中心に上代韻文学を研究している。文学研究の側面からだけではなく、隣接学問である国語学、歴史学、考古学や、少し離れたところでは統計学からのアプローチも重視しつつ、人間にとって韻文とは何かを考察している。
❸m_mig@kansai-u.ac.jp

山本　　卓　教授
❶①近世小説研究、とくに浮世草子、読本、実録研究　②「忠臣蔵」伝説研究　③近世出版文化研究
❷近世小説（浮世草子・談義本・読本）にみえる舌耕（話芸）性の問題、書本（実録写本）を種本とする浮世草子・読本などの出版された小説、そして近世出版文化を研究してきたが、近年は赤穂浪士（「忠臣蔵」）伝説の生成とその展開に注目している。
❸yamataku@iris.ocn.ne.jp

松本　　大　教授
❶中古文学作品の享受に関する研究
❷平安期成立の文学作品における、注釈書・享受史の研究を行っている。主に、南北朝期から室町時代に作成された、『源氏物語』や『伊勢物語』の古注釈書を対象とする。作品の内容読解だけではなく、享受の様相をも踏まえながら、多角的な作品分析を行っている。
❸o.matsu@kansai-u.ac.jp

国語国文学専修

日本上代文学研究 村田右富実　日本中古文学研究 岸本理恵、松本　大　日本中世文学研究 大島　薫
日本近世文学研究 山本　卓　日本近代文学研究 関　　肇、増田周子　国語学研究 乾　善彦、日高水穂、森　勇太

乾　善彦　教授

❶日本語の文字論と表記史
❷本来、中国語を書きあらわす文字である漢字を用いて、日本語を表記するようになったところから出発して、現在の漢字仮名交じり文が成立するまでの日本語表記の歴史、各時代の文字・表記意識や漢字・仮名とことばとの基本的な関係を、多様な資料を駆使して考える。
❸inuy@kansai-u.ac.jp

森　勇太　教授

❶日本語文法史（敬語・待遇表現）、歴史語用論
❷日本語文法史、特に敬語や待遇表現の歴史を研究している。待遇に関わる日本語の諸要素が、多様な発話行為の中でどのように運用されているかに興味を持っている。さまざまな時代や方言の特徴を対照し、言語変化のあり方を総合的に研究したいと考えている。
❸moriyuta@kansai-u.ac.jp

日高　水穂　教授

❶現代日本語文法の記述的研究、方言文法の対照研究
❷日本語諸方言の文法の特徴を対照させ、その地理的分布のあり方から、言語変化のメカニズムを解明する研究を行っている。言語変化に関わる言語の内的な特徴とともに、言語の社会的な機能にも注目している。最近は談話展開の地域差に関心を持っている。
❸hidaka@kansai-u.ac.jp

哲　学　専　修

哲学・哲学史研究 薄井尚樹、三村尚彦　哲学・倫理学研究 品川哲彦、中澤　務、平出喜代恵
比較宗教学研究 酒井真道、水野友晴、宮本要太郎

薄井　尚樹　教授

❶現代哲学、心の哲学
❷ドナルド・デイヴィドソンの哲学を出発点に、経験的研究の知見を踏まえつつ、他者理解に関する研究を進めてきた。またそれとともに、現在は、潜在バイアスをめぐる哲学的な諸問題、とりわけ潜在バイアスから生じる行動の道徳的責任のありかたに関心がある。
❸n.usui@kansai-u.ac.jp

品川　哲彦　教授

❶①倫理学、②応用倫理学、③現代哲学
❷現象学の研究から出発し、応用倫理学を介して（主に近現代の）倫理学全般に研究を広げてきた。とくに倫理理論の基礎づけ問題に取り組み、正義・責任・ケア概念の解明を進めている。詳しくは、www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tsina/参照。
❸tsina@kansai-u.ac.jp

水野　友晴　教授

❶日本哲学や宗教の比較思想的研究と現代世界への貢献の可能性の研究
❷日本の哲学や宗教をグローバルな視点から捉え直す。日本の哲学や宗教は、日本固有の精神性や宗教性と、海外からもたらされた思想とが融合し、また、その時々の事件や出来事に対応することで、磨かれ、成長してきた。それは世界の人々と共有すべき貴重な思想的遺産である。
❸tmizuno@kansai-u.ac.jp

宮本　要太郎　教授

❶①宗教の社会活動・公共宗教学　②聖伝・教祖伝研究
❷①現代の日本社会における宗教の「公共性」を論じるための方法論を確立するため、社会活動に従事している宗教者と共同で研究している。
②聖徳太子伝や新宗教の教祖伝などの解釈を通じて、神話＝歴史的な多様な物語の救済論的構造を探究する。
❸mymt@kansai-u.ac.jp

酒井　真道　教授

❶認識論・論理学を中心とした、中世期以降のインド仏教思想史の解明
❷宗教と哲学とが表裏一体の関係にあった中世インドでは、あらゆる宗教、宗派において、解脱に至る一つの手段・方法として、世界を正しく認識することが要請された。本研究では、主にサンスクリット文献、チベット語訳文献、漢訳文献を用いて、インド中世期以降の仏教知識論（認識論と論理学）の思想史を、仏教徒と非仏教徒との間の論争を解明することを通じて、明らかにする。
❸msakai@kansai-u.ac.jp

中澤　務　教授

❶西洋古代哲学、倫理学
❷①ソクラテス以前の自然哲学、ソクラテス・プラトン・アリストテレス、ヘレニズム期の哲学など、古代ギリシアの哲学および倫理学全般を研究している。
②西洋の倫理学の問題全般を、現代の応用倫理学を含め、研究している。
❸tsutomu@kansai-u.ac.jp

三村　尚彦　教授

❶身体現象学と体験過程理論
❷フッサール現象学における身体論を研究するとともに、臨床心理学者で哲学者のジェンドリンが提唱したフォーカシング指向心理療法、体験過程理論を取りこんだ現象学の可能性について考察している。
❸t980020@kansai-u.ac.jp

平出　喜代恵　准教授

❶倫理学、カント、生命倫理学
❷カントの道徳哲学をその宗教論との緊密な関係のなかで解釈。とくに「人間の尊厳」概念とその根拠である「人間性」概念に関心がある。これらの概念に基づいて、現代の具体的な倫理的問題の研究にも取り組んでいる。
❸h-kiyoe@kansai-u.ac.jp

芸術学美術史専修

芸術学・西洋美術史研究 若林雅哉
日本及東洋美術史研究 長谷洋一、平井章一

長谷　洋一　教授

❶中・近世の仏教美術史
❷鎌倉時代後期から江戸時代に至る仏教美術史に関する研究を行っている。特に製作プロセスや造像組織についての調査研究を主眼としている。
❸hasey@kansai-u.ac.jp

若林　雅哉　教授

❶芸術作品の再制作を主要関心とする芸術学、および演劇論
❷いわゆる「パロディ」ばかりでなく、芸術作品／アートの制作の現場においては、再制作の様相を見逃すことはできない。これを関心の主軸にすえつつ、主としてパフォーミングアーツを対象としながら、芸術学の研究を行っている。
❸hasey@kansai-u.ac.jp

平井　章一　教授

❶欧米日の近代美術史、現代美術、西洋美術史
❷日欧米の19世紀以降の美術、特に1950年代の抽象表現主義やアンフォルメルを研究している。また、「具体」グループなど、関西での前衛的な美術の動向のフィールドワークにも力を入れている。
❸hirai@kansai-u.ac.jp

日本史学専修

日本古代中世史研究 西本昌弘、原田正俊　日本近世近代史研究 小倉　宗、官田光史
考古学研究 井上主税　民俗学研究 黒田一充　文化遺産学研究 髙久智広、村元健一

井上　主税　教授

❶韓国・朝鮮考古学、日本考古学、博物館学
❷日本列島と朝鮮半島との交流関係を両国の考古資料を通じて研究している。なかでも、日本列島の弥生・古墳時代と、同時代の朝鮮半島原三国・三国時代の墳墓や副葬品の比較研究、文物交渉史の研究を行っている。また、古墳時代や飛鳥時代の渡来人に関する考古資料の分析も進めている。
❸c-inoue@kansai-u.ac.jp

官田　光史　教授

❶近現代、とくに戦時期（日中戦争・太平洋戦争期）の政治史
❷戦時期の政党は、政策過程にどのようにコミットしようとしていたのか。この問いから、戦前・戦後も視野に入れて政党と地域社会・業界団体の関係を研究している。また、議員の召集や戦死という事象を通して、議会・選挙制度の根源的な意味も探究している。
❸akikan@kansai-u.ac.jp

髙久　智広　教授

❶文化遺産学、博物館学、幕末維新史
❷主に幕末維新期の海岸防備と関連遺産を研究対象としている。多様な文化遺産の分析を通じて地域の歴史を見直し、その成果を社会へ還元していくことは、文化遺産学の目指すべき課題の１つである。文化遺産の保存と活用をめぐる現代的視点からの考察も進めている。
❸takaku-t@kansai-u.ac.jp

原田　正俊　教授

❶日本中世史・日本仏教史・東アジア文化交流史
❷日本中世における国家・社会と宗教の関係についての研究。さらに、日本列島内にとどまらず、東アジアの文化交流のなかで日本の仏教・宗教・文化がどのように展開したのかについて研究を進めている。この他、妖怪と社会、女性と仏教などの研究もある。
❸msharada@kansai-u.ac.jp

小倉　宗　教授

❶日本近世の政治と社会に関する研究
❷日本近世において関東とならぶ拠点であった上方（かみがた。現在の関西地域）を主なフィールドに、江戸幕府の支配（政治・法・軍事）とその機構について研究している。また、上方のみならず日本全体をフィールドとして、幕府や藩の政治と法、地域の社会や文化にも考察を進めている。
❸tt-ogura@kansai-u.ac.jp

黒田　一充　教授

❶日本民俗学・庶民信仰史　とくに日本各地の祭りや民俗信仰の研究
❷民俗学は、村や町に住む人々が何世代にもわたって伝えてきた生活文化を研究対象とする。特に祭祀や信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。
❸kurodaka@kansai-u.ac.jp

西本　昌弘　教授

❶古代の儀式と年中行事、東アジア対外関係史、古代の都城と寺院
❷古代の儀式・年中行事を『内裏式』『新撰年中行事』などの儀式書・年中行事書をもとに解明。５～11世紀の日本史を東アジア史の中で考察。飛鳥・藤原宮から長岡・平安宮に至る王都・王宮・寺院の歴史を政治・社会の動きの中に位置付ける。
❸mnisimot@kansai-u.ac.jp

村元　健一　教授

❶文化遺産学、博物館学、日中都城史
❷日本の都城を中国都城と比較しながら研究している。都城は考古学、歴史学、建築史などが協働して学際的な研究がなされ、その成果の一部は遺跡公園として整備され、社会に還元されている。研究成果の普及、文化遺産と社会との関わりについても考察している。
❸muramoto@kansai-u.ac.jp

世界史学専修

東洋史研究 森部　豊、橋爪　烈　エジプト学研究 吹田　浩
西洋史研究 中村仁志、嶋中博章、森本慶太

吹田　浩　教授

❶古代エジプトの歴史の研究、文化財の保全・修復・活用の研究
❷古代エジプトの歴史と文化を研究する。その際、古代文字（古期エジプト語、中期エジプト語、後期エジプト語、コプト語、民衆語、ヒエラティック）を使うことを前提とする。また、エジプトの文化財の修復も行い、歴史の研究と文化財の修復を一体的に扱う。
❸horus@kansai-u.ac.jp

森部　豊　教授

❶唐五代史研究、東西文化交流史、東ユーラシア史
❷７世紀から10世紀の東ユーラシア（北中国・モンゴリア・マンチュリア）の政治史を、ソグド人、トルコ人、契丹人などの視点からとらえ直し、「中国史」を相対的に見直すことを目的としている。
❸y-moribe@kansai-u.ac.jp

橋爪　烈　准教授

❶アッバース朝史研究
❷749年から1258年まで500年続いたアッバース朝のイスラーム史における意義を明らかにすべく研究に取り組んでいる。支配者たるカリフの権力と正当性の根拠、カリフと地方軍事政権との関係、知識人たちによる政権への評価及び批判、治下の文化活動などの点から考察を行っている。
❸rtshshzm@kansai-u.ac.jp

中村　仁志　教授

❶ロシア近世史、ロシア辺境史、カザーク（コサック）史
❷15～18世紀を中心に近世のロシアについて研究している。ロシアと周辺の諸国家や遊牧勢力とのかかわりを軸にしたロシア辺境地帯の歴史、ロシアの南部辺境に生まれロシアの歴史に大きな影響をおよぼしたカザーク（コサック）集団の歴史などを中心に研究している。
❸nhitos@fine.ocn.ne.jp

嶋中　博章　准教授

❶フランス近世史、フランス貴族史、文芸事象の歴史
❷近世フランス、とくにルイ14世時代の貴族と彼らが書き残した回想録（メモワール）について研究してきた。現在は「書く」という行為に着目し、「文芸事象の歴史」という視点でアンシアン・レジーム期の政治、社会、文化を包括的に研究している。
❸hshima@kansai-u.ac.jp

森本　慶太　准教授

❶中央ヨーロッパ近現代史、スイス史、観光史
❷ドイツ語圏の近現代史、特に観光の歴史を研究してきた。現在は、19～20世紀のスイスにおける観光の大衆化と、それがもたらした政治・社会・文化的な影響について、同時代の国際関係も視野に入れつつ考察を進めている。
❸ktmrmt@kansai-u.ac.jp

ドイツ文学専修

ドイツ言語文化研究（１） 工藤康弘
ドイツ言語文化研究（２） R.F.ヴィットカンプ、林　英哉

工藤　康弘　教授

❶初期新高ドイツ語（14～17世紀）の統語論的、語彙的研究
❷①副文に現れた接続法の時制と主文の時制がどの程度一致しているかを分析することで、ドイツ語史における時制の一致の崩壊過程を明らかにする　②話法の助動詞möchteが可能の意味（～できる）から願望の意味（～したい）へ移行する歴史的過程を明らかにする　③14～17世紀におけるドイツ語の語彙を分析し、この時代の文献を読むための辞書を編纂する。
❸yskudo@kansai-u.ac.jp

林　英哉　准教授

❶近現代ドイツ文学、詩、障害
❷18世紀以降の近現代ドイツ文学が専門です。特にヘルダーリンなどの詩のほか、文学でどのように障害が描かれているかを研究しています。哲学や思想、社会、歴史的背景に結びつけた解釈や、一語一語の意味にこだわった解釈など、多様なアプローチで文学を読んでいます。
❸hayashih@kansai-u.ac.jp

ローベルト・F. ヴィットカンプ（Robert F. Wittkamp）　教授

❶記憶研究・文化的記憶、物語論（narratology, Erzähltheorie）、17世紀の詩（バロックの詩）、短編小説（Novelle、特に19世紀のNovelle、枠物語）
❷文学における記憶（風景の描写と記憶とのかかわり、四季としての文化的記憶など）、「物語」をテーマとする物語、語り手など。研究テーマである物語論の問題提起は多種多様あり、例えば、詩歌にも物語性があるか（Lyrik und Narratologie）。
❸wittkamp@kansai-u.ac.jp

フランス文学専修

フランス文学研究　友谷知己
フランス語学研究　大久保朝憲

大久保　朝憲　教授
❶ポリフォニー理論による言語現象の分析（アイロニー・緩叙法など）
❷Ducrot, Carelなどによるポリフォニー理論にもとづき、発話内部の複数の声についての分析を行っている。具体的には、アイロニーなどがもつ修辞性を、「認知」や「話し手の意図」から独立した、言語そのものがもつ意味の豊かさの面から追究している。
❸tomonori@kansai-u.ac.jp

友谷　知己　教授
❶十七世紀フランス古典劇研究
❷ラシーヌを中心とする十七世紀フランス古典劇、特に古典悲劇のドラマツルギーを研究している。十六世紀の人文主義演劇、十七世紀初頭の残酷劇またバロック劇と続くフランス演劇史の流れを踏まえたうえで、古典作家たちが駆使していた劇作テクニックの分析を行っている。
❸tomotani@kansai-u.ac.jp

地理学専修

自然地理学研究　黒木貴一　　人文地理学研究　土屋　純
歴史地理学研究　松井幸一　　地誌学・地理教育研究　筒井由起乃

黒木　貴一　教授
❶野外調査とGIS解析から得る自然環境・災害に関わる応用地形学
❷地形・地質を核として自然災害－環境－教育の四者の関係について野外調査とGISを利用しながら岩石、水、空気の移動に伴う姿形を、時間と空間を鍵にスケーラブルに分析します。社会に直結する自然地理学の諸課題を、研究成果により解決できるような問題設定を支援したいと思います。
❸kuroki0@kansai-u.ac.jp

土屋　　純　教授
❶少子高齢化時代の日本における都市社会や流通産業の実態、アジア大都市における流通産業の成長と都市生活の変化
❷日本、アジア、欧米諸国における流通産業の成長分析と、都市商業の革新に関する国際比較研究。大都市における都市産業の立地展開とその連関構造についても検討している。
❸tsuchiya@kansai-u.ac.jp

筒井　由起乃　教授
❶アジア農村／都市の社会空間・社会組織、地理教育
❷日本を含むアジア地域の農村や都市の社会空間や社会組織が研究対象で、フィールドワークを重視しています。とくに、ベトナム国内外のベトナム人コミュニティに関心があり、最近ではオーストラリア、日本といった在外のベトナム人社会の研究も進めています。
❸tsutsuiy@kansai-u.ac.jp

松井　幸一　准教授
❶日本の都市・村落の空間構造/アジアの集落に関する研究
❷村落がいかに形成され拡大してきたのかを東アジアを対象として研究している。研究では村落の形成を伝統的な土地の復原からだけでなく、文化・民俗の面から比較・考察し地理情報システム（GIS）を利用した分析も行っている。
❸k.matsui@kansai-u.ac.jp

教育学専修

教育文化学研究　赤尾勝己、多賀　太、田中潤一、広瀬義徳、山ノ内裕子、若槻　健
学校教育学研究　石井康博、山住勝広、山田直之

赤尾　勝己　教授
❶生涯学習の社会学的研究
❷生涯学習とは人間が生まれてから死ぬまでの一生に経験する学習の総体である。それらをinformal learning、non-formal learning、formal learningの３種類に分け、さらに、学習者としての自己、学校や職場というmicro-level、市町村・都道府県というlocal-level、国家というnational-level、国連やOECDなどのglobal-levelでの、生涯学習の内容・方法、生涯学習施策・政策などを社会学的な観点から研究している。
❸t950027@kansai-u.ac.jp

石井　康博　教授
❶教科教育（算数科教育）、教育工学
❷小学校算数科における具体物を利用した子どもの数的活動を研究対象としている。授業実践から得られた記録を主なデータとして、教育工学で行われている分析方法を用いて、研究している。
❸yishii@kansai-u.ac.jp

多賀　　太　教授
❶教育社会学、ジェンダー論
❷主に社会学の理論と方法を用いて、家庭教育や成人後の態度・行動変容も含めた学校教育に限らないさまざまな教育現象を研究する。人間形成と社会構造・社会変動とのダイナミックな相互関係を視野に入れ、ジェンダー、社会階層、国際比較などの視点も取り入れてアプローチする。
❸f.taga@kansai-u.ac.jp

田中　潤一　教授
❶教育哲学
❷人間が社会や文化の中でどのように成長していくかを哲学的・思想的に研究している。とりわけ人間が論理的思考力をどのように習得するかを探求している。また人間が道徳性をどのように身につけるかを思想的・歴史的に考察している。
❸junichit@kansai-u.ac.jp

広瀬　義徳　教授
❶教育制度学、教育行政学
❷日本の教員人事・管理政策に関する制度学的・行財政学的な分析を中心に、公教育について研究を行っている。近年は、公立学校教員の勤務問題、外国籍教員の任用行政、公教育の民営化・市場化と配分をテーマにしている。
❸to80020@kansai-u.ac.jp

山住　勝広　教授
❶教育学、教育方法学、文化・歴史的活動理論、拡張的学習理論
❷「文化・歴史的活動理論」の枠組みを用いた学校教育のイノベーション研究として、現実から遮断された皮相的な個人的行為という学習の支配的なあり方を打ち破るような、集団的な「拡張的学習」のデザインと創造に、現場の実践者たちと対話・協働しながら取り組んでいる。
❸kyamazum@kansai-u.ac.jp

山ノ内　裕子　教授
❶教育人類学、異文化間教育学
❷人類学の理論と方法で、国境を越えて移動する人々の教育と文化について研究を行っている。主な研究対象はブラジルの日系社会であるが、海外のみならず国内の外国人集住都市においてもフィールド調査を行ない、多様性を尊重する多文化共生社会の実現に向けて、研究を進めている。
❸ymnch@kansai-u.ac.jp

若槻　　健　教授
❶市民性教育、人権教育、学校・授業づくり
❷市民性教育は、地域社会を担い、創っていく市民としての資質（市民性）を育む教育である。多文化化する社会のなかで求められる市民性を育む学校・授業を人権教育の観点から作っていくこと（実践的研究）、意味づけしていくこと（理論的研究）が研究テーマである。
❸w-ken@kansai-u.ac.jp

山田　直之　准教授
❶作文・綴方教育、集団による教育、主体形成論
❷明治～昭和期の初等作文（綴方）教育に着目し、学習者に文章を書かせることによって主体形成をめざす近代教育的思考の特質を陶冶論的に明らかにするとともに、綴方教育が有していた訓育的側面の批判的・理論的継承を試みている。
❸n-yamada@kansai-u.ac.jp

文化共生学専修

文化共生学研究　澤井一彰、溝井裕一、森　貴史、青木　敬

澤井　一彰　教授
❶トルコを中心とする東地中海や中東の地域研究
❷東地中海から中東にかけての地域で発生した（あるいは現在もしている）経済的・文化的な事象を、歴史学的な視点から解明することをめざしている。特に食文化などの日常生活の変化や自然災害からの復興のあり方に関心をもって研究を進めている。
❸k-sawai@kansai-u.ac.jp

溝井　裕一　教授
❶人と動物の関係史、西洋文化史
❷現在は動物園、水族館、民間伝承など、生きものに関連する施設や物語を対象としつつ、西洋と日本における「人と動物のかかわり」について研究を行っている。
❸y_mizoi@kansai-u.ac.jp

森　　貴史　教授
❶ドイツ文化論、サブカルチャー研究、ヨーロッパ旅行史
❷日本のサブカルチャーにくわえて、ドイツを中心としたヨーロッパの19、20世紀や現代の広範な文化および旅行などの歴史を研究している。
❸tmori@kansai-u.ac.jp

青木　　敬　准教授
❶大西洋文化圏を中心とするクレオール文化論、ポルトガル語圏地域研究
❷西アフリカ島嶼地域カーボヴェルデ共和国におけるクレオールを中心に、音楽とアイデンティティの関係について文化人類学的に研究している。またポストコロニアルの観点から、歌詞にみられる世界観やメッセージがどのように変化しているのかについて分析している。
❸kayaoki@kansai-u.ac.jp

映像文化専修

映像文化研究　門林岳史、笹川慶子、菅原慶乃、堀　潤之、馬　定延

門林　岳史　教授
❶映像の理論・メディアの哲学
❷映像とメディアをめぐる近年の理論的言説を、とりわけマーシャル・マクルーハン以降のメディア論の展開に重点をおいて研究している。また、テクノロジーに向かう想像力の歴史的布置を言説や作品、文化表象の分析を通じて考察している。
❸kanbaya@mac.com

笹川　慶子　教授
❶日本とアメリカの映画産業史
❷おもに製作、配給、興行の変化の美学的文化的側面、アジア諸国における日本およびアメリカ映画の影響を研究。ほかに映画製作の地方史、映画配給のグローバル史、映画館の文化地理史など。
❸sasa@kansai-u.ac.jp

菅原　慶乃　教授
❶中国語圏映画史
❷民国期上海の映画産業史、観客史から作品を読み解くアプローチによる研究を継続している。また、東南アジアや北米の華僑華人コミュニティにおける中国映画受容史や、ジェンダー研究も射程に含めている。近年は映画パンフレットなど劇場資料を用いたデジタル・ヒューマニティーズにも関心を広げている。
❸sugawara@kansai-u.ac.jp

堀　　潤之　教授
❶フランス映画・映画理論
❷ヌーヴェル・ヴァーグ、とりわけジャン＝リュック・ゴダールを中心とするフランス映画史、フランスおよび英語圏の映画・映像をめぐる理論的・批評的言説を研究している。ほかに映画と写真の関係やニューメディア研究も手がけている。
❸hori@kansai-u.ac.jp

馬　　定延　准教授
❶現代美術と映像メディア
❷現代美術分野におけるメディア・テクノロジーの導入と応用、美術と映画のあいだを越境する映像表現について研究している。近年は、日本と韓国が共有する集団的・文化的な記憶を捉えた作品の批評と分析に力を入れている。
❸ma2021@kansai-u.ac.jp

❖2025年度　博士課程後期課程　専修科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

英米文学英語学専修

中世及近世英文学	干井洋一
近代英米文学	J.カーワン／髙橋美帆／R.ドノバン
英語学	岩田彩志

国語国文学専修

上代文学	村田右富実
中古文学	岸本理恵／松本　大
中世文学	大島　薫
近世文学	山本　卓
近代文学	関　　肇／増田周子
国語学	乾　善彦／日高水穂／森　勇太

哲学専修

哲学・哲学史研究	三村尚彦
哲学・倫理学研究	品川哲彦／中澤　務
比較宗教学研究	洒井真道／水野友晴／宮本要太郎
美学・美術史研究	長谷洋一／平井章一／若林雅哉

史学専修

日本古代中世史	西本昌弘／原田正俊
日本近世近代史	小倉　宗
考古学	井上主税
民俗学	黒田一充
東洋史	森部　豊
西洋史	吹田　浩／中村仁志／嶋中博章

ドイツ文学専修

ドイツ文化・文学	R.F.ヴィットカンプ
ドイツ語学	工藤康弘

フランス文学専修

フランス文学	友谷知己

地理学専修

自然地理学特殊研究	黒木貴一
人文地理学特殊研究	土屋　純
歴史地理学研究	松井幸一

教育学専修

教育文化学特殊研究	赤尾勝己／多賀　太／田中潤一／若槻　健
学校教育学特殊研究	石井康博／山住勝広

映像文化専修

映像文化研究	門林岳史／笹川慶子／菅原慶乃

Graduate School of Economics

経済学研究科

千里山キャンパス
経済学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_eco/

博士課程前期課程
経済学専攻（入学定員 35名）
研究者養成コース／高度専門職業人養成コース

博士課程後期課程
経済学専攻（入学定員 5名）

目的に応じたコース制と、学生一人ひとりのニーズに応じたきめの細かい指導体制

特色

１．目的に応じた２つのコース：
経済学研究科博士課程前期課程では、研究者養成コースと高度専門職業人養成コースを設けて、各々の入学者のニーズに応えている。研究者養成コースでは、修了後、研究のプロフェッショナルとして独立するための研究能力を養成し、高度専門職業人養成コースでは、税理士等資格試験の受験や、企業や政府機関、NGO等における研究、分析、プランニングおよび経営などといった業務に必要とされる能力を養う。

２．基本を大切にする４つの基礎科目：
経済学研究科では、ミクロ経済学基礎研究、マクロ経済学基礎研究、データ分析・政策評価入門、文献・実地調査入門（各２単位）の４つの基礎科目を設けて、一人２科目の履修を必須とする。経済学の基盤には科学的思考としての理論的普遍性の追求があり、一方で現実の社会経済にはさまざまな行為の結果としてデータが、数値あるいは文献、歴史史料および調査資料の形で存在する。４つの基礎科目では、学生各人が研究課題に即した実証と分析に必要な考え方や手法を修得することを目的としている。

３．多様な問題意識と学修者の目的に応える５つの科目群：
経済学の分析対象は広く、社会経済的事象一般を網羅する。このため、本研究科では、エコノミスト系科目、パブリックポリシー系科目、地域・国際系科目、歴史・社会系科目、企業・ファイナンス系科目の５つの系科目群を用意し、学生の問題意識と目的に応える系統だった履修メニューを準備している。

４．指導教員制によるきめ細かい指導：
経済学研究科では学生は入学を志望し、出願する際に指導の教員を選択する指導教員制を採用している。これは、指導者と学生のミスマッチを避け、各学生の研究目的、問題意識に即した指導を実現するためであり、事前にメール等で問い合わせることを推奨している。そのためには、各人が入学前に自身の問題意識や研究目的をきちんと把握する必要があり、これが入学後の学修の準備となる。入学後の履修科目は、指導教員との綿密なカウンセリングによってオーダーメイドで編成される。
※関西大学社会人学び直し大学院プログラム（海外ビジネスマネジメント講座）修了者は、最大８単位まで単位の認定をすることが可能です。

基礎科目の概要・履修モデル

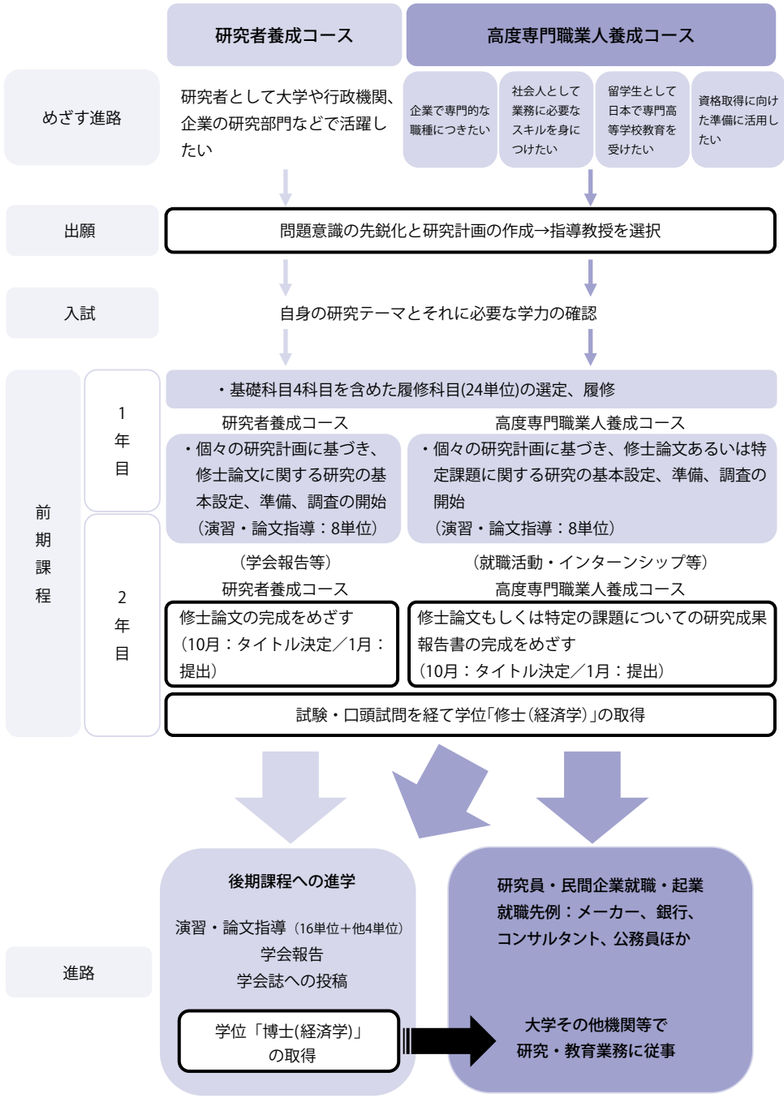
●基礎科目の概要と使い方

基礎科目には以下の４科目があり、経済学のそれぞれの分野の基本的な考え方を身につけ、受講者にそれらが応用された文献の理解、および自身の問題意識に応じた応用を可能にすることを目標としている。なお、学生は２科目以上の基礎科目を履修することになり、最大８単位まで修了のために必要となる単位に算入されます。

（a）ミクロ経済学基礎研究　（b）マクロ経済学基礎研究
（c）データ分析・政策評価入門　（d）文献・実地調査入門

これらの基礎科目の設置により、経済理論や分析手法の、さまざまなレベル、多様な目的に合わせた活用を可能にする。つまり、基礎科目の履修によって、経済学の枠組みを活用した実証的な分析を実現したい学生のニーズに応えると同時に、より高度で専門的な系科目の履修によって、特定理論の先鋭化や個別経済事象の解明を追求したい学生のニーズに応えるカリキュラム編成となっている。

大学院での学修・研究スケジュール



●履修モデルの例

主要な専攻科目	基礎科目	学生の研究課題の例
エコノミスト系	（a）（b）（c）（d）から２科目以上選択	・子育て支援政策が出生率及び経済成長に与える影響―人的資本希釈効果を考慮して― ・ワクチン接種率についてのゲーム理論的分析
パブリックポリシー系		・高齢化社会における公的年金の研究―中国と日本の比較を中心として― ・社会的入院はなぜ解消されないのか
地域・国際系		・The impact of China's investment activities on environmental pollution ・中国における聖地巡礼を用いた地域経済の発展の可能性についての研究 ・小売り国際化と現地小売業の革新に関する考察―無印良品とMINISOに着目して―
歴史・社会系		・日本アニメビジネスの変化と将来―制作委員会方式とグローバル化 ・「経済学者」馬寅初についての研究―その理論・政策の特質と現代的意義を中心として―
企業・ファイナンス系		・日本における百貨店の衰退問題と現状に関する一考察―消費者行動の変化と関連させて― ・インターネットメディアにおける広告差別化戦略の影響

❖2025年度　演習・論文指導担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶講義科目　❷研究テーマ　❸研究内容　❹E-mail/HP

エコノミスト系科目

長久　良一　教授
❶ミクロ経済学研究(A)Ⅰ・Ⅱ（前期）／ミクロ経済学特殊研究(A)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷社会的選択と規範的正義論
❸アロウの不可能性定理、ナッシュ交渉問題、個人間厚生比較、資源配分と社会的選択などの社会的選択理論での諸問題。カント流形式主義道徳哲学への公理主義的接近など、倫理学と交錯する新領域での研究。
❹t940074@kansai-u.ac.jp

坂根　宏一　教授
❶ミクロ経済学研究(B)Ⅰ・Ⅱ（前期）／ミクロ経済学特殊研究(B)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷競争均衡の安定性
❸完全競争及び不完全競争下の均衡の安定性
❹sakane@kansai-u.ac.jp

秋岡　弘紀　教授
❶マクロ経済学研究(A)Ⅰ・Ⅱ（前期）／マクロ経済学特殊研究(A)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷マクロ経済学研究
❸（研究内容）ミクロ経済学・マクロ経済学・経済政策の実証分析
（分析手法）計量経済学
❹akioka@kansai-u.ac.jp
https://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/+0c8bd9f21b23vb602wdf0a7cb0H.html

鈴木　智也　教授
❶経済変動論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／経済変動論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷小国開放経済の景気変動
❸小国開放経済の景気変動を実物景気循環理論のモデルに基づいて実証分析する。
❹tomoya@kansai-u.ac.jp

土居　潤子　教授
❶経済成長論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／経済成長論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷経済成長に関する研究
❸レントシーキング活動が各種経済政策の効果や経済成長に及ぼす影響、途上国の自律的発展、貧困削減のための経済成長メカニズムの解明等の研究を行っている。
❹jkdoi@kansai-u.ac.jp

良永　康平　教授
❶統計学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／統計学特殊研究(C)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷統計学基礎研究、統計学研究、統計学特殊研究
❸経済統計学の国民経済計算論や産業連関論を中心に研究している。最近は特に環境勘定や08SNA、EUやアジアの産業連関、日本の地域分析等に興味を持っている。
❹yosinaga@kansai-u.ac.jp

宇都宮　浄人　教授
❶経済統計学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／統計学特殊研究(A)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷交通経済に関する統計的研究
❸交通と経済社会に関わる事象の定量化と実証。現在は、地域公共交通と交通政策に関する実証分析に関心がある。
❹t110025@kansai-u.ac.jp

松尾　精彦　教授
❶数理統計学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）
❷一般化線形モデルとその分析法
❸一般化線形モデルは正規線形モデルの拡張であるが、このモデルを実際にデータに当てはめる問題について研究を行っている。
❹amatsuo@kansai-u.ac.jp

片山　直也　教授
❶計量経済学研究(B)Ⅰ・Ⅱ（前期）／計量経済学特殊研究(B)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷経済時系列データを用いた実証分析
❸不動産や株式指数の合理的バブルの検証・金融緩和政策の有効性の検証・時系列解析における検定手法の開発
❹katayama@kansai-u.ac.jp

谷田　則幸　教授
❶情報処理論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／情報処理論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷エージェントシミュレーションによる経済システムの解明
❸複雑系の解明に旧来の還元主義に対峙する構成主義の立場でアプローチし、複雑系としての経済システムをエージェントシミュレーションを通して解明する。
❹tanida@kansai-u.ac.jp

野坂　博南　教授
❶労働経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／労働経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷労働経済に関する理論的研究
❸ジョブサーチの理論などを応用して、理論的な観点から雇用問題や失業問題を考察する研究を行っているほか、賃金決定の理論も研究している。
❹hnosaka@kansai-u.ac.jp

岡野　芳隆　教授
❶行動経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）
❷人間行動の経済学的・心理学的特性に関する研究
❸経済実験を通じて人間行動を観察し、経済理論との整合性や心理学的特徴について明らかにする。
❹okano@kansai-u.ac.jp

パブリックポリシー系科目

本西　泰三　教授
❶経済政策研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／経済政策特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷現代日本の経済政策に関する実証分析
❸日本の経済政策課題に関連して、消費者・生活者の意志決定に着目した計量分析を行う。
❹tmoto@kansai-u.ac.jp

林　宏昭　教授
❶財政学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／財政学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷現代財政・税制に関する理論的・実証的研究
❸現代財政に関する種々のデータに基づく実証的な分析を展開し、そこから得られる成果を活用して財政・税制改革の方向性を探る。
❹hhayashi@kansai-u.ac.jp

橋本　恭之　教授
❶租税政策研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／租税政策特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷税制改革の実証分析
❸税制改革は、経済効率性や所得分配状況に多大な影響を与える。このような影響を捉えるために実証分析を行っている。
❹hkyoji@kansai-u.ac.jp
https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~hkyoji/index.htm

佐藤　雅代　教授
❶社会保障論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／社会保障論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷構造改革と社会保障
❸経済学の知識をベースに、医療・年金といった狭義の社会保障政策に加え、公衆衛生の分野でもある水道など、公共サービスに関する研究に取り組んでいる。
❹msy_sato@kansai-u.ac.jp

前川　聡子　教授
❶公共経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／公共経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷経済・財政政策の実証分析
❸経済・財政政策の経済的影響について、統計的手法を用いた分析を行っている。
❹smaekawa@kansai-u.ac.jp

❶講義科目　❷研究テーマ　❸研究内容　❹E-mail/HP

地域・国際系科目

榊原　雄一郎　教授
❶地域経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／地域経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷グローバル経済下における地域経済についての研究
❸グローバル経済が進展する中で、自動車産業のグローバル分業、日本の都市システムの変化、地域開発政策について研究を進めている。
❹sakaki@kansai-u.ac.jp

菅田　一　教授
❶国際経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／国際経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷不完全競争下の貿易理論
❸企業の市場支配力を前提とする不完全競争下の貿易理論および貿易政策が研究テーマである。また、グローバルな産業・競争政策や環境問題等に貿易理論を適用し、研究を行っている。
❹sugeta@kansai-u.ac.jp

春日　秀文　教授
❶国際金融論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／国際金融論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷開発金融の諸問題
❸開発援助政策および発展途上国における所得分配・教育・インフラ整備などの諸問題をテーマとして、理論および計量経済学的な分析を行っている。
❹hkasuga@kansai-u.ac.jp

岡田　啓介　教授
❶国際政治経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／国際政治経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷制度と経済発展に関する実証分析
❸政治体制など社会や経済の制度が経済発展にどのような影響を及ぼすのかについて、データを用いた実証分析を行っている。
❹k_okada@kansai-u.ac.jp

後藤　健太　教授
❶経済発展論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／経済発展論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷途上国の経済分析
❸グローバル経済化における途上国の産業高度化問題と、途上国のインフォーマル経済に関する研究
❹gotoken@kansai-u.ac.jp

新熊　隆嘉　教授
❶環境経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／環境経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷資源・環境問題の経済分析
❸専門は、資源・環境経済学。経済学の観点から、最適な資源利用・汚染コントロールを実現可能にする制度設計を考えている。具体的な研究対象としては、枯渇性資源、廃棄物、温暖化など。
❹shinkuma@kansai-u.ac.jp

北波　道子　教授
❶アジア経済発展論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／アジア経済発展論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷東アジアの社会と経済
❸アジアの経済発展とそのメカニズムについて、台湾と中国を中心に実証的に研究する。
❹kitaba@kansai-u.ac.jp

甲斐　成章　教授
❶中国経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／中国経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷中国経済の実証分析
❸大規模企業ミクロデータを作成・加工・利用して、中国の産業集積と経済システムを中心に経済分析を進めている。企業立地、国有企業改革と企業間ネットワークの分析に力を入れている。
❹n_kai@kansai-u.ac.jp

神江　沙蘭　教授
❶ＥＵ経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／ＥＵ経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷多国間協調と通貨・金融ガバナンス
❸グローバル市場の動向と国際的なパワー・バランス、各国・地域の政治と制度が、金融規制や経済政策の方向性にどのような影響を与えたのか、主にヨーロッパ統合との関係で分析する。
❹skonoe@kansai-u.ac.jp

ペドロ・ラポウズ　教授
❶アフリカ経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／アフリカ経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷アジアの対アフリカ開発政策、アフリカ-アジア関係
❸アフリカ諸国に対する日本および中国の社会経済開発協力。特にTICADプロセスと、FOCACやKAFなどの他のアジア諸国による対アフリカ開発協力との比較分析。アフリカ-アジア間の政治・社会・経済関係の変遷。
❹p_raposo@kansai-u.ac.jp

歴史・社会系科目

北原　聡　教授
❶日本経済史研究(A)Ⅰ・Ⅱ（前期）／日本経済史特殊研究(A)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷近代日本の社会経済史研究
❸近代日本における交通インフラ形成とそこで政府が果たした役割について研究している。
❹kitahara@kansai-u.ac.jp

柏原　宏紀　教授
❶日本経済史研究(B)Ⅰ・Ⅱ（前期）／日本経済史特殊研究(B)Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷近代日本の政治・経済史
❸日本の近代化政策について、明治初期を中心に、それを推進した人材に注目しつつ研究している。
❹hkashi@kansai-u.ac.jp

西村　雄志　教授
❶アジア経済史研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／アジア経済史特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷近代アジア経済史
❸20世紀初頭のアジアにおける国際金本位制の特徴について銀流通の観点と国際銀行の役割という観点から研究している。
❹tnishimu@kansai-u.ac.jp

中澤　信彦　教授
❶経済学説史研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／経済学説史特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷近世イギリス社会経済思想史
❸18・19世紀イギリスの社会経済思想の展開を「救貧問題」「共和主義」「保守主義」などのトピックとの関連から研究している。
❹nakazawa@kansai-u.ac.jp

佐藤　方宣　教授
❶近代経済学史研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／近代経済学史特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷20世紀アメリカを中心とした経済思想史
❸経済活動における倫理と公共性をめぐる問題群を、経済思想史的な観点から研究している。
❹masanobu@kansai-u.ac.jp

吉野　裕介　教授
❶現代社会思想史研究Ⅰ・Ⅱ（前期）
❷社会思想史・経済思想史・現代経済思想
❸20世紀の思想家フリードリッヒ・ハイエクの経済思想に関する研究と、それに関連する新しい社会思想、例えばオープン・ガバメントやデジタル・レーニン主義について研究を進めている。
❹yoshino@kansai-u.ac.jp
https://researchmap.jp/read0132758/

企業・ファイナンス系科目

石井　光　教授
❶産業組織論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／産業組織論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷企業の戦略的行動と競争政策に関する経済理論分析
❸市場競争における企業の戦略的行動とそれが経済厚生に与える影響について理論的に研究を行っている。また、公益事業の規制体系のあり方や知的財産制度が競争環境に与える影響についても理論的に研究を行っている。
❹aishii@kansai-u.ac.jp

古賀　款久　教授
❶中小企業論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／中小企業論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷イノベーションに関する実証分析
❸企業レベルのミクロデータを用いて、企業の研究開発活動の決定要因とそれに対する支援政策の有効性―とりわけ税制上の優遇措置―を実証的に検証してきた。
❹koga@kansai-u.ac.jp

佐々木　保幸　教授
❶流通経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／流通経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷現代流通経済の基礎的分析
❸日本とフランスの流通政策を中心に研究してきた。近年では、大規模小売企業の国際的事業活動についても研究を進めている。
❹ysasaki@kansai-u.ac.jp

中川　竜一　教授
❶金融経済論研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／金融経済論特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷適応的学習における金融政策の有効性
❸人々が「適応的学習」という方法によって期待形成するとき、マクロ経済均衡の安定性（実現可能性）および金融政策の有効性がどのような影響を受けるかを分析する。
❹ryu-naka@kansai-u.ac.jp
https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ryu-naka/

小林　創　教授
❶組織の経済学研究Ⅰ・Ⅱ（前期）／組織の経済学特殊研究Ⅰ・Ⅱ（後期）
❷組織の経済学、行動経済学
❸組織における理論モデルを構築し、それを実験によって検証するなかで、組織における人間の行動特性を明らかにしていく。
❹khajime@kansai-u.ac.jp

西川　浩平　教授
❶ビジネス・エコノミクス研究Ⅰ・Ⅱ（前期）
❷企業や政府の戦略的行動に関する実証分析
❸企業や政府が展開する戦略的行動に焦点を当て、ミクロ経済理論に基づき、当該市場への影響を定量的に評価する研究を行っている。
❹k_nishi@kansai-u.ac.jp

Graduate School of Business and Commerce

商学研究科

千里山キャンパス
商学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_com/grad/

博士課程前期課程
商学専攻（入学定員 35名）
研究者養成・後期課程進学コース
高度専門職養成コース

博士課程後期課程
商学専攻（入学定員 5名）

高度な知識を備えた研究者と、これからの社会で活躍できる高度の専門的職業人を養成

特色

商学研究科は経済主体としての企業の行動を分析の中心に据えて、現代社会の経済的諸問題を研究する組織である。また、その研究活動に基づき将来を担う研究者や高度の専門的職業人を養成する教育組織である。

博士課程前期課程には商学専攻の１専攻があり、そのうち高度専門職養成コースには経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野に関連した科目が置かれている。これらは戦略マネジメント、流通・国際ビジネス、そしてファイナンス・会計の３つの系に分類され、体系化されている。また、研究者養成・後期課程進学コースには同様の諸科目が並列的に設置され、指導教員の指導のもとで、体系的な科目履修が弾力的に行い得るように設計されている。

博士課程後期課程には商学の１専攻があり、流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計・経営に関する諸科目が設置されている。

商学研究科のカリキュラムは全体として次のような３つの特色を有している。

その第一は、博士課程前期課程に研究者養成・後期課程進学コースと高度専門職養成コースから成るコース制を採用していることと、高度専門職養成コースにおいては特に、経験豊富な実務家による講義を多数開設していることに示されるように、理論と実践の融合をめざすカリキュラム構成にしていることである。学生が高い水準の理論的蓄積とともに優れた問題解決能力＝政策提言能力を身につけることをめざしている。

その第二は、流通・国際ビジネス系の諸科目群に端的に示されるように、国内的視点のみならず国際的視点からの研究アプローチを重視していることである。こうしたアプローチの重視は、他面では、多数の留学生を受け入れてきていることにも結実している。また、博士課程前期課程の外国人留学生を対象とした「日本語アカデミック・ライティング」を開講し、日本語教育も充実させている。

その第三は、後期課程はもちろんとして、前期課程においても、初年次より専修科目担当の指導教員により、科目履修のあり方と論文作成に関わる教育指導を受けることが可能な仕組みを作り、そのなかで学生が高い専門性のみならず総合性をも兼ね備えた研究能力を涵養できるようにしている点である。

コース制の採用（博士課程前期課程）

	研究者養成・後期課程進学コース	高度専門職養成コース
目　的	大学教員等の研究者になるためのコース。専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養成する。	経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野で活躍し得る高度の専門的職業人を養成する。
特　色	専攻分野を担当する専任教員の演習ならびに隣接分野の演習を履修することを通して、研究者たるに必要な知識、方法論、分析力を身につけることが可能となるような個別研究指導を実施する。	基礎的能力の涵養とともに、理論的知識と実践的知識の両方が講義および演習を通じて得られるようなカリキュラムを構築する。

カリキュラム（博士課程前期課程）

＜研究者養成・後期課程進学コース＞

研究者（大学教員）になるために、前期課程の初年次には複数の演習を履修し、２年目には原則として修士論文の作成に専念し、博士課程後期課程進学の準備をする。

＜高度専門職養成コース＞

高度の専門的職業人たるために必要な基礎的能力（専門基礎知識・考察力・分析力・表現力）を学べるように、初年次にベーシック科目とメソッド科目を設置。また、広範な理論的知識の獲得は、専任教員の講義科目を履修することにより、さらに実践的な知識の修得とビジネス感覚の涵養は、実務家講師による講義科目を履修することで達成できるようにしている。

なお、特別プログラムとして、データサイエンティスト育成プログラム（DSプログラム）、およびタックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラム（TASプログラム）を設置している。

ベーシック科目	経営学
	マーケティング
	会計学
	経済学
	統計学
メソッド科目	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
	日本語アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ
	ロジカルシンキング
	プレゼンテーション技法
	研究方法論（定性）
	研究方法論（定量）
	モデリングの基礎
戦略マネジメント系 流通・国際ビジネス系 ファイナンス・会計系	専任教員担任科目 実務家担当科目
	合同演習 課題研究指導Ⅰ・Ⅱ
	ビジネス・インターンシップ＊

2023年度のカリキュラムです。
＊ビジネス・インターンシップは修了所要単位には含まれません。

データサイエンティスト育成プログラム（DSプログラム）（博士課程前期課程 高度専門職養成コース）

高度な情報通信技術を用い、企業内外に蓄積されている膨大なデータを活用して新しい価値を創り出すことができる人材、データサイエンティストを育成することを目的として設置している。

データサイエンティストは、業務知識を含むデータに関する深い知見をもち、データハンドリングやデータ分析に関する情報処理スキルを有し、仮説提示や企画立案を行うことができる人材のことである。本教育プログラムでは、こうしたビジネスに関連するさまざまなデータを科学的に解析することができる人材を育成するため、統計数理、計算機科学、意思決定科学といった領域の学際的かつ文理融合の教育を行う。

履修に関する留意事項は次のとおり。

１　当該プログラムの科目履修の際には事前に開催される説明会に参加し、詳細を把握すること。
　また希望人数に応じて、選考等を行う場合がある。

２　関連科目のなかの必修科目である「データハンドリングⅠ・Ⅱ」「産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ」はプログラムの性格上、密接に関連した内容となっており、一括して受講することが望ましい。

３　データサイエンティスト育成プログラムに関連する科目群のなかから、必修科目である「データハンドリングⅠ・Ⅱ」「産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ」４科目８単位を含み、計６科目12単位を修得した場合に、データサイエンティスト育成プログラムを修了したものと認定し、「データサイエンティスト育成プログラム修了証」を授与する。

〈データサイエンティスト育成プログラム関連科目〉

メソッド	モデリングの基礎
戦略マネジメント系	経営情報論研究Ⅰ・Ⅱ マーケティング・サイエンス研究Ⅰ・Ⅱ データハンドリングⅠ・Ⅱ（必修科目） 産学連携ワークショップⅠ・Ⅱ（必修科目） データマイニングの基礎と実践
流通・国際ビジネス系	消費者行動論研究Ⅰ・Ⅱ
	ビジネス・インターンシップ＊

＊ビジネス・インターンシップは修了所要単位には含まれません。

タックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラム(TASプログラム)(博士課程前期課程 高度専門職養成コース)

本プログラムは、税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とし、税理士や企業の税務・財務部門での活躍をめざす者などを対象とする。

１年次は、ベーシック科目やメソッド科目とともに、プログラム科目を中心に学修する。プログラム科目を網羅することによって、多角的視座を養い、税務および会計業務を適切に行い得る高度な専門知識と応用能力を修得する。税理士試験科目のうち、税法科目の免除を希望する場合は租税法研究または租税論研究の講義および演習を学修し、会計学科目の免除を希望する場合は会計制度論研究の講義を学修する必要がある。さらに実務家教員科目である現代ファイナンス・会計研究を学修することにより、実践的な知識とビジネス感覚を修得する。プログラムに関連する科目群の中から６科目12単位を修得した場合に、タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラムを修了したものと認定し、「タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラム修了証」を授与する。ただし、修了証は、国税審議会による税理士試験科目免除の認定を保証するものではない。

２年次では、それぞれの指導教員の課題研究指導を受け、課題研究論文（字数40,000字以上）を提出する。ただし、税理士試験科目免除の認定は国税審議会の判断によるため、学位（修士）を取得しても科目免除が認定されるとは限らない。

なお、税理士試験の税法科目の免除を希望する場合は、入学試験において、「税制論」を受験する必要がある。詳細は学生募集要項を確認すること。

〈タックス＆アカウンティング・ストラテジー・プログラム関連科目〉

ベーシック	会計学
メソッド	研究方法論（定性）
ファイナンス・会計系	租税法研究Ⅰ・Ⅱ
	租税論研究Ⅰ・Ⅱ
	会計制度論研究Ⅰ・Ⅱ
	現代ファイナンス・会計研究（各テーマ）
	ビジネス・インターンシップ＊

＊ビジネス・インターンシップは修了所要単位には含まれません。

❖2025年度　博士課程前期課程　専修科目担任教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶最近の研究テーマ　❷その他

戦略マネジメント系

イノベーション・マネジメント研究Ⅰ・Ⅱ　朴　泰勲　教授

❶資源と組織の境界の相互作用が探索的イノベーションに及ぼす影響に関する研究
❷研究書：『戦略的組織間協業の形態と形成要因』（白桃書房、2011年）。
E-mail: taehoon@kansai-u.ac.jp

ベンチャー論研究Ⅰ・Ⅱ　横山　恵子　教授

❶ソーシャル・エンタープライズの戦略と組織について、特にアントレプレナーシップの側面からの理論構築をめざしている。
❷単著（2003）『企業の社会戦略とNPO：社会的価値創造に向けての協働型パートナーシップ』白桃書房。共編著（2022）『日本のコレクティブ・インパクト』中央経済社。
E-mail: yokokei@kansai-u.ac.jp

経営組織論研究Ⅰ・Ⅱ　原　拓志　教授

❶イノベーションと組織に関する研究
❷原　拓志（2019）「物の連結，組織の連結，そして安全な製品の社会的形成」『国民経済雑誌』第220巻第６号，55-71頁。
E-mail: t_hara@kansai-u.ac.jp

経営戦略論研究Ⅰ・Ⅱ　佐伯　靖雄　教授

❶企業及び企業グループの技術革新と国際経営戦略に関する研究
❷主著『自動車電動化時代の企業経営』（晃洋書房，2018年），『中国地方の自動車産業』（編著，晃洋書房，2019年），『東北地方の自動車産業』（編著，晃洋書房，2021年）ほか。研究業績は関西大学学術情報システムを参照。
E-mail: yst07993@kansai-u.ac.jp

ファミリー・ビジネス研究Ⅰ・Ⅱ　沈　政郁　教授

❶主な研究テーマは家族企業の実証分析になります。以下は最近取り組んでいる研究です。
1. A NEW PERSPECTIVE ON CORPORATE SPINOFF AS HUMAN RESOURCE REDEPLOYMENT AND STAKEHOLDER CONFLICT MITIGATION
2. Placeholder CEOs
❷主な研究業績は、関西大学学術情報システムを参照

経営科学研究Ⅰ・Ⅱ　村上　啓介　教授

❶最適化モデルおよびアルゴリズムに関する研究
❷ Murakami, K. (2020). Time-space network model and MILP formulation of the conflict-free routing problem of a capacitated AGV system. Computers & Industrial Engineering, 141, 106270.

経営情報論研究Ⅰ・Ⅱ　矢田　勝俊　教授

❶膨大な顧客データからビジネスに有用な知識を発見するデータマイニングの基礎研究とビジネスへの応用
❷進学希望者は下記のサイトに記載されている教育方針や内容を把握しておくこと。
https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yada/hp/class.htm
研究業績はhttps://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yada/hp/research.htmlを参照。

事業創生論研究Ⅰ・Ⅱ　西岡　健一　教授

❶新技術と新市場開発。情報通信技術の役割とサービス・イノベーション。
❷西岡健一・南知恵子（2017）『製造業のサービス化戦略』中央経済社
南知恵子・西岡健一（2014）『サービス・イノベーション』有斐閣
E-mail: nishioka@kansai-u.ac.jp

マーケティング・サイエンス研究Ⅰ・Ⅱ　周　暁康　准教授

❶スマートサービスを提供するためのニューラルネットワークに基づく機械学習・深層学習のモデル開発、及びビジネスやマーケティングへの応用
❷研究業績はhttps://scholar.google.co.jp/citations?hl=ja&user=jkNvIacAAAAJを参照

技術経営研究Ⅰ・Ⅱ　陰山　孔貴　教授

❶価値づくりとイノベーションに関する研究
❷陰山孔貴（2019）『脱コモディティ化を実現する価値づくり―競合企業による共創メカニズム―』中央経済社

ミクロ・マーケティング研究Ⅰ・Ⅱ　千葉　貴宏　教授

❶個々人の直観とマーケティング理論がもたらす示唆の間のズレを説明する新理論の開発
❷E-mail: chibat@kansai-u.ac.jp

流通・国際ビジネス系

市場問題研究Ⅰ・Ⅱ　杉本　貴志　教授

❶協同組合を中心とする非営利・協同セクターについての歴史的・理論的研究と現状分析
❷協同組合や産直、フェアトレードといった、市場経済に対するオルタナティブの提案について、その意義と問題点を検討している。
E-mail: sugim@kansai-u.ac.jp

マーケティング・コミュニケーション研究Ⅰ・Ⅱ　岸谷　和広　教授

❶SNSを中心とした広告戦略、マスメディアとオンラインのクロスメディア戦略を研究している。
❷研究業績は、関西大学学術情報システムを参照
E-mail: kishiyak@kansai-u.ac.jp

マーケティング論研究Ⅰ・Ⅱ　岩本　明憲　教授

❶マーケティング理論全般（とりわけ価格理論）に関する学説史的再考察と理論構築
❷E-mail: iwamoto@kansai-u.ac.jp

開発ビジネス論研究Ⅰ・Ⅱ　小井川　広志　教授

❶発展途上国における地場企業の創業と成長・Global Value Chain分析・SDGs/BOPビジネス研究・対日直接投資・M&Aと日本経済
❷大学院での指導を希望する人は、研究テーマに関して事前にメールで相談すること。E-mail: h.oikawa@kansai-u.ac.jp

ビジネス・コミュニケーション論研究Ⅰ・Ⅱ　岡本　真由美　教授

❶ビジネスの場における、言語とコミュニケーション・パターンに関する研究
❷ビジネスにおいて、使用言語がマインドセットにどのような影響を与えるのか、また、それが行動パターンにどのように表出するのかを研究している。
E-mail: mayumi@kansai-u.ac.jp

ロジスティクス研究Ⅰ・Ⅱ　飴野　仁子　教授

❶グローバル・ロジスティクスの比較分析およびロジスティクス政策に関する研究
❷Home Page: http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~hiroko/index.html
E-mail: hiroko@kansai-u.ac.jp

流通企業経営論研究Ⅰ・Ⅱ　崔　相鐵　教授

❶チャネル・パートナーシップ関係の研究および小売企業のグローバル戦略の分析
❷崔 相鐵・石井淳蔵編著（2009）『流通チャネルの再編』中央経済社。
崔 相鐵・岸本 徹也編著（2018）『１からの流通システム』中央経済社。
E-mail: choi@kansai-u.ac.jp

消費者行動論研究Ⅰ・Ⅱ　髙井　啓二　教授

❶消費者行動データの統計分析および分析法の研究
❷研究業績は関西大学学術情報システムを参照
E-mail: takai@kansai-u.ac.jp

新興市場経済研究Ⅰ・Ⅱ　徳永　昌弘　教授

❶・ロシア語圏市場の形成・統合・再編に関する研究
・北極域における開発と環境に関する研究（ArcsⅡ）
❷・Tokunaga, M. and K. Suganuma "Japan's foreign direct investment in Russia" Eurasian Geography and Economics, Vol-61(3), 2020.
・徳永昌弘『20世紀ロシアの開発と環境』北海道大学出版会、2013年。
E-mail: tokunaga@kansai-u.ac.jp

応用寡占理論研究Ⅰ・Ⅱ　髙内　一宏　教授

❶垂直構造と国際貿易、および、企業行動と貿易に関する研究
❷最近の業績: Endogenous transport price, R&D spillovers, and trade, *The World Economy* (forthcoming); Optimal export policy with upstream price competition, *The Manchester School*, Volume88, Issue2, March 2020. など。他は著者のHPをご覧ください。

❶最近の研究テーマ　❷その他

ファイナンス・会計系

金融論研究Ⅰ・Ⅱ　宇恵　勝也　教授

❶金融契約の経済理論的分析
❷「情報の非対称性が存在する状況において最適なインセンティブを設計する問題」を分析する方法を開発する研究分野は「契約理論」と呼ばれる。現在の研究の中心は、契約理論の金融問題への応用である。『金融契約の経済理論』ミネルヴァ書房、2010年。
E-mail: ue@kansai-u.ac.jp

租税法研究Ⅰ・Ⅱ　※辻　美枝　教授

❶保険取引と課税
❷保険取引と課税が交錯する問題について比較法分析に基づく研究を行っている。
E-mail: tsujim@kansai-u.ac.jp

実証ファイナンス研究Ⅰ・Ⅱ　田中　孝憲　教授

❶女性の活躍が企業業績に与える影響
❷研究業績については、関西大学学術情報システムを参照
E-mail: takanori@kansai-u.ac.jp

保険論研究Ⅰ・Ⅱ　徳常　泰之　教授

❶保険市場に関する実証分析
❷研究業績については、関西大学学術情報システムを参照
E-mail: tok@kansai-u.ac.jp

会計制度論研究Ⅰ・Ⅱ　※齊野　純子　教授

❶会計基準設定とその基本思考の研究
❷上記のテーマをIFRSおよびイギリス会計基準を素材にして研究している。
『イギリス会計基準設定の研究』同文舘（2006年）、「イギリスにおける会計規制改革の概観―財務報告協議会を中心に―」『會計』第204巻第６号（2023年）42-52頁。
E-mail: sainoj@kansai-u.ac.jp

実証会計学研究Ⅰ・Ⅱ　太田　浩司　教授

❶経営者予想およびアナリスト予想に関する研究・企業評価モデルに関する研究・自社株買いに関する研究・計量経済学に関する研究
❷研究業績および研究概要は、全て私のホームページで閲覧可能となっている。
E-mail: koji_ota@kansai-u.ac.jp
Home Page: https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~koji_ota/

監査論研究Ⅰ・Ⅱ　上妻　京子　教授

❶監査・サステナビリティ情報保証
❷主要業績：「合理的保証に向かうサステナビリティ報告の保証」、『會計』、第203巻第５号、54-68頁、2023年。「気候関連情報の保証をめぐる国際動向」、『企業会計』、第75巻第10号、36-44頁、2023年。その他
E-mail: kyoko@kansai-u.ac.jp

コスト・マネジメント研究Ⅰ・Ⅱ　岡　照二　教授

❶持続可能な社会における企業コスト・マネジメントに関する研究。特に、気候変動、水資源、生物多様性保全など地球・自然環境が企業会計に与える影響（サステナビリティ会計）について事例・実証研究を進めている。
❷岡 照二（2019）「気候変動に伴う企業グループの環境管理会計の展望」『管理会計学』第27巻第２号、45-60。その他業績は、researchmapを参照してください。
E-mail: shojioka@kansai-u.ac.jp

国際通貨システム論研究Ⅰ・Ⅱ　髙屋　定美　教授

❶「欧州経済危機の分析と政策提言」「国際通貨制度の改革の方向」
❷『検証　欧州債務危機』中央経済社、2015年。
『欧州危機の真実』東洋経済新報社、2011年。
『欧州通貨統合とマクロ経済政策』ミネルヴァ書房、2009年。
『ユーロと国際金融の経済分析』関西大学出版部、2009年。
E-mail: takaya@kansai-u.ac.jp

租税論研究Ⅰ・Ⅱ　※石田　和之　教授

❶地方税の研究
❷石田和之「地方税の安定性」成文堂（2015年）
E-mail: ishida.k@kansai-u.ac.jp

金融政策論研究Ⅰ・Ⅱ　英　邦広　教授

❶金融政策の効果に関する実証分析
❷研究業績については関西大学学術情報システムを参照
E-mail: t170008@kansai-u.ac.jp

原価計算論研究Ⅰ・Ⅱ　中嶌　道靖　教授

❶マテリアルフローコスト会計（MFCA）を研究対象として、MFCAの企業事例研究をもとに環境管理会計手法の研究開発を進めている。
❷主要業績：中嶌道靖・國部克彦（2008）『マテリアルフローコスト会計（第２版）』日本経済新聞出版社
E-mail: nakajima@kansai-u.ac.jp

財務戦略会計研究Ⅰ・Ⅱ　乙政　正太　教授

❶利害調整機能と情報提供機能を効率的に作用させるための会計情報の役割について
❷主要業績：Otomasa, S., A. Shiiba, and A. Shuto (2020) Management earnings forecasts as a performance target in executive compensation contracts, Journal of Accounting, Auditing, and Finance, Vol.35, No.1, pp.139-167.
E-mail: oto@kansai-u.ac.jp

経営分析論研究Ⅰ・Ⅱ　木村　麻子　教授

❶サステナビリティ経営のための管理会計：主として日本企業を対象として事例研究や実証研究を行っています。
❷研究業績についてはresearchmapを参照して下さい。
E-mail: asakmr@kansai-u.ac.jp

公会計論研究Ⅰ・Ⅱ　馬場　英朗　教授

❶公会計情報の活用と社会的インパクト評価
❷『インパクト評価と価値創造経営』第一法規（2023）
『非営利組織のソーシャル・アカウンティング』日本評論社（2013）
E-mail: baba-hid@kansai-u.ac.jp
Home Page: https://www.babahid-kansai.com/

財務報告研究Ⅰ・Ⅱ　岩﨑　拓也　教授

❶コーポレート・ガバナンスにおける会計情報の役割
❷Iwasaki, T, Otomasa, S, Shiiba, A, Shuto, A. 2018. The role of accounting conservatism in executive compensation contracts. Journal of Business Finance and Accounting 45, 1139-1163. その他の業績は関西大学学術情報システムを参照してください。

※　高度専門職養成コースのタックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラムの担任教員

研究者養成・後期課程進学コースは演習と論文指導を中心として研究者の育成を図り、前期課程修了後、引き続き後期課程への進学を希望する者を対象としている。
高度専門職養成コースは、経営・流通・国際ビジネス・ファイナンス・会計の諸分野で活躍し得る高度の専門的職業人を養成することを目的としており、専任教員による講義科目や演習科目に加えて、ベーシック科目、メソッド科目、実務家による講義科目なども多数用意し、充実したカリキュラムを提供している。希望すれば所定の入学試験を受けて博士課程後期課程へ進学することもできる。

❖2025年度　博士課程後期課程　専修科目および担任教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

商学専攻

市場問題特殊研究	杉本　貴志	実証会計学特殊研究	太田　浩司
ロジスティクス特殊研究	飴野　仁子	保証業務論特殊研究	松本　祥尚
マーケティング・コミュニケーション特殊研究	岸谷　和広	経営分析論特殊研究	木村　麻子
開発ビジネス論特殊研究	小井川広志	監査論特殊研究	上妻　京子
新興市場経済特殊研究	徳永　昌弘	公会計論特殊研究	馬場　英朗
ビジネス・コミュニケーション論特殊研究	岡本真由美	コスト・マネジメント特殊研究	岡　照二
応用寡占理論特殊研究	髙内　一宏	財務報告特殊研究	岩﨑　拓也
金融論特殊研究	宇恵　勝也	イノベーション・マネジメント特殊研究	朴　泰勲
国際通貨システム論特殊研究	髙屋　定美	経営情報論特殊研究	矢田　勝俊
租税法特殊研究	辻　美枝	ベンチャー論特殊研究	横山　恵子
実証ファイナンス特殊研究	田中　孝憲	事業創生論特殊研究	西岡　健一
租税論特殊研究	石田　和之	経営組織論特殊研究	原　拓志
原価計算論特殊研究	中嶌　道靖	経営戦略論特殊研究	佐伯　靖雄
会計制度論特殊研究	齊野　純子	ファミリー・ビジネス特殊研究	沈　政郁
財務戦略会計特殊研究	乙政　正太		

Graduate School of Sociology

社会学研究科

千里山キャンパス
社会学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_soc/

博士課程前期課程
社会学専攻（入学定員 10名）
専門研究コース／課題研究コース
社会システムデザイン専攻（入学定員 10名）
メディア専攻（入学定員 10名）

博士課程後期課程
社会学専攻（入学定員 3名）
社会システムデザイン専攻（入学定員 3名）
メディア専攻（入学定員 3名）

多彩な個性が学ぶ環境で、創造力と活動力を備えた専門家を養成

特色

社会学研究科は、高度な創造的能力と自立的活動力をもつ専門家を養成することを意図している。その学生の将来の夢が研究者にあろうと産業人にあろうと、それぞれの分野において、理論と実践の両側面を視野に入れつつ、また、生産的な展望をもちながら具体的な問題解決に当たることができる人材を育てる努力をつづけている。

社会学研究科を支えている学問領域は、社会学、経済学、経営学やメディア研究などであるが、別の視点から見れば、行動科学であり経験科学であり実践科学である。それらは、社会と組織と人間の相互関連の上に成立する現実世界の諸現象を実証的に研究し、そこで生じている種々の問題の解決を図ることを目的にしたディシプリンである。それぞれには独自の研究方法論と知識・理論体系があるが、それらの理解を踏まえて、各領域の境界を越えた総合的アプローチを展開する視点と意欲を養うのが、社会学研究科の研究・教育の基本的な姿勢である。そうした姿勢に基づいて、早くから社会人入学制度も導入している。

外国人留学生を積極的に受け入れているのも、留学生の能力開発や日本理解を支援すると同時に、多くの学生がより広い国際的視野をもち、多角的な活動力を身につけた人材として育ってほしいと望むからである。

こうして社会学研究科では、学問的性格に基づく実践性と総合性の上に、その研究・教育体制が育てる創造力と活動力を修得した人材を輩出することによって、広範囲の社会的要請にこたえようとしている。

各専攻には、それぞれの専門領域に関する基礎理論や最新動向の総合的理解を促す講義科目と、特定テーマに関する独創的探求をめざす演習科目が置かれ、それらに、各分野の実証研究を行うのに必要な調査法や情報処理技術を磨く実習科目が組み合わされている。こうした科目で学修・研究した成果を、前期課程では修士論文（または特定の課題についての研究成果）に、後期課程では博士論文に集約することが期待されており、そのための個人指導が系統的に行われている。

前期課程では専門家として一人立ちできる基礎をつくることが、また、後期課程では独自の研究的創造性を発揮することが求められているが、その体系的プログラムで各専攻が特長としているところは、およそ次のとおりである。

社会学専攻

複雑さと不確実性に覆われ混迷する現代社会を前にして、社会学的な見方の有効性と重要性は日増しに高まっている。めざすべきは、現代人が埋め込まれている「関わりのシステム」と「意味のシステム」を複眼的にとらえながら、関心領域や考察対象を社会学的に記述・説明する分析力と、問題発見と課題解決に資する感性と思考力を身につけることである。研究者養成をめざす専門研究コースと、前期課程の２年間で社会学を応用して実社会に貢献する能力を高めることを目的とする課題研究コースを設けている。

社会システムデザイン専攻

現代社会を解読し、より良い社会のデザインを考えることが社会システムデザイン専攻の目的である。特に学際的なアプローチを重視し、社会学、経済学、経営学、技術論などの複合的な視点から、グローバル化し絶えず変化する複雑な現代社会のメカニズムを分析する。社会を単に分析するだけではなく、インセンティブ、人間開発、技術、リスク、組織、コミュニティ、社会的ネットワーク、ガバナンスなどに注目し、専門知識を養うとともに、新しい社会の設計を提案するという実践的な研究も行っている。従来の学問体系では個別の専攻分野内で研究されることが多かった問題に対して、幅広い専門領域から総合的にアプローチしていく点が特徴である。

メディア専攻

現代社会においてメディアはとても重要な役割を果たしている。そのメディア環境が急速に変わりつつある現在こそ、メディアと社会、メディアと文化、メディアと人間の関係を充分に解明していくことが大切になっている。本専攻では、この今日的で基本的な課題の多角的かつ本質的な理解をめざし、マス・コミュニケーション理論、メディア史、情報法、国際ジャーナリズム等を扱うジャーナリズム系科目と、広告、音楽、スポーツ、ジェンダー、文化表象などを網羅したメディア文化系科目を配置している。また、個々の研究能力を高めるための演習科目や、調査・制作を学ぶ実習科目を設置し、「学の実化」をめざしている。

研究成果の発表と修了後の進路

大学院生独自の研究を機関誌『人間科学』で発表するとともに、指導教員との共同研究を『社会学部紀要』で発表することも多い。また、専門の学会等において研究発表や論文投稿を積極的に行っている。そうした専門的成果を踏まえて、研究科修了者は、大学・研究所の研究職、学校教員や国家・地方公務員をはじめ、最近では民間企業への就職者も増えて、その進路は多岐にわたっている。

博士課程前期課程における研究テーマ（修士論文論題）の例示

社会学専攻

- 介護老人保健施設における支援相談員の行う在宅復帰支援
- 日本における中国人若年世代の労働実態調査　―留学生アルバイトと技能実習生を中心に―

社会システムデザイン専攻

- 社会経済的観点からみる中国の若い世代（「80後」）と日本のポップカルチャー
- 韓国における女性の経歴断絶とワーク・ライフ・バランス
- 日中企業における賃金管理の比較分析　―職能給・職務給を中心に―

メディア専攻

- UGCプラットフォーム上のプロモーション活動　―「小紅書RED」の素人ブロガーを中心に
- 現代中国における異性装インフルエンサーの変容　―受容者へのインタビュー調査を通じて―
- 中国人観光客の北海道イメージの構築と変遷

❖演習担当者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶研究テーマ　❷研究分野　❸研究業績　❹E-mail

社会学専攻

宇城　輝人　教授
❶現代社会論（博士課程前期課程・後期課程）
❷現代社会における「社会的なもの」の変容を以下の３点を中心に研究している。(1)労働という観念と制度の変容、(2)グローバリゼーションのもとでのレイシズムの勃興、(3)消費社会の進展と個人生活の変容。
❸共編著『社会的なもののために』ナカニシヤ出版、2013年
　共著『フラット・カルチャー　――現代日本の社会学』せりか書房、2010年
❹ushiro@kansai-u.ac.jp

内田　龍史　教授／博士（文学）大阪市立大
❶差別論（博士課程前期課程）
❷部落差別問題、マジョリティ-マイノリティ間の集団関係、災害研究。
❸『現代の部落問題』（共編著、解放出版社、2022年）
　『被差別部落マイノリティのアイデンティティと社会関係』（単著、解放出版社、2020年）
　『差別とアイデンティティ』（共編著、阿吽社、2013年）
❹r_uchida@kansai-u.ac.jp

酒井　千絵　教授／博士（学術）東京大
❶国際社会学（博士課程前期課程・後期課程）
❷日本人の海外移住や日本社会のグローバル化・反グローバル化の動きなど日本に関わる事例を中心に、国境を越える人やモノ、文化の移動について研究している。
❸"Unintentional Cross-cultural Families: The Diverse Community of Japanese Wives in Shanghai", 単著、Sari K. Ishii ed., Marriage Migration in Asia: Emerging Minorities at the Frontiers of Nation-States, 2016年, NUS Press (Pte) Ltd.
　「グローバル化するジェンダー関係　―日本の「アジア就職ブーム」と女性の国際移動から」 単著　落合恵美子・橋木俊詔編著『変革の鍵としてのジェンダー：歴史・政策・運動』ミネルヴァ書房、2015年、286-308頁
❹csakai@kansai-u.ac.jp

大門　信也　教授
❶環境社会学（博士課程前期課程）
❷環境社会学、サウンドスケープ論。
❸「遠州灘の海鳴り／波小僧伝承と前浜の記憶――風景を〈語り継ぐ道〉のための一試論」（『関西大学社会学部紀要』第53巻２号、2022年）
　「環境社会学は東日本大震災に対していかにして応答してきたか――〈補い〉と〈償い〉をめぐる複合的な研究戦略（『環境社会学研究』第27号、2021年）
　「「問うこと」から「応答すること」へ――労働運動はいかにして合成洗剤問題に関与したか」（『労働者と公害・環境問題』法政大学出版局、2021年）
　「正連動をともなう介入の進化と「第三のシステム」――騒音問題と再生可能エネルギー問題の分析にもとづいて」（『環境問題の社会学：環境制御システム論の理論と応用』東信堂、2020年）
❹dai-shin@rc.catv.ne.jp

土屋　敦　教授／博士（社会学）東京大
❶社会福祉学（博士課程前期課程・後期課程）
❷特に、児童養護施設などの子どもの社会的養護の歴史社会学、およびフィールド研究を専門にしている。
❸『「戦争孤児」を生きる：ライフストーリー/沈黙/語りの歴史社会学』（単著、青弓社、2021年）
　『孤児と救済のエポック：子ども・家族規範の多層性』（共著）勁草書房、2019年
　『はじき出された子どもたち：社会的養護と「家庭」概念の歴史社会学』（単著）勁草書房、2014年
❹a_tsuchi@kansai-u.ac.jp

永井　良和　教授
❶都市社会学（博士課程前期課程・後期課程）
❷近代以降の都市社会の調査および分析。おもに風俗統制の社会史を具体的事例をとりあげて再構成する作業に従事。
❸『占領期生活世相誌資料Ⅰ　敗戦と暮らし』新曜社、2014年
　『スパイ・爆撃・監視カメラ』河出書房新社、2011年
❹ynagai@kansai-u.ac.jp

間淵　領吾　教授
❶社会調査論（博士課程前期課程）
❷日本人の意見の多様性を大規模世論調査データの計量分析によって国際比較・時系列比較している。
❸「日本人の意見の多様性―1980年以前の国際共同世論調査データの２次分析」『社会と調査』15巻：74-85頁、社会調査協会、2015年
　共編著、『社会の見方、測り方：計量社会学への招待』、勁草書房、2006年
　「二次分析による日本人同質論の検証」『理論と方法』17巻１号：3-21頁、数理社会学会、2002年
❹mabuchi@kansai-u.ac.jp

保田　時男　教授
❶社会学方法論（博士課程前期課程・後期課程）
❷社会調査の調査方法、分析方法について方法論的な研究を行うとともに、成人親子関係を中心に現代家族の計量的研究を行っている。
❸共編『日本の家族 1999-2009：全国家族調査［NFRJ］による計量社会学』東京大学出版会、2016年
　共編『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版、2016年
❹tyasuda@zf7.so-net.ne.jp

社会学専攻

大和　礼子　教授／博士（人間科学）大阪大

❶家族社会学（博士課程前期課程・後期課程）
❷現在の関心は「成人子と親の世代関係」である。時代的にどう変化したか、規範・経済・制度的要因によってどう異なるかを、国際比較も含めて研究している。
❸『オトナ親子の同居・近居・援助』学文社、2017年
『問いからはじめる家族社会学』（共著）有斐閣、2015年
『生涯ケアラーの誕生』学文社、2008年
❹ryamato@kansai-u.ac.jp

吉岡　洋子　教授／博士（人間科学）大阪大

❶地域福祉論（博士課程前期課程）
❷地域福祉論、社会福祉学、北欧社会研究。
❸「子ども―権利保障をベースとした子どもと家庭への包括的支援―」（共著、『新 世界の社会福祉 第3巻北欧』旬報社 '19）
「スウェーデンと日本の介護労働者の実像」（共著、『市場化のなかの北欧諸国と日本の介護―その変容と多様性』大阪大学出版会 '18）
「社会と関わる-NPO論」（共著、『スウェーデン 自律社会を生きる人びと』早稲田大学出版部 '06）
❹yoshioka@kansai-u.ac.jp

社会システムデザイン専攻

上野　恭裕　教授／博士（経営学）神戸大

❶経営管理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷企業の多角化戦略と組織構造の実証研究。伝統産業の事業システムにも関心を持っている。
❸「伝統的事業システムの競争優位性と課題―堺・関・燕の刃物産業の比較より―」（共著）長崎国際大学論叢、第13巻、2013年、31-43頁
「企業の組織構造と管理システムの日英比較」『組織科学』第47巻第2号、2013年、15-26頁
『戦略本社のマネジメント―多角化戦略と組織構造の再検討―』白桃書房、2011年
❹yueno@kansai-u.ac.jp

崔　宇　教授

❶情報管理論研究（博士課程前期課程）、産業情報システム論研究（博士課程後期課程）
❷経営情報システム、オペレーションズ・マネジメント。
❸Cui, Yu and Singh, Prakash (2023), Renewable Energy Industry Adapting Blockchain Technology: Insights from Australia, The Journal of Australian and Asian Studies, Vol.7, pp.23-33.
崔　宇（2022）、ブロックチェーンの再考―暗号化通貨からスマートコントラクトの応用へ、オペレーションズ・マネジメント＆ストラテジー学会論文誌、Vol.12、No.1、pp.54-82
❹yucui@kansai-u.ac.jp

舟場　拓司　教授

❶人的資源論研究（博士課程前期課程）
❷労働経済学　人的資本（スキルや知識の蓄積）をキーとして、大学教育投資や賃金・雇用を分析する。
❸「雇用、失業、および未充足求人の変化」『関西大学社会学部紀要』第38巻第２号、2007年、95-120頁
「技能の外部性に関する考察」『関西大学社会学部紀要』第36巻第３号、2005年、167-173頁
❹funaba@kansai-u.ac.jp

小川　一仁　教授／博士（経済学）京都大

❶経済政策論研究（博士課程前期課程）、経済政策システム論研究（博士課程後期課程）
❷実験経済学。利他性や協力行動の分析。
❸Inaba, M., Kawamura, T., & Ogawa, K. (2024). The effect of commitment in the public goods game with endogenous institution formation. Annals of Public and Cooperative Economics, 95, 67-83.
Tetsuya Kawamura, Yuhsuke Koyama, Tomoharu Mori, Taizo Motonishi & Kazuhito Ogawa (2023) Loot box gambling and economic preferences: a survey analysis of Japanese adolescents and young adults, Applied Economics, 55:44, 5213-5229.
Tetsuya Kawamura, Tomoharu Mori, Taizo Motonishi and Kazuhito Ogawa, "Positive versus Negative Graphics for Increasing Attendance in a Cardiovascular Disease Prevention Program: A Randomized Controlled Trial", Journal of Behavioral Economics and Finance (行動経済学), 2022 VOl. 15 p. 22-30.
❹kz-ogawa@kansai-u.ac.jp

木村　匡子　准教授／博士（経済学）京都大

❶公共システム論研究（博士課程前期課程）
❷人々の出生・教育・就業行動が経済環境や公共政策とどのように関連しているかについて経済学的に研究している。
❸"The Galor-Weil gender-gap model revisited: from home to market" J. Econ. Growth 15, 323-351, 2010 (with D. Yasui).
"Public provision of private child goods" J. Public Econ. 93, 741-751, 2009 (with D. Yasui).
❹mkimura@kansai-u.ac.jp

杉本　舞　教授／博士（文学）京都大

❶科学技術社会論研究（博士課程前期課程）
❷科学史・技術史。特に情報技術、コンピュータ開発、計算機科学分野の歴史を研究している。
❸"It Became All Right to Teach History of Science": History of Science Education and the Introduction of General Education in Postwar Japan," *Historia Scientiarum*, The International Journal of the History of Science Society in Japan, Vol.31, No.3 (No.135), pp.208-223, March 2022.
『コンピューティング史――人間は情報をいかに取り扱ってきたか』監訳・共訳　共立出版、2021年
『「人工知能」前夜――コンピュータと脳は似ているか』青土社、2018年
❹msgmt@kansai-u.ac.jp

森田　雅也　教授／博士（経営学）神戸大

❶人的資源管理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷仕事における自律性のあり方の追究。特に、チーム作業方式、裁量労働制、ワーク・ライフ・バランスを最近の研究対象としている。
❸『経験から学ぶ人的資源管理（新版）』有斐閣、2018年
『チーム作業方式の展開』有斐閣、2008年
❹morita@kansai-u.ac.jp

与謝野　有紀　教授

❶計量社会学研究（博士課程前期課程）
❷不平等と社会関係資本の連関構造が、自殺等の社会病理現象とどのように関係しているかを数理、統計的に検討している。
❸「格差、信頼とライフチャンス―日本の自殺率をめぐって」齋藤友里子・三隅一人編『現代の社会階層３』東京大学出版会、2011年、293-307頁
❹yosanoa@kansai-u.ac.jp

安田　雪　教授／Ph. D.（社会学）コロンビア大

❶社会ネットワーク論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷社会学・組織論。社会を構成する要素間のつながりとその影響力を研究する、社会ネットワーク分析。
❸『白ひげとルフィ』アスコム、2012年
『パーソナルネットワーク』新曜社、2011年
『ルフィの仲間力』アスコム、2011年
『Pajekによる社会ネットワーク分析』東京電機大学出版局、2009年
『ネットワーク分析』新曜社、1997年
❹yyasuda@kansai-u.ac.jp

草郷　孝好　教授／Ph. D.（開発学）ウィスコンシン大学マディソン校

❶人間開発論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷潜在能力アプローチ、内発的発展論、社会的共通資本論に基づくウェルビーイングの高い地域発展に関する理論の構築とアクション・リサーチ。
❸草郷孝好（単著）2022『ウェルビーイングな社会をつくる』明石書店
Kusago, T. 2019 "Post-disaster Community Recovery and Community-Based Collaborative Action Research," Lechevalier, S. (Ed.) Innovation Beyond Technology: Science for Society and Interdisciplinary Approaches, Springer. pp.195-221.
草郷孝好（編著）2018『市民自治の育て方～協働型アクションリサーチの理論と実践』関西大学出版部
❹tkusago@kansai-u.ac.jp

橋本　理　教授／博士（経営学）大阪市立大

❶企業システム論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷企業形態論・非営利組織論。社会サービス（社会福祉や就労支援など）や公的サービスを供給するNPO・協同組合・社会的企業などについて、企業形態論の観点から研究している。
❸『非営利組織研究の基本視角』法律文化社、2013年
『新しい仕事づくりと地域再生』（共編著）文理閣、2006年
❹ha@kansai-u.ac.jp

メディア専攻

松下　慶太　教授／博士（文学）京都大

❶インターネット・コミュニケーション研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷メディア-テクノロジーがリアルな経験（働き方、観光、食など）に与える影響や新しいあり方について。
❸『ワーケーション企画入門』（学芸出版社、2022年）
『モバイルメディア時代の働き方』（勁草書房、2019年）
❹keita-m@kansai-u.ac.jp

松山　秀明　准教授／博士（学際情報学）東京大

❶放送メディア研究（博士課程前期課程）
❷放送（ラジオ・テレビ）の文化や歴史に関する研究。
❸『テレビ越しの東京史――戦後首都の遠視法』青土社、2019年
『新放送論』（共著）、学文社、2018年
❹hmatsu@kansai-u.ac.jp

三浦　文夫　教授／博士（政策・メディア）慶應義塾大

❶メディア産業研究（博士課程前期課程）
❷クリエーティブ、ポリシー（著作権など）、ビジネスモデル、テクノロジーという４つの視点によるメディア産業（特に音楽とラジオ）研究。
❸『少女時代と日本の音楽生態系』日本経済新聞出版社、2012年
『デジタルコンテンツ革命』日本経済新聞社、1997年
『インターネット世界への扉』マガジンハウス、1996年
❹fmiura@kansai-u.ac.jp

水越　伸　教授

❶メディア技術研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷メディア理論の系譜学。ロボット、AIのメディア・リテラシー。市民参加型メディアのデザインと実践。
❸『メディア教育宣言：デジタル社会をどう生きるか』（監訳：世界思想社、2023年）
『メディアの生成：アメリカ・ラジオの動態史』（筑摩書房、2023年/原著 1993年）
『新版　メディア論』（共著：放送大学教育振興会、2022年）
❹shinm@kansai-u.ac.jp

水谷　瑛嗣郎　准教授／博士（法学）慶應義塾大

❶情報メディア法研究（博士課程前期課程）
❷AI、オンライン・プラットフォーム、関心経済等を見据えた「報道の自由」及び「表現の自由」についての研究。
❸「放送法制から見たデジタル情報空間」（単著、ジュリスト1574号38-47頁、2022年）
「オンライン・プラットフォームの統治論を目指して：デジタル表現環境における『新たな統治者』の登場」（単著、判例時報2487号110-117頁、2021年）
「思想の自由「市場」と国家：表現の自由の「環境」構築を考える」（単著、法律時報92巻9号30-37頁、2020年）
『AIと憲法』（共著、日本経済新聞出版、2018年）
❹hatitaro@kansai-u.ac.jp

溝口　佑爾　准教授／博士（人間・環境学）京都大

❶メディア研究法（博士課程前期課程）
❷2011年東日本大震災で発生した「被災写真」を中心に、社会調査法と写真論を横断する研究を行っている。
❸『「災害アーカイブ」とはなにか』『復興』第21号、2018年、25-35頁
"From Information Volunteering to Memory Salvaging: Aid Efforts in Response to the "Unexpected,"" Sociology in the Post-Disaster Society, 65-79, 2014
❹y.mizo@kansai-u.ac.jp

村田　麻里子　教授／博士（学際情報学）東京大

❶メディア表象研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷ミュージアムを「空間メディア」として考える研究をメインとしつつ、近代社会における文化装置・表象装置の有り様に関心を寄せる。
❸『岩波講座　社会学（文化・メディア）』（共著、岩波書店、2023年）
『多様性との対話』（共著、青弓社、2021）
『思想としてのミュージアム―ものと空間のメディア論』（人文書院、2014年）
❹mmurata@kansai-u.ac.jp

守　如子　教授／博士（社会科学）お茶の水女子大

❶ジェンダー・メディア研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷マンガや雑誌などのメディアにおける性表現に関するジェンダー研究。
❸「性表現の自由と「女性」」落合恵美子他編『変革の鍵としてのジェンダー』ミネルヴァ書房、2015年
『女はポルノを読む：女性の性欲とフェミニズム』青弓社ライブラリー、2010年
❹nmori@kansai-u.ac.jp

吉岡　至　教授

❶マス・コミュニケーション理論研究（博士課程前期課程・後期課程）
❷ニュース研究や世論研究を軸にマスメディアの役割や政治コミュニケーションの問題を扱っている。
❸「日本の政策過程におけるマスメディアの位置づけ」（『政策形成における価値の生成と変容』関西大学法学研究所 研究叢書 第42冊 2010年）
「テレビ・ジャーナリズムの「受け手」像を探る」（小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどうみられてきたのか』せりか書房2003年）
❹yoshi@kansai-u.ac.jp

劉　雪雁　教授

❶国際メディア研究（博士課程前期課程）
❷中華圏におけるメディア利用と社会・文化の変容、その特徴と課題を中心に研究している。
❸『新版 メディア論』（共著 放送大学教育振興会 2022年）
『セカンドオフラインの世界』（共著 恒星社厚生閣 2022年）
❹xyliu@kansai-u.ac.jp

Graduate School of Informatics

総合情報学研究科

高槻キャンパス
総合情報学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_inf/gs/

博士課程前期課程
社会情報学専攻（入学定員 15名）
知識情報学専攻（入学定員 35名）

博士課程後期課程
総合情報学専攻（入学定員 8名）

情報スペシャリストの養成を目標に、社会人の受け入れ体制も整備

特色

博士課程前期課程

総合情報学研究科は「社会情報学専攻」と「知識情報学専攻」の２専攻で構成されている。本研究科の特徴の第一は、単なる研究者養成ではなく「高度な専門知識を有する職業人（情報スペシャリスト）」の養成を目的としていること、第二は、独創的なカリキュラムで、「課題研究（プロジェクト）科目」を中心として編成されており、情報化の進展に伴って重要性を増している社会的な課題や先端技術の課題などを採り上げ、教員の指導のもと、学生が共同研究を進めていることである。課題研究の研究分野は固定的であるが、プロジェクトは研究の発展や社会的変化に対応して変わっていく。「総合情報学研究科」は関西大学の学是である「学の実化」に基づいて、情報社会において社会の各分野で指導的な役割を担う人材を養成するために構想した画期的な大学院である。

課題研究（プロジェクト）

「課題研究科目」は、学生が企業や行政機関などの政策・立案に役立つ現実的な課題や情報通信技術の諸課題に問題意識をもって参加する共同研究科目であり、博士課程前期課程教育の中心となるものである。両専攻とも各４分野の固定された研究分野があるが、各研究分野の「課題研究科目」は３～４年毎に社会状況等の変化に対応して設定される。「課題研究科目」では、学生は指導教員のもと各自明確な役割分担をもって参加し、その成果を修士論文にまとめることになる。

博士課程後期課程

情報学分野の学問や科学技術の急激な発展とともに、情報社会は、めまぐるしく進展している。この変革の時代、新しい社会環境、特に、新しい情報環境の創生に向けてパイオニアとして新しい分野を切り拓く人材が求められている。そこで、博士課程後期課程では、急激に発展拡大しつつある情報分野における未踏の領域に挑戦する人材「情報パイオニア」を養成する。これからの情報学におけるパイオニア的な研究は既存の枠にとらわれるべきではない。文系や理系というように分野を限らず、両分野にまたがる新しい領域を切り拓き、パイオニア的な研究成果を創生させる必要がある。そのためには博士課程後期課程では、文理総合の１専攻を設置し、①高度情報システム②応用ソフトコンピューティング③認知情報処理④意思決定システム⑤マルチモーダルコミュニケーションの５つの研究領域を中心に教育・研究を行う。これらの体系により、新しい情報環境の創生を可能とする人材を育成し、毎年２～５名の課程博士号取得者を輩出している。修了者は、企業の研究開発や大学教育において活躍していて、情報社会の発展に大きく貢献・寄与している。

博士課程前期課程

社会情報学専攻

社会情報学は、情報メディア・システムおよびそれらの発展と社会、経済・経営、法・政治・行政、人間行動の変化との関係を広く学際的に研究する学問分野である。マルチメディアの展開とインターネット利用の拡大に伴う高度情報化の進展によって、社会情報学の重要性は一層高まっているが、社会情報学の学問領域は大変広い範囲にわたっている。本専攻では、特に、①教育における情報メディア利用②情報社会とメディア③産業情報システム④公共領域における情報の４分野の課題研究を中心に教育を行うこととし、高度情報社会における望ましい情報メディア環境と社会・経済・経営、法・政治等のシステムの構築をめざす問題解決的、実践的教育を行い、社会の各分野で指導的な役割を果たす「情報スペシャリスト」の育成を図る。修了後の進路は、①官公庁・企業内教育の担当者②行政機関・団体・企業において地域・全国の国際関係の情報化に係わって政策の企画・立案、ソフト制作、情報発信の従事者や電気通信事業者、情報メディア、ソフトプロダクションおよびシンクタンク等の社員③事業家・起業家、企業の企画・財務・経理・知的財産・法務・情報管理・マーケティング等の部門の専門家④その他公務員における情報サービス・法曹・企画・財政・広報・国際等の広範囲な分野で活躍している。

❖2025年度　課題研究科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶専門領域　❷E-mail

教育における情報メディア利用

情報通信技術（ICT）と新しい教育

情報通信技術（ICT）の急速な発展により、Society 5.0と呼ばれる社会が実現しようとしている。その中で、コミュニケーションの仕方や意味が大きく変わり、学習についての捉え方や、学習を支える環境も変革しつつある。これらをふまえて、これからの教育・コミュニケーションのあり方やシステムについて実証的に調査・研究を行う。
1．ICTを基盤とする学習のカリキュラム開発と評価に関する調査・研究
2．グローバル社会におけるコミュニケーション方略と教育に関する調査・研究
3．学習の意味やメカニズムの変化、学習をうながすシステムについての調査・研究

黒上　晴夫	❶教育工学　❷kurokami@kansai-u.ac.jp
小柳　和喜雄	❶教育方法学　❷oyanagi@kansai-u.ac.jp
川島　裕子	❶コミュニケーション学　❷y_kawa@kansai-u.ac.jp

情報社会とメディア

情報メディアの変容とコミュニケーション

情報メディアの高度化はコミュニケーションや文化のグローバル化をもたらしただけでなく、産業・経済・生活などあらゆる面で大きな変化をうながしている。本プロジェクトでは新たなメディアやコミュニケーション文化の形成の兆しを視野におさめつつ、社会学的観点から以下のような調査・研究を行う。
1．情報メディア産業の新しい展開。2．文化、コミュニケーションあるいは社会的行為の様式の変容。3．メディア・イノヴェーションの現代史的考察。

岡田　朋之	❶メディア論、文化社会学　❷okada@kansai-u.ac.jp
谷本　奈穂	❶文化社会学　❷tanimoto@kansai-u.ac.jp
阪口　祐介	❶計量社会学　❷yusuke@kansai-u.ac.jp

情報行動に関する心理学的モデルの構築

我々は社会のなかでさまざまな情報に囲まれて生活している。本プロジェクトにおいては、情報と人間の心理との関係性に焦点を当て、人が社会のなかでいかなる情報を求めているのか、そして、人はその情報をいかに理解しているのか、また、人は情報を受けとめたことによってどのような影響を受けるのか、さらには、人は他者といかに情報をやりとりしているのかといった問題をとりあげ心理学的な視点から研究を進めていく。
1．社会的認知に関する心理学的研究。2．社会的影響に関する心理学的研究。3．自己認知に関する心理学的研究。4．対人的コミュニケーションに関する心理学的研究。

森尾　博昭	❶社会心理学　❷hmorio@kansai-u.ac.jp
古谷　嘉一郎	❶社会心理学　❷kaichiro@kansai-u.ac.jp
西田　晃一	❶心理学　❷knishida@kansai-u.ac.jp

産業情報システム

価値創出と協創ネットワークの形成

経済のグローバル化の進展に伴い、経済活動では各国間の相互連動・依存の度合いが益々深まっており、また、ICTの進化とその利活用は企業の事業展開のあり方を根本的に変化させている。本プロジェクトにおいては、新しい価値・事業の創出や産業の高度化を実現するために、経営情報システム論、ネットワーク経営の角度から、ゼロサムを招く「競争」から脱却し、企業や国の壁を越えて情報・知識・技術による「協創ネットワーク」の形成とそのメカニズムに焦点を当て調査・研究を展開する。

施　　學昌	❶経営情報システム論　❷shi@res.kutc.kansai-u.ac.jp

デジタル社会における価値創造

今日、デジタル化・グローバル化・エコロジカル化などの環境変化や社会構造の変化に直面する現代企業は、データとデジタル技術を活用した組織変革が求められている。本課題研究では、このような変革を「価値創造活動の再編成」として捉え、それを実現していく上での課題を明らかにしていく。このとき、持続的な企業価値向上に資する経営学のさまざまな研究分野をクロスオーバーさせることで、デジタル社会における価値創造の課題を検討していく。

伊佐田　文彦	❶経営学　❷isada@kansai-u.ac.jp
古賀　広志	❶経営情報システム論　❷hiroshi@kansai-u.ac.jp
齋藤　雅子	❶財務会計、企業会計　❷msaito@kansai-u.ac.jp
徳山　美津恵	❶マーケティング　❷toku_san@kansai-u.ac.jp
松本　渉	❶社会調査、組織論　❷matsumo@kansai-u.ac.jp
羽藤　雅彦	❶消費者行動論、ブランド論　❷hato@kansai-u.ac.jp
中尾　悠利子	❶社会環境会計、サステナビリティ経営　❷y-nakao@kansai-u.ac.jp

❶専門領域　❷E-mail

公共領域における情報

公共領域におけるデータベース

公共的な問題を解決するためには、正確に現状を把握し、適切な方法によって原因を解明することが緊要である。
そこで、本研究課題では、政府統計・社会調査データや、白書・法令等の文書情報を活用し、統計分析・シミュレーション・数理分析・質的分析など多様な分析メソッドにより、実態を解明していくことを第一の目的とする。また、散在したり、汎用性が低かったりするデータを収集・加工し、データベースに格納する方法を検討し、実装することを第二の目的とし、これらの目的に沿いながら、社会的諸課題について考えを深めていく。

泉　克幸	❶知的財産法特論　❷izumi@kansai-u.ac.jp
伊藤　俊秀	❶応用地質学　❷toshi@kansai-u.ac.jp
地主　敏樹	❶金融政策　❷jinushi@kansai-u.ac.jp
名取　良太	❶現代政治分析　❷t000033@kansai-u.ac.jp
大堀　秀一	❶環境経済学　❷ohori@kansai-u.ac.jp
太田　勝憲	❶ミクロ経済学、ゲーム理論　❷ohta@kansai-u.ac.jp
中元　康裕	❶マクロ経済学　❷nakamoto@kansai-u.ac.jp
宋　財泫	❶政治学方法論　❷song@kansai-u.ac.jp
池田　峻	❶行政学　❷s_ikeda@kansai-u.ac.jp
福島　力洋	❶憲法、情報法　❷fukusima@kansai-u.ac.jp

知識情報学専攻

知識情報学は、知識情報の先端的理論と技術について学び、情報処理システムの創造的かつ高度な利用を可能とする、新しい情報環境と社会システムの構築に寄与することを課題とする。

本専攻では、特に、「人間の知」、「機械の知」、「社会の知」という視点を重視し、「情報の生成」という観点からアプローチしているのが特徴である。課題研究分野は、①ヒューマンコンピュータインタラクション②インテリジェントコンピューティング③コンピューティングアルゴリズム④分散コンピューティングの４分野を設定している。すなわち、人間の情報処理という自然知能の生成機構に学び、人間との親和性に優れた機械知能の生成アルゴリズムを構築し、社会環境における知的な分散協調作業を支援する情報処理環境の生成への展開をめざす。本専攻の学生には、課題研究間で相互に活発な交流を行わせ、先端的な技術のうえに幅広い視点をもった「技術系情報スペシャリスト」の養成を行う。

修了後の進路は、民間企業や官公庁における①業務に最適なネットワークを含めた情報処理システムの構築、改善の立案と実現、工程管理および情報処理システム全体の運用管理②オペレーティング・システムを始めとするシステム・プログラム、知識情報処理やコンピュータ・グラフィックスの活用を含むさまざまな応用プログラムなどソフトウェアの開発および種々のデータベースを中心とする情報システムの設計と構築③基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、データベース、知識情報処理など情報処理システムのさまざまな分野における研究・開発④ネットワークを含む情報処理システムの構築・運用や適切な利用に関するコンサルティングあるいは教育などを取り扱う部門で活躍している。

❖ 2025年度　課題研究科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶専門領域　❷E-mail

ヒューマンコンピュータインタラクション

人間共生社会におけるインタラクションの学際的分析と構築

本研究課題では、人間とコンピュータ（あるいはコンピューティングシステム）とのインタラクションについて、認知心理学実験や哲学的・歴史的検討を通じて多角的に基礎研究を行うとともに、実践的なシステム構築を通じて人間とシステム、あるいは人間同士のインタラクションやコミュニケーションのあり方について、メディア科学の立場から理論的研究を行う。これらの研究を通して、社会におけるコンピューティングシステムのありようについて、技術の標準化や倫理観の確立といった文化的側面から検討し、実装につなげるための基礎理論の構築をめざす。

研谷　紀夫	❶文化資源情報学　❷ntogiya@kansai-u.ac.jp
米澤　朋子	❶コミュニケーションメディア科学 ❷yone@kansai-u.ac.jp
植原　亮	❶哲学・科学倫理学　❷uehara@kansai-u.ac.jp
瀬島　吉裕	❶感性ロボティクス　❷sejima@kansai-u.ac.jp
佐々木恭志郎	❶認知心理学　❷k-ssk@kansai-u.ac.jp

インタラクションデザインの理論と実践

本課題研究では、人間とコンピュータとのインタラクション、およびコンピュータを介した人間同士のインタラクションを対象として、知識情報処理の観点からその円滑化と高度化に取り組む。この目標を達成するために、ソフトウェア技術、実世界指向技術、人間中心設計方法論を基盤とする理論構築とその応用・実践を進めていく。個々の学生は、人間の情報処理特性のモデル化、システムやユーザ経験のデザインと評価、いずれかを主なテーマとしつつプロジェクト全体への貢献が求められる。

堀　雅洋	❶ユーザ中心デザイン　❷horim@kansai-u.ac.jp
松下　光範	❶インタラクティブシステムデザイン ❷m_mat@kansai-u.ac.jp
林　貴宏	❶マルチメディアコンピューティング ❷t.haya@kansai-u.ac.jp
山西　良典	❶文化芸術計算機科学　❷ryama@kansai-u.ac.jp

デジタルメディア技術とアートによる情報表現

本研究課題は、情報コンテンツにおけるよりよい情報表現の方法を明らかにすることを目的としている。情報の可視化、可聴化、映像やメディアアート作品の制作などデジタルメディア技術とアートによる情報コンテンツの構築および評価を通して、受け手の直感・イメージ・感性などの主観的な情報処理メカニズムの把握と活用方法を明らかにし、それに基づく最適な情報表現について模索する。関連するトピックには、視聴覚情報処理、音楽・映像理論、インスタレーション、ヒューマンコンピュータインタラクション、プロジェクションマッピング、バーチャルリアリティなどが含まれる。

林　武文	❶ヒューマンインタフェース　❷haya@kansai-u.ac.jp
井浦　崇	❶メディア・アート　❷iura@kansai-u.ac.jp
長谷　海平	❶映像メディア学　❷hase@kansai-u.ac.jp

❶専門領域　❷E-mail

インテリジェントコンピューティング

インテリジェントコンピューティングの応用

本研究課題では、インテリジェントコンピューティングの重要な部分を占めるソフトコンピューティングとして、人工知能、機械学習、ニューラルネットワーク、データサイエンス、数理モデルとそのシミュレーション等の基礎理論を習得し、制御、スケジューリング、テキストマイニング、渋滞緩和、経路設定、錯視作品創作、生物情報解析に対する実用システムの開発を試みる。さらに、GIS、GPSに基づくヒト・モノ・コトの計測処理、特にスポーツ情報処理、及び自然科学分野へのインテリジェントコンピューティングの応用についても研究する。

竹中　要一	❶データサイエンス、生物情報学 ❷takenaka@kansai-u.ac.jp
田中　成典	❶知識情報処理　❷stanaka@kansai-u.ac.jp
友枝　明保	❶渋滞学、計算錯覚学　❷tomoeda@kansai-u.ac.jp

スマートシステムデザインの数理と応用

インテリジェントコンピューティング技術を基盤として、快適・安全・安心な「スマート社会」を実現するシステムデザインの理論と応用に関する研究を行う。研究対象には、快適さ・楽しさ・しなやかさ・効率性等を高い水準で実現する知的情報処理のためのソフトコンピューティングモデルやAIモデル、システムの信頼性や安全性を評価するための確率・統計モデル、解析系の数学に基づく数理モデル、および、これらの実践的応用が含まれる。具体的には、さまざまなセンシングデータから知的な振舞いを生成するための認識・判断・学習・推論プロセスの計算モデル、人の作業を知的に支援する情報デザイン、品質に根ざしたシステム評価、数値シミュレーションや最適化等が研究テーマとして挙げられる。

広兼　道幸	❶応用情報学　❷hirokane@kansai-u.ac.jp
林　勲	❶脳知能情報学　❷ihaya@kansai-u.ac.jp
井上　真二	❶ソフトウェア品質／信頼性　❷ino@kansai-u.ac.jp
奈良　光紀	❶偏微分方程式、非線形解析　❷nara@kansai-u.ac.jp
堀口　由貴男	❶知能情報システム　❷yhorig@kansai-u.ac.jp

社会を変えるモバイルロボティクス

本課題研究では、ロボット技術とモバイルネットワーク技術とを有機的に連携させて、能力強化、並列分散操作、体験共有など、ロボットの自律動作と遠隔操作を組み合わせた新たな価値を創造し、実用可能なモバイルロボットプラットフォームの研究を行う。また、ものづくり・医療分野、サービス分野、防犯・災害対策分野などにおいてモバイルロボットの社会実装を目指し、そこで生じる問題について技術・認知・倫理・経済などの観点から多面的に分析を行う。

田頭　茂明	❶モバイルコンピューティング　❷shige@kansai-u.ac.jp
荻野　正樹	❶認知ロボティクス　❷ogino@kansai-u.ac.jp

コンピューティングアルゴリズム

意思決定支援のためのコンピューティング技法

コンピュータを用いて意思決定を支援するためには、人間的要素を考慮した計算機の活用方法を考案する必要がある。例えば、人間の知覚能力や特性を考慮した、選択肢の提示やユーザーインターフェイスなどである。本プロジェクトでは、人間的要素を考慮したコンピューティング技法の開発に取り組む。具体的には、色彩や図形の認知の問題を通じて人間の知覚能力を考慮した速やかな理解を支援する方法などの研究を行う。

浅野　晃	❶画像科学、視覚感性科学　❷a.asano@kansai-u.ac.jp

分散コンピューティング

通信ネットワーク技術の多元的な研究展開

コンピュータ、携帯型無線端末、センサー等の多種多様なデバイスが接続されたネットワークにより、我々の生活は、その進展とともに大きく変貌を遂げようとしている。本課題研究では、アプリケーション層から物理層までの様々な観点から通信ネットワーク技術の研究開発を行い、より快適な生活の実現に貢献することを目的とする。具体的な研究内容としては、生体における信号処理システムの工学的視点からの解明、代数曲線に関する基礎研究とその暗号・符号理論への応用、量子アルゴリズムを用いた暗号技術の研究開発、数理的手法（最適化、ゲーム理論、機械学習など）に基づく高度情報ネットワーキング、情報ネットワークにおけるセキュリティ問題を解決するシステム開発を行う。

堀井　康史	❶無線情報通信　❷horii@kansai-u.ac.jp
今野　一宏	❶代数幾何学　❷k.konno@kansai-u.ac.jp
桑門　秀典	❶暗号理論　❷kuwakado@kansai-u.ac.jp
笹部　昌弘	❶情報ネットワーク　❷sasabe@kansai-u.ac.jp
小林　孝史	❶情報工学　❷taka-k@kansai-u.ac.jp

博士課程後期課程

❖ 2025年度　研究領域別授業科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

★高度情報システム		
無線情報通信のためのマイクロ波デバイス特殊研究		●堀井康史
情報セキュリティ技術とその安全性評価特殊研究		●桑門秀典
モバイル情報通信システム特殊研究		●田頭茂明
高度情報ネットワーキング特殊研究		笹部昌弘
★応用ソフトコンピューティング		
脳知能情報システム特殊研究		●林　勲
ソフトコンピューティングの実践的応用特殊研究		●田中成典
ソフトコンピューティングの視覚情報処理特殊研究		●浅野　晃
ソフトコンピューティングのセンシング応用特殊研究		●広兼道幸
ソフトコンピューティングの地球科学的応用特殊研究		●伊藤俊秀
現象数理学特殊研究		●友枝明保
医学生物学情報解析特殊研究		●竹中要一
信頼性・保全性数理特殊研究		井上真二
非線形解析学特殊研究		奈良光紀
知的システムデザイン特殊研究		堀口由貴男
★認知情報処理		
ユーザ中心デザイン特殊研究		●堀　雅洋
視覚認知情報処理モデル特殊研究		●林　武文
インタラクションデザイン特殊研究		●松下光範
視覚資料論特殊研究		●研谷紀夫
人間情報科学特殊研究		●林　貴宏
仮想コミュニケーションメディア科学特殊研究		●米澤朋子
科学技術基礎論特殊研究		植原　亮
コンテンツ指向計算機科学特殊研究		山西良典
★意思決定システム		
意思決定支援	代数幾何学特殊研究	●今野一宏
	ナレッジマネジメント論特殊研究	●古賀広志
	経営情報論特殊研究	施　學晶
	調査方法論特殊研究	松本　渉
社会的意思決定	国際経営戦略論特殊研究	●伊佐田文彦
	企業会計特殊研究	●齋藤雅子
	金融政策特殊研究	●地主敏樹
	環境経済学特殊研究	大堀秀一
	政治過程論特殊研究	●名取良太
	知的財産法特殊研究	●泉　克幸
★マルチモーダルコミュニケーション		
学習環境デザイン	メディアミックスによる教育方法特殊研究	●黒上晴夫
	情報教育実践論特殊研究	●小柳和喜雄
コミュニケーション環境学	インターネット心理学特殊研究	●森尾博昭
	文化社会学特殊研究	●谷本奈穂
	メディア・コミュニケーション論特殊研究	岡田朋之

注１　★印は研究領域を示します。　注２　●印は研究指導教員を示します。　注３　授業科目および担任者については変更することがあります。

Graduate School of Science and Engineering

理工学研究科

千里山キャンパス
理工学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/eng/

博士課程前期課程
システム理工学専攻（入学定員 142名）
数学分野／物理・応用物理学分野／
機械工学分野／電気電子情報工学分野
環境都市工学専攻（入学定員 86名）
建築学分野／都市システム工学分野／
エネルギー環境・化学工学分野
化学生命工学専攻（入学定員 108名）
化学・物質工学分野／生命・生物工学分野

博士課程後期課程
総合理工学専攻（入学定員 47名）
数学分野／物理・応用物理学分野／
機械工学分野／電気電子情報工学分野／
建築学分野／都市システム工学分野／
エネルギー環境・化学工学分野／
化学・物質工学分野／生命・生物工学分野

今後の科学技術社会の発展を担う、高等技術者と研究者を育成

特色

創造性をもつ高等技術者と研究者の育成

現代のさまざまな産業において活躍できる技術者には、高度の専門知識と技術に加えて幅広い素養と創造力をもつことが求められており、多くの企業では大学院（博士課程前期課程および後期課程）修了者の採用を拡大しています。理工学研究科では、このような社会的要請に応えるため、総合的、学際的な教育・研究を行い、科学技術の急速な発展に対応できる人材を育成しています。本研究科には数学、物理の理学的分野も設置されており、教育・研究の幅をさらに広げています。

多くの学生や社会人の方に進学の門戸を広げるため、一般入試に加えて前期課程に社会人入学試験や特別選抜入学試験、後期課程に社会人入学試験を設けているほか、各種奨学金の拡充に努めています。また、外国人留学生入学試験を実施し、広く海外からも学生を募集しています。課程修了および学位取得後の就職などの進路については、本大学院における勉学の成果が生かせるよう、指導教員をはじめ大学院スタッフが熱心に対処しています。

当研究科の教育方針の特色は以下のとおりです。

1．各専攻とも、学部の各学科の授業にリンクしたより高度の教育を、特に少人数教育の講義とゼミナールによって徹底させています。また、アドバンストインターンシップと海外実習を置いて学外での研修や教育上の経験を積む機会を与えています。さらに、分野によってはPBL（課題研究）を置いて特色を生かした教育を行い、コミュニケーション能力、デザイン能力を修得し、問題の自己解決能力を涵養します。

2．前期課程では、指導教員のもとで、高度の理論と実験を通して研究開発に対する能力をさらに高めるべく研鑽を積みます。また、国内外の学会・研究会などでの発表を積極的に行い、プレゼンテーション能力を養成します。修了者は、修士（工学）のほか、理学的分野では修士（理学）の学位が取得できます。

3．前期課程に引き続いて、さらに研究への意欲をもつ者がより広い観点から研究を進められるように、後期課程では分野に縛られない教員体制をとっています。優れた研究成果を挙げ、独立した研究者として活躍できるよう指導を行い、論文審査の上、博士（工学）または博士（理学）の学位を授与します。また、在学期間の短縮修了も可能としています。

留学生の受入れ

英語基準コース

理工学研究科では、海外からの留学生受入れを促進するため、英語によって行われる講義科目の履修と、英語による修士論文の提出によって、修士の学位を取得できる教育プログラムとして「英語基準コース」を設置しています。「英語基準コース」の講義科目には各分野の専門科目に加えて、理工系全体に共通した課題を解説する科目や日本の歴史や文化などを学ぶ科目があります。また、このプログラムのために開講されている講義の一部は、一般学生も受講することが可能です。留学生と一般学生が英語で行われる講義を同時に受けることは、一般学生にとっても得るところが多いと思います。

ヨーロッパや東南アジアの協定大学から受け入れている半年から１年単位の留学生にもこの「英語基準コース」を適用して単位を与えています。理工学研究科では、この「英語基準コース」をベースにして、海外の大学と関西大学の双方で修士の学位を取得できる「Double Degree（DD）制度」に基づくプログラムを実施しています。

❖2025年度　博士課程前期課程　専攻別研究指導教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

システム理工学専攻

システム理工学専攻は「しくみづくり」を基幹コンセプトにしています。この専攻では、「科学技術システムにおける高機能で安全なしくみの創造」を基本理念として、自然科学としての数学や物理学の基礎教育体系を基礎に機械、電気、電子、情報通信の基盤工学についての教育を通じ、これらの分野を横断した幅広い視野と共に基礎・応用領域縦断型の問題発見・問題解決能力を併せもつ学生を育成することを目的としています。この目的に基づき、先端知識や新技術の背後にある現象の本質を基礎から理解できる力を身につけさせ、国際的な舞台で次世代の産業界をリードできる有能な人材や技術社会システムの先端的研究課題を解明できる人材を養成しています。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
数学分野		
コホモロジー的数理		
庄田　敏宏	幾何解析	多様体上の幾何解析、即ち、多様体を解析的手法により研究する。〔E-mail〕tshoda@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tshoda/
藤岡　　敦	微分幾何学	微分幾何学を主に研究する。すなわち、幾何学的対象を微分法を主な手段として考察していく。〔E-mail〕afujioka@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~afujioka/
村林　直樹	整数論	アーベル多様体と保型形式の関連・虚数乗法論・アーベル多様体のモジュライ空間〔E-mail〕murabaya@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.math.kansai-u.ac.jp/
柳川　浩二	可換代数	可換環論の組合せ論的側面を研究。この分野の通常の手法の他、導来圏や構成可能層なども用いる。〔E-mail〕yanagawa@kansai-u.ac.jp 〔URL〕researchmap.jp/read01888820?lang=en
和久井　道久	表現論	テンソル圏に関わる代数学と位相幾何学（ホップ代数、量子群、結び目、３次元多様体等）を研究する。〔E-mail〕wakui@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~wakui/
神吉　雅崇	可積分系	離散力学系の可積分性判定基準・超離散方程式系について研究する。〔E-mail〕kanki@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.math.kansai-u.ac.jp/
確率・統計		
上村　稔大	確率解析学	確率過程、特にマルコフ過程の標本路の性質導出を、ディリクレ形式論などを用いて研究を行っている。〔E-mail〕t-uemura@kansai-u.ac.jp 〔URL〕stoc-proc.com/people/uemura/index.htm
竹田　雅好	確率過程論	対称マルコフ過程の経路や加法汎関数の挙動を、マルコフ半群のスペクトル的性質をとおして調べる。〔E-mail〕mtakeda@kansai-u.ac.jp
上原　悠槙	確率過程の統計理論	時間依存性を持つ現象の表現モデルの一つである確率過程を対象に統計理論構築を行っている。〔E-mail〕y-uehara@kansai-u.ac.jp
田口　　大	確率数値解析	不規則な時間発展を記述する数理モデル「確率微分方程式」の数値解析について研究。〔E-mail〕taguchi@kansai-u.ac.jp
寺本　　央	計算科学	計算代数のアルゴリズム開発およびその特異点論、力学系、化学反応動力学、プログラム検証等への応用〔E-mail〕teramoto@kansai-u.ac.jp
物理・応用物理学分野		
基礎・計算物理		
板野　智昭	流体物理学	平行平板間流れ・同心二重回転球殻内の熱対流・剪断流を数値的に解き、理論的・物理的な説明を与える。〔E-mail〕itano@kansai-u.ac.jp
伊藤　博介	計算物性科学	スピントロニクスにおける新奇な物理現象の探索・新機能デバイスの開発を理論計算により行っている。〔E-mail〕hitoh@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~qsst/
伊藤　　誠	原子核理論	実験室で合成される人工的な原子核に注目し、その内部構造や反応機構について調べている。〔E-mail〕itomk@kansai-u.ac.jp
関　眞佐子	流体物理学・生体工学	血液流れ中の血球運動など生体に関係したミクロ・ナノスケール流れの現象を実験と数値解析により研究〔E-mail〕sekim@kansai-u.ac.jp 〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/fluidphys/
和田　隆宏	量子多体物理学	多次元ランジュバン方式による原子核の融合・分裂過程の研究、放射線の生体影響に関する数理モデル〔E-mail〕wadataka@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~manybody/
阿部　裕悟	素粒子論・量子重力理論	場の量子論に基づく散乱過程計算を用いて、素粒子や重力の性質を理論的に探る研究を行っている。〔Email〕yugoabe@kansai-u.ac.jp
本多　周太	半導体・磁気デバイス	物質中の電気伝導・磁化特性を数値計算により明らかにし、新しいデバイスを提案する。〔E-mail〕shonda@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~qsst/
光学・応用物理		
淺川　　誠	プラズマ理工学・放射光科学	加速器、プラズマ、放射光に関する現象を実験・理論・シミュレーションの３つの面から調べる。〔E-mail〕asakawa@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~prpl
稲田　　貢	光電子物性物理学	分子や量子ドットおよびそれらの集合体が示す特異な光物性や電子輸送特性を詳細に調べて、その発現機構を明らかにし、それらを利用した新しい動作原理に基づく環境・医療センサーや情報デバイスの開発をめざす。〔E-mail〕inada@kansai-u.ac.jp 〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/devphys/
山口　聡一朗	電磁波・宇宙工学	医療用マイクロ波CT・固体燃料ロケット推進薬（AP/HTPB）基礎研究〔E-mail〕yamso16@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~prpl
山本　　健	超音波物性・音響化学	超音波の可視化手法の開発、超音波キャビテーションによる発光、殺菌および高分子分解〔E-mail〕ken@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www.phys.kansai-u.ac.jp/~ultrasonic/
山本　真人	材料科学・デバイス物理学	新奇材料の電子・光物性を実験的手法によって明らかにし、デバイス応用への可能性を探求する。〔E-mail〕myama@kansai-u.ac.jp 〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/devphys/
機械工学分野		
ナノ機能物理工学		
伊藤　　健	バイオセンサ・機能性ナノ材料・生物模倣	ナノサイズの物質が持つ特性を利用した機能性材料の研究を行い、バイオセンサなどへ展開する。〔E-mail〕t.ito@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/nano/
清水　智弘	ナノ材料工学	ナノワイヤやナノホールなど一次元材料の形成やそれらを使った電気・電子デバイスに関する研究〔E-mail〕shimi@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/nano/
新宮原　正三	ナノ機能物理工学	自己組織化によるナノプロセス／抵抗変化メモリ技術／電解・無電解めっき技術を用いた３次元配線技術／ニューロ素子技術 〔E-mail〕shingu@kansai-u.ac.jp 〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/nano/

教員氏名	研究テーマ	研究概要
流体工学・バイオメカニクス		
山本　恭史	数値流体工学	泡や滴など、移動変形する界面を含む流れと、気液界面の固体面での振る舞いのモデリング 〔E-mail〕yamayasu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕febm.mec.kansai-u.ac.jp/
大友　涼子	流体工学・バイオメカニクス	マイクロスケールの細胞や微粒子を含む流れを対象とした実験および数値解析 〔E-mail〕otomo@kansai-u.ac.jp　〔URL〕febm.mec.kansai-u.ac.jp
田地川　勉	流体工学・バイオメカニクス	生体内流れの解析と人工臓器・治療デバイスの開発、流体・構造体連成問題の研究、実験流体力学と流れの計測　〔E-mail〕tajikawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕febm.mec.kansai-u.ac.jp/
材料工学		
齋藤　賢一	材料工学	分子動力学など計算力学手法によるミクロ−マクロでの機械材料の変形・強度・機能の力学的評価 〔E-mail〕saitou@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/memm/
佐藤　知広	材料工学	粉体・粉末冶金プロセスを利用した材料開発と材料評価技術の確立 〔E-mail〕tom_sato@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/memm/
高橋　可昌	材料工学	疲労・クリープ・脆化作用を受ける固体材料およびマイクロ材料における強度メカニクスの解明 〔E-mail〕yoshim-t@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/memm/
宅間　正則	材料工学	非破壊検査法（AEや超音波探傷など）と情報処理手法を用いた材料の評価手法と設計システムの構築 〔E-mail〕t940081@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/memm/
トライボロジー・情報マイクロメカトロニクス		
小金沢　新治	トライボロジー・ 情報マイクロメカトロニクス	橋梁の健全性診断システム、アクチュエータ、センサとそれらを用いた制御系。IoT用メカトロニクスの粘弾性特性の測定と摩擦センサ　〔E-mail〕skoga@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/sekkei1
谷　　弘詞	ナノ・マイクロトライボシステム	超薄膜潤滑膜・カーボン膜、摩擦発電、磁気ディスクのトライボロジー、トライボケミカル反応 〔E-mail〕hrstani@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/tani/
呂　　仁国	トライボロジー・ 表面界面制御	原子・分子からナノ・ミクロまでの物理・化学的視点で摩擦現象を解明し、超低摩擦システムを創成する。 〔E-mail〕r_lu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/1mdt
川田　将平	トライボロジー・表面工学・ 真空工学	摩擦界面の機序解明およびアクティブ制御を見出す研究の推進と社会実装をめざす。 〔E-mail〕s-kawada@kansai-u.ac.jp　〔URL〕sites.google.com/view/s-kawada908/home
熱工学		
梅川　尚嗣	熱工学	流動沸騰熱伝達をキーワードに、工業機器で見られる種々問題を取り扱っている。また、熱中性子ラジオグラフィやX線ラジオグラフィといった放射線による定量評価をこれらの課題に適用している。 〔E-mail〕umekawa@kansai-u.ac.jp
松本　亮介	熱工学・伝熱工学	低NOx水素燃焼技術の開発、熱交換器における着霜現象の評価、液体水素の冷熱利用に関する研究 〔E-mail〕matumoto@kansai-u.ac.jp
網　　健行	熱工学・沸騰伝熱	強制流動沸騰系における限界熱流束に関して研究を行っている。 〔E-mail〕t_ami@kansai-u.ac.jp
小田　　豊	熱工学・熱流体工学	乱れを伴う熱流動現象のシミュレーションと実験を基礎から応用（ガスタービンなど）まで展開する。 〔E-mail〕oda.y@kansai-u.ac.jp　〔URL〕netsu.mec.kansai-u.ac.jp
生産加工システム		
古城　直道	超精密・超微細加工学	超精密ダイヤモンド切削およびメカノケミカル超砥粒砥石による電子・光学材料の超仕上げに関する研究 〔E-mail〕furusiro@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/msl/
山口　智実	生産加工システム	次世代の超微細あるいは超平滑化加工技術のための工具、および加工機械システムの開発を行っている。 〔E-mail〕tomomiym@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/msl/
廣岡　大祐	アクチュエータ	生産機械への応用をめざした、アクチュエータおよび制御システムの研究開発をおこなっている。 〔E-mail〕hirooka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/msl/
機械力学・制御工学		
宇津野　秀夫	振動・音響・波動の制御	運動方程式と波動方程式を基礎に機械の動的な特性を解析し、制御の知識で模型を動かす研究室である。 〔E-mail〕utsuno@kansai-u.ac.jp　〔URL〕sites.google.com/view/kirikikenutsunononeheya
山田　啓介	振動・騒音制御	スマート構造システムによる振動・騒音制御、動吸振器を用いた制振、振動絶縁、モード解析 〔E-mail〕yamadak@kansai-u.ac.jp　〔URL〕vibration.jp/
白藤　翔平	ロボット機構学	ロボットを効率的に動かすための機械設計に関する研究 〔Email〕srfj@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~srfj/
計測システム		
新井　恭彦	計測システム	光学技術を基礎とした三次元形状計測を電子によるナノ・ピコメータオーダの新技術へと展開している。 〔E-mail〕arai@kansai-u.ac.jp
高田　啓二	プローブ顕微法	走査プローブ顕微鏡を応用した独創的な計測法の創出と、様々な分野の物理現象解明を行っている。
前　　泰志	知能ロボティクス	計測データや画像の情報処理に基づくロボットの知能化、機械学習などAI技術を応用した人支援システム 〔E-mail〕mae@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/meas/
ロボット・マイクロシステム		
青柳　誠司	ロボット・マイクロシステム工学	ロボットの外界環境認識、センサ・アクチュエータ、蚊を模擬したマイクロニードル 〔E-mail〕aoyagi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~t100051/
鈴木　昌人	ロボット・マイクロシステム工学	マイクロメートルサイズの微小な機械構造を有するデバイスの開発に関する研究を実施している。 〔E-mail〕m.suzuki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~t100051/
高橋　智一	ハンドリングロボット・マイクロマシン	ロボットハンド、小型の発電機やアクチュエータに関する研究 〔E-mail〕t.taka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t100051/
人間・生体情報工学		
小谷　賢太郎	生体情報工学	視覚、触覚、運動に関わる生体信号の計測を通じて製品の開発や評価に役立てる研究を行っている。 〔E-mail〕kotani@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/hfelab/
鈴木　　哲	人間工学・生体医工学	新しい生体信号のセンシング技術や心身の状態予測技術の開発とその医療・安全工学への応用 〔E-mail〕ssuzuki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/erg-me/
電気電子情報工学分野		
電気工学		
大橋　俊介	電気機器学	リニアドライブ、磁気浮上、環境に優しい発電システムや超電導応用について研究を行っている。 〔E-mail〕ohashi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ohashi/
濵田　昌司	電気応用工学・生体電磁工学	電力システム機器・電気応用技術の高度化。電磁界の生体応用と安全性確保。電磁界数値計算法の高度化 〔E-mail〕shamada@kansai-u.ac.jp
米津　大吾	計算電磁気学	IH調理器や非接触充電といった電磁誘導現象を利用した機器や電磁ノイズに関する研究を行っている。 〔E-mail〕yonetsu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.ee.kansai-u.ac.jp/staff.html

教員氏名	研究テーマ	研究概要
機能性材料・デバイス		
北村　敏明	波動情報工学	人間の聴覚システムのメカニズム解明を目的として、理論解析・シミュレーションにより特性解析を行う。また、メタマテリアル・フォノニッククリスタルについて、シミュレーションおよび実験により設計・特性解析を行う。〔E-mail〕kita@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~kita/
佐伯　　拓	レーザー生成還元金属ナノ粒子のエネルギー分野への応用	太陽光からレーザーへの高効率変換、酸化金属のレーザー還元・ナノ粒子化とそのエネルギー分野への応用 〔E-mail〕tsaiki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.microwave.densi.kansai-u.ac.jp
田實　佳郎	計測物性工学	smart material and system for wearable device 〔URL〕www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tajitsu/（HP内に問い合わせ先を掲載しています。）
佐藤　伸吾	半導体デバイス工学	半導体デバイス内部で発生する物理現象の詳細解析とモデリング 〔E-mail〕satos@kansai-u.ac.jp
宝田　　隼	センシングデバイス	圧電・光弾性材料を用いたセンシングデバイスに関する研究 〔E-mail〕takarada@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tajitsu/
情報通信工学		
平田　孝志	ネットワーク工学	光ネットワークに代表される将来ネットワーク技術について研究している。 〔E-mail〕hirata@kansai-u.ac.jp
山本　　幹	情報通信工学	インターネットの次に来る新世代ネットワークなど、新しいネットワーク技術全般に関する研究 〔E-mail〕yama-m@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.net.ee.kansai-u.ac.jp
四方　博之	ワイヤレスネットワーキング工学	次世代無線通信ネットワークのための通信方式・プロトコルに関する研究を行っている。 〔E-mail〕yomo@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wnet.ee.kansai-u.ac.jp
和田　友孝	モバイル通信工学	次世代高度交通システム、電子タグ応用システム、緊急救命避難支援システムの研究 〔E-mail〕wadat@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/jnet/index.html
システム情報学		
伊藤　秀隆	ダイナミクスコンピューティング	パターン生成、同期、カオスなどの非線形ダイナミクスの情報科学的・工学的応用に関する研究 〔E-mail〕h.ito@kansai-u.ac.jp
肥川　宏臣	ニューラルネットワーク	自己組織化マップを中心としたニューラルネットワークの応用と、そのハードウェア実装に関する研究 〔E-mail〕hikawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~hikawa/
三好　誠司	確率的情報処理	数理工学や統計力学の手法を用いて、学習、記憶、信号、画像など情報の種々の問題にアプローチを試みている。 〔E-mail〕miyoshi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~miyoshi/
本仲　君子	自律移動システム	クワッドロータの自律飛行制御や経路計画などを取り扱っている。 〔E-mail〕motonaka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~motonaka/
メディア処理工学		
梶川　嘉延	音情報システム	アクティブ騒音制御や3Dオーディオなど音響分野における信号処理技術について研究を行っている。 〔E-mail〕kaji@kansai-u.ac.jp　〔URL〕joho.densi.kansai-u.ac.jp/index-j.html
松島　恭治	光情報システム	究極のデジタル3D映像をめざしたコンピュータホログラフィと高機能光学素子の研究を行っている。 〔E-mail〕matsu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.laser.ee.kansai-u.ac.jp
棟安　実治	画像処理工学	深層学習を用いた画像処理システムや、携帯端末による画像からの情報検出などを取り扱っている。 〔E-mail〕muneyasu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕image.densi.kansai-u.ac.jp/
吉田　　壮	マルチメディア情報処理	画像、音声、言語、動画など様々な種類のメディアを対象にした機械学習・情報検索技術の研究を行う。 〔E-mail〕sohy@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.its.kansai-u.ac.jp/s.yos
知能ソフトウェア工学		
榎原　博之	アルゴリズム工学	アルゴリズム理論を背景に、社会で必要とされる最適化問題に対する解法の研究に取り組んでいる。 〔E-mail〕ebara@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.al.kansai-u.ac.jp/
小尻　智子	学習情報システム	人間の知的活動・創造的活動を支援するソフトウェアを構築している。 〔E-mail〕kojiri@kansai-u.ac.jp　〔URL〕ks.ee.kansai-u.ac.jp/
徳丸　正孝	感性情報工学	対話型進化計算やロボットの感情生成モデルなど、人の感性に関わる研究に取り組んでいる。 〔E-mail〕toku@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.kis.kansai-u.ac.jp/
花田　良子	知的システム設計	人、環境にやさしい知的なシステムの構築にあたり、個々の課題を最適化問題に定式化し、コンピュータによる解法を開発する。〔E-mail〕hanada@kansai-u.ac.jp

環境都市工学専攻

環境都市工学専攻では「まちづくり」をコンセプトとしています。そして地域の伝統や産業が今日の生活のなかで機能できるようなスタイルを提案することによってまちの活性化をもたらすことに貢献しようと考えています。社会のなかで互いに密接に関連する人間的、精神的な要素を取り入れたソフトの分野を参画させながら、エネルギー・環境問題の解決を含めたまちづくりや地域活性化のための工学的なハード面をデザインし、それを推進、実現させます。この考えに基づいて、優れた理論的・実験的素養をもちフロンティアとしての幅広い視野をもった研究者、技術者を育成することをめざしています。これまでのサイエンス志向から実践的な「まちづくり」に取り組む姿勢を明確にするとともに、創造力の涵養に力を入れ、関連する構成要素を統合してより優れた高度な知識を身につけ、かつデザイン力をも養います。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
建築学分野		
構造系		
池永　昌容	建築地震防災工学	建築構造物の地震時応答を効果的に抑制する技術を、数値解析と動的実験の両面から研究している。 〔E-mail〕mikenaga@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/ikenagalab/
桝井　　健	建築構造学	地球環境建築としての木造構造物の実現に関する研究、木構造の解析手法、城石垣の安定性に関する研究 〔E-mail〕masui@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.arch.kansai-u.ac.jp/
松田　　敏	耐震工学	建築構造物の地震時挙動を的確に評価し、その被害を防止・軽減するための方策について考究する。 〔E-mail〕matsuda@kansai-u.ac.jp

教員氏名	研究テーマ	研究概要
計画系		
大影　佳史	環境デザイン・建築計画／設計	調査・分析を通じた研究と実践活動との双方から、建築設計・環境デザインのための理論の検証・構築を図る。〔E-mail〕okage@kansai-u.ac.jp
岡　絵理子	住環境学・住環境デザイン	住まい、住まいが集まる環境、都市環境における人々が豊かだと感じる住環境についての調査研究 〔E-mail〕okaeri@kansai-u.ac.jp　〔URL〕oakeri.jimdo.com
亀谷　義浩	建築計画学	街や建物づくりに関して、都市景観から福祉分野さらには地球環境的視点で広く調査・研究をしている。 〔E-mail〕kametani@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.arch.kansai-u.ac.jp/KEIKAKU/index_top.html
木下　　光	都市設計学	モノ×ヒト＝コトを基軸とした、公共空間論・アジアの瓦屋根と都市住宅・都市デザイン史論に関する研究 〔E-mail〕kinosita@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.urbandesignlab-kansaiuniv.com/
藤田　勝也	建築史学	建築および都市をめぐる歴史と文化の研究。寝殿造、平安京、京都、歴史的環境、まちなみ、文化財の保存と活用　〔E-mail〕fujitama@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/archistory/
野村　正晴	都市における働き方と住まい方	都市における働き方と住まい方について実践的設計行為と歴史研究をとおして探求している。 〔E-mail〕nomura-m@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.arch.kansai-u.ac.jp/
環境系		
都築　和代	建築熱・空気環境学	生活空間の温度や空気質などの要因が人に与える影響を調べ、健康に過ごすための環境設計に資する。 〔E-mail〕ktsuzuki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/thermal/
豊田　政弘	建築音響学	安全で快適な音環境の創生を目標とした高性能吸遮音構造および予測設計手法の開発を行う。 〔E-mail〕toyoda@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/acoust/
原　　直也	建築視環境学	建築空間での、ものの見え方等の心理評価、光やものの条件、および、人の視覚特性とそれらの相互関係 〔E-mail〕nhara@kansai-u.ac.jp
都市システム工学分野		
地球環境系		
尾﨑　　平	環境マネジメント	上下水道、廃棄物施設を中心とした環境インフラのマネジメント、気候変動に対する適応策のデザイン 〔E-mail〕ozaki_t@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/emgt/
飛田　哲男	地盤防災工学	地盤地震工学の観点から、数値解析、模型実験、室内要素試験等を援用し、問題の解決を図る。 〔E-mail〕tobita@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tobita/
安田　誠宏	海岸工学	津波、高潮、高波などの沿岸災害の軽減、気候変動の沿岸域への影響評価と適応策について研究する。 〔E-mail〕yasuda-t@kansai-u.ac.jp　〔URL〕coastal.main.jp/
橋本　雅和	河川工学	河川氾濫を起因とする水災害時の防災・減災技術について研究する。 〔E-mail〕hashi-m@kansai-u.ac.jp　〔URL〕rdp.us.kansai-u.ac.jp/
宮﨑　祐輔	地盤環境工学	土中の水分移動現象や、遮水性構造などを対象に、計測と理論の融合により地盤工学上の課題を研究。 〔Email〕y.myzk.x@kansai-u.ac.jp　〔URL〕https://obvious-jam-671.notion.site/5861385721f5471ca604d75e8dacdfca
設計建設系		
石川　敏之	構造工学・鋼構造・維持管理	社会基盤構造物を長く使えるようにする技術の開発を行っています。 〔E-mail〕t-ishi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t-ishi/
上田　尚史	コンクリート構造学	コンクリートの非線形解析、時間依存挙動評価、劣化予測を行うとともに、新たな建設材料の開発を行う。 〔E-mail〕n.ueda@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/concrete/
鶴田　浩章	コンクリート工学・維持管理	コンクリート構造物の耐久性向上方法や維持管理、産業廃棄物の有効利用、凍結防止剤の開発・改良など 〔E-mail〕tsurutah@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tsurutah/
北岡　貴文	プロジェクトマネジメント	防災・維持管理の高度化を目的とした「プロジェクトマネジメント」に関する研究をしている。 〔E-mail〕kitaoka@kansai-u.ac.jp
計画マネジメント系		
北詰　恵一	社会資本計画	実用型土地利用モデル、社会資本統廃合再配置問題、地域再生、リビングラボ、PPP 〔E-mail〕kitazume@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.trans.civil.kansai-u.ac.jp/kitazume/kitazume.htm
尹　　禮分	社会システム工学	システムの知能化や最適化、機械学習・人工知能、メタヒューリスティックに関する研究をしている。 〔E-mail〕yeboon@ kansai-u.ac.jp
井ノ口　弘昭	交通システム計画	多様な交通機関を考慮した都市交通システムの運用、都市高速道路課金の検討、健康まちづくりなど 〔E-mail〕hiroaki@inokuchi.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/trans/
林　　倫子	景観学・土木史学	場所の履歴と風景形成のメカニズムを解明し、風景の魅力や価値を実証していく。 〔E-mail〕mhayashi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/keikan/
情報システム系		
兼清　泰明	システムモデリング・リスク工学	確率微分方程式の応用、システム信頼性解析、リスク解析、高速シミュレーションスキームの開発 〔E-mail〕hiro.t.k@kansai-u.ac.jp
窪田　　諭	社会基盤情報学	社会基盤施設の情報管理システム、地理情報システムの実践応用、３次元都市BIM/CIMモデルの活用 〔E-mail〕skubota@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/kubota/
滝沢　泰久	ネットワーク工学	知的都市社会を創出する情報通信技術とプラットフォームシステム技術 〔E-mail〕takizawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕netlab.urbansystem.kansai-u.ac.jp
安室　喜弘	情報システム工学	人と環境、人と設備、人と人を媒介し、社会を豊かにする情報システムの在り方と構築方法を研究する。 〔E-mail〕yasumuro@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~yasumuro/
安達　直世	情報通信工学	社会基盤システムを支える新しい通信技術の開発・研究 〔E-mail〕n-adachi@kansai-u.ac.jp
エネルギー環境・化学工学分野		
エネルギー工学		
朝熊　裕介	熱工学	電子レンジとして使われているマイクロ波を化学プロセスに工業利用することを目的としている。 〔Email〕asakuma@kansai-u.ac.jp
池永　直樹	触媒工学	エネルギーと環境をキーワードにして、新しいプロセスの確立をめざし、触媒開発を行っている。 〔E-mail〕ikenaga@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/shokubai/
中川　清晴	エネルギー材料工学	新規ナノ炭素材料の合成・構造制御および表面化学。炭素材料のエネルギー・環境分野に応用する研究 〔E-mail〕kiyoharu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/enezai/
村山　憲弘	資源循環工学	アルミドロスや鉄鋼スラグなどの副産物を原料に用いて機能性無機材料を創製する研究を行っている。 〔E-mail〕murayama@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/shigen/
福　康二郎	触媒工学	『光』を利用した化学エネルギー製造、有機汚染物質の分解無害化、有機変換反応を主に実施している。 〔E-mail〕k.fuku@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/shokubai/
松岡　光昭	無機材料化学、粉体工学	粉体プロセスを駆使したセラミックスやジオポリマーなどの機能性無機材料の微構造制御に関する研究 〔E-mail〕matsuoka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/shigen/

教員氏名	研究テーマ	研究概要
環境化学		
岡田　芳樹	ナノ粒子工学	ナノ粒子の粒径・化学組成計測、非凝集・単分散ナノ粒子の合成、マイクロバブルを用いたナノ粒子回収など 〔E-mail〕yokada@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/npe/
田中　俊輔	ナノ空間材料化学、分離工学	ナノ空間材料（ゼオライト、MOF、メソ構造体）の設計と機能化（吸着、膜分離、デバイス・バイオ医薬） 〔E-mail〕shun_tnk@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/sepsyseng/
林　　順一	反応工学	多孔質材料の製造と細孔生成機構の解明および環境浄化材、エネルギーデバイスへの応用 〔E-mail〕hayashi7@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/crelab/
山本　秀樹	物性化学工学	資源再生プロセス開発、酸再生技術、溶解度パラメータ、血液物性解析システム開発、環境系新材料開発 〔E-mail〕yhideki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/process/
荒木　貞夫	グリーンプロセス	新規分離膜の開発と化学工学物性を用いた分離機構の解明および反応・分離プロセスへの応用 〔E-mail〕araki_sa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/membrane/
木下　卓也	ナノ粒子工学	気相法および液相法による機能性ナノ粒子材料の合成とその応用評価に関する研究を行う。 〔E-mail〕t_kino@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/npe/

化学生命工学専攻

化学生命工学専攻では「ものづくり」のコンセプトを設定しています。従来の「つくり方を重視したデザイン」から「使い方を重視したデザイン」への社会の考え方に同調して、生命体・物質・材料そのものにとどまらず、それらの機能をさまざまなシステムやデバイスのなかでいかに発揮させるかを追求します。すなわち、物質・材料や生物を人間の創造力、構想力、実行力によって生活、産業や環境の場に生かし、それらをよりよいものに改善するための技術を開発しています。これらの場で生じるさまざまな課題を解決し、豊かで持続可能な社会を構築していくために必要な、幅広い専門知識、優れた技術力さらに全体を俯瞰できる広い視野をもった技術者・研究者を育てることを目標としています。

教員氏名	研究テーマ	研究概要
化学・物質工学分野		
金属材料設計		
上田　正人	環境材料学	生体硬組織関連の金属・セラミックス材料の開発、電気抵抗率測定による結晶中の格子欠陥の定量評価 〔E-mail〕m-ueda@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/matt/
森重　大樹	材料組織制御学	構造用非鉄金属材料、特にAl合金、Mg合金の高信頼性化に関する研究を行っている。 〔E-mail〕tmorishi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕msd.chemmater.kansai-u.ac.jp/
金属材料プロセス		
竹中　俊英	金属生産工学	高いポテンシャルをもつ金属材料、特にTi, Mgの製造プロセスの刷新・改良を中心に研究している。 〔E-mail〕ttakenak@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.chemmater.kansai-u.ac.jp/seisan/seisan/Top.html
西本　明生	複合化プロセス工学	プラズマ窒化、プラズマCVD、ダイヤモンド状炭素、硬質皮膜、放電プラズマ焼結、金属積層造形 〔E-mail〕akionisi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/functmat/
星山　康洋	凝固プロセス工学	プラズマ溶射、プラズマ窒化、人工知能（AI）、機械学習、シミュレーション、放電プラズマ焼結、鋳造 〔E-mail〕hosiyama@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/hoshi/
丸山　　徹	融体加工学	金属・合金、無機物あるいは有機物の液体状態（融体）を経由した「ものづくり」の研究を行っている。 〔E-mail〕tmaru@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/melt/
金属・無機材料物性		
荒地　良典	イオニクス材料学	Li二次電池や燃料電池といったエネルギー貯蔵・変換デバイス用新物質の探索に取り組んでいる。 〔E-mail〕arachi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/ionics/
内山　弘章	無機材料化学	液相プロセスにより作製される機能性無機材料のナノ・マイクロ構造制御に関する研究 〔E-mail〕h_uchi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/mukizai/
幸塚　広光	セラミック材料学	化学的手法による液相からの無機材料および有機・無機ハイブリッド材料の合成、構造制御、機能創出 〔E-mail〕kozuka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/ceramics
竹下　博之	水素エネルギー材料学	循環型社会を支える水素エネルギーの実現に不可欠な、新規水素貯蔵材料の開発および関連する基礎研究 〔E-mail〕h-take@kansai-u.ac.jp　〔URL〕mhes.chemmater.kansai-u.ac.jp/
春名　　匠	材料界面工学	・高環境遮断性金属材料の開発　・金属・合金の環境脆化現象の解明　・機能性薄膜の開発 〔E-mail〕haruna@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/sel/
近藤　亮太	エネルギー貯蔵材料学	大量の水素をコンパクトかつ軽量に貯蔵可能な材料の開発を行っている。 〔E-mail〕rkondo@kansai-u.ac.jp　〔URL〕mhes.chemmater.kansai-u.ac.jp/
無機・物理化学		
青田　浩幸	光化学・高分子化学	新規共役系高分子を分子ワイヤーに用いて太陽光エネルギーの有効利用に関する研究を行っている。 〔E-mail〕aota@kansai-u.ac.jp　〔URL〕photo.chemmater.kansai-u.ac.jp/
石川　正司	電気エネルギー化学	将来型二次電池や高速キャパシタの蓄電材料を研究。この成果で平成24年度、文部科学大臣表彰受賞。 〔E-mail〕masaishi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/elechem/
川﨑　英也	界面物理化学	触媒、電子デバイス、医療へ応用できるナノメートル（10^{-9} m）サイズのナノ材料であるナノ粒子の研究 〔E-mail〕hkawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/colloid/
郭　　昊軒	エネルギー機能材料化学	エネルギー変換や貯蔵などの機能を持つ材料を開発する。 〔Email〕hx-guo@kansai-u.ac.jp　〔URL〕photo.chemmater.kansai-u.ac.jp/
有機化学		
梅田　　塁	有機機能化学	有機合成反応を高度に利用し、新奇な機能性有機分子の合成ならびに物性の評価を行う。 〔E-mail〕umeda@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.itc.kansai-u.ac.jp/~umeda/
大洞　康嗣	触媒有機化学	ケミカルフィードストックからの高効率触媒反応ならびに高活性触媒種を開発している。 〔E-mail〕obora@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/cataly/
坂口　　聡	有機反応化学	高効率分子変換を可能にする有機化学反応に関する研究を行っている。配位子の分子デザインが鍵である。 〔E-mail〕satoshi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕orgchem.chemmater.kansai-u.ac.jp/
西山　　豊	有機合成化学	C1化合物を利用した合成反応、元素の特性を活かした合成反応、触媒的合成反応 〔E-mail〕nishiya@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.chemmater.kansai-u.ac.jp/hetero/
矢野　将文	機能性有機材料	有機化学の知識を基にして、各種有機機能性材料の分子設計・有機合成・物性評価を行っている。 〔E-mail〕myano@kansai-u.ac.jp

教員氏名	研究テーマ	研究概要
高分子化学		
工藤　宏人	高分子合成化学	新規機能性材料（高屈折率・低屈折率材料、レジスト材料）を分子設計し、それらを合成し評価する。 〔E-mail〕kudoh@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www2.kansai-u.ac.jp/kudo-lab/
三田　文雄	高分子設計創生学	機能性高分子の精密合成。キーワード：遷移金属触媒重合・光電機機能性高分子・光学活性共役高分子 〔E-mail〕sanda@kansai-u.ac.jp　〔URL〕design.chemmater.kansai-u.ac.jp
原田　美由紀	高分子材料化学	エポキシ系ネットワークポリマーの高機能化のため、液晶構造の導入による立体構造制御を行っている。 〔E-mail〕mharada@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/apmater/
曽川　洋光	機能性超分子化学・ 環境調和型高分子化学	アミノ酸、多糖類、バイオマス資源を利用する機能性材料の設計・合成・特性解析および分解 〔E-mail〕sogawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕design.chemmater.kansai-u.ac.jp/
生体材料化学		
岩﨑　泰彦	医用高分子材料化学	生体と適合するポリマー材料を開発し、人工臓器、バイオセンサ、薬物輸送担体などに応用する。 〔E-mail〕yasu.bmt@kansai-u.ac.jp　〔URL〕https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/biomat/
大矢　裕一	バイオマテリアル	身体の中で無毒な成分に分解するポリマーを利用した医用材料（バイオマテリアル）を開発する。 〔E-mail〕yohya@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/fpoly
柿木　佐知朗	タンパク質工学・ 機能性医用材料化学	生体機能を制御できる人工ペプチド／タンパク質の開発と医療デバイスや組織再生医療への応用 〔E-mail〕sachiro@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/k-sac/
河村　暁文	ソフトマター材料設計	制御重合や超分子化学などを駆使して、生医学や環境分野などへ応用できる機能性ソフトマテリアルを創出する。〔E-mail〕akifumi@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/kawamura/
平野　義明	生体材料・ペプチド工学	再生医療への応用をめざし細胞と親和性の高いペプチド材料の設計とその機能評価 〔E-mail〕yhirano@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.chemmater.kansai-u.ac.jp/biomol
古池　哲也	生体機能分子	糖鎖の機能を利用した化合物群の合成と機能評価を行い、医薬品や機能性材料への展開を行っている。 〔E-mail〕furuike@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/biofunc/
宮田　隆志	機能性高分子材料化学	生体の優れた構造や機能に倣ったスマート高分子材料を開発し、DDSやセンサー等への応用を試みている。 〔E-mail〕tmiyata@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/sentan/
生体機能分子化学		
石田　　斉	生体錯体化学	金属ペプチド錯体（ペプチド折り紙）を触媒とする光化学的CO_2還元反応を基に人工光合成を創る。 〔E-mail〕ishida.h@kansai-u.ac.jp
葛谷　明紀	分子ロボティクス	DNAをはじめとする生物由来の機能性分子を組みたてて、分子サイズの機械・ロボットを作りあげる。 〔E-mail〕kuzuya@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/mol-mach
矢島　辰雄	分子認識化学	生体における分子認識に利用される非共有性相互作用を解明し、その活用をめざしている。 〔E-mail〕t.yajima@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/cmr/
計算物質科学		
藤本　和士	理論・計算化学	高分子や燃料電池などの分子集合体の現象をシミュレーションにより分子レベルから解明する。 〔E-mail〕k-fuji@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/tcc/
生命・生物工学分野		
バイオテクノロジー		
老川　典夫	酵素工学	微生物のD型及びL型アミノ酸代謝を中心とする酵素の構造や機能の解明と応用 〔E-mail〕oikawa@kansai-u.ac.jp　〔URL〕biomole.life-bio.kansai-u.ac.jp
山中　一也	酵素工学	深海や極限環境微生物遺伝資源からの新規有用物質生産を担う酵素および遺伝子の探索と応用 〔E-mail〕kazuyay@kansai-u.ac.jp　〔URL〕biomole.life-bio.kansai-u.ac.jp
岩木　宏明	環境微生物工学	環境浄化や物質生産を目的とし、様々な環境に生息する微生物を分離し、遺伝情報の解析を行っている。 〔E-mail〕iwaki@kansai-u.ac.jp　〔URL〕bioinfo.life-bio.kansai-u.ac.jp/
岡野　憲司	環境微生物工学	微生物およびその集合体である微生物菌叢の機能を改変することで有用物質の大量生産をめざしている。 〔E-mail〕okano.k@kansai-u.ac.jp
片倉　啓雄	生物化学工学	乳酸菌の高密度培養、乳酸菌と腸管および食物繊維との相互作用、微生物による有用物質生産 〔E-mail〕katakura@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/biocheng
山崎　思乃	生物化学工学	腸内細菌および腸内細菌が放出する膜小膜の生体調節機能の解明とその応用 〔E-mail〕shino.ya@kansai-u.ac.jp　〔URL〕wps.itc.kansai-u.ac.jp/biocheng
松村　吉信	微生物制御工学	微生物の環境汚染浄化能の活用と微生物制御・殺菌技術の開発、バイオマス活用研究を行っている。 〔E-mail〕ymatsu@kansai-u.ac.jp　〔URL〕biocontrol.life-bio.kansai-u.ac.jp/Microbial_Ecology/
佐々木　美穂	微生物制御工学	有害微生物に対する新たな抗菌・殺菌技術の開発と微生物による有用物質生産について研究している。 〔E-mail〕sasaki_m@kansai-u.ac.jp
ライフサイエンス		
福永　健治	食品栄養化学	経口摂取タンパク質の機能・n-3系高度不飽和脂肪酸の機能・水産物由来健康機能性成分の探索 〔E-mail〕fukunagk@kansai-u.ac.jp　〔URL〕www.ku-food-lab.com
細見　亮太	食品栄養化学	氷温域での食品の貯蔵・熟成中の成分変化、水産物由来タンパク質の健康機能 〔E-mail〕hryotan@kansai-u.ac.jp　〔URL〕ku-food-lab.com
長岡　康夫	医薬品工学	医薬品や化粧品原料の創生をめざした天然生理活性物質の探索と合成研究を行っている。 〔E-mail〕ynagaoka@kansai-u.ac.jp　〔URL〕pharm.life-bio.kansai-u.ac.jp/
住吉　孝明	医薬品工学	医薬品候補化合物の探索、化合物による生体機能解明、新技術・方法論の開拓を基盤とした創薬研究 〔E-mail〕t-sumiyo@kansai-u.ac.jp　〔URL〕pharm.life-bio.kansai-u.ac.jp/
山口　賀章	生命機能工学	概日リズムの分子神経機構の解明と、その周期長や明暗等の外部環境への同期能を調節する化合物の開発 〔E-mail〕yama@kansai-u.ac.jp
安原　裕紀	植物細胞生物学	高等植物の細胞分裂と細胞形態形成の機構を細胞骨格関連タンパク質の機能解析から解明する。 〔E-mail〕yasuhara@kansai-u.ac.jp
日下部　りえ	発生工学	受精卵から始まる初期発生における遺伝子の働きを解明し、遺伝的疾患との関わりについても調べる。 〔E-mail〕kusakabe@kansai-u.ac.jp

❖2025年度　博士課程後期課程　研究領域および担任教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

総合理工学専攻

前期課程の各専門領域を担当する分野で研鑽を積み、さらに研究者への道を歩みたいと考える学生は、後期課程における総合理工学専攻に進学することになります。後期課程では前期課程のような分野に縛られない、総合的な研究指導体制をとっています。これによって、学生は主たる指導教員の指導のもとに、分野を超えて専門の異なる複数の教員の指導を受けることが可能になり、広い視野に立った斬新な研究が活性化されます。後期課程において行った研究の成果をもとに博士論文をまとめ、審査を受けて学位を取得できます。後期課程では、学内の先端科学技術推進機構との連携はもちろん、国内の他研究機関や海外の大学との連携・交流を強化拡大し、多面的な研究教育を実践する方針をもっています。在学生は自身の研究を通じてこれらの活動に貢献することになり、さらにそれによって広い学識と国際的視野をもつ専門研究者への道を歩むことができます。

○は、研究指導教員を表す。

数学分野	コホモロジー的数理	○ 庄田　敏宏 ○ 藤岡　　敦 ○ 村林　直樹 ○ 柳川　浩二 ○ 和久井　道久 神吉　雅崇
	確率・統計	○ 上村　稔大 ○ 竹田　雅好 上原　悠槙 田口　　大 寺本　　央
物理・応用物理学分野	基礎・計算物理	○ 板野　智昭 ○ 伊藤　博介 ○ 伊藤　　誠 ○ 関　眞佐子 ○ 和田　隆宏 阿部　裕悟 本多　周太
	光学・応用物理	○ 淺川　　誠 ○ 稲田　　貢 ○ 山口　聡一朗 ○ 山本　　健 山本　真人
	ナノ機能物理工学	○ 伊藤　　健 ○ 清水　智弘 ○ 新宮原　正三
機械工学分野	流体工学・バイオメカニクス	○ 山本　恭史 大友　涼子 田地川　勉
	材料工学	○ 齋藤　賢一 ○ 佐藤　知広 ○ 高橋　可昌 ○ 宅間　正則
	トライボロジー・ 情報マイクロメカトロニクス	○ 小金沢　新治 ○ 谷　　弘詞 ○ 呂　　仁国 川田　将平
	熱工学	○ 梅川　尚嗣 ○ 松本　亮介 網　　健行 小田　　豊
	生産加工システム	○ 古城　直道 ○ 山口　智実 廣岡　大祐
	機械力学・制御工学	○ 宇津野　秀夫 ○ 山田　啓介 白藤　翔平
	計測システム	○ 新井　崇彦 ○ 高田　啓二 ○ 前　　泰志
	ロボット・マイクロシステム	○ 青柳　誠司 ○ 鈴木　昌人 高橋　智一
	人間・生体情報工学	○ 小谷　賢太郎 鈴木　　哲
電気電子情報工学分野	電気工学	○ 大橋　俊介 ○ 濵田　昌司 米津　大吾
	機能性材料・デバイス	○ 北村　敏明 ○ 佐伯　　拓 ○ 田實　佳郎 佐藤　伸吾 宝田　　隼
電気電子情報工学分野	情報通信工学	○ 平田　孝志 ○ 山本　　幹 ○ 四方　博之 ○ 和田　友孝
	システム情報学	○ 伊藤　秀隆 ○ 肥川　宏臣 ○ 三好　誠司 本仲　君子
	メディア処理工学	○ 梶川　嘉延 ○ 松島　恭治 ○ 棟安　実治 吉田　　壮
	知能ソフトウェア工学	○ 榎原　博之 ○ 小尻　智子 ○ 徳丸　正孝 花田　良子
建築学分野	構造系	○ 池永　昌容 ○ 桝井　　健 ○ 松田　　敏
	計画系	○ 大影　佳史 ○ 岡　絵理子 ○ 亀谷　義浩 ○ 木下　　光 ○ 藤田　勝也 野村　正晴
	環境系	○ 都築　和代 ○ 豊田　政弘 ○ 原　　直也
都市システム工学分野	地球環境系	○ 尾﨑　　平 ○ 飛田　哲男 ○ 安田　誠宏 橋本　雅和 宮﨑　祐輔
	設計建設系	○ 石川　敏之 ○ 上田　尚史 ○ 鶴田　浩章 北岡　貴文
	計画マネジメント系	○ 北詰　恵一 ○ 尹　　禮分 井ノ口　弘昭 林　　倫子
	情報システム系	○ 兼清　泰明 ○ 窪田　　諭 ○ 滝沢　泰久 ○ 安室　喜弘 安達　直世
建築学分野／都市システム工学分野	地域再生学	○ 岡　絵理子 ○ 北詰　恵一 ○ 木下　　光 ○ 楠見　晴重
エネルギー・環境・化学工学分野	エネルギー工学	○ 朝熊　裕介 ○ 池永　直樹 ○ 中川　清晴 ○ 村山　憲弘 福　康二郎 松岡　光昭
	環境化学	○ 岡田　芳樹 ○ 田中　俊輔 ○ 林　　順一 ○ 山本　秀樹 荒木　貞夫 木下　卓也
化学・物質工学分野	金属材料設計	○ 上田　正人 ○ 森重　大樹
	金属材料プロセス	○ 竹中　俊英 ○ 西本　明生 ○ 星山　康洋 ○ 丸山　　徹
	金属・無機材料物性	○ 荒地　良典 ○ 内山　弘章 ○ 幸塚　広光 ○ 竹下　博之 ○ 春名　　匠 近藤　亮太
	無機・物理化学	○ 青田　浩幸 ○ 石川　正司 ○ 川﨑　英也 郭　　昊軒
	有機化学	○ 梅田　　塁 ○ 大洞　康嗣 ○ 坂口　　聡 ○ 西山　　豊 矢野　将文
	高分子化学	○ 工藤　宏人 ○ 三田　文雄 ○ 原田　美由紀 曽川　洋光
	生体材料化学	○ 岩﨑　泰彦 ○ 大矢　裕一 ○ 柿木　佐知朗 ○ 河村　暁文 ○ 平野　義明 ○ 古池　哲也 ○ 宮田　隆志
	生体機能分子化学	○ 石田　　斉 ○ 葛谷　明紀 ○ 矢島　辰雄
	計算物質科学	藤本　和士
生命・生物工学分野	バイオテクノロジー	○ 老川　典夫 ○ 山中　一也 ○ 岩木　宏明 岡野　憲司 ○ 片倉　啓雄 山崎　思乃 ○ 松村　吉信 佐々木　美穂
	ライフサイエンス	○ 福永　健治 細見　亮太 ○ 長岡　康夫 ○ 住吉　孝明 山口　賀章 安原　裕紀 日下部　りえ

Graduate School of Foreign Language Education and Research

外国語教育学研究科

千里山キャンパス
外国語教育学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/fl/graduate/

博士課程前期課程
外国語教育学専攻（入学定員 25名）
外国語教育学領域
異文化コミュニケーション学領域
通訳翻訳学領域

博士課程後期課程
外国語教育学専攻（入学定員 8名）

外国語教育・異文化コミュニケーション・通訳翻訳分野での指導者・研究者・実務者の育成をめざす全国屈指の学際的研究科

特色

扱う学問領域がすべて学際的な分野であることを生かして、前期課程に関しては、出身学部・学科を問わず、広く学生を受け入れている。関西大学出身者はもちろんのこと、それ以外の大学の出身者も多く在籍しており、多様なバックグラウンドをもった学生が集う研究科といえる。また、リカレント教育にも力を入れており、昼夜開講制、土曜開講、集中講義、３年コース（前期課程）、１年制修士（現職教員対象）などを導入し、社会人が学びやすい環境を作り出す努力をしている。学生選抜（入学試験）は口頭試問重視で、高度な外国語能力を証明する資格を有する受験生には、外国語試験が免除される。

博士課程前期課程

外国語教育学領域
理論と実践の両面で
バランスのとれた
高度専門職業人・外国語教育実践の
指導者の育成をめざす

→ 外国語教育研究、授業実践研究、第二言語習得論、言語教育工学、コーパス研究など

異文化コミュニケーション学領域
複雑化するグローバリズムに
対応できる、深い洞察力と
課題解決能力を
備えた人材育成をめざす

→ 文化比較、文化接触、異文化適応、対人・非言語コミュニケーションなど

通訳翻訳学領域
通訳・翻訳における実務者
のみならず、
その分野の教育者・研究者の
養成をめざす

→ 特定分野の通訳および翻訳教育、通訳理論、翻訳理論、文芸翻訳・実務翻訳など

博士課程前期課程では、外国語教育に関わる３つの領域（外国語教育学・異文化コミュニケーション学・通訳翻訳学）において、指導的立場で活躍できる、理論と実践のバランスのとれた指導者・高度職業人の育成をめざします。

外国語教育学領域

外国語教育学を体系的・包括的に究め、実践に生かすために、教授法や授業実践を扱う科目、学習者論・第二言語習得論など理論を扱う科目、各種メディアを利用した教材開発を扱う科目、研究対象言語の構造と運用の分析を行う科目などを配置。

異文化コミュニケーション学領域

異文化コミュニケーションを学際的アプローチで考究するために、さまざまな学問分野の視点でコミュニケーションを考察する科目、専攻する言語が使用される地域の言語や文化を深く考察する科目、異なる文化の接触と文化間の交渉を考察する科目などを配置。

通訳翻訳学領域

通訳翻訳理論を踏まえた実践と教育を追求するために、通訳翻訳学の理論的背景を扱う科目を中心に、実践の場におけるさまざまな問題を扱う実習的科目などを配置。

これに加えて、前期課程では３領域共通の「支援科目」として、基礎的な研究方法を学ぶ「基礎研究法」諸科目、また、専攻する言語の高度な運用能力を養成する実習系の科目を配置して、調査・分析・報告・発表などの学術的活動を行うために必要なスキルを身につけます。

博士課程後期課程

博士課程後期課程では、オリジナルな理論的・実証的研究を遂行し、国内はもとより国際的にもその成果を問います。当該分野の発展を促すような能力を身につけた人材を養成できるよう、教育課程を領域には分けずに、個別型のチュートリアル・カリキュラムを提供し、入学時に明示した学位取得要件を一つ一つクリアさせながら、博士論文の作成まで指導を行います。

「学びの意欲」に応える学修環境

社会人の方のために

昼夜開講制

授業科目の開講時間を４時限目以降に設定し、主に６時限目と７時限目に授業を展開しています。

４時限目（14：40〜16：10）
５時限目（16：20〜17：50）
６時限目（18：00〜19：30）
７時限目（19：40〜21：10）

- 土曜日は２時限目（10：40〜12：10）から授業を開講します。夏季および冬季には集中講義もあります。
- 時間割表は研究科Webサイトでご覧いただけます。

長期履修学生制度（3年コース）

社会人の方や外国語関係以外の学部出身の方が、余裕をもって履修する際にお勧めの制度です。

- 余裕をもって学びたい学生のために、修業年限２年を３年に変更できるシステムです。
- 履修科目数の上限については、若干制限されます。
- １年次終了時に所定の条件を満たした場合、３年コースを２年コースに変更することができます。

※博士課程前期課程において適用できる制度で（アストンDDプログラムを除く）、入学試験出願時に選択していただきます。

現職教員１年制コース

高度な能力を有する英語教員の養成を目的とした、１年間で修士号を取得できるコースです。現職の英語教員やその経験者であって、英語教育に関わる業績が顕著な方を対象に募集します。出願資格等の詳細は学生募集要項をご覧ください。

リモート履修制度について

仕事の都合や遠隔地に居住しているなどの理由により通学が困難である場合でも、インターネットを利用して自宅や職場から授業に参加して、課程を修了することが可能です（博士課程前期課程は日本在住者に限る。博士課程後期課程は海外在住者も可）。なお、出願に際しては志望演習担当教員の承諾を得てください。

『日本語教育専門家養成講座』

2016年度より開講されている本講座は、日本語教育の専門家を養成するものです。日本語教育は言うまでもなく外国語教育に含まれるものです。本講座では、研究科の豊富な授業科目を通して、外国語教育学とその隣接領域に関する高度な知識を学ぶことができます。また、実際の日本語学習者を相手に行う教育実習（国内・海外）など、実践的な経験も積むことができます。日本語や日本語教育を研究対象にする人のみでなく、他の言語やその教育を専門にする人にもお勧めできます。
＊なお、対面での実習を含む授業があるため、リモート履修制度を利用しての講座修了はできません。

グローバルに活躍したい方のために

DDプログラム

【ダブル・ディグリー プログラム】イギリス・アストン大学

2018年度開始。イギリス・アストン大学に２セメスター留学し、関西大学で２セメスター修学するとともに、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学大学院からの修士号に加えて、アストン大学からも修士の学位が授与されます。

修学期間：２年

【デュアル・ディグリー プログラム】韓国・嶺南大学校大学院

2015年度開始。韓国・嶺南大学校に２セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学大学院からの修士号に加えて、嶺南大学校からも修士の学位が授与されます。

修学期間：３年

エモリー大学への派遣（日本語教育学・英語教育学）

アメリカ・エモリー大学

本研究科博士課程前期課程修了生・博士課程後期課程在校生をアメリカ南部の名門エモリー大学へTeaching Fellowとして毎年最大２名を派遣しています。現地では、日本語教育（有給）に従事しながら、エモリー大学で開講している大学院科目も履修できます。

❖2025年度　演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶指導可能なテーマ（M：前期課程、D：後期課程）❷受験生へのメッセージ ❸E-mail ❹HP

阿南　順子　教授　日本語
❶M 演劇・パフォーマンス理論／ジェンダー・セクシュアリティ理論／視覚文化
❷パフォーマンス学は従来の演劇学より研究対象の射程が広く、舞台以外の場における「パフォーマンス」も考察します。例えば、ジェンダー。「女性らしさ」や「男性らしさ」は生来のものではなく、社会的・歴史的に構築された役割で、私たちはそれを「演じて」いるのです。
❸n.anan@kansai-u.ac.jp

池田　真生子　教授　英語
❶M 学習方略／自己調整学習／共調整学習／小学校英語指導法
❷本研究科には、多種多様なご経験を持つ方々が入学されています（社会人や学部卒業後すぐに進学された方、学部時代の専門が外国語教育学関係とはまったく違う方、留学生など）。ご自身が探求したいことを、ぜひ研究しにいらしてください。
❸mikeda@kansai-u.ac.jp

今井　裕之　教授　英語
❶M 英語授業研究・教室談話研究／英語スピーキングの指導と評価／英語教師の成長
❷日本の学校教育制度下での教育実践を研究する際には、学校教育関連制度（いわゆる教育三法）やそれに基づく組織的取組みの実態を踏まえることも大切です。教育実践を理論化する過程で、自身の指導者としての成長を実感してみませんか？
❸himai@kansai-u.ac.jp

玄　幸子　教授　中国語
❶M 中国語学／中国語の通時的（歴史的）研究
❷常に探求心を忘れず、新たな視点やアプローチを大切にすることは言うまでもありませんが、中国語に関する基礎知識をできるだけ多く吸収しておきましょう。何事も基礎土台の上に構築できるのだということを忘れないように。
❸gen@kansai-u.ac.jp

高　明均　教授　朝鮮語
❶M 朝鮮語学（意味）／語彙意味論（語彙分析、意味の諸相、17世紀の近代朝鮮語文献調査）
❷朝鮮語の語彙意味や文法に関する量的・質的研究を行います。特に、語彙の通時的考察を通して意味の諸相などを探っています。さらに、専攻分野の資質を備えた研究者や教育者養成を目指しています。
❸myunggyun@daum.net

小嶋　美由紀　教授　中国語
❶M 中国語学（現代中国語文法）
❷中国語を英語や日本語といった他言語と比較対照することで、中国語特有の発想や物事の捉え方を明らかにすることを目指しています。中国語（現代中国語、諸方言）の文法現象を、客観的・俯瞰的に見つめて分析・議論を楽しめる方を求めています。
❸komiyuki@kansai-u.ac.jp

阪本　章子　教授　英語　日本語
❶M/D 翻訳テクノロジーの社会的側面／翻訳テキスト分析（字幕翻訳を含む）／翻訳者教育
❷翻訳テキスト・手法の分析はもちろん、翻訳者が社会で果たす役割や変化など、翻訳にまつわるあらゆる現象を学際的な手法をつかって探究するのが「翻訳学」です。翻訳が（読むのもするのも）好きであれば、あらゆるバックグランドの学生を歓迎します。
❸akiko-s@kansai-u.ac.jp

嶋津　百代　教授　日本語
❶M/D 日本語教育学、ディスコース分析（ナラティブ）
❷日本語教育を専門とし、教師や学習者のディスコースやナラティブを研究しています。物事を批判的に観察することで、当然視されてきた価値観を捉え直すこと、自分の内にある偏見に気づくこと、私たちの多様性を認めること、そのような研究を目指してください。
❸shimazu@kansai-u.ac.jp

新谷　奈津子　教授　英語
❶M/D 第二言語習得／ライティング指導法／タスク中心教授法／文法指導／第二言語語用論／学習者の個人差と第二言語習得
❷ゼミでは、英語教育の効果を第二言語習得理論の立場から捉え、文法・語彙・語用論的知識の向上のための指導法の効果や、それに影響を与えるさまざまな要因を扱う研究を行なっています。言語習得理論と教育実践をつなぐ研究をしたい方をお待ちしています。
❸natsukos@kansai-u.ac.jp
❹https://www2.kansai-u.ac.jp/shintani

高梨　信乃　教授　日本語
❶M 日本語教育文法／日本語記述文法／日本語教育学
D 日本語教育文法／日本語記述文法
❷研究は、「好き」なだけでは成し遂げられないものですが、まず「好き」でなければ始まりません。高梨ゼミでは、日本語について「なぜこんな言い方をするのだろう」「Aと言うのとBと言うのとではどんな違いがあるのだろう」というように常に関心をもって考える学生、自身の日本語にどこまでも満足せず磨き続ける学生を歓迎します。
❸tshino@kansai-u.ac.jp

髙橋　絹子　教授　英語　日本語
❶M 通訳研究（通訳とは何か、通訳者の使い分け／通訳とAI）／通訳教育研究（通訳教育の英語教育への応用、通訳に必要な音声の獲得、通訳者の適正な訳出時の音声）
❷通訳技術に問題を感じたら、「通訳」や「通訳者」について学問的な観点から一度、考えることをお勧めします。「通訳の研究をする」ことで、問題の解決が可能かもしれません。まず何が問題で、何を疑問に感じ解決したいのか、整理して明確にしてみましょう。
❸kinuko@kansai-u.ac.jp

高橋　秀彰　教授　ドイツ語
❶M/D ドイツ語圏の社会言語学（言語政策、移民の言語、態度、アイデンティティーなど）／ドイツ語学／ドイツ語教育学
❷ドイツ語が社会とどのような関係性を持っているのか、ドイツ語の構造はどうなっているのか、ドイツやオーストリア、スイスなどで使われているドイツ語はどう違うのかなど、社会と言語の関係やドイツ語教育に関心がある人には、当研究科で学んでほしいです。
❸hideaki@kansai-u.ac.jp

竹内　理　教授　英語
❶M/D 学習方略／自己調整／動機づけ／学習不安／個人差要因／自律学習／英語教授法／言語教育におけるデジタルメディア・AIの利用／小学校英語／言語テスト
❷進学を考えている方は、ぜひ一度、進学説明会にお越しください。良い情報が得られると思います。大学院の学びは想像以上に刺激的です。ぜひ、私たちの学びの輪に加わってください。
❸takeuchi@kansai-u.ac.jp
❹https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~takeuchi/

名部井　敏代　教授　英語
❶M/D 英語教育学／第二言語習得（教室内インタラクション、フィードバックの効果、学習過程の学習者意識）
❷あなたが外国語を学んだとき・教えるときに強いこだわりを感じたこと、疑問に感じたことは、探究のスタートポイントです。身近な経験を、専門的で科学的なことばで語る力を身につけましょう。
❸tnabei@kansai-u.ac.jp

アンドリュー・パーク　教授　英語　日本語
❶M 談話分析／語用論／社会言語学
❷第二言語学習者が実際の会話を聞くと、教室で学んだ言語使用のルールに当てはまらない例が必ず現れます。言語の語用論的な側面に関心を持っている研究者であるあなたの目標は、実際の言語使用を分析し、人がどのようにアイデンティティを構築したり、人間関係を維持したり、物事を遂行したりしているのかを明らかにし、学習者が納得できるような説明を提供することです。
❸ajbarke@kansai-u.ac.jp

サイモン・ハンフリーズ　教授　英語
❶M 外国語教育学（文化、アイデンティティと感情が教授法に与える影響；カリキュラム開発に影響を与える要因）
M 異文化コミュニケーション学（学習者の英語発話能力、英語以外の外国語の発話能力に影響を与える要因；留学による学習者のアイデンティティの変化）
❷"Be open-minded and curious to challenge your existing ideas compared to different cultures and ways of thinking"
❸shumphri@kansai-u.ac.jp
❹https://www.researchgate.net/profile/Simon-Humphries

桝本　智子　教授　英語　日本語
❶M 異文化間コミュニケーション（価値観、文化アイデンティティ、文化適応、異文化間トレーニング）
❷大学院の学びは理論や研究方法だけではなく、自分や他の人の経験からも得ることが多くあります。コミュニケーションと文化は切り離すことはできないことから、エスノグラフィーを用いた実地調査や個人の経験から得られる情報を分析し、異なる文化を持つ人々を理解することを目指します。
❸masumoto@kansai-u.ac.jp

松岡　雄太　教授　朝鮮語
❶M 朝鮮語学（記述言語学・社会言語学）／朝鮮語教育学（対象言語学）
❷朝鮮語は日本語と似ているという言説をよく耳にしますが、朝鮮語をある程度学んで身につけた人ならば、それがほんの一部に過ぎないと気がついているはずです。ですがその類似性を信じる日本人学習者は、必要以上の母語干渉によって誤用を産み出してしまいます。では、朝鮮語とはいったいどのような言語なのでしょう。日本語とどんなところが似ていて違うのか、詳しく調べてみませんか？
❸y_matsu@kansai-u.ac.jp

水本　篤　教授　英語
❶M/D コーパス研究／語彙研究／言語テスティング／学習方略／研究方法論
❷大学院に進学することは、将来のキャリアにおいて重要なステップです。国内屈指のレベルで知られている本研究科で学ぶことによって、外国語教育の研究者・実践者として、より専門的な知識やスキルを身に付けることができることでしょう。頑張ってください。
❸atsushi@mizumot.com
❹https://mizumot.com/

守﨑　誠一　教授　英語　日本語
❶M/D 異文化間コミュニケーション学（コミュニケーション行動に与える文化の影響、異文化不適応・適応、異文化間コミュニケーション能力）／比較文化コミュニケーション（文化的価値観）
❷異文化間コミュニケーション学は、文化背景が異なる人がコミュニケーションする際に生じるさまざまな問題、その原因、解決法について研究します。国際化・多様化が進む現代社会において必須の異文化間コミュニケーション学について研究していきましょう。
❸morisaki@kansai-u.ac.jp

山崎　直樹　教授　中国語
❶M 中国語教育のためのインストラクショナル・デザイン／日本語話者の中国語学習者による中間言語の形成／中国語教育のための語用論／中国語教育のための談話言語学
❷中国語教育の専門的な研究ができる大学院は、日本ではとても少ないので、わたしが指導できる範囲内でできるだけ幅広く志願者を受け入れることにしています。受験をお考えのかたは、遠慮なく相談してください。相談はEメールでも受けつけています。
❸ymzknk@kansai-u.ac.jp
❹https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ymzknk/

大和　知史　教授　英語
❶M 英語発音指導／英語音声指導／プロソディ指導
❷学習者がどのような音声を使っているかの現状把握を行うことに加え、音声研究、L2スピーチ研究などの理論的基盤をもとに、どのように発音・プロソディを学習・指導するとよいかを考えています。当該領域あるいは関連領域に関心がある方、研究と実践を考えてみませんか。
❸kyamato@kansai-u.ac.jp
❹https://yamatokazuhito.com/

担当教員の研究業績・研究活動情報は学術情報システムでご確認ください。

❖演習担当教員別指導領域一覧

【前期課程】

研究対象言語	領　域	教員名
英　語	外国語教育学領域	池　田　真生子
		今　井　裕　之
		新　谷　奈津子
		竹　内　　理
		名部井　敏　代
		ｻｲﾓﾝ・ﾊﾝﾌﾘｰｽﾞ
		水　本　　篤
		大　和　知　史
	異文化コミュニケーション学領域	ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ・ﾊﾟｰｸ
		ｻｲﾓﾝ・ﾊﾝﾌﾘｰｽﾞ
		桝　本　智　子
		守　﨑　誠　一
	通訳翻訳学領域	阪　本　章　子
		髙　橋　絹　子

研究対象言語	領　域	教員名
日本語	外国語教育学領域	阿　南　順　子
		ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ・ﾊﾟｰｸ
		嶋　津　百　代
		高　梨　信　乃
	異文化コミュニケーション学領域	阿　南　順　子
		ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ・ﾊﾟｰｸ
		桝　本　智　子
		守　﨑　誠　一
	通訳翻訳学領域	阪　本　章　子
		髙　橋　絹　子
中国語	外国語教育学領域	玄　　幸　子
		小　嶋　美由紀
		山　崎　直　樹
朝鮮語	外国語教育学領域	高　　明　均
		松　岡　雄　太
ドイツ語	外国語教育学領域	高　橋　秀　彰
	異文化コミュニケーション学領域	高　橋　秀　彰

【後期課程】

※後期課程には指導領域を設けておりません。

研究対象言語	教員名
英　語	阪　本　章　子
	新　谷　奈津子
	竹　内　　理
	名部井　敏　代
	水　本　　篤
	守　﨑　誠　一
日本語	阪　本　章　子
	嶋　津　百　代
	高　梨　信　乃
	守　﨑　誠　一
ドイツ語	高　橋　秀　彰

Graduate School of Psychology

心理学研究科

千里山キャンパス
心理学研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/psy/

博士課程前期課程
心理学専攻（入学定員 12名）
心理臨床学専攻（入学定員 15名）

博士課程後期課程
心理学専攻（入学定員 6名）

認知、社会、発達、健康、計量、臨床を核にした「こころ」についての総合的教育研究拠点

特色

心理学専攻では、「認知・生理心理学」「社会・産業心理学」「発達・教育心理学」「健康・人格心理学」「計量・方法心理学」の５領域をもとにした包括的な大学院教育を行うことで、心理学全体に目配りしつつ最先端の研究動向にすばやく対応できる研究能力の育成に力を入れます。研究者養成の第一段階を達成するとともに、心理学の知見や方法を用いて地域社会・家庭・学校教育・企業組織・公的サービスなどの現場の問題解決に貢献できる人材の育成をめざします。

心理臨床学専攻では、将来、国家試験に合格し、公認心理師としてさまざまな領域で活躍できる人材の育成を目的にしています。心理的アセスメントや心理面接などの実務技能だけでなく、科学的根拠に基づいた実務を展開できるように、また臨床心理学やその周辺領域の研究職をめざすために必要となる研究・開発のためのリサーチスキルの修得にも配慮した養成課程を開設しています。

博士課程前期課程

心理学専攻

各自の研究を展開しやすい演習型教育を中心に、５領域の特殊講義を配置することで最先端の研究に触れる機会を導入します。また「現代心理学の学際的問題」では、心理学専攻の５領域を軸に置きつつ、最先端の心理学研究を知ることで、自身の研究テーマの深化と研究力の養成をめざします。各領域に共通するリサーチスキル科目をとおして、５領域間あるいはほかの学問分野と連携できる研究能力の養成に力を入れます。

カリキュラム

種　別		心理学専攻
必修科目群	演習・研究指導科目（必修）	心理学セミナー(1)A・(1)B・(2)A・(2)B
選択科目群	演習・研究指導科目	副指導セミナー(1)A・(1)B・(2)A・(2)B
	領域科目	認知・生理心理学特殊講義、社会・産業心理学特殊講義、発達・教育心理学特殊講義、健康・人格心理学特殊講義、計量・方法心理学特殊講義
	総合科目	現代心理学の学際的問題A・B
	リサーチスキル科目	英語論文の書き方、心理学論文の読み方と書き方、心理統計法、心理学研究法、上級心理学実習

心理臨床学専攻

公認心理師の受験資格に必要な科目に加えて、心理臨床の実務能力の育成に関わる、心理的アセスメントや心理面接、地域支援などの技能別科目及び職業倫理観、各領域の行政・法的知識などを培うための科目を配置しています。また実務を科学的根拠に基づいて実践できるように、さらに将来、臨床心理学やその周辺領域の研究職につく可能性も想定し、臨床心理学研究法や修士論文作成を通じて、リサーチスキルの育成に配慮した科目を開設しています。本専攻では、心理臨床の実践能力と研究・開発のための能力の育成に関わる科目をバランスよく配置し、実務と研究の架橋に配慮した専門教育を行っています。

カリキュラム

種　別		授業科目
科目群	科目系	
研究・開発科目群	研究・開発科目系（必修）	心理臨床学研究演習1・2・3・4
	リサーチスキル科目系（選択）	臨床心理学研究法、臨床心理学データ解析演習、英語論文講読演習、コミュニケーションと自他理解、ダイバーシティと共同創造
倫理・自己成長科目群	倫理科目系	心理臨床学と関連倫理、心理臨床実践関連法規・行政論
	自己成長科目系	セルフディベロップメント演習
臨床心理専門科目群	公認心理師科目系	保健医療分野に関する理論と支援の展開、福祉分野に関する理論と支援の展開、教育分野に関する理論と支援の展開、司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、心理的アセスメントに関する理論と実践、心理支援に関する理論と実践、家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践、心の健康教育に関する理論と実践、心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・A・Ⅲ・Ⅳ・B・Ⅴ
	応用・発展科目系	パーソン・センタード・セラピー演習1・2、心理アセスメント演習1・2、認知行動療法演習、地域支援臨床心理学演習、発達障害臨床特論、精神医学、心身医学

2023年度修了生修士論文論題例

【心理学専攻】
・感情の減衰バイアス（fading affect bias）と記憶の主観的特性―普遍性の検討と方法論的な探索―
・祈りの言葉の心理学的研究
【心理臨床学専攻】
・若年層の親の子育て観と心理状態の関連について
・フォーカシングがどのように日常生活に影響を及ぼしているのか―解釈的現象学的分析を用いて―
・人生キャリア成熟度の高さとカウンセラーに対する期待の関連について
・怒り反すうと社会的望ましさおよび対人信頼感との関連―怒り対処法の選択に着目して―

❖2025年度　専攻別演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶研究テーマ　❷研究業績　❸E-mail/HP

【心理学専攻】

阿部　晋吾　教授
❶社会心理学、パーソナリティ心理学
❷『Big Five/パーソナリティ・ハンドブック』福村出版、2023年（編著）
『支えあいからつながる心：対人関係の心理学から』ナカニシヤ出版、2019年（編著）
"The effects of narcissism and humor coping on anger expression in married couples" Japanese Psychological Research, 65, 1-8, 2023（共著）
"Does marital duration moderate (dis)similarity effects of personality on marital satisfaction?" Sage Open, 8, 1-7, 2018（共著）
❸s-abe@kansai-u.ac.jp
https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/s-abe

石津　智大　教授
❶神経美学・芸術と感性の認知神経科学
❷『神経美学　―美と芸術の脳科学―』、共立出版、2019年
Ishizu, T. (2019). Functional neuroimaging of empirical aesthetics and neuroaesthetics, The Oxford Handbook of Empirical Aesthetics
「美の認知神経科学、神経美学のこれまで」心理学ワールド第81号、日本心理学会、17-20頁、2018年
Ishizu. T., & Zeki, S. (2017). The experience of beauty derived from sorrow. Human Brain Mapping, 38(8), 4185-4200.
❸t.ishizu@kansai-u.ac.jp

木戸　彩恵　教授
❶文化心理学、質的心理学
❷『文化心理学―理論・各論・方法論』、ちとせプレス、2019年（編著）
『化粧を語る・化粧で語る』ナカニシヤ出版、2015年
『社会と向き合う心理学』新曜社、2012年（編著）
「「かわいい」と感じるのはなぜか？―ビジュアル・ナラティヴによる異種むすび法」質的心理学研究、第15号、4-24頁、2017年（共著）
❸ayae@kansai-u.ac.jp

菅村　玄二　教授
❶構成主義心理学、身体性の行動学
❷Building more solid bridges between Buddhism and Western psychology. American Psychologist, 第62巻, 2007年（共著）
『マインドフルネス：基礎と実践』日本評論社、2016年（分担執筆）
『新版・身体心理学』川島書店、2016年（分担執筆）
『構成主義セラピーからみたマインドフルネス』心理学評論、第65巻、2022年（単著）
『ジョージ・ケリーを読む』北大路書房、2017年（監訳）
❸genji@kansai-u.ac.jp
https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/sugamura

池内　裕美　教授
❶消費心理学、社会心理学
❷『消費者行動の心理学』北大路書房、2019年（分担執筆）
『消費者心理学』勁草書房、2018年（共編著）
「なぜ「カスタマーハラスメント」は起きるのか：心理的・社会的諸要因と具体的な対処法」情報の科学と技術、第70巻、1-7頁、2020年
「溜め込みは何をもたらすのか：ホーディング傾向とホーディングに因る諸問題の関係性に関する検討」社会心理学研究、第34巻、1-15頁、2018年
「モノをため込む心理：誰が，何を，なぜため込むのか？」廃棄物資源循環学会誌、第28巻、186-193頁、2017年
❸ikeike@kansai-u.ac.jp

加戸　陽子　教授
❶神経発達症、特別支援教育（障害児心理学）、心理アセスメント
❷Children with autism spectrum disorder comorbid with attention-deficit/hyperactivity disorder examined by the Wisconsin card sorting test: analysis by age-related differences, Brain & Development, 42, 113-120, 2020（共著）
第13章　定型発達と非定型発達、林 創（編著）公認心理師スタンダードテキストシリーズ12『発達心理学』ミネルヴァ書房、2019（分担執筆）
Executive function in children with pervasive developmental disorder and attention-deficit / hyperactivity disorder assessed by the Keio version of the Wisconsin card sorting test, Brain & Development, 34, 354-359, 2012（共著）
『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』ミネルヴァ書房、2010（編著）
❸kado@kansai-u.ac.jp

串崎　真志　教授
❶臨床心理学、パーソナリティ心理学
❷『絶対役立つ臨床心理学』ミネルヴァ書房、2016年、編著
『絶対役立つ教育相談』ミネルヴァ書房、水野治久・本田真大・串崎真志編著、2017年
『繊細な心の科学』風間書房、2020年
『共鳴する心の科学』風間書房、2021年
❸mkushizaki@goo.jp

関口　理久子　教授
❶認知心理学、実験心理学、自伝的記憶
❷「心理調査の基礎」有斐閣、67-86頁、2017年
「自伝的エピソード記憶想起に伴う主観的特性と感情の関係について―自伝的記憶の主観的特性質問紙を用いた検討―」関西大学心理学研究 第３号、15-26頁、2012年
「やさしいExcelで心理実験」（共著者　久本博行）培風館、2011年
「自伝的エピソード記憶検査（Test Episodique de Mémoire du Passé autobiographique, TEMPau）の日本語版作成の試み　関西大学心理学研究、第１号、41-52頁、2010年
❸sekiguci@kansai-u.ac.jp

❖2025年度　専攻別演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶研究テーマ　❷研究業績　❸E-mail/HP

【心理学専攻】

林　直保子　教授

❶社会心理学・社会関係資本論
❷「絵画鑑賞の社会・心理学的要因に関する計量的研究」関西大学社会学部紀要、第49巻第１号、63-85頁、（共著）、2017年
『社会的信頼学―ポジティブネットワークが生む創発性』ナカニシヤ出版（共著）、2015年
「格差と信頼」関西大学社会学部紀要 第42巻第１号、77-91頁、2010年
❸nhayashi@kansai-u.ac.jp

福島　宏器　教授

❶認知生理心理学、身体感覚と自己意識の変容
❷Temporal matching between interoception and exteroception: electrophysiological responses in a heartbeat discrimination task. Journal of Psychophysiology, 33(4), 219-231, 2019年（共著）
「身体を通して感情を知る―内受容感覚からの感情・臨床心理学―」心理学評論、第61巻3号、301-321頁、2018年
Neural correlates of error processing reflect individual difference in interoceptive sensitivity. International Journal of Psychophysiology, 94(3), 278-285, 2014.（共著）
❸fukush@kansai-u.ac.jp
http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~fukush/index.html

守谷　順　教授

❶異常心理学、パーソナリティ心理学、感情心理学
❷「社交不安の注意バイアス」 心理学評論、第62巻、66-87頁、2020年
Attentional networks and visuospatial working memory capacity in social anxiety. Cognition & Emotion, 第32巻, 158-166頁、2018年
『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房、2016（共著）
❸jmoriya@kansai-u.ac.jp

秋山　隆　准教授

❶心理統計学、心理・教育測定学
❷「項目反応理論における均一DIF検討のためのベイズモデリング－群間で困難度が異なる確率と正答確率が異なる確率－」教育心理学研究、68巻３号250-265頁、2020年（共著）
「一問一答形式での授業評価において学生が最重要視する知見の寡占度の計算－ジップ分布を用いた分析－」教育心理学研究、67巻４号304-316頁、2019年（共著）
『たのしいベイズモデリング２－事例で拓く研究のフロンティアー』北大路書房、2019年（分担執筆（共著））
❸akiyamat@kansai-u.ac.jp

松田　剛　准教授

❶認知科学、メディア心理学
❷Matsuda, G., Ishiguro, H., & Hiraki, K. (2016) EEG-Based Mu Rhythm Suppression to Measure the Effects of Appearance and Motion on Perceived Human Likeness of a Robot. Journal of Human-Robot Interaction, 5(1), 68-81.
松田 剛, 開 一夫 (2010) 事象関連電位を指標としたゲームキャラクターの自己同一視に関する検討. 認知科学, 17(1), 241-245.
Matsuda, G. & Hiraki, K. (2006) Sustained decrease in oxygenated hemoglobin during video games in the dorsal prefrontal cortex: A NIRS study of children. Neuroimage, 29, 706-711.
❸gmatsuda@kansai-u.ac.jp

山下　直人　准教授

❶心理統計学、多変量解析
❷Yamashita, N. (2023) Exploratory procedure for component-based structural equation modeling for simple structure by simultaneous rotation. Psychometrika. (単著)
Yamashita, N. (2023) Principal component analysis constrained by layered simple structures. Advances in Data Analysis and Classification, 17, pp347-367. (単著)
Yamashita, N. & Adachi, K. (2019) Permutimin: Factor rotation to simple structure with permutation of variables. Multivariate
Behavioral Research, 55(1), pp17-29. (共著)
❸nyam@kansai-u.ac.jp
https://sites.google.com/site/nyamashitahp/home

比留間　太白　教授

❶説明の心理学
❷比留間太白 2018「３章　利用者への説明過程」山本博樹（編著）『公認心理師のための説明実践の心理学』ナカニシヤ出版
比留間太白 2012「マルチモーダル心理学の構想」関西大学文学論集　第62巻第3号、1-20頁
比留間太白・山本博樹（編著）2007『説明の心理学：説明社会への理論・実践的アプローチ』ナカニシヤ出版
❸hiruma@kansai-u.ac.jp

藤田　政博　教授

❶法と心理学（刑事司法における社会心理学）
❷Fujita, M. (2018). Japanese society and lay participation in criminal justice: Social attitudes, trust, and mass media. Cham, Switzerland: Springer. (単著、2018年)
『法と心理学』(編著書、法律文化社、2013年)
The psycholinguistic basis of distinctiveness in trademark law. In P.
Tiersma & L. Solan (Eds.), The oxford handbook of language and law (pp. 478-486). Oxford: Oxford University Press. (共著、2012年)
❸m.fujita@kansai-u.ac.jp

脇田　貴文　教授

❶心理調査法、テスト理論、QOL評価
❷Psychological Distance between Categories in the Likert Scale: ComparingDifferent Numbers of Options Educational and Psychological Measurement, 72, 533-546, 2012年（共著）
A scale for measuring Health-Related Hope: its development and psychometric testing, *Annals of Clinical Epidemiology*, 1, 102-119, 2019年（共著）
「Likert法における適応型選択肢の提案と基礎的検討」関西大学社会学部紀要、*51*, 165-178頁, 2020年（共著）
❸wakita@kansai-u.ac.jp

杉本　英晴　准教授

❶キャリア心理学、発達心理学、キャリア教育
❷「大学生における仮想的有能感と就職イメージおよび時間的展望」発達心理学研究、第23巻、224-232頁、2012年（共著）
「なぜ学生はキャリアセンターに相談しないのか」進路指導、第90巻、3-13頁、2017年（単著）
『大学におけるキャリア教育とは何か：７人の若手教員による挑戦』ナカニシヤ出版、2019年（共著）
❸h_sgmt@kansai-u.ac.jp

村上　祐介　准教授

❶宗教／スピリチュアリティ心理学、教育・学校心理学
❷「輪廻転生信念、政府に対する信頼と環境配慮行動の関連」宗教／スピリチュアリティ心理学研究、第１巻、9-17頁、2023年（単著）
『生きる意味って何だ？―人生のビッグ・クエスチョンズに向き合う』創元社、2022年（単著）
「「立身イス」を用いた姿勢介入が高校生の授業の時間知覚、精神的健康、人生の意味感に及ぼす影響」体育学研究、第67巻、859-877頁、2022年（共著）
「学び続ける教師は幸せか？―コーリングの媒介効果に着目して―」トランスパーソナル心理学/精神医学、第20巻、16-26頁、2021年（単著）
❸y_mura@kansai-u.ac.jp
https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/yumura/

❶専門分野　❷研究概要・テーマ　❸研究業績

【心理臨床学専攻】

池見　陽　教授

❶心理療法論、フォーカシング・傾聴・マインドフルネス等の心理療法の方法
❷人が心理療法という人間関係の中で話していると、生きていることの意味、悩んでいるわけ、など「意味」が生成されてきます。そのような意味の創造、あるいは、セラピストとクライエントの間で起こる意味の共創の理論を研究しています。心理療法の具体的な実践を現象学的に検討しています。
❸Humanistic Psychotherapies: Handbook of Research and Practice 2nd Edition, American Psychological Association, 2016 [分担執筆]
Ikemi, A. (2017). The Radical Impact of Experiencing on Psychotherapy Theory: An Examination of Two Kinds of Crossings. Person-Centered & Experiential Psychotherapies 16:2, 159-172.
池見　陽 編著 (2016). 傾聴・心理臨床学アップデートとフォーカシング ナカニシヤ出版　など多数

香川　香　教授

❶臨床心理学、メンタルヘルス
❷女性や大学生を対象としたメンタルヘルスに関する研究、及び描画テストなど投映法に関する研究を行っています。不妊や月経と心理的健康との関連や、ストレス、幸福感等に関するテーマについて調査・分析を行い、メンタルヘルス向上に寄与する適切な支援方法を検討しています。
❸香川香（2018）「女子大学生における月経前症状と適応感および主観的幸福感との関連」女性心身医学Vol.22　No.3　p292-298
香川香（2021）「不妊治療経験がある女性の子どものない人生の捉え方」日本生殖心理学会誌Vol.7　No.3　p16-22
香川香・古賀有紗・朝倉悠希・村上舞理（2021）「内的作業モデルとその受容が自尊感情と主観的幸福感に及ぼす影響」心理臨床学研究　第39巻　第２号　p161-167

岡田　弘司　教授

❶臨床心理学・臨床心理学的アプローチ
❷臨床心理学を幅広く臨床適用することに興味があり研究課題としております。医療分野での心理的支援についても調べて検討しています。
❸岡田弘司　2020「精神科リエゾンを中心としたチーム医療での心理専門職の展開と課題」関西大学心理臨床センター紀要　第11号　23～32頁
岡田弘司他　2018「日本におけるがん臨床での臨床心理学的アプローチの展開－芸術療法に焦点を当てた文献研究による検討」関西大学心理臨床センター紀要　第９号　29～37頁
岡田弘司他　2001「糖尿病治療におけるソーシャルサポートの効用」大阪医科大学雑誌第60巻　103～108頁

小海　宏之　教授

❶臨床心理学、神経心理学
❷様々な疾患における心と脳の関係について興味があり、臨床心理・神経心理学的アセスメントを研究課題としております。
❸・小海宏之（2019）「神経心理学的アセスメント・ハンドブック　第２版」金剛出版
・松田修・飯干紀代子・小海宏之（編著）（2019）「公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学：理論からアセスメント・介入の実践例まで」ミネルヴァ書房
・小海宏之・若松直樹・川西智也（編著）（2022）「認知症ケアのための心理アセスメントと心理支援：高齢者の心理臨床ハンドブック」金剛出版　など多数

❶専門分野　❷研究概要・テーマ　❸研究業績

【心理臨床学専攻】

寺嶋　繁典　教授

❶臨床心理学（心理アセスメント、投映法）、ストレス・マネジメント
❷投映法などの心理検査を用いた臨床心理学的研究、及びストレス・マネジメントや予防の観点からのメンタルヘルスに関わる研究を行っています。
❸寺嶋繁典、松尾彩子、香川香、吉川征延、川端康雄（2017）「健康生成モデルに基づくヘルス・プロモーション・プログラムの開発」関西大学臨床心理専門職大学院紀要　Vol. 7 75-82
西藤奈菜子、川端康雄、寺嶋繁典、米田博（2018）「心理検査を用いた青年・成人の軽度自閉スペクトラム症（ASD）のスクリーニングについて」関西大学臨床心理専門職大学院紀要 Vol. 8 31-40
寺嶋繁典（2021）「近年の『臨床描画研究』における描画テスト関連論文の動向」臨床描画研究　Vol.36 18-38

細越　寛樹　教授

❶ゲシュタルト療法、認知行動療法、対処的悲観性、慢性痛
❷体験的な心理療法、特にゲシュタルト療法に関心があり、臨床実践に加えて心理職のトレーニングへの応用にも取り組んでいます。認知行動療法の効果研究も行っており、現在は慢性痛患者を対象とした臨床試験を行いながら、社会実装に向けての実施者養成や実施方法の拡充も検討しています。悲観性やメンタルヘルス全般に関する研究にも取り組んでいます。
❸「悲観的思考の受容が対処的悲観者の心身の健康に及ぼす影響」心理学研究、第79巻、542-548頁、2009年（共著）
「感情体験の促進と内的葛藤の解消に対するゲシュタルト療法の効果―準ひきこもりの青年期男性の事例から」心理臨床学研究、第31巻、278-288頁、2013年（単著）
「Expressive suppression of emotion is a moderator of anxiety in a unified protocol for transdiagnostic treatment of anxiety and depressive disorders: A secondary analysis」Journal of Affective Disorders, 277, 1-4, 2020年（共著）
「Pilot study of a basic individualized cognitive behavioral therapy program for chronic pain in Japan」BioPsychoSocial Medicine , 14, 6, 2020年（共著）

中田　行重　教授

❶ロジャーズ派の心理療法、PCA／PCT、地域臨床を含む心理支援
❷PCA／PCT（パーソン・センタード・アプローチ／セラピー）はRogers以後、共感的理解や無条件の受容などの中核条件を越えて大きく発展しています。その効果研究、背後にある哲学、他学派との関係、心理職にとっての意義、今日の臨床心理学における意義などについて研究しています。
❸中田行重・斧原藍（2021） 翻訳「深い関係性relational depthがなぜ人を癒すのか」創元社（Mearns & Cooper「Working at relational depth」Sage.）
中田行重（2019）「パーソンセンタード・セラピストという自覚」飯長喜一郎・園田雅代編著「私とパーソンセンタード・アプローチ」新曜社
中田行重（2017）「PCTにおけるセラピストの内的体験とクライエントとの相互作用、および終結後の変化」心理臨床学研究35（1）

藤里　紘子　准教授

❶臨床心理学、認知行動療法
❷子どもの不安やうつが主な研究テーマです。具体的には、子どもの不安やうつに対する認知行動療法の効果研究や、関連する尺度の開発、子どもや親のメンタルヘルスに関する調査研究を行っています。
❸The influence of emotion regulation on posttraumatic stress symptoms among Japanese people. Journal of Affective Disorders, 277, 577-583, 2020 (共著)
『子どものための感情探偵プログラム』福村出版, 2020 (監訳)
The Unified Protocol for Transdiagnostic Treatment of Emotional Disorders Among Japanese Children: A Pilot Study. Frontiers in Psychology, 12:731819, 2021 (共著)

心理学研究科（心理臨床学専攻）では、出願に先立ち、教員への連絡は不要です。なお、事前連絡（メールや手紙等）での相談には応じておりませんが、本学で開催する進学説明会では演習担当教員による個別相談を行います。

博士課程後期課程

心理学専攻

後期課程は、認知心理学、発達心理学、社会心理学、応用心理学、臨床心理学を核とする教育・研究領域としつつも、統合的かつ学際的に新たな研究領域を開拓して、現実に有益に対応できる研究を行う人材の育成を行います。博士（心理学）の学位取得はもとより、細分化された専門領域の徹底した深い研究と同時に、心理学研究の本来の目的である、現実の場での幅広い人間の諸行動の研究をめざします。

❖2025年度　博士課程後期課程　専修科目および担任者

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

専修科目	担任者	研究テーマ	E-mail
心理学セミナー	阿部　晋吾	社会心理学、パーソナリティ心理学	s-abe@kansai-u.ac.jp
	池内　裕美	消費心理学、社会心理学	ikeike@kansai-u.ac.jp
	石津　智大	神経美学・芸術と感性の認知神経科学	t.ishizu@kansai-u.ac.jp
	岡田　弘司	臨床心理学、臨床心理学的アプローチ	t080130@kansai-u.ac.jp
	香川　香	臨床心理学、メンタルヘルス	t110074@kansai-u.ac.jp
	加戸　陽子	神経発達症、特別支援教育（障害児心理学）、心理アセスメント	kado@kansai-u.ac.jp
	木戸　彩恵	文化心理学、質的心理学	ayae@kansai-u.ac.jp
	串崎　真志	臨床心理学、パーソナリティ心理学	mkushizaki@goo.jp
	菅村　玄二	構成主義心理学、身体性の行動学	genji@kansai-u.ac.jp
	関口　理久子	認知心理学、実験心理学、自伝的記憶	sekiguci@kansai-u.ac.jp
	比留間　太白	言語・記号と心理学	hiruma@kansai-u.ac.jp
	福島　宏器	認知生理心理学、身体感覚と自己意識の変容	fukush@kansai-u.ac.jp
	藤田　政博	刑事司法における問題についての応用社会心理学	m.fujita@kansai-u.ac.jp
	細越　寛樹	ゲシュタルト療法、認知行動療法、対処的悲観性、慢性痛	hosogosh@kansai-u.ac.jp
	守谷　順	異常心理学、パーソナリティ心理学、感情心理学	jmoriya@kansai-u.ac.jp
	脇田　貴文	心理調査法、テスト理論、QOL評価	wakita@kansai-u.ac.jp
	秋山　隆	心理統計学、心理・教育測定学	akiyamat@kansai-u.ac.jp
	杉本　英晴	キャリア心理学、発達心理学、キャリア教育	h_sgmt@kansai-u.ac.jp
	藤里　紘子	臨床心理学、認知行動療法	fujisato@kansai-u.ac.jp
	松田　剛	認知科学、メディア心理学	gmatsuda@kansai-u.ac.jp
	村上　祐介	宗教／スピリチュアリティ心理学、教育・学校心理学	y_mura@kansai-u.ac.jp

2023年度修了生博士論文論題例

・発達障害児・者の親の心的外傷後成長（PTG）とスティグマ
・慢性疼痛における心理面のアセスメントについて―心理社会的側面におけるスクリーニングおよび質問紙ツールの開発に向けての検討―
・高校生のキャリア選択における「受け容れ」過程―就職者を対象として―

Graduate School of Societal Safety Sciences

社会安全研究科

高槻ミューズキャンパス
社会安全研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/

博士課程前期課程
防災・減災専攻（入学定員 15名）

博士課程後期課程
防災・減災専攻（入学定員 5名）

防災・減災を社会安全の総合的観点から研究する本格的な領域融合的大学院

特色

社会安全問題は、自然災害、事故、環境問題、食の安全、感染症、情報セキュリティなど、人間の安全・安心に係るさまざまな問題群で構成されます。修了生は、民間や公共部門を問わず社会のあらゆる分野で安全・安心のスペシャリストとして活躍しており、大学や公的な研究機関において研究教育に従事している方も少なくありません。2018年からは英語による後期課程プログラムPDM（Ph.D. course of Disaster Management）も開設され、海外からの留学生も多数在籍しています。社会安全研究科では、過去数十年にわたる自然災害に関する防災・減災研究で培われた手法を敷衍して研究教育の柱としつつ、社会災害に含まれる人工物による災害や食の安全、健康リスク、環境リスクなどの問題群も取り扱います。そのために、本研究科では、法学・政治学、経済学・経営学、社会学、心理学、理学、情報学、工学、社会医学などの既存学問分野を融合した研究教育を行います。このような広い学問分野を基盤にして、防災・減災政策の立案と実践、危機発生時の社会的合意形成の技術開発、防災・減災のための制度設計などを担いうる高度な専門的知識とシミュレーション能力などを有する人材を育成し、安全・安心な社会の実現に寄与します。

研究科の理念

自然災害や社会のあらゆる分野で発生する事故に対処しつつ、私たちが安全で安心して暮らせる社会を実現するには、防災・減災対策や危機管理の推進が極めて重要です。2011年の東日本大震災や、2019年以降の新型コロナウイルスによるパンデミック（世界的大流行）への対応も、その難しさを示しています。また、食の安全、企業のデータ改ざん問題などに代表される企業の倫理や社会的責任に関わる問題は、単に経営者のモラルを論じるだけでは再発防止が難しく、その背景にあるガバナンス、法制度、チェック体制、労働政策などを見直し、さらには生き甲斐や働く喜びといった心理的・文化的側面にまで踏み込んだ分析・議論が必要です。

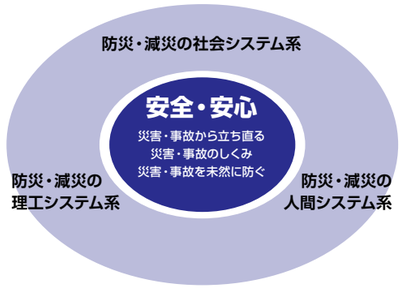
2010年４月に開設された社会安全研究科は、こうした従来の学問体系では対応しきれない問題に正面から取り組む、新しい大学院研究科です。学際的、複眼的なアプローチを通じて、安全・安心な社会を実現することを目標に、高度な研究教育を推進しています。

教育の柱となる領域

社会の安全と安心を確立・維持するためには、自然災害、社会災害について、災害・被害のメカニズムを知り、これらを可能な限り未然に防ぎ、あるいは、そうした災害が発生したとしてもその被害を最小限にとどめ、そして、被害から速やかに立ち直る手だてを講じることが肝要です。防災・減災の理工システム系、社会システム系、人間システム系の3つの領域は、いずれもこれらすべてに関わるものですが、強いてその比重の軽重を比較すれば、防災・減災の理工システム系は災害・被害のメカニズムを解明することで防災・減災に寄与する比重が高く、社会システム系は社会制度設計に関係し、被害からの立ち直りに寄与する比重が高く、人間システム系は災害を減じ、被害を未然に防ぐことに寄与する比重が高いと考えられます。

以上の、３つのシステム系における研究の対象分野、およびこれに対応する既存の学問分野、ならびに本研究科の修了生による修士論文、および博士論文のテーマを次ページの表に例示します。

●公益事業　●交通システム　●公衆衛生
●リスクマネジメント　●消防防災行政　●災害経済
●安全と法システム



●社会減災政策
●工学安全システム　●都市防災　●災害心理　●ヒューマンエラー
●水防災　●数理モデル　●社会安全思想　●安全心理　●災害復旧・復興
●地震減災　●工学システム解析　●リスクコミュニケーション
●耐震工学

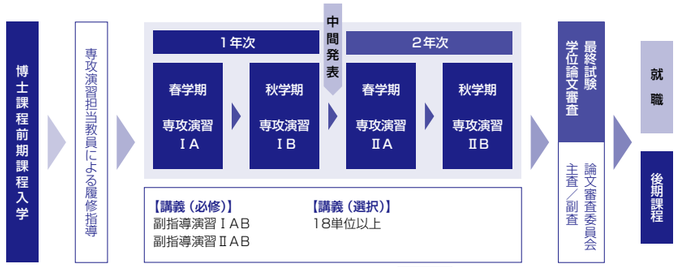
研究の対象分野		対応する既存の学問分野	修士論文テーマ例
理工システム系	災害・被害のメカニズムを解明し、防災・減災に寄与する理学・工学などの諸分野	・土木工学 ・地盤工学 ・システム工学 ・数理学 など	・対策効果に関する自然災害と人為災害の横断的分析 ・住民を取り巻く状況の変化が避難開始に及ぼす影響 ・ユニファイドメモリアーキテクチャにおける津波シミュレーションの最適化とリアルタイム可視化 ・日本国内の世界遺産保有地域を取り巻く防災計画に関する研究
社会システム系	行政の施策、企業・組織の対策、その根拠となる法、経済、経営及び社会制度	・法学 ・行政学 ・経済学 ・経営学 ・公衆衛生学 など	・消防団の専門性の高度化に関する研究 ・災害報道に従事するアナウンサーのコンピテンシー ・地方自治体における危機管理対応のための専門性教育に関する現状分析
人間システム系	災害・被害に備えて様々な対処を行う人間の心理や倫理、及び人と人をつなぐコミュニケーション	・心理学 ・社会学 ・倫理学 など	・検索エンジンの検索結果削除の問題における削除基準に関する一考察 ・外国人労働者の職務ストレスとヒューマンエラー ・大型車トラック左折時の時系列的ハザード知覚能力向上に向けた教育方法の検討 ・幼児期における「遊ぶ」防災学習に関する研究

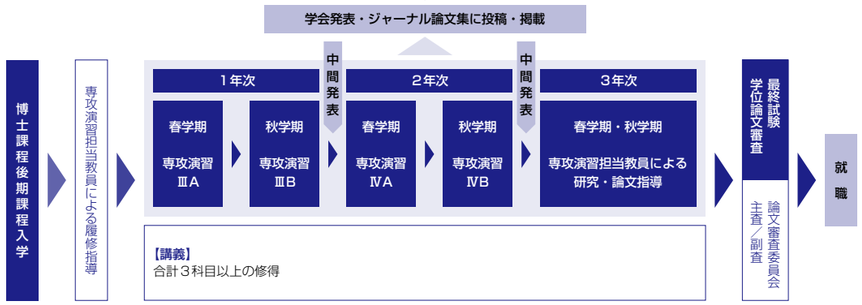
研究指導の方法

博士課程前期課程では、所属する専攻演習の指導教員の指導のもとに研究を進めます。また、大学院生は理工システム、社会システム、人間システムの各系から２科目以上の講義科目を履修することで、分野横断的な専門知識を修得するとともに、異分野の方法論も学びます。さらに、副指導演習Ⅰ、Ⅱにおいて、指導教員以外の専任教員からも指導を受けることで、学際融合的な研究を推進します。

博士課程後期課程では、指導教員のもと、博士論文テーマに関するより高度な専門研究を進めます。また、大学院生は理工システム、社会システム、人間システムの各系から１科目以上の講義を履修することで、自身の専門以外の分野に関しても知見を拡げます。指導教員による３年間の継続的な指導により、高度な専門性を有しながら、学際領域を意識した博士論文を作成します。

以上の研究指導の体系を図示すれば、下図のようになります。





課程博士論文題目

卒業年度	氏　名	論　題	指導教員	演習テーマ
2018年度	石井　至	観光のリスクマネジメント	亀井　克之	リスクマネジメント研究
	山本　阿子	水理実験と数値モデルによる津波堆積物の予測手法の構築 ～津波堆積物を用いた波源推定を目指して～	高橋　智幸	水防災研究
	初谷　友希	航空機の基礎的操縦技能の獲得に関する研究	中村　隆宏	ヒューマンエラー研究
2019年度	陸川　貴之	基礎自治体における災害対策制度の構築プロセスに関する研究 ～業務継続対策と避難行動要支援者対策を事例とした分析～	高野　一彦	安全と法システム研究
	リー・フォング・アマリー	River Flood Modelling under Limited Data Acquisition using PWRI Hydrologic Model	安部　誠治	公益事業と安全システム研究
	大須賀英郎	日本の船舶事故調査制度に関する―考察―海外先進諸国と比較しつつ―	安部　誠治	公益事業と安全システム研究
	大森　勉	エンタープライズ・リスクマネジメントにおける戦略リスクと企業価値	亀井　克之	リスクマネジメント研究
	坂岡　和寛	無筋コンクリート橋脚を対象とした地震対策に関する研究	小山　倫史	地盤災害論
2021年度	静間　健人	復興過程をふまえた災害時要配慮者支援対策の構築に関する研究	土田　昭司	安全心理研究
	須和　憲和	わが国におけるバス事業の事故防止と安全管理に関する―考察―乗合バス事業を中心に―	安部　誠治	公益事業と安全システム研究
	鷲田　正樹	海面上昇の影響評価と沿岸域防災に対する高潮・海浜変形解析手法の高度実用化に関する研究	高橋　智幸	水防災研究
2022年度	長谷川 浩司	地域銀行のビジネスモデル改革を推進する社外取締役の役割の検討 ―現代の日本企業におけるコーポレート・ガバナンスの新課題―	高野　一彦	安全と法システム研究
	ｽｼﾞｬﾄﾐｺ･ｶﾘﾅ･ｱﾌﾞﾘﾘｱ	Factors Affecting the Intiation of Tsunami Evacuation	奥村与志弘	Disaster Reduction and Resilient Society
	有吉　恭子	日本における避難所空間の管理・運営に関する研究	越山　健治	都市防災研究
	延東　晃	サプライチェーンにおける調達リスクマネジメントに関する研究	亀井　克之	リスクマネジメント研究
	大塚　理加	高齢化する社会における防災・減災に向けた実証研究 ―高齢者の災害レジリエンス向上のために―	永松　伸吾	安全と経済システム研究
2023年度	竹本　七海	日本の内航海運と事故防止	吉田　裕	公益事業と安全システム研究

❖2025年度　演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶教員からのメッセージ　❷E-mail　❸HP

人間システム系

近藤　誠司　教授
前期課程：災害情報論
後期課程：災害情報研究

❶災害対応において、情報は“命綱”となるものです。命を守り救うためには、どのようにして情報にリアリティを持たせたらよいのでしょうか。私の研究室では、実際の現場でアクション・リサーチをおこないながら、多様なアプローチの妥当性を検討していきます。理論と実践、両方に関心がある人は扉を叩いてください。
❷kondo.s@kansai-u.ac.jp
❸http://kondoseiji.main.jp/

土田　昭司　教授
前期課程：リスク心理学
後期課程：安全心理研究

❶社会心理学の立場から危険や危機に対する人間の対応について研究します。人には心があるので、災害や事故の危険や危機への人間の対応には社会心理学的な理解が必要です。それは、災害に遭った後の精神的健康についても同様です。心理学実験や社会調査などをもちいて研究を進めることに関心がある人を募集します。
❷tsuchida@kansai-u.ac.jp
❸http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tsuchida/

中村　隆宏　教授
前期課程：ヒューマンエラー論
後期課程：ヒューマンエラー研究

❶科学技術の進展および社会システムの巨大化・多様化・複雑化に伴い、人の判断・行為・行動が事故・災害の発生と防止に及ぼす影響は、より深刻かつ重要になっています。当研究室では、さまざまな産業現場のほか、交通行動（自動車・航空機・船舶等）などを対象に、「人」に関わる安全を研究テーマとします。
❷t_naka@kansai-u.ac.jp

廣川　空美　教授
前期課程：労働安全衛生論
後期課程：労働安全衛生研究

❶ライフサイクルの中で様々なメンタルヘルスの問題が生じています。社会で生活する人々のこころの健康について考え、どのような問題が生じていて、どのような対策が必要とされているのかを、一緒に考えていきましょう。社会のニーズを探し、私たちに何ができるのか、一緒に取り組んでいきましょう。
❷k-umi@kansai-u.ac.jp

元吉　忠寛　教授
前期課程：災害心理学
後期課程：災害心理学研究

❶私の研究室では、社会安全や災害に関するさまざまな問題について、心理学的なアプローチによる研究をしています。進学を希望する学生は、私のWEBページで研究内容などを確認してみてください。自律的で忍耐強く、努力を惜しまない学生を積極的に受け入れています。ぜひ一緒に楽しく、よい研究をしましょう。
❷motoyosi@kansai-u.ac.jp
❸http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~motoyosi/

岡本　満喜子　准教授
前期課程：事故調査制度論

❶事故防止に必要な取り組みを、人がミスをする原因の分析と、原因究明を実効的に行い再発防止につなげる社会制度という２つの側面から検討します。ヒューマンエラーの発生メカニズム、また、犯したミスに対しどのような責任追及を行うことが事故防止に資するのかという制度設計に興味のある人を歓迎します。
❷okamotom@kansai-u.ac.jp

城下　英行　准教授
前期課程：防災教育論

❶防災をテーマにした学習に関する理論的、実践的な研究を複数のフィールドの協力の下に行っています。防災学習とはいかなる活動であるのかということを深く思考し、その実現に向けて積極的に取り組みたいと考える方を歓迎します。研究では、理論と実践のバランスを重視しています。
❷hideyuki@kansai-u.ac.jp

菅　磨志保　准教授
前期課程：支援と復興の社会学

❶災害社会学の知見に学びながら、災害・事故への備えと対応に関する諸活動（地域防災活動、救援・復旧活動）や、災害後の地域社会の長期的な変容について、現地調査と資料解析に基づく研究を進めています。調査は地道な努力が求められますが、社会の仕組みを解読してみたい好奇心あふれる人を募集します。
❷sugam@kansai-u.ac.jp

菅原　慎悦　准教授
前期課程：安全の社会科学
後期課程：安全哲学研究

❶現代の複雑化した社会－技術システムの安全確保には、自然科学や工学に加え、社会科学や人文学の知見や視点が欠かせません。本研究室では、リスク学、科学技術社会論（STS）、科学技術社会学などの視角から、原子力をはじめ様々な科学・技術と社会との界面で生じる問題について、深く考えたい学生を歓迎します。
❷s_suga@kansai-u.ac.jp
❸https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/ssh-risk/

社会システム系

亀井　克之　教授
前期課程：リスクマネジメント論
後期課程：リスクマネジメント研究

❶リスクマネジメント（RM）の現代的課題を研究する。（1）リスクコントロールとリスクファイナンス、（2）企業におけるRMの組織体制作り、（3）企業によるリスク情報の開示、（4）経営戦略とRM、危機管理とリーダーシップ、（5）RMの国際比較、（6）中小企業RM、（7）地域社会とRM、学校の危機管理など。
❷kamei@kansai-u.ac.jp
❸https://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~kamei/

桑名　謹三　教授
前期課程：保険論
後期課程：損害保険研究

❶防災・減災の視点に立ちながら、保険（たとえば、環境汚染に備える保険や自動車事故に備える保険など）を使った政策について研究しています。また、企業経営における保険の有効な活用方法も模索しています。他の大学では見られない本研究室の特徴は、保険の公共経済学的な分析もしていることです。
❷kinzou@kansai-u.ac.jp

髙野　一彦　教授
前期課程：企業法学
後期課程：安全と法システム研究（私法）

❶企業を取り巻く法は直近10年程の間に大きく変化しました。髙野研究室では、比較法的なアプローチから、プライバシー・個人情報や営業秘密等の情報法、コーポレート・ガバナンスや内部統制等に係る企業関係法を研究し、わが国の法制度への提言を行うとともに、企業のコンプライアンス体制、ひいてはCSR経営のあるべき姿を探究します。
❷takano@kansai-u.ac.jp
❸http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~takano/

永田　尚三　教授
前期課程：防災行政学・危機に対する公共政策学
後期課程：危機対応に関する行政学・公共政策学・政治学研究

❶本研究室では、行政学、政治学、公共政策論を土台に、防災・減災に向け行政組織等がどのような体制・政策で対応するべきかについて研究を行っています。現地調査や、統計データを用いた分析は本研究室では欠かせません。現実社会の問題の所在を明らかにし、実際に解決できる人材の育成をめざしています。
❷s_nagata@kansai-u.ac.jp

永松　伸吾　教授
前期課程：事故・災害の経済分析と公共政策
後期課程：安全と経済システム研究

❶減災政策研究室では、巨大災害リスクと折り合いながら人類社会が持続的に発展する政策について、主に経済学の立場から研究しています。防災・減災・復興・大規模事故などに関わる政策的なテーマであれば何でも扱います。実証的根拠に基づく政策提言に興味がある学生を募集しています。
❷nagamatu@kansai-u.ac.jp
❸http://semi.disasterpolicy.com/wordpress/

山崎　栄一　教授
前期課程：政策法学
後期課程：安全と法システム研究（公法）

❶安全・安心の確保は国や自治体に第一義的に課せられた役割であり、さまざまな法制度が存在しています。そういった法制度がどのように機能しているのかを調査・分析し、私たちにとって望ましい法制度が何なのかを考えていきます。単に、法制度を理解するだけではなく、自ら創造していくという発想が不可欠です。
❷yeiichi@kansai-u.ac.jp
❸http://www.eiichiyamasaki.com/

社会システム系

吉田　裕　教授
前期：交通システム安全論
後期：公益事業と安全システム研究

❶輸送の安全確保は、国民が安心して暮らせる社会を実現する上で必要不可欠な課題です。本研究室では、各交通モード（鉄道、自動車、航空、船舶）における安全上の課題を研究テーマとし、安全性の向上に有効と考えられる対策の提言を目指します。日頃から輸送の安全問題に関心が高く、その問題の解決に熱意を持って取り組める人を歓迎します。
❷yyoshida@kansai-u.ac.jp

中間　千香子　准教授
前期課程：公衆衛生政策論

❶高齢者医療や生活習慣病などの公衆衛生学に係わる研究に取り組んでいます。その他、自然災害、感染症の流行、食中毒・食品事故、環境汚染などの健康危機管理に関する研究に興味があれば、一緒に研究しましょう。
❷chnakama@kansai-u.ac.jp

理工システム系

一井　康二　教授
前期課程：耐震工学論
後期課程：耐震工学研究

❶構造物の現況把握に必要な計測技術や地震時の被害を予測する数値解析技術を学び、耐震診断や耐震設計に関して、性能とコストの両面から最適な解決策を議論・提案できる能力の獲得をめざします。日々進化する先端技術を実際の問題に応用していくことに興味があり、文理双方にわたる幅広い知的好奇心のある方を募集します。
❷ichiik@kansai-u.ac.jp

伊藤　大輔　教授
前期課程：製品安全のための傷害防止論
後期課程：安全設計研究

❶身近な製品事故から交通事故までさまざまな形態で起こる傷害は人体に過度な力が作用することで発生する。本ゼミでは力学的な視点からの傷害発生メカニズムの解明とメカニズムに基づく予防、被害軽減方法を研究する。また、傷害の発生には事故前の行動、判断が大きく関与しており、このような要因の分析に関する研究を希望する方も歓迎したい。
❷dito@kansai-u.ac.jp

奥村　与志弘　教授
前期課程：総合防災・減災学
後期課程：社会減災政策研究

❶南海トラフ巨大地震や首都直下地震、スーパー台風などの巨大災害の発生を見据え、人的被害最小化のための諸課題に取り組みます。理論的解析的な研究に加え、フィールドを重視した実践的な研究も行います。また、巨大災害は発生頻度が低いため、グローバルな視点で国外の事例も研究対象とします。
❷okumura@kansai-u.ac.jp

川口　寿裕　教授
前期課程：事故のシミュレーション
後期課程：群集安全研究

❶人ごみの中での歩行者の動きを研究しています。群集事故の予防や駅の混雑緩和などに応用できます。コンピュータ・シミュレーションのためのプログラミングが得意な人、あるいは数学や力学を用いたモデル化が好きな人は大歓迎です。もちろん単に歩行者の行動や心理に興味がある、という人も歓迎します。
❷kawa@kansai-u.ac.jp

越山　健治　教授
前期課程：都市災害対策論
後期課程：都市防災研究

❶災害や事故が頻発する中、都市や地域は日々変化し続けている。危険の不確実性が増す中で、私たちは新たな備えを作り出していなければならない。最新の都市計画や地域計画、行政対応計画の理論とその実践を駆使した研究を通じ、次世代の安全社会の創造にチャレンジし、その道を切り開く意欲のある人材を求む。
❷k-koshi@kansai-u.ac.jp

小山　倫史　教授
前期課程：地盤災害論
後期課程：地盤災害研究

❶地震・降雨に起因する地盤災害（地すべり、斜面崩壊、落石など）、社会インフラの長寿命化にむけた地盤・岩盤構造物の維持・管理といったテーマについて、実験、数値解析、計測・モニタリングを組み合わせて研究しています。文系・理系の枠にとらわれず、総合的に問題を解決できる人材の育成をめざしています。
❷t-koyama@kansai-u.ac.jp

高橋　智幸　教授
前期課程：水災害論
後期課程：水防災研究

❶津波や高潮、洪水などの水災害を研究しています。環境問題も時間スケールの長い災害と捉え、再生可能エネルギーやサンゴ再生なども研究しています。研究方法はシミュレーションやAI・データサイエンス、実験、リモートセンシング、現地調査と多岐に渡ります。忙しいが充実した学生生活を送りたい方、将来誇れる研究がしたい方を募集します。
❸https://tkhslab.github.io

林　能成　教授
前期課程：防災地震学
後期課程：防災地震学研究

❶地震学者は日本中にかなりの数がいるが、その中で発生メカニズムを理解したうえで防災・減災に取り組もうという研究者は少ない。これは地震学が伝統的に理学部に所属してきたことによる。メカニズム解明だけの地震学にあきたらず、人や社会との関わりまで扱う地震学へと発展させる研究に取り組んでいます。
❷yhayashi@kansai-u.ac.jp

細川　茂雄　教授
前期課程：安全設計論
後期課程：工学安全システム研究

❶現在の社会は多くの高度に発展したプラント、機器によって支えられています。それらを構成する個々の要素の特性を把握したからと言って、全体が分かるわけではありません。むしろ状況によっては極めて複雑な挙動をします。細川ゼミでは原発や火力発電における様々なトラブルを対象に実験や調査を行っています。
❷hosokawa@kansai-u.ac.jp

河野　和宏　准教授
前期課程：情報セキュリティ論

❶情報セキュリティをテーマに研究しており、主にプライバシーも含めたデータの利活用の方法を技術的側面から検討しています。また、情報教育の研究にも力を入れています。論理的思考をもって問題に取り組める方、工学系ということもあり、情報の数学的知識・プログラム知識を持って取り組める方を募集します。
❷k-kono@kansai-u.ac.jp
❸https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~k-kono/

福井　敬祐　准教授
前期課程：応用データサイエンス

❶医学・疫学データのための統計解析手法の開発や応用を行っています。研究対象の医学・疫学データは生物を対象とした物がほとんどであり、一つ一つのデータのバリエーションが大きいという特徴を持っています。これらのデータの中から様々な統計学的手法を用いてその特徴を明らかにするため、新たな統計解析手法を開発していくことや、開発した手法を適用して実際の医療・政策へ活用していくことに興味のある方を募集します。
❷kfukui@kansai-u.ac.jp

Graduate School of East Asian Cultures

東アジア文化研究科

博士課程前期課程
文化交渉学専攻（入学定員 18名）

博士課程後期課程
文化交渉学専攻（入学定員 12名）

千里山キャンパス
東アジア文化研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/eas

グローバルに活躍できる研究者および高度な専門職業人を養成する東アジア文化研究の国際的ハブ

特色

21世紀に入って、東アジア諸国は相互依存の度合いを一層強めつつある。それにもかかわらず、諸国間で感情的摩擦が表面化するのは、他国文化に対するスタンスの未成熟があると考えられる。これを解決するには、自他の文化を優劣や強弱の尺度から評価するのではなく、一国文化をグローバルな視点から把握する視座と手法の確立が求められる。東アジア文化研究科は、一国文化主義的発想を脱却し、東アジア文化を絶えざる他者との交渉の連鎖によって形成された複合体としてとらえる文化交渉学の視点に立ち、東アジアにおける文化交渉の諸相を人文学諸分野から動態的・複合的に分析して、東アジアの文化研究を大きく転換するとともに、それを共有する国際的人材を育成することをめざす。

東アジア文化研究科の教育研究の柱となる文化交渉学とは、東アジアという一定のまとまりのなかでの文化生成、伝播、接触、変容に注目しつつ、トータルな文化交渉のあり方を複眼的で総合的な見地から解明しようとする学問である。そこでは、従来の人文学の学問分野ごとの研究枠組の越境と、ナショナルな研究枠組の越境が求められる。東アジアの文化交渉の全体像を把握する方法を身につけ、国境を越えて東アジア全体を多様な文化接触の連鎖として認識する視座を養うことを目的としている。

本研究科は2011年４月に開設された研究科であるが、その母体となった文化交渉学専攻は、グローバルCOEプログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成」の採択に伴って2008年４月から始動しており、新たな人材育成の拠点として充実した成果をあげてきた。とりわけ、大学院生の研究発信力の強化に力を注ぎ、海外での研究報告や外国語での成果発表にめざましい実績を遺してきた。その実績が評価されて2012年度文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援事業」に採択されるほか大学院生独自の論集を刊行するなど、きわめて恵まれた研究環境を実現している。さらに、優れた博士論文に対しては、単著として刊行することも可能な助成事業も独自に行っている。

デュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）について

2015年度より、韓国・嶺南大学校大学院東アジア文化学科との間でデュアル・ディグリー・プログラム（DDプログラム）を開始した。関西大学から嶺南大学校に２セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、関西大学から修士（文化交渉学）、嶺南大学校から東アジア学修士の学位が授与される。

留学生の受入れ

本研究科では多様な入試制度を用意し、本研究科の理念・目的・教育目標の実現にふさわしい学力をもつ優れた人材を迎えている。特に、国際化する教育・研究の実質化をはかり、国際的な視野を持つとともに学際的な研究能力を身につけた学生を育てることを目標とする本研究科では、前期課程・後期課程ともに定員の約半数を留学生定員と位置付け、外国人留学生入学試験および外国人留学生特別推薦入学試験による、特に東アジア各国からの留学生の募集に重点を置いている。

秋学期入学者について

本研究科の入学時期は原則として毎年４月であるが、セメスター制のメリットを生かし、外国人留学生、社会人および一般を対象に秋学期（９月）入学者の募集を行っている。研究科委員会が必要かつ適切と認めた者（若干名）の入学を許可し、春学期入学者と同様の体系的教育が受けられるよう十分な配慮を行っている。

修了要件

博士課程前期課程では、必修科目（演習）から８単位、領域選択科目Ａ群から２単位、領域選択科目Ｂ群２単位を含む32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および試験に合格することとしている。

博士課程後期課程では、指導教員の担当する必修科目（演習）12単位を含めて16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格することとしている。

修了後の進路

前期課程修了者は、後期課程へ進学するか、あるいは各種の教員、公務員、そして企業などへの就職をめざす。いわゆる高度専門職業人の育成を図っている。

後期課程修了者は、課程博士の学位を修得し、大学をはじめとする各種の教育研究機関で活動する研究者および国際交流の場で活躍できる高度専門職業人の育成を図っている。留学生については、すでに実績があるように、海外の大学や研究所等に積極的に送り出すことをめざしている。

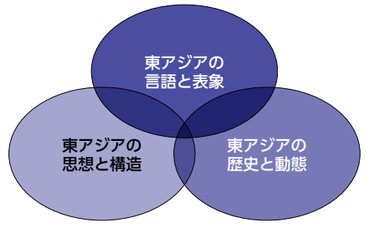
コアカリキュラム

本研究科では、東アジア文化を研究するための基本的視角として、「東アジアの言語と表象」、「東アジアの思想と構造」、「東アジアの歴史と動態」の３つの研究領域を設定している。本研究科の学生は、これら３領域のいずれかに自らの研究の基盤となる研究課題を設定し、そこから分野・地域の越境による展開を試みる。履修にあたっては、指導教員を含めた集団指導体制のもとで、個々の学生の研究課題とその後の展開を考慮し、事前に入念な履修指導を行う。

●各領域の担当教員

東アジアの言語と表象	池田　智恵（前期課程・後期課程） 石﨑　博志（前期課程・後期課程） 奥村佳代子（前期課程・後期課程） 長谷部　剛（前期課程・後期課程）
東アジアの思想と構造	吾妻　重二（前期課程・後期課程） 二階堂善弘（前期課程・後期課程）
東アジアの歴史と動態	篠原　啓方（前期課程・後期課程） 藤田　髙夫（前期課程・後期課程） 池尻　陽子（前期課程・後期課程） 吉川　和希（前期課程）

コアとなる研究領域と複合的科目の有機的連動



●必修科目

研究指導を行う演習科目	前期課程	文化交渉学演習　（1）Ａ・（1）Ｂ・（2）Ａ・（2）Ｂ
	後期課程	文化交渉学研究　演習（1）Ａ・（1）Ｂ・（2）Ａ・（2）Ｂ・（3）Ａ・（3）Ｂ

●領域選択科目

前期課程・後期課程合併の講義科目	
東アジア文化資料研究Ａ・Ｂ （言語と表象）（思想と構造）（歴史と動態）	文化交渉学領域研究Ａ・Ｂ （東アジアの言語と表象）（東アジアの思想と構造）（東アジアの歴史と動態）

●共通科目

- 文化交渉学概論Ａ・Ｂ
- 文化交渉学資料調査論
- 文化交渉学特殊研究Ａ・Ｂ
- アカデミック外国語Ａ・Ｂ（各語種）
- その他多様な講義科目※

※詳細は以下「文学研究科総合人文学専攻との共通科目の活用」参照

文学研究科総合人文学専攻との共通科目の活用

既存の学問分野の実績を取り入れることを考慮し、文学研究科総合人文学専攻の下に設置されている多様な共通科目を本研究科でも活用できるように、カリキュラムを構成している。

共通科目（博士課程前期課程）

日本上代文学研究ＡおよびＢ	日本思想研究ＡおよびＢ	西アジア史研究ＡおよびＢ	日本学フィールドワーク（1）
日本中古文学研究ＡおよびＢ	インド哲学・仏教学研究ＡおよびＢ	日中交渉史研究ＡおよびＢ	日本学フィールドワーク（2）
日本中世文学研究ＡおよびＢ	宗教文化研究ＡおよびＢ	東西交渉史研究ＡおよびＢ	EU-日本学講義（1）
日本近世文学研究ＡおよびＢ	宗教人類学研究ＡおよびＢ	文化人類学研究ＡおよびＢ	EU-日本学講義（2）
日本近代文学研究ＡおよびＢ	東洋美術史研究ＡおよびＢ	世界史学史料研究ＡおよびＢ	日本学学術コミュニケーション・トレーニング（1）
国語学研究ＡおよびＢ	日本美術史研究ＡおよびＢ	中国文学及文学史ＡおよびＢ	日本学学術コミュニケーション・トレーニング（2）
日本古典籍研究ＡおよびＢ	歴史学研究ＡおよびＢ	中国哲学及哲学史ＡおよびＢ	KUワークショップ（1）
日本文学文献研究ＡおよびＢ	日本古代中世史研究ＡおよびＢ	中国語学及語学史ＡおよびＢ	KUワークショップ（2）
日本近代文学文献研究ＡおよびＢ	日本近世近代史研究ＡおよびＢ	中国学研究（1）ＡおよびＢ	EUワークショップ（1）
日本地域文学研究ＡおよびＢ	日本現代史研究ＡおよびＢ	中国学研究（2）ＡおよびＢ	EUワークショップ（2）
日本語教育研究	考古学研究ＡおよびＢ	中国文献学ＡおよびＢ	大学院英語（1）
古代国語史研究ＡおよびＢ	民俗学研究ＡおよびＢ	人文地理学研究ＡおよびＢ	大学院英語（2）
近代国語史研究ＡおよびＢ	文化遺産学研究ＡおよびＢ	歴史地理学研究ＡおよびＢ	寄附講座（各テーマ）
日本文学史研究ＡおよびＢ	伝統文化学研究ＡおよびＢ	地誌学・地理教育研究ＡおよびＢ	日本語教育実践研究ＡおよびＢ
宗教学研究ＡおよびＢ	東アジア史研究ＡおよびＢ	文化地理学研究ＡおよびＢ	

共通科目（博士課程後期課程）

上代文学特殊研究ＡおよびＢ	日本近世近代史ＡおよびＢ	中国文学特殊講義（2）ＡおよびＢ	日本学学術コミュニケーション・トレーニング（4）
中古文学特殊研究ＡおよびＢ	考古学ＡおよびＢ	中国哲学特殊講義（1）ＡおよびＢ	KUワークショップ（3）
中世文学特殊研究ＡおよびＢ	民俗学ＡおよびＢ	中国哲学特殊講義（2）ＡおよびＢ	KUワークショップ（4）
近世文学特殊研究ＡおよびＢ	東洋史ＡおよびＢ	中国語学特殊講義（1）ＡおよびＢ	EUワークショップ（3）
近代文学特殊研究ＡおよびＢ	日本史特殊研究（1）ＡおよびＢ	中国語学特殊講義（2）ＡおよびＢ	EUワークショップ（4）
比較宗教学研究ＡおよびＢ	日本史特殊研究（2）ＡおよびＢ	歴史地誌学特殊研究ＡおよびＢ	大学院英語（3）
美学・美術史研究ＡおよびＢ	東洋史特殊研究ＡおよびＢ	文化地理学特殊研究ＡおよびＢ	大学院英語（4）
比較宗教学特殊研究ＡおよびＢ	考古学特殊研究ＡおよびＢ	日本学フィールドワーク（3）	寄附講座（各テーマ）
美学・美術史特殊研究ＡおよびＢ	民俗学特殊研究ＡおよびＢ	日本学フィールドワーク（4）	
日本古代中世史ＡおよびＢ	中国文学特殊講義（1）ＡおよびＢ	日本学学術コミュニケーション・トレーニング（3）	

❖2025年度　演習担当教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合には、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

❶研究テーマ　❷研究分野　❸研究業績　❹E-mail/HP

文化交渉学 （東アジアの言語と表象）	池田　智恵 （前期課程 後期課程）	❶近現代中華圏における文学、特に通俗小説研究 ❷近現代以降の中華圏で起きた近代通俗小説の変遷を、当時の読者の想像力や感性の変化を含め、雑誌や新聞の投稿欄などを注視して研究している。 ❸「「東方のアルセーヌ・ルパン」魯平の變身：涌陥期上海の「嘘の世界」を舞臺に」（『日本中国学会報』66、2014)、『早稲田大学モノグラフ　近代中国における探偵小説の誕生と変遷』（早稲田大学出版部、2014.11） ❹t_ikeda@kansai-u.ac.jp
	石﨑　博志 （前期課程 後期課程）	❶中国語史・琉球方言史 ❷言葉がどのように変遷してきたかを、現存する文献資料から明らかにする研究に従事している。対象とするのは主に近代中国語と琉球語（方言）の音声や文法・語彙であるが、どんな外国語であろうと使える資料は全て使って取り組んでいる。 ❸「疫病対策の比喩と表現」（2021)、「外国資料からみた『おもろさうし』の「広母音化」 その口承性と類推的仮名遣いについて」（2020)、「法律における文語表現　レアリアによる中国語教育の一環として」(2019)、『走る日本語、歩くしまくとぅば』(2018)、『琉球語史研究』好文出版（2015） ❹ishizaki@kansai-u.ac.jp
	奥村佳代子 （前期課程 後期課程）	❶周縁資料の中国語研究・唐話研究 ❷17世紀以降の周縁資料を中心に取り上げ、日本をはじめとする域外での中国語学習、中国語教育、中国語受容の様相について研究している。 ❸「『生意様話』における北京官話の特徴」『周縁資料と言語接触研究』（東西研究叢書、2023）「キリスト教案における尋問と供述の言葉　福安教案の西洋人宣教師の事例から」『内田教授退職記念論文集　文化交渉と言語接触』（2021）『近世東アジアにおける口語中国語文―中国・朝鮮・日本』（東西学術研究所研究叢刊58、2019） ❹aocun@kansai-u.ac.jp
	長谷部　剛 （前期課程 後期課程）	❶漢字文化圏の文学テキスト（特に韻文学）研究および音楽文学研究、日中比較文学研究 ❷「中国古典文献の日本への伝播」を中心的テーマとし、①六朝•唐代詩歌、②隋唐音楽、③おもに関西大学図書館所蔵の重要漢籍、④日中比較文学・詩学、をそれぞれ研究。 ❸著書に『杜甫詩文集の形成に関する文献学的研究』（関西大学出版部、2019)、『林謙三『隋唐燕楽調研究』とその周辺』（関西大学出版部、2017)、論文に、「日本所存中國音樂文學資料之研究」（中国語、「南洋中華文學與文化學報」3、2022)、「長沙窯出土磁器題詩と『土佐日記』『和漢朗詠集』所載漢詩」（日本語、「和漢比較文学」67、2021）ほか。 ❹thasebe@kansai-u.ac.jp
文化交渉学 （東アジアの思想と構造）	吾妻　重二 （前期課程 後期課程）	❶東アジアの思想と文化、儒教史・儀礼史、書院・私塾とその教育 ❷東アジアの思想と宗教がフィールド。中国近世儒教史の研究から出発して東アジア文化の多様性に着目し、現在は中国のほか韓国や日本の儒教、儀礼、祭祀、教育などについて精力的に研究している。 ❸『朱子学の新研究』（創文社、2004)、『馮友蘭自伝―中国現代哲学者の回想』１・２（訳注、平凡社、2007)、『泊園書院歴史資料集―泊園書院資料集成１』（関西大学出版部、2010)、『朱子家礼と東アジアの文化交渉』（共編、汲古書院、2012)、『爱敬与仪章：东亚视域中的《朱子家礼》』（上海古籍出版社、2021）など多数。 ❹azumaj@kansai-u.ac.jp
	二階堂善弘 （前期課程 後期課程）	❶東アジアの民衆文化、道教史、アジアの民間信仰における文化交渉 ❷中国の民間信仰や道教の信仰が、日本・東南アジアなどアジア各地でどのように伝わり、受容・変容・衰退していったかを探る。また香港や台湾における信仰のあり方について調査を行う。 ❸『道教・民間信仰における元帥神の変容』(関西大学出版部)、『明清期における武神と神仙の発展』（関西大学出版部)、 『アジアの民間信仰と文化交渉』（関西大学出版部） ❹nikaido@kansai-u.ac.jp https://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~nikaido/

❶研究テーマ　❷研究分野　❸研究業績　❹E-mail/HP

文化交渉学 （東アジアの歴史と動態）	篠原　啓方 （前期課程 後期課程）	❶古代朝鮮の外交・制度史、東アジアの碑石文化、韓国・朝鮮文化、韓国現代文化事情 ❷朝鮮の金石文資料を中心に、高句麗の対外関係、新羅の制度について研究する一方、文化交渉の視点から、東アジア地域の碑石資料を収集している。最近は韓国の現代文化にも関心を寄せている。 ❸「東アジアの亀趺の受容と変容―韓国・日本・中国・ベトナムの例をてがかりに―」（2011)、「統一新羅の禅僧碑と王権」（2015)、「南山新城碑冒頭文の解釈と新羅の『法』」（2017） ❹shino@kansai-u.ac.jp
	藤田　髙夫 （前期課程 後期課程）	❶東アジアの歴史と文化、東アジア古代交渉史、中国出土史料研究、近代学術形成史 ❷中国における国家制度の形成と発展、および東アジア世界における展開と相互の関連性を、出土史料を併用して研究している。また近年は、東アジアにおける近代学術としての歴史学の形成を比較する。 ❸「東アジア史をめぐる言説について」（2017)、「林泰輔の中国上代研究」（2016)、「漢代における軍費推算の資料と方法」（2016)、『東アジア木簡学のために』（2014)、「蜀の学堂―漢代成都の郡国学」（2013）など ❹tfujita@kansai-u.ac.jp
	池尻　陽子 （前期課程 後期課程）	❶近世東アジア（ユーラシア東部）の歴史と動態、チベット仏教文化圏の交渉史、清朝のチベット仏教政策史研究 ❷チベット仏教文化圏（主にチベット・モンゴル・中国）の交渉史を、チベット語・モンゴル語・満洲語・漢語など多言語多系統の史料を用いて研究している。最近は、チベット・モンゴル・中国の境界である青海東部のチベット仏教寺院ネットワークに注目している。 ❸「内秘書院モンゴル文檔案にみる17世紀アムド東部のゲルク派諸寺院と清朝」（『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』、2018)、『清朝前期のチベット仏教政策―扎薩克喇嘛制度の成立と展開―』（汲古書院、2013）など。 ❹yikejiri@kansai-u.ac.jp
	吉川　和希 （前期課程）	❶東・東南アジアの歴史、近世東アジアの国際関係、ベトナムの社会と文化 ❷15～19世紀のベトナム史、特に文書行政、社会変容、中国との関係などを研究している。史料としては、ベトナムの文書館に所蔵される文書史料や、フィールドワークを通じて収集した金石史料や家譜などを使用している。 ❸「19世紀前半～半ばにおけるベトナム阮朝の地方支配の変遷と土司」（『歴史学研究』1022、2022)、「十八世紀の北部ベトナムにおける村落の動向」（『史学雑誌』130-6、2021)、「18世紀のベトナム北部山地における軍政と在地首長」（『東南アジア―歴史と文化―』49、2020） ❹k_yskw@kansai-u.ac.jp

論文題目例

修士論文

The Chinese Repository（『中国叢報』）における宣教師の中国語研究について／泊園書院における『中庸』学の展開―朱子学・徂徠学との関係を中心に／中国におけるイメージナレーション―『澄衷蒙学堂字課図説』を中心に―／清末中国における日本製紙幣導入の研究―総督張之洞、袁世凱、岑春煊を中心に―／中国広西チワン族民間信仰における女神ムロッカの神格研究／近代漢越語の研究―『南風雑誌』の語彙付録を中心に―／近世東アジアにおける華夷思想研究／菱田春草研究―日本美術院の理想をめぐって―／台湾・韓国の歴史教科書の比較研究

博士論文

近代韓国における儒教の展開―経学院を中心に／19世紀徳国伝教士羅存徳及其《英華字典》的研究／柳宗悦における《朝鮮の美》と文化交渉／江戸時代唐船齎来法帖の研究／17－20世紀におけるタイ国華人の研究／東アジア仏教における多羅信仰と文化交渉／『古新聖経』の研究／土田麦僊―欧米巡礼とイタリア美術受容―

出版助成図書

※助成金を獲得し出版された学位論文

日本近世期における楽律研究―『律呂新書』を中心として／京城帝国大学における近代韓国儒教研究の展開／青木繁論―世紀末美術との邂逅―／「文化漢奸」と呼ばれた男―万葉集を訳した銭稲孫の生涯／「文法草創期」における中国人の中国語研究／徂徠学派における『老子』学の展開―文化交渉学の視点から

Graduate School of Governance

ガバナンス研究科

博士課程前期課程
ガバナンス専攻（入学定員 12名）

博士課程後期課程
ガバナンス専攻（入学定員 3名）

千里山キャンパス
ガバナンス研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_policy/gov/

公的な問題の発見・解決に向けて、政策を立案・実行できる「高度公共人材」を育成

特色

これまで、国と地方政府が中心となって政策の立案とその運営を担ってきた。今日では、民間委託の推進やNPO法の制定などが示すように、複雑な社会問題の解決に対する企業や民間団体の積極的な関わりが、最近では期待されるようになってきている。すなわち、行政および政治を含めた政府セクター、民間企業を含む市場セクター、そしてNPOやボランティア組織などの市民セクターが協働して問題解決に取り組み、社会にとって望ましい状態を実現することへの認識の高まりが、「ガバナンス」に対する注目につながっているのである。

そこで、ガバナンスの担い手となることを期待されるのが「高度公共人材」である。それは、公的な問題を発見して、その解決策としての政策をデザインし、さらにそれを実現していくことができる能力をもつ人材を意味する。ガバナンス研究科では政策学を基盤とした教育・研究を行って、高度公共人材の養成を行う。

関西大学は、これまで政府、自治体、国会、地方議会などで活躍する多くの人材を輩出してきた。関西大学にとって初めての政策系大学院となるガバナンス研究科では、さまざまな領域において社会問題の解決に貢献できるような人材の育成をめざす。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士課程前期課程

ガバナンス研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を博士課程前期課程に求めます。

1（知識・技能）
国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、学部レベルでの基礎知識を修得している。

2（思考・判断・表現）
実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する力の基礎を身に付けている。また、論理的思考及び表現の基本を身に付けている。

3（態度）
基本的なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。

博士課程後期課程

ガバナンス研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、資質・能力及び態度を備えた人を博士課程後期課程に求めます。

1（知識・技能）
国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、大学院レベルでの基礎知識を修得している。

2（思考・判断・表現）
実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する高度な能力を身に付けている。また、論理的思考及び表現の高度な能力を身に付けている。

3（態度）
高度なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。

複数教員による指導体制で、複数のアプローチからの研究が可能

ガバナンス研究科は、入学から修了まで特定の１人の教員が全てを指導する従来型形態ではなく、複数教員による指導体制が特徴である。研究課題を多角的にとらえるとともにきめ細やかな研究指導を行うため、前期課程、後期課程ともに指導教員とは別の副指導教員を配置し、複数教員による指導体制を敷いている。授業科目にも多様な専門分野の教員を配置し、１つの社会問題を複数のアプローチから多面的に研究することができる。

社会人の受入れに関して

ガバナンス研究科の科目は、月曜日から金曜日までの１限～５限および６限、７限に開講される。なお、社会人大学院生の便宜を考慮して、一部の科目では５限～７限および土曜日に集中開講できるよう弾力的に運用している。

また、博士課程前期課程においては、職務充分な社会経験と一定以上の研究能力を有する社会人を対象として「社会人１年制コース」を設けている。これにより、能力のある社会人学生は、１年間で学位を取得することができるようになり、職務上の負担も軽減する。１年で学位を取得するためには、入学後の十分な研究指導およびさまざまな面でのサポートが必要であるとともに、入学時に一定の水準の能力と経験、さらに研究方向の具体性が求められる。高度公共人材に求められる基礎的素養としての職務経験および一定の研究能力を持ち合わせているかどうかを判定するために、出願時に詳細な研究計画書（8,000字程度）の提出を求めて、合否判断の資料として用いる。１年制コースの入学試験において合格の基準に達しない志願者については、修業年限を２年以上とする通常の課程としての合否を判断し、修学機会を広げるように努める。授業形態は、定められた曜日・時限を基本とするが、官公庁や企業、教育・研究機関における業務や研究の実績、およびその結果についてのレポートや発表などを授業時間に代えることもある。これによって、十分に能力のある社会人学生が、１年間で学位を取得できるように配慮を行う。

修士論文テーマ（過去提出分）

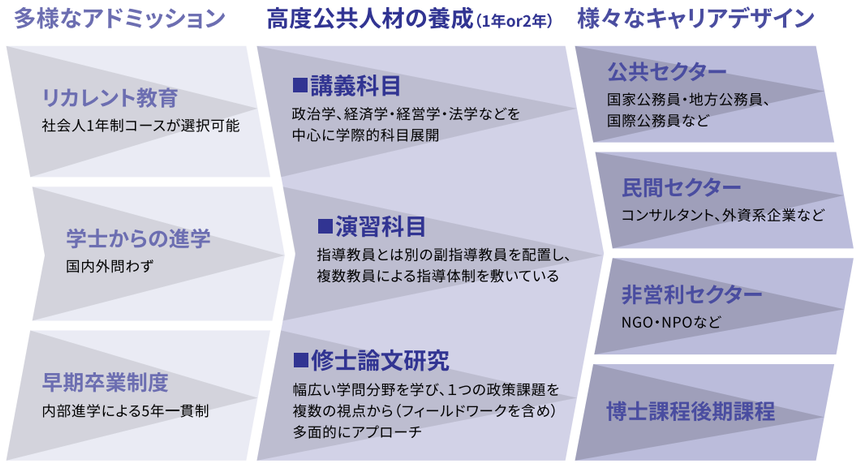
2021年度修了生	トラック産業における労働時間規制の現状と課題 大阪市の文化政策―都市格の向上と博物館の役割― 地域社会におけるソーシャル・キャピタルの形成と蓄積―空き家問題からの考察― 中国半導体産業の現状と産業政策
2022年度修了生	高齢者の住み替えに関する意識調査「親子世帯の近居・同居住み替え助成事業」に関して 音楽と都市―ストリートピアノの多角的分析から― 国際司法裁判所における仮保全措置の意義と機能 ユニバーサルツーリズムの普及と地域活性化への影響について―伊勢志摩バリアフリーツアーセンターを事例にして― 中国における離婚にかかわる法制度の現状―「離婚冷静期」を中心に― 若年期における学外でのキャリア発達支援によって働くイメージに変化があるか～"働く"を体験し考えるワークショップの実施から～
2023年度修了生	労災のリスクマネジメント―リスク移転の付加価値サービスの考察― 中国における少数民族高齢者の言語障壁について―内モンゴル自治区オルドス市のモンゴル民族を例に 自社株買い課税に関する考察―米国インフレ抑制法（2022年８月）を中心に― 祭の従事者から見た高槻ジャズストリートの発展に向けて―古くからの祭との比較を中心として― 72年体制の成立―中日関係の政治過程― ファーウェイの経営戦略―米中ハイテク摩擦の影響を中心に 中国の対外直接投資におけるリスクの研究

修了後の進路

前期課程修了後の進路としては、国家公務員および地方公務員、国際公務員、NPO・NGOの職員、議員秘書、コンサルタント、シンクタンク職員、ジャーナリスト、民間企業（とりわけ社会貢献部門など）、起業による経営者、そして国会議員および地方議会議員などが考えられる。また、中学校教諭専修免許状「社会」、高等学校専修免許状「公民」を取得して、社会における問題の解決に教育の面でも貢献することができる。

社会人学生の場合には、ガバナンス研究科での学びを通して、従来の職場でのさらなる活躍が可能となる。また、課程を修了した人が政策分野に関する研究をさらに継続することにより、高度な研究および教育に従事する研究者となることも期待される。

後期課程修了者については、大学をはじめとする各種の教育機関で活動する研究者、および国際交流の場などで活躍できる高度専門職業人となることが期待される。とりわけ、留学生については、海外の大学や研究所に積極的に送り出すことをめざしている。



2025年度　専任教員

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

M：博士課程前期課程
D：博士課程後期課程

教員名	専門分野	研究概要	課程	担当科目
浅野　宜之 教授 asanon@kansai-u.ac.jp	比較憲法 南アジア法	アジアにおける立憲主義について、比較憲法学的視点から考える。第一に、司法に焦点を当てながら、制度的、機能的側面から考察する予定であり、第二に議会の現状を基に検討する。また、主にイギリスの植民地統治を受けた国々における法制度の発展について、検討したい。	M	調査方法論研究 比較憲法研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究11（比較憲法論） ガバナンス特別演習
五十嵐　元道 教授	国際関係論 安全保障	武力紛争にかかる規範・データ・実践が、どのような歴史をたどって形成されてきたのか、また、どのようなイデオロギーに基づいて生成されているのか、といった問題関心に基づき、研究・分析を行っている。	M	安全保障論研究
石田　成則 教授 sishida@kansai-u.ac.jp	社会保障 福祉政策 企業福祉	年金・医療等の社会保障のほか、企業の福利厚生や民間保障のあり方をテーマとしている。また、「時間貯蓄」「地域通貨」といった地域独自の助け合いの仕組みについて、各地方の事例研究に取り組んでいる。	M	調査方法論研究 福祉政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究９（福祉政策論） ガバナンス特別演習
今井　　希 教授	経営戦略論 経営組織論	企業における経営戦略の形成プロセスや、経営戦略に関わる知識が日本企業に導入されることによる企業の実践への影響について研究を行っているが、広域連携機関に関するマネジメントの問題や、地場産業を成り立たせている仕組みに関する研究にも取り組んでいる。	M	自治体政策研究
岡本　哲和 教授 okamoto@kansai-u.ac.jp	政策と情報 情報政治学 政策過程	政治・行政と情報との関わりを主な研究テーマとして、政治や情報技術が与える影響や、政府の情報に関する政策について研究している。	M	調査方法論研究 政策過程研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究３（政策過程論） ガバナンス特別演習
柄谷　利恵子 教授	国際関係論 国際政治学	国際政治・国際関係学を「国家間」の政治や関係だけでなく、国際機関やNGO、さらには個人の視点からも考えていく。主な研究テーマは国境を越える人の移動と現代の国際政治をめぐる諸問題である。	M	調査方法論研究 国際関係論研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究14（国際関係論） ガバナンス特別演習
河﨑　信樹 教授	国際経済政策 アメリカ経済史	専門はアメリカ経済史。特にアメリカの国際経済政策の歴史的展開を中心に研究を続けてきた。近年は、J・カーター政権の対日経済政策に注目し、分析を進めている。	M	国際経済政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究16（国際経済政策論） ガバナンス特別演習
権　　南希 教授 kwon@kansai-u.ac.jp	国際法	専門は国際法。武力紛争がもたらす環境損害を素材に国際人道法と国際環境法の規範の交差について研究している。特に国際環境法における法定立過程の特徴、国家責任体系の変遷に焦点を当てている。	M	国際公共政策研究 ガバナンス演習
後藤　元伸 教授	民法 法人・団体法 独仏ヨーロッパ法	比較法については、ドイツ法、フランス法を対象とする。民事法については、民商法全般、とくに団体･法人法を対象とする。	M	調査方法論研究 比較民事法研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究12（比較民事法） ガバナンス特別演習
小西　秀樹 教授 koni98@kansai-u.ac.jp	現代日本政治論 政治社会学	政党、利益団体、官僚、マス・メディア、市民団体の活動と相互関係など、政治権力の動態を研究している。特に現代日本における政党競争と公共政策の変化、地域社会の政治過程（議会、行政、住民の関係）の変化を取り上げる。	M	調査方法論研究 現代日本政治論研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究４（現代日本政治論） ガバナンス特別演習
徳丸　宜穂 教授 https://www.tokumarunorio.info/ norio-t@kansai-u.ac.jp	技術経済論 比較政治経済学 北欧社会経済研究	高水準のウェルビーイングを保証し、なおかつ、効率性・革新性・レジリエンスを兼ね備えた社会経済システムのありうる制度と政策について、北欧諸国と日本との比較を軸に探究している。	M	地域産業論研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究７（地域産業論） ガバナンス特別演習
内藤　友紀 教授	マクロ経済政策 金融史	1930年代の日銀など、各国のある一定の期間における中銀の金融政策の効果やその波及について、計量的に分析している。	M	金融政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究６（金融政策論）
西澤　希久男 教授 kikuo.n@kansai-u.ac.jp	タイ法（民法、高齢者法、障害者法） 比較法	植民地になることなく、西欧近代法による法制度整備を求められたタイと日本を比較することにより、法の適用のあり方、法に対する意識がどのような歴史的、社会的背景に基づき形成され、変容するのかについて関心をもって研究している。	M	国際アジア法政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究13（国際アジア法政策論）
西山　真司 教授 n-shinji@kansai-u.ac.jp	政治学 政治理論	学説史分析にもとづく政治理論研究をおこなっている。最近の主な関心領域としては、エスノメソドロジーの応用による権力分析、政治学における心的なカテゴリーの位置づけと行動論政治学、ジェンダーと若者論などである。	M	公共政策学研究
福味　　敦 教授	インド経済論	インドの宗教やカースト、所得格差といった社会的な要因が政策決定、公共財の蓄積、民間投資、さらには長期的な経済発展に及ぼす影響の研究をしている。発展途上国の開発と貧困の問題を考える上では、経済的な側面のみならず、社会や政治、文化や歴史などを含めて、その国を丸ごと理解する必要がある。経済理論と経済・社会・政治統計を分析の軸としながらも、フィールドに可能な限り足を運び、現地のひとたちに教えを請いつつ研究に取り組んでいる。	M	地域経済論研究
宮下　真一 教授 miyashit@kansai-u.ac.jp	消費財産業のサプライチェーン研究	専門分野は、消費財産業のサプライチェーン研究である。例えば、店舗の見栄えを良くするための新商品開発、売れ筋商品を把握するための流通情報化、商品を納期までに配送できる交通ネットワークの連携、などである。	M	調査方法論研究 現代物流政策研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究８（現代物流政策論）
安武　真隆 教授	ヨーロッパにおける政治と思想	「目の前の政治について考えるにあたって、古い本を読みながら考えるという態度」をこれまでの政治学者はとってきた。彼らは、過去に向って助走してはじめて、現在を見据え将来を展望できると考えたからである。	M	調査方法論研究 政策規範研究 ガバナンス演習
			D	公共政策特別研究１（政策学）
山中　友理 教授	刑法 刑事政策	刑法について、とりわけ、責任能力とは何か、および、触法精神障害者に関する法制度について、主にドイツ語圏の国と日本を比較しながら探求している。 また、医事刑法分野（行政法、終末期医療、臓器移植など）も研究対象としている。	M	調査方法論研究 比較刑事法研究 ガバナンス演習
吉川　大介 教授	ファイナンス	株式などの金融資産の価格にある種の歪みがあるかどうか、またあるとすればそうした歪みを利用した取引手法の構築が可能かどうかを研究している。	M	リスク・ガバナンス研究 ガバナンス演習
梶原　　晶 准教授 kajiwara@kansai-u.ac.jp	政治過程論 行政学	地方分権改革や地方財政制度など中央地方関係の分析を中心に、政府組織における議員や議会などの政治的要因と官僚制もしくは政策帰結との関係について研究している。	M	現代行政学研究
三枝　憲太郎 准教授 saegusa@kansai-u.ac.jp	イギリス地域社会論	社会人類学専攻。イングランドのカントリーサイドにおける移住者の活動を通した空間と場所の構築の問題を研究。特に、田園空間における景観のコントロールを中心に、空間に期待されている機能の変化に注目している。	M	空間社会論研究
杉浦　　勉 准教授 sugiura@kansai-u.ac.jp	財政学 英国財政論	社会インフラ整備や公共サービス提供における官民役割分担について、ガバメントからガバナンスへの変容という観点から研究している。近年では社会インフラの老朽化問題に着目し、とくに水道民営化について調査している。	M	財政政策研究
初見　健太郎 准教授 hatsumi@kansai-u.ac.jp	ミクロ経済学 公共経済学 文化経済学	現在は文化多様性とグローバル経済の関係に興味をもって研究している。また、経済学における公共性、利他性、コミュニティのとらえ方や情報の重要性についても、これらは私の学生時代の研究テーマであるがまた違ったかたちで、再検討している。	M	数理経済分析研究

※担当科目については2023年度現在のため、変更することがあります。

Graduate School of Health and Well-being

人間健康研究科

堺キャンパス
人間健康研究科Webサイト　https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_hw/grad/index.html

博士課程前期課程
人間健康専攻（入学定員 10名）
博士課程後期課程
人間健康専攻（入学定員 4名）

地域コミュニティを基盤とした“健康”と“健幸”を研究テーマとして多様なアプローチから人間の諸問題解決の手法を探究

特色

人間健康研究科の特色は、既存の体育・スポーツ系研究機関が主な目的としてきたスポーツの競技力向上だけでなく、身体活動や運動とスポーツを通じて人間の健康や幸福の促進を重視するところにあります。さらに地域福祉の活動にも貢献することを追求します。これは2002年に制定された「健康増進法」、2011年に制定された「スポーツ基本法」の理念とも通じており、ヘルスプロモーションとスポーツプロモーションの２つの観点から健康で幸せなくらしについて考えていきます。

また、もう一つの特色はキャンパスがある堺市と密な連携を行うところにあります。2010年４月、大阪府堺市に誕生した人間健康学部は、開設以来、堺市民と健康で豊かな生活を共有するためにさまざまな支援・連携事業を展開し、積極的な地域貢献活動を行ってきました。人間健康研究科においても、こうした地域貢献型の性格を継承しつつ高度な研究教育を実施し、堺市の市民や行政からも大きな期待が寄せられています。

【研究科の方向性】

人間健康研究科では、ヘルスプロモーションやスポーツプロモーションの観点から地域コミュニティの環境整備を前提課題として、身体活動や運動ならびに各種のスポーツ実践と、健康（health）や健幸（well-being）との関係について研究していきます。

■ 研究テーマの例

- 地域コミュニティの再生に貢献するスポーツ文化のあり方に関する研究
- 健康づくりのための運動処方に関する運動生理学的研究
- 身体動作時の制限因子を生理学および機能解剖学視点から捉えた研究
- 学校体育等における集団の教育的機能に関する研究
- 健康づくりのための身体動作の運動制御機構に関する研究
- 健康づくり、地域福祉、地域包括ケアの推進に資する研究

博士課程前期課程修了要件

博士課程前期課程に２年以上在学し、基礎科目４単位（「健康調査研究法」ⅠとⅡは選択必修）、演習科目８単位を含めて、あわせて31単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査および最終試験に合格した者をもって課程を修了したものとします。

なお、修士論文の最終試験については公聴会形式で行います。

博士課程後期課程修了要件

博士課程後期課程に３年以上在学し、以下の①～③の要件を満たした場合、課程を修了したものとします。

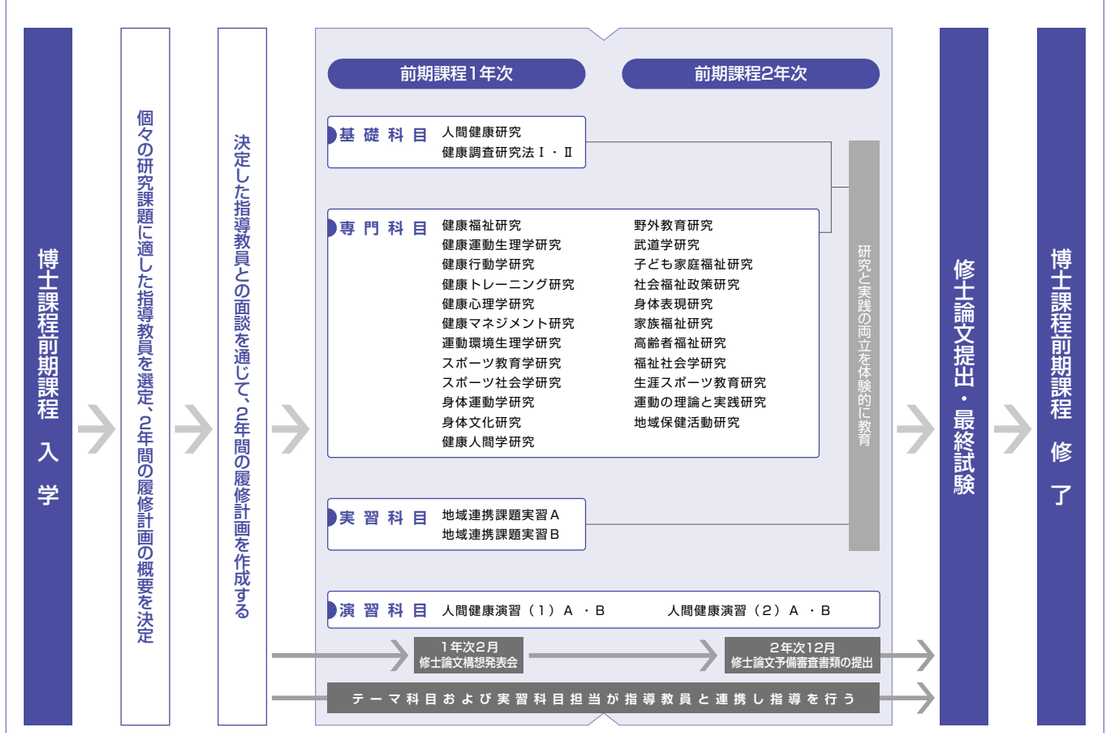
①演習科目「人間健康特殊演習Ⅰ～Ⅵ」を修得していること。
②講義科目「特殊講義」のうち、１科目２単位を修得していること。
③博士論文を提出し、最終試験に合格すること。ただし、博士論文が受理される前に、査読付き論文２本以上を学術誌に投稿し、掲載されているか、掲載が決定していることが提出要件となります。

これらの条件を満たすために最低限必要な修得単位数は14単位となります。なお、博士論文の最終試験については公聴会形式で行います。

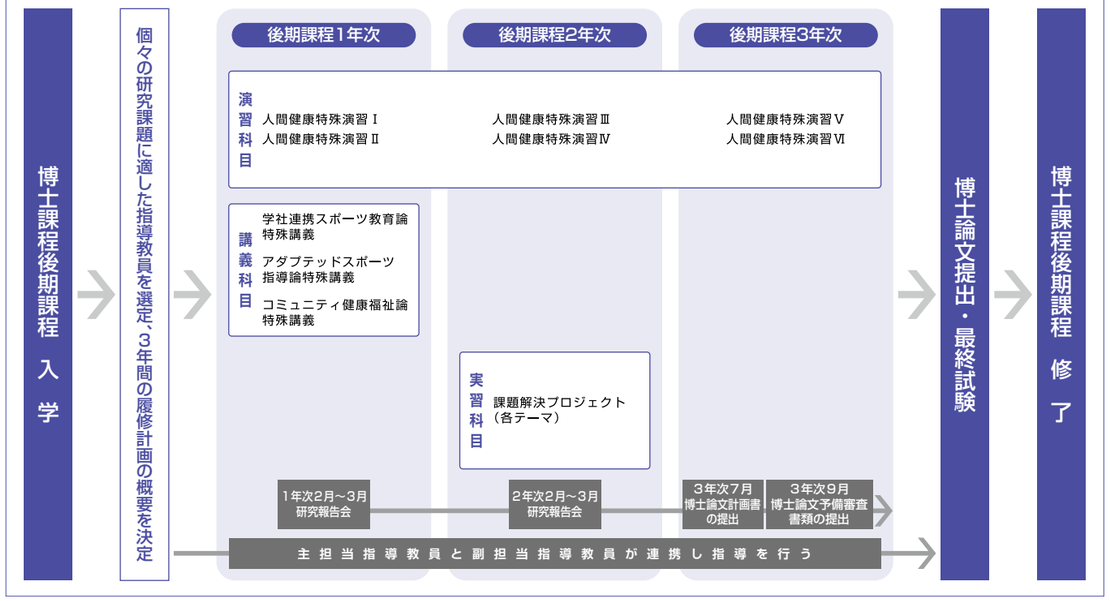
資格取得

博士課程前期課程では、所定の科目を修得すれば、中学校または高等学校教諭の専修免許状（保健体育）を取得することができます。

博士課程前期課程カリキュラム概念図



博士課程後期課程カリキュラム概念図



2025年度　専任教員（予定）

出願に際しては、学生募集要項の担当者一覧を必ず確認してください。なお、担当者については変更することがあります。担当者に変更が生じた場合は、関西大学大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

M：博士課程前期課程
D：博士課程後期課程

教員名・連絡先	専門分野	研　究　概　要	学生募集を行う課程
植田　紀美子　教授 kimi-h-u@kansai-u.ac.jp	公衆衛生学 障害者福祉 社会疫学 小児臨床遺伝学	障がい、疾病、虐待など社会的な支援を必要とする子どもを研究対象とし、一人一人の健やかな育ちを等しく保障した社会をめざす。集団全体の健康水準が向上する一方で健康格差の拡大が指摘されている。共生社会の推進の中で、健康格差を抑え、社会的に不利な度合いに応じた対策を推奨するユニバーサルアプローチの手法を取り入れる。	M・D
岡田　忠克　教授 okadat@kansai-u.ac.jp	社会福祉政策 ソーシャルアドミニストレーション	現代社会において社会福祉政策は国民生活と切り離せないものになっている。現在の研究テーマは、社会福祉政策を方向づけ、制度を成り立たせている福祉の概念・価値・背景について研究を進めている。とりわけ歴史的背景に重点を置き、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉国家の形成と発展について研究を進めている。	M・D
神谷　　拓　教授 tkamiya@kansai-u.ac.jp	体育科教育学 スポーツ教育学	学校で行われる体育・スポーツを、授業場面だけに限定せずに、教科外体育や課外体育を含んだカリキュラム論の観点から捉えて研究を続けてきた。とりわけ学校卒業後のスポーツライフ・クラブライフとの接続に関心があり、理論研究と実践研究を往還しながら展望を切り開いていくことを大切にしている。	M・D
河端　隆志　教授 takakaw@kansai-u.ac.jp	運動・環境生理学	ヒトは重力のもとに身体活動を通して生存している。生体はさまざまに変化する環境の中にありながら、その重要な機能（体温調節、体液の浸透圧バランスなど）をほぼ一定のレベルに維持（恒常性、ホメオスタシス）することにより、環境の変化に対処して生存している。そして、運動・スポーツといった能動的な身体運動では、生体はさらに高次の調節機能が要求される。特に長期に及ぶ環境の変化（トレーニングも含む）に対して、生体の体制を変化し、その独自性を保持して生存している状態が適応である。運動・環境生理学の目的は、その適応のメカニズムを解明し、それにより健康およびスポーツ・パフォーマンスの向上のための諸条件を明らかにすることにある。	M・D
志岐　幸子　教授 shiki@kansai-u.ac.jp	感性学 スポーツ感性学 感性教育	「感性」は、従来の科学的分析やデータでは得られない情報を得る直感や想像力、創造性、美意識などに関わる内的感覚を含む内的知性のことである。現在、関心を持っている研究内容は、スポーツや芸術、科学など様々な分野でベストパフォーマンスを生む感性と「ゾーン」の他、東洋思想やファンタジー、マインドフルネスの概念を活用した感性教育の具体的方策、感性のwell-beingへの貢献である。	M
谷所　　慶　教授 tanisho@kansai-u.ac.jp	トレーニング科学 コーチング	さまざまなトレーニング方法や運動指導方法が身体や運動パフォーマンスにどのような影響を及ぼすのであろうか。当研究室では、競技力向上を目的としたアスリートのトレーニングのみならず、児童期のスポーツ活動と発育発達について、あるいは成人期のスポーツ活動と健康について、トレーニング科学とコーチングの観点から研究している。また、レジャースポーツやマスターズスポーツといった生涯スポーツと健康・健幸との関連についても調査を実施している。	M・D
種橋　征子　教授 s-tane@kansai-u.ac.jp	高齢者福祉 介護福祉 福祉経営	主に介護職員の働きやすさや離職予防を目指して、高齢者介護施設における理念浸透や業務負荷の軽減に関する研究、支援の価値（とりわけ「ケア」の概念）、支援関係及びそれらの研修方法についての研究を行っている。また、支援が必要な高齢者と家族の葛藤やストレングス及び支援のあり方等の問題、さらに昨今顕著になってきている社会問題（例えば8050問題やヤングケアラー、虐待等）にも関心を持っている。	M
西川　知亨　教授 tomoyuki@kansai-u.ac.jp	社会病理学 社会的相互作用論 福祉社会学	研究分野は、大きく４つに分けることができる。１つ目は、社会学史にもとづく社会病理学研究である。シカゴ学派社会学から「総合的社会認識」の視点を引き出し、実証的研究の基盤を形作ることをめざしてきた。２つ目は、貧困対抗活動が生み出す社会的レジリエンス（柔軟に立て直す力）創発に関する研究である。３つ目は、「家族福祉の社会学」であり、子育てなどの自他の家族経験を、理論的・実証的に社会構造や社会福祉につなげる試みを行っている。４つ目は、ソーシャルワークの社会学的再検討による教育・実践理論の構築に関する研究であり、上記の３つの研究領域を総合するものと位置付けられる。	M・D
西山　哲郎　教授 nisiyama@kansai-u.ac.jp	スポーツ社会学 文化社会学 身体文化論	スポーツと身体を用いる様々な活動を、特定の時代・環境において成立した文化現象と捉え、それらに対する人々の関わり方や価値観の変化について社会学をベースに研究する。具体的には、スポーツと身体活動の歴史、組織やルールの機能、メディアとの関係、ファンや観客の存在意義等を研究対象とするが、それ以外に現代社会における身体の意味とその変化についても研究を行う。	M・D
原田　純子　教授 jharada@kansai-u.ac.jp	舞踊教育学 身体表現	日常のちょっとした仕草から、地域の盆踊り、教育課程のダンス、コミュニティにおけるダンス、芸術舞踊等々、私たちの周囲にある「ダンス（舞踊）」や「身体表現」は多岐にわたっている。なかでも、高齢者や障害のある人たちと行なうインクルーシブなダンス活動、創造性の陶冶、コミュニケーション力の向上を目指すグループ学習としてのダンス活動をテーマとして、研究と実践に取り組んでいる。	M
彦次　　佳　教授 kei23@kansai-u.ac.jp	スポーツ老年学 スポーツプロモーション	多様なバックグラウンドを持つオトナが、歳を重ねていく中でスポーツを楽しむことは、その人の人生にどのような意味・意義を持つのか。どのようにすれば、多くのヒトたちが多様なスポーツの楽しみ方を感じ、味わうことができるのか。スポーツの多様な効果・便益と、それらをプロモート・最大化する方法を追求していく。	M
福田　公教　教授 kiminori@kansai-u.ac.jp	社会福祉学 子ども家庭福祉論	研究分野は、大きく３つに分けることができる。１つ目は、社会福祉の基礎研究である。今後の社会や支援のあり方を社会福祉学の視点から考究している。２つ目は、子ども家庭福祉に関する研究である。社会的養護、施設養護、養育里親や養子縁組のあり方を研究している。３つ目は、国際福祉に関する研究である。カナダ、ニュージーランド、インドネシアとの国際比較研究に取り組んでいる。	M
村川　治彦　教授 murakawa@kansai-u.ac.jp	身体教育学 応用健康科学	「身体」は心理学、社会学、宗教学、哲学、医学、教育学、看護学など多様な分野にまたがるキーワードである。そのなかで、一人称の観点から体験する「からだ」をキーワードに、心理、福祉、教育、看護、医療など対人援助領域における身体性を基盤としたケアのあり方を研究の柱としている。また、体験と言語の関係に注目し、実践を通した経験を意味のある形で言語化し記述する新たな質的研究法の構築に関心がある。	M・D
森　　仁志　教授 smori@kansai-u.ac.jp	文化人類学 文化史	現在の研究テーマは次の二つである。①スポーツの国際交流史：日米野球交流においてハワイの日系二世が果たした役割に関する文化史的研究。②家族の比較文化論：家族の多様性に関する人類学的研究。これらのテーマを中心に、多様な身体をもつ個人（ジェンダー、セクシュアリティ、人種・エスニシティ、健常者／障がい者など）の包摂（つながり）と排除（分断）のメカニズムを軸に研究に取り組んでいる。	M・D
涌井　忠昭　教授 t.wakui@kansai-u.ac.jp	スポーツ科学 応用健康科学 レクリエーション	これまでの研究分野は、レクリエーション、子どもの体力向上、総合型地域スポーツクラブ、障がい者スポーツ、介護者の生体負担に関する研究と多岐にわたる。具体的には、レクリエーション活動が対象者の心身に及ぼす影響について研究している。また、子どもの体力向上、総合型地域スポーツクラブおよび障がい者スポーツに関しては、地域での実践活動を通して研究を行っている。なお、介護者の生体負担に関しては、介護職員、ホームヘルパーまたは在宅介護者を対象として研究を行ってきた。	M・D
弘原海　剛　教授 wadazumi@kansai-u.ac.jp	運動生理学 運動処方	①「糖質飲料水摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響」：いわゆる“スペシャルドリンク”と呼ばれる運動中の栄養補給や疲労回復に効果的なドリンクの開発研究 ②「高齢者を対象とした認知症予防研究」：認知症予防体操と脳領域活性を促す可能性のある様々な方法との効果的な組み合わせに関する研究	M・D

専門職学位課程

※各研究科の詳細は、それぞれのパンフレットおよび募集要項をご確認ください。

法科大学院

入学定員	教員スタッフ	修業年限	修了所要単位
40名	21名（研究者教員12名、実務家教員９名）	法学既修者：２年　短縮コース※ 法学未修者：３年　標準コース ※長期履修学生制度あり	100単位以上

実践型教育を展開し、司法試験への確かな学力を養成

「学の実化」という教育理念を継承し、確かな実務的思考を育むカリキュラムを開設しています。基本的に10人未満の少人数クラスのもと、ディスカッションやソクラティック・メソッド（問答式）を取り入れた多様な授業を展開しています。また、法律相談や模擬裁判、国内外の法律事務所等へのエクスターンシップといった体験型学修の機会を積極的に取り入れ、ハイレベルな実践教育を行っています。

高次元の法学研究と実務理解を可能にする多彩な教授陣

専任教員には研究者教員だけでなく、元裁判官および現役弁護士など多彩な実務家教員を配置しています。実務関連科目はもとより、憲法、民法、刑法などの基幹科目については、研究者教員による少人数教育を行っています。また、専任教員によるオフィスアワーやクラス担任制に加え、アカデミック・アドバイザーである若手弁護士が学修をサポートするなど、学生一人ひとりの学修支援にも力を注いでいます。

担当科目は、2024年度開講の担当科目を示す。

	教員名	専門分野	担当科目
憲　法	木下　智史 教授	憲法	憲法Ⅱ、憲法演習、憲法訴訟、連携講義（憲法発展演習）
刑　法	佐川　友佳子 教授	刑法	刑法Ⅱ、刑法演習Ⅰ、刑法演習Ⅱ
行政法	元氏　成保 教授（実務家）	租税法、行政法	行政救済法、公法総合演習、租税法１、租税法２、租税法演習、連携講義（行政法発展演習）
	海道　俊明 准教授	行政法	行政救済法、行政法演習、連携講義（行政法発展演習）
刑事訴訟法	中島　洋樹 教授	刑事訴訟法	刑事訴訟法演習、連携講義（刑事証拠法演習）
	山名　京子 教授	刑事訴訟法	刑事訴訟法
刑事実務	和田　真 教授（実務家）	刑事実務	刑事法総合演習、刑事訴訟実務の基礎、刑事模擬裁判、法と社会（裁判実務）
民　法	占部　洋之 教授	民法	民法演習Ⅲ、民法発展講義
	下村　正明 教授	民法	民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、民法Ⅳ、民法Ⅴ
	多治川　卓朗 教授	民法	民法演習Ⅰ、連携講義（民法演習）
民事訴訟法	酒井　一 教授	民事訴訟法	民事訴訟法、民事訴訟法発展講義
民事実務	小野　憲一 教授（実務家）	民事実務	民事訴訟法演習、民事法総合演習、法曹倫理、民事執行・民事保全法、現代法特殊講義（政策形成訴訟と裁判実務）、法と社会（裁判実務）
	森　純子 教授（実務家）	民事実務	民事訴訟法演習、民事法総合演習、民事訴訟実務の基礎、民事訴訟実務演習
商　法	北村　雅史 教授	商法	商法、会社法演習、連携講義（会社法発展演習）
	早川　徹 教授	商法	商法演習、会社法発展講義
基礎・先端科目	川口　美貴 教授	労働法	労働法１、労働法２、労働法３、労働法演習
	村上　幸隆 教授（実務家）	国際取引法、中国法	海外エクスターンシップ、国際私法１、国際私法２、国際取引法、中国ビジネス法講義１、中国ビジネス法講義２、中国ビジネス法講義３、渉外法律実務演習、アジア進出企業支援、法整備支援論
実務関連科目	大住　洋 教授（実務家）	知的財産法	民法演習Ⅱ、知的財産法演習
	尾島　史賢 教授（実務家）	倒産法、民事実務	国内エクスターンシップ、倒産法１、倒産法２、倒産法演習
	近藤　剛史 特別任用教授（実務家）	民法、メディア法	現代法特殊講義（知的財産訴訟実務）、法と社会（法とメディア）
	山本　知広 特別任用准教授（実務家）	倒産法、民事実務	現代法特殊講義（倒産判例）、リーガルクリニック

会計専門職大学院

入学定員	教員スタッフ	修業年限	修了所要単位
40名	13名（研究者教員７名、実務家教員６名）	２年（長期履修学生制度あり）	48単位

得意分野をもつ会計専門職業人の養成

監査界・産業界・官公庁のリーダーたりうる 会計専門職業人（MBA in Accountancy）を養成する多彩なカリキュラムを用意しています。また、個性を伸ばす個別演習科目である各種演習科目を設けており、進路や学修スタイルに応じて学修することで、知識としての会計を学修するだけでなく、豊かな会計センス、高度な判断・思考能力、会計専門職業人としての職業倫理、さらには、財務や法律・税務、経営などの個性ある得意分野を戦略的に修得することができます。

少人数教育による関大式超会計人養成プログラム

一人ひとりのキャリア設計にあった教育を行うため、少人数制の問題解決型演習科目を用意しています。監査界や産業界などで活躍している、公認会計士の資格をもっている、それぞれの専門領域での第一人者と言われるなど、個性的で能力の高い専任の教員が、一人ひとりのニーズに対応します。また、オフィスアワーを設け、学修や将来設計に関する個別指導を定期的に受けることができます。

担当科目は、2024年度の開講科目を示す。

	教員名	専門分野	担当科目
財務会計系	加藤　久明 教授	財務会計	中級商業簿記、上級簿記論、財表作成簿記論など
	富田　知嗣 教授	会計学	上級財務会計論、会計基準論、IFRS会計論など
	池上　しのぶ 特別任用教授（実務家）	財務会計、監査	会社経理実務、不正摘発監査論、連結会計実務など
	乾　将太 特別任用准教授(実務家)	財務会計、地方公会計	会計制度論、連結会計論、財務会計各論など
管理会計系	大西　靖 教授	管理会計	中級工業簿記、上級管理会計論
	坂口　順也 教授	管理会計	上級原価計算論、戦略管理会計論など
監査系	松本　祥尚 教授	監査論	監査制度論、監査報告論、基本監査プログラム演習など
	小林　依子 特別任用教授（実務家）	財務会計、監査	会計専門職業倫理、実践会計プログラム演習、ディスクロージャー実務など
	廣田　壽俊 特別任用教授（実務家）	会計学、監査	会計専門職業倫理、会計事例研究、企業マネジメントと会計
	福島　康生 特別任用教授（実務家）	財務諸表等監査、企業会計	監査基準論、監査事例研究
法律・税務系	中村　繁隆 教授	租税法	法人税法、上級税務会計論、租税法理論など
	三島　徹也 教授	商法	企業法、商取引法、会社法など
経営・経済系	宗岡　徹 教授（実務家）	公会計論、財務分析論、 レギュラトリー・サイエンス	企業分析論、コーポレート・ファイナンス論、インベストメント論など

教職支援体制

教員養成段階から、卒業後の教職生活までを一つの過程としてとらえ、教員として必要な資質能力の開発や実践的指導力の養成、教員採用試験対策等の就業支援を行う教員養成の拠点として、教職支援センターを開設しています。教職支援センターでは、学校現場の現状や課題に熟知し、実務経験豊富な専門のアドバイザーが教職をめざす皆さんの相談に応じています。「教師になりたい」という皆さんの熱い思いを支援します。

主な支援内容

- 教職課程の履修相談
- 教職を志望する方のためのキャリア相談、アドバイス（随時）
- 教科書および教職関係資料の閲覧、貸出
- 都道府県教育委員会による教員採用試験説明会
- 教員採用試験対策講座
- 教員採用試験エントリーシート添削や小論文作成等の指導
- 教員採用試験面接対策セミナー

中学校および高等学校教諭の専修免許状取得の課程

中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状取得資格を得た方が、当該教科の中学校または高等学校教諭専修免許状授与の課程認定のある大学院（博士課程前期課程）に入学、同課程を修了（基礎資格の取得）し、所定の「大学が独自に設定する科目」（24単位）を修得すれば、中学校または高等学校教諭の専修免許状取得資格を得ることができます。また、大学院入学後に、中学校あるいは高等学校教諭一種免許状取得のために、不足している学部配当の教職課程関係科目を履修することもできます（指導教員の許可が必要）。

■ 各研究科で取得できる専修免許状

（2024年4月現在）

研究科	専攻	免許状の種類	
		中学校教諭専修免許状教科	高等学校教諭専修免許状教科
法 学	法学・政治学	社　会	公　民
文 学	総合人文学	国　語	国　語
		社　会	地理歴史
			公　民
		英　語	英　語
		フランス語	フランス語
		ドイツ語	ドイツ語
経済学	経済学	社　会	地理歴史
			公　民
商 学	商　学	―	商　業
社会学	社会学	社　会	公　民
	社会システムデザイン	社　会	公　民
	メディア	社　会	公　民
総合情報学	社会情報学	―	情　報
	知識情報学	―	情　報
理工学	システム理工学	数　学	数　学
		理　科	理　科
		―	工　業
	環境都市工学	―	工　業
	化学生命工学	理　科	理　科
		―	工　業
外国語教育学	外国語教育学	英　語	英　語
		中国語	中国語
社会安全	防災・減災	社　会	公　民
東アジア文化	文化交渉学	社　会	地理歴史
ガバナンス	ガバナンス	社　会	公　民
人間健康	人間健康	保健体育	保健体育

教職支援センターWebサイトでは、教職課程の履修方法（教職課程履修の手引き）や教員採用試験に関するさまざまな情報を発信しています。 https://www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku

外国人留学生へのサポート

私費外国人留学生を経済的サポート

私費外国人留学生を対象とした以下2種類の奨学金があります。それぞれ支給期間は1年間で、在留資格「留学」を取得することが条件となります。博士課程後期課程の私費外国人留学生につきましては、標準修業年限内は原則全員に給付します。

■ 私費外国人留学生入学前予約奨学金（新入生対象）

これから関西大学へ入学する私費外国人留学生を対象とした奨学金です。入学試験等の点数を基に選考し、入学前に通知します。

■ 私費外国人留学生奨学金（２年次生以上対象）

２年次以上に在学する私費外国人留学生を対象とした奨学金です。毎年度募集を行い、入学後の学業成績を基に選考し、決定します。

その他、国際部では私費外国人留学生のみを対象とした外部の財団等が給付する奨学金も取り扱っています。留学生を対象とする奨学金の詳細については、国際部Webサイト https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/from/support.php をご確認ください。

外国人留学生への学習支援 ―日本語サポートプログラム―

国際部では、留学生の皆さんが充実した学生生活を送れるように、さまざまな日本語サポートプログラムを用意しています。

プログラム名	内容	レベル	形態	対象	定員
オンデマンド型留学生のための学習支援コース（プレゼンテーション編）	学部や大学院レベルでのプレゼンテーションに必要な幅広いアカデミック・スキルを実践形式で学ぶ。	上級	オンデマンド型（関大LMSによる学習全7回）およびZoomによる個別相談セッション（3回）	正規留学生 外国人研究生	なし
日本語会話ブラッシュアップセミナー	日本社会に順応するために必要な生活場面における日本語会話を実践形式で学ぶ。	中級～上級	講座 （週30分×4～7週）	正規留学生 外国人研究生	20名
日本語アカデミック・リテラシー養成講座動画配信	分かりやすく魅力的な文章の書き方、論理的な日本語の組み立て方、説得力のあるプレゼンテーション等について講義動画で学ぶ。	上級	動画配信 （5月～翌年3月）	正規留学生 外国人研究生	なし
日本語チューター・チューティー制度	チューターがチューティー（外国人留学生）の学習（主に日本語）や日常生活に関する助言・協力を行う。	初級～上級	個別支援 （5月～7月）（10月～翌年1月）	正規留学生 外国人研究生	なし
日本語アカデミック・ライティング支援（個別相談）	持込論文・レポート等を用い、日本語の文章表現や構成等についてアドバイスを受ける。	上級	個別相談 （週3日・各日30分×４名）	正規留学生 外国人研究生	各日4名

外国人留学生へのキャリアサポート

日本で就職を希望する外国人留学生は多く、また、日本の企業もグローバルに活躍できる外国人留学生の採用を希望しています。しかし、日本で就職をするためには、日本特有の選考方法や採用スケジュールを理解し、就職活動を計画的に進める必要があります。そのために、関西大学ではさまざまなサポートを用意しています。

外国人留学生のためのイベント

外国人留学生に特化した行事を多数用意しています。日本での就職活動の進め方、応募書類の書き方、日本企業でのインターンシップの参加方法、面接対策等、各種イベントに参加して納得のいく進路選択をしてください。

キャリアセンターでの個別相談

キャリアセンターでは、外国人留学生の皆さんの就職活動における不安や悩みを個別に相談できます。

留学生就職支援コンソーシアム「SUCCESS」

留学生就職支援コンソーシアムSUCCESSは、産官学による高度人材の育成と国内企業における定着促進に取り組み、日本社会のDE&I促進にも寄与することをめざしています。現在、全国18の国公私立大学及び賛助会員5機関が参画し、関西大学国際部が事務局運営を担っています。「SUCCESS」に登録することで、コンソーシアムに参画している他大学の外国人留学生とともに「キャリアデザイン」、「ビジネス日本語」、「インターンシップ」の各種プログラムを受講し、日本での就職に必要なスキル（異文化間コミュニケーション力、計画・調査力、自己管理力等）を身につけながら、日本国内における進路決定をめざすことができます。
プログラム内容は次のとおりです。

- 日本のビジネスシーンで必要な「ビジネス日本語」教育
- 日本の企業文化や商習慣、ビジネスマナー、就職活動の理解や企業・業界研究等を学ぶ留学生を対象とした「キャリアデザイン」
- 企業と共同開発した留学生向けの「インターンシップ」
- SUCCESSで連携する企業ネットワークによる、セミナーやワークショップでの日本の企業人との交流

SUCCESS Webサイト（登録はこちら）
https://www.success1.jp/

キャリアサポート

[キャリアセンターHP]　https://www.kansai-u.ac.jp/career/index.html

高度に情報化した現代社会で私達は、日常的に多様かつ膨大な情報に囲まれているとともに、社会のさまざまな場面で前例のない問題への対応・解決をせまられています。この現代社会において、大学院修了者の有する卓越した専門知識と問題解決能力は大いに評価され、皆さんの活躍の場は拡大しています。キャリアセンターでは、大学院で学んだ皆さん一人ひとりの異なる興味・能力・適性に応じたキャリアデザインを支援するために、さまざまなキャリア・就職支援プログラムを用意しています。

キャリアセンター

キャリアセンターでは、キャリアセンタースタッフに加え、「就職専門相談員」がさまざまな就職・進路に関する問い合わせにマンツーマンで相談できる体制を整えています。また、キャリアカウンセリングルームでは、キャリアに関する専門的な知識を有するキャリアカウンセラーが個別相談に応じています（予約制）。必要に応じて適性検査を用いるなど、専門家の視点からキャリアデザインを一緒に考えます。

	場所	開室時間※
キャリアセンター事務室	千里山キャンパス 新関西大学会館北棟3階	月～金曜日／9:00～18:00 （時期によっては17:00閉室有） 土曜日／9:00～17:00
キャリアセンター理工系事務室	千里山キャンパス 第4学舎1号館2階	
キャリアセンター高槻キャンパス分室	高槻キャンパス K棟（情報演習棟）1階	月～金曜日／9:00～17:00
キャリアセンター 高槻ミューズキャンパス分室	高槻ミューズキャンパス 西館3階	月～金曜日／9:00～17:00
キャリアセンター堺キャンパス分室	堺キャンパス A棟2階	月～金曜日／9:00～17:00
キャリアセンター梅田オフィス	梅田キャンパス 5階	月～金曜日／10:00～18:00 （時期によっては、土曜日開室有）

※【閉室日】日曜日・授業日を除く祝日（千里山キャンパス以外は土日・祝日）
　なお、本学の夏季・冬季・春季休業期間中などは変更する場合があります。

東京センター

JR東京駅に隣接し、関大生の東京方面での活動拠点としてプライベートブースや、休憩や着替えなどができるスペースがあり、荷物の預かり、資料印刷、コピー、証明書・学割の発行などが行えます。（入館にあたっては学生証が必要です。必ずご持参ください。）

[HP] https://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/

住所	東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階
電話	03-3211-1670
開室時間	月～金曜日／9:00～18:00　土曜日／9:00～17:00　（日・祝日・大学の休日は閉室）

※サピアタワー3階「オフィスロビー総合受付」で学生証提示のうえ、入館手続きが必要です。

KICSS（関西大学インターネットキャリア支援システム）

KICSSとは、関西大学キャリアセンターが提供するキャリア支援システムです。インターネットを利用することにより、「いつでも」「どこでも」キャリアセンターが発信するすべての情報を知ることができます。KICSSには、約32,000社の企業・公共団体の企業情報・求人情報などがデータベース化されています。また、キャリアセンター主催行事の案内はもちろん、キャリアセンターが得た独自の採用情報など、毎日多くの情報が更新され、関大生にとって欠かせない、情報源として活用されています。このサイトから入手できるのは、具体的な就職活動に関する情報だけではありません。TOEIC® L&Rや公務員試験など、国家試験や資格に関する情報、イベントのお知らせも常に発信しており、皆さんがキャリアプランニングを行う上で、強力な味方となるシステムです。

キャリア・就職支援プログラム　※主な支援プログラム

就職ガイダンス

就職活動の本格スタートに備え、キャリアセンターでは就職ガイダンスを実施しています。就職ガイダンスでは就職活動の流れや心構えなど、年に複数回、その時期に必要な情報を丁寧にレクチャーしていきます。スムーズに就職活動を進めるために参加必須のガイダンスです。

業界研究セミナー・企業研究セミナー

企業の人事採用担当者等を招き、多数のセミナーを開催しています。就職活動のスタートを間近に控えた学生にビジネスの最前線で活躍する社会人の声に接する機会を創ることで、学生自身が社会や仕事に対しての認識を深め、自ら最適な進路選択を導きだす力を養成することをねらいとしています。

就活対策講座・学力試験対策

就業体験・インターンシップの応募に伴う選考や本選考に向けた各種対策講座を実施します。就職活動を行ううえで重要となる選考ステップにおける各テーマに精通したプロの講師を招き、実践的でわかりやすい解説を行います。また、学力試験対策としてオンラインでの一斉模擬テストも実施しています。

【2023年度実施講座】
①自己分析　②エントリーシート作成　③業界・企業研究　④学力試験対策

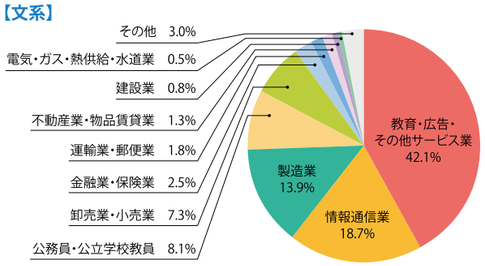
公務員志望者への就職支援

公務員をめざす学生対象に公務員ガイダンスを実施し、公務員試験の筆記試験対策や人物試験対策について、民間就職との流れの違いを含め、職種ごとの説明を行っています。また、時期に応じてキャリア相談に公務員志望者専用枠を設定し、専門的なアドバイスを行う体制も整え、「夏期対策講座・冬期対策講座」「人物試験対策講座」「集団討論×集団面接実践会」などの行事も開催しています。

上記支援プログラムのほか、「OB・OG懇談会」や「障がい者向け就職支援セミナー」などきめ細やかな行事を実施しています。

大学院生の就職状況（過去3年間の実績）

【文系】



就職先一例（法人格省略・順不同）

《全体》

アクセンチュア／サントリーホールディングス／楽天グループ／有限責任監査法人トーマツ／ソフトバンク／日本生命保険／富士通／ソニーグループ／三菱重工業／三菱電機／ヤフー／国家公務員総合職／国税専門官／大阪府教員／大阪市職員

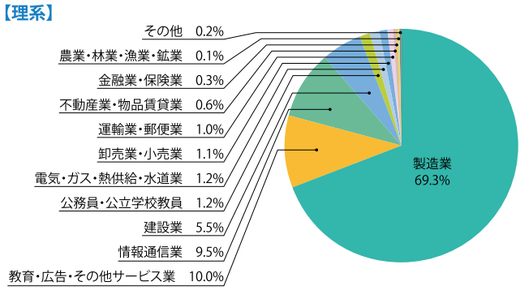
など

《外国人留学生》

あいおいニッセイ同和損害保険／EY新日本有限責任監査法人／CTCシステムマネジメント／デルタ電子／TOWA／アクセンチュア／日本アイ・ビー・エム／京セラコミュニケーションシステム／ソフトバンク／日立Astemo／富士通／村田製作所／リコージャパン

など

【理系】



就職先一例（法人格省略・順不同）

《全体》

花王／鹿島建設／関西電力／京セラ／クボタ／五洋建設／ソニーグループ／積水化学／ダイキン工業／東海旅客鉄道／TOPPAN／トヨタ自動車／富士通／パナソニック／三菱重工業／山崎製パン／大阪府職員

など

《外国人留学生》

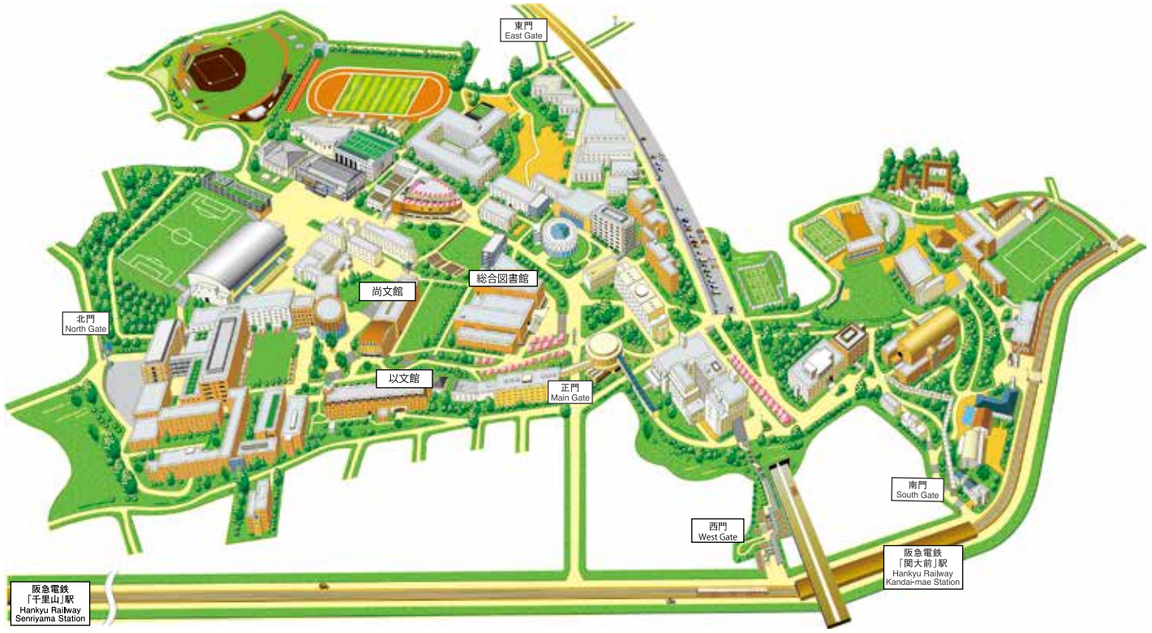
鹿島建設／栗本鐵工所／シャープ／住友電気工業／積水樹脂／テルモ／三菱電機／FDK

など

施設案内

千里山キャンパス

法学研究科、文学研究科、経済学研究科、商学研究科、社会学研究科、理工学研究科、外国語教育学研究科、心理学研究科、東アジア文化研究科、ガバナンス研究科、法務研究科（法科大学院）、会計研究科（会計専門職大学院）



尚文館

大学院の講義・演習等は、大学院専用施設である尚文館（地下1階・地上7階、延床面積約11,900平方メートル）を中心に行われます。
尚文館には、講義室13室、演習室35室、パソコン教室1室のほか、マルチメディアAV大教室（190名収容）があります。

以文館

以文館は、“威風堂々たる西洋建築”と表された、大学本館（1927年竣工）をモチーフに建築され、おもに法務研究科（法科大学院）、東アジア文化研究科で利用されています。

【法科大学院】

授業で使用するほか24時間365日利用できる法科大学院生専用の自習室もあります。自習室では、ネットワークに接続可能で、自席で判例検索も可能です。

【東アジア文化研究科】

東アジア文化交渉学の教育研究拠点として、文部科学省の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」に最高評価の「S」を獲得して2012年に採用され、「文化交渉学研究拠点」を設置しました。

高槻キャンパス

総合情報学研究科

高槻キャンパスは、大阪と京都の中間に位置するなだらかな丘陵地にあります。その広さは約45万平方メートルで、甲子園球場の約11倍。最先端技術を導入してマルチメディア時代を先駆けるハイレベルな情報機能を備えています。次世代を担う情報ジェネラリストを育てるのにふさわしいインテリジェント空間です。

高槻ミューズキャンパス

社会安全研究科

高槻ミューズキャンパスは、大阪と京都の中間に位置する高槻市のJR高槻駅前という好立地にあります。時代とともに変化する災害や事故から安全な社会を実現するために、複数の関連分野の学際融合研究を通して、社会安全研究領域を創設するとともに、防災・減災および事故防止に寄与できる人材を養成する施設を備えています。

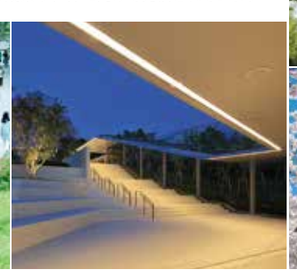
堺キャンパス

人間健康研究科

堺キャンパスは、総面積は約3万平方メートルにおよび、社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）を推進するための教育研究環境を備えています。堺市をはじめとする地方自治体と連携し、地域住民に対して健康で豊かな生活を享受できるよう、各種の支援・連携事業を展開し、積極的な地域貢献が行われています。

キャンパス紹介

千里山キャンパス



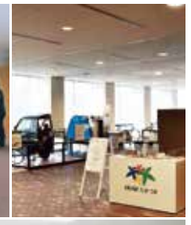
最先端の学びを支える大学院生専用の学修施設（大学院棟）をはじめ、多彩な施設を擁する総面積約35万㎡におよぶ広大な教育・研究空間です。都心からの交通の便に恵まれながら、千里山の丘陵地に広がる豊かな緑にあふれた立地は絶好の教育・研究環境を備えており、数々の成果が世界に向けて発信されています

高槻キャンパス

マルチメディア時代を先駆ける高次情報機能が完備された次世代教育拠点となるキャンパス

高槻ミューズキャンパス

駅前という絶好のロケーションをいかし、安全・安心なまちづくりに寄与する社会貢献型都市キャンパス



堺キャンパス

堺市との強力な連携をもとに、学生と市民が交流する地域貢献の拠点となるキャンパス

アクセスマップ

■ 大阪梅田からのアクセス
阪急電鉄「大阪梅田」駅から、「北千里」行で「関大前」駅下車（この間約20分）、または「京都河原町」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車(この間約15分)、いずれも徒歩約５分。

■ 京都河原町からのアクセス
阪急電鉄「大阪梅田」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車(この間約15分)、徒歩約５分。

■ Osaka Metro利用のアクセス
Osaka Metro堺筋線（阪急電鉄に相互乗り入れ）が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

■ 新幹線「新大阪」駅からのアクセス
JR「新大阪」駅からOsaka　Metro御堂筋線「なかもず（方面）」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方（みなみかた）」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車（この間約30分）、徒歩約5分。

■ 大阪国際（伊丹）空港からのアクセス
大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市（かどまし）」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車（この間約30分）、徒歩約5分。

■ JRでのアクセス
JR京都線「高槻」駅（大阪・京都駅から共に約１５分）または「摂津富田」駅下車、高槻市営バス※に乗り換え。

■ 阪急電鉄でのアクセス
阪急京都線「高槻市」駅（大阪梅田・京都河原町駅から共に約２０分）または「富田」駅下車後、JR「高槻」駅またはJR「摂津富田」駅まで徒歩移動（約5～１０分）し、高槻市営バス※に乗車。

※高槻市営バス
JR「高槻」駅から「関西大学」行に乗車。JR「摂津富田」駅からは「関西大学」「萩谷」「萩谷総合公園」行のいずれかに乗車し、キャンパス内のバス停「関西大学」下車（この間両ルート共に約２０分）。
「西の口（関大正門前）」では降りないでください。

■ JRでのアクセス
JR京都線「高槻」駅（大阪・京都駅から共に約１５分）下車、徒歩約7分。

■ 阪急電鉄でのアクセス
阪急京都線「高槻市」駅（大阪梅田・京都河原町駅から共に約20分）下車、徒歩約10分。

■ 南海電鉄でのアクセス
南海高野線「浅香山」駅（なんば駅から約20分）下車、すぐ。

学費・諸費

博士課程前期課程・博士課程後期課程　2025年度入学生

注１）関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第１項第11号に規定する者（飛び入学する者）が、大学院へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を徴収しません。
注２）関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部または大学院へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を半額とします。

前期課程２年コース

法学・文学・経済学・商学・社会学・東アジア文化・ガバナンス研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	364,500	364,500	729,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		504,500	364,500	749,000

総合情報学・社会安全研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	489,500	489,500	979,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		629,500	489,500	999,000

理工学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	569,500	569,500	1,139,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		709,500	569,500	1,159,000

外国語教育学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	404,500	404,500	809,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		544,500	404,500	829,000

心理学研究科　心理学専攻

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	374,500	374,500	749,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		514,500	374,500	769,000

心理学研究科　心理臨床学専攻

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	500,000	500,000	1,000,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		640,000	500,000	1,020,000

人間健康研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	384,500	384,500	769,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		524,500	384,500	789,000

前期課程３年コース

法学・文学・経済学・商学・東アジア文化・ガバナンス研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	268,000	268,000	536,000	535,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		408,000	268,000	556,000	535,000

※経済学・商学研究科は、社会保険労務士特別推薦入学試験の方のみ、前期課程３年コースを選択できます。

総合情報学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	371,500	371,500	742,000	742,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		511,500	371,500	762,000	742,000

外国語教育学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	296,500	296,500	592,000	592,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		436,500	296,500	612,000	592,000

心理学研究科 心理学専攻

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	278,000	278,000	556,000	555,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		418,000	278,000	576,000	555,000

人間健康研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	284,500	284,500	569,000	569,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		424,500	284,500	589,000	569,000

法科大学院　2025年度入学生

法学未修者コース（３年修了）、法学既修者コース（２年修了）

（単位　円）

種別	区分	2025年度 未修１年次生 既修２年次生 入学初学期	2025年度 未修１年次生 既修２年次生 秋学期	2025年度 未修１年次生 既修２年次生 年間	2026年度 未修２年次生 既修３年次生 年間	2027年度以降 未修３年次生 年間
学費	入学金	260,000	—	260,000	—	—
	授業料	605,000	605,000	1,210,000	1,360,000	1,360,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	10,000	20,000	—
合計		875,000	605,000	1,480,000	1,380,000	1,360,000

法学既修者コース（長期履修学生制度（３年修了））

長期履修学生制度（３年修了）の学費については、2025年度法科大学院学生募集要項でご確認ください。

注１）関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって法務研究科（法科大学院）学則第26条第11号に規定する者（飛び入学する者）が、法務研究科（法科大学院）へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を半額とします。
注２）関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部または大学院へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を半額とします。
注３）諸費の校友会基本会費は、入学時に10,000円、次年度に20,000円の計30,000円を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第１項第11号に規定する者（飛び入学する者）で、すでに納入済の方からは徴収いたしません。

注３）諸費の校友会基本会費は、入学時に10,000円、次年度に20,000円（秋学期入学者については、入学翌年度の春学期に10,000円、翌春学期に20,000円）の計30,000円（１年コースについては入学時に30,000円）を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第１項第11号に規定する者（飛び入学する者）で、すでに納入済みの方からは徴収いたしません。

前期課程１年コース

文学研究科（現職教員１年制）、ガバナンス研究科（社会人１年制）

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	480,500	480,500	480,500
諸費	校友会基本会費	30,000	—	—
合計		640,500	480,500	480,500

外国語教育学研究科（現職教員１年制）

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—
	授業料	534,500	534,500	534,500
諸費	校友会基本会費	30,000	—	—
合計		694,500	534,500	534,500

後期課程

法学・文学・経済学・商学・社会学・外国語教育学・東アジア文化・ガバナンス・人間健康研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	364,500	364,500	729,000	729,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		504,500	364,500	749,000	729,000

総合情報学・理工学・社会安全研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	409,500	409,500	819,000	819,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		549,500	409,500	839,000	819,000

心理学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度 年間	2027年度以降 年間
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	374,500	374,500	749,000	749,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000	—
合計		514,500	374,500	769,000	749,000

前期課程２年コース（秋学期入学）

文学・東アジア文化研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	364,500	364,500	364,500	364,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000
合計		494,500	374,500	364,500	384,500

総合情報学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	489,500	489,500	489,500	489,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000
合計		619,500	499,500	489,500	509,500

理工学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—
	授業料	569,500	569,500	569,500	569,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000
合計		699,500	579,500	569,500	589,500

前期課程３年コース（秋学期入学）

文学・東アジア文化研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度 春学期	2027年度 秋学期	2028年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—	—	—
	授業料	268,000	268,000	268,000	268,000	267,500	267,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—	—
合計		398,000	278,000	268,000	288,000	267,500	267,500

総合情報学研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度 春学期	2027年度 秋学期	2028年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—	—	—
	授業料	371,500	371,500	371,000	371,000	371,000	371,000
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—	—
合計		501,500	381,500	371,000	391,000	371,000	371,000

後期課程（秋学期入学）

文学・外国語教育学・東アジア文化研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度 春学期	2027年度 秋学期	2028年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—	—	—
	授業料	364,500	364,500	364,500	364,500	364,500	364,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—	—
合計		494,500	374,500	364,500	384,500	364,500	364,500

総合情報学・理工学・社会安全研究科

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2026年度 春学期	2026年度 秋学期	2027年度 春学期	2027年度 秋学期	2028年度以降 １学期につき
学費	入学金	130,000	—	—	—	—	—
	授業料	409,500	409,500	409,500	409,500	409,500	409,500
諸費	校友会基本会費	—	10,000	—	20,000	—	—
合計		539,500	419,500	409,500	429,500	409,500	409,500

会計専門職大学院　2025年度入学生

（単位　円）

種別	区分	2025年度 入学初学期	2025年度 秋学期	2026年度以降 年間
学費	入学金	260,000	—	—
	授業料	660,000	660,000	1,350,000
諸費	校友会基本会費	10,000	—	20,000
合計		930,000	660,000	1,370,000

長期履修学生制度（３年コース・４年コース）

長期履修学生制度（３年コース・４年コース）の学費については、2025年度会計専門職大学院学生募集要項でご確認ください。

注１）関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院会計研究科学則第26条第11号に規定する者（飛び入学する者）が、会計研究科（専門職大学院）へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を半額とします。
注２）関西大学留学生別科を修了した者または本学留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部または大学院へ進学する場合は、入学金〈入学登録金〉を半額とします。
注３）諸費の校友会基本会費は入学時に10,000円、次年度に20,000円の計30,000円を委託により徴収いたします。なお、関西大学を卒業した者、関西大学大学院を修了した者または本学学部生であって大学院学則第46条第１項第11号に規定する者（飛び入学する者）で、すでに納入済の方からは徴収いたしません。

奨学支援制度

給付奨学金制度（各奨学金は併給不可）

関西大学大学院特別給付奨学金

入学試験において特に優秀な成績を収めた者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間	標準修業年限（毎年学業成績等による継続審査あり）	

課　程	研　究　科	金額（年額）
前　期	法学、文学、経済学、商学、社会学、心理学（心理学専攻）、東アジア文化、ガバナンス、人間健康	500,000円
	外国語教育学	550,000円
	総合情報学、社会安全	600,000円
	心理学（心理臨床学専攻）	650,000円
	理工学	750,000円
後　期	全研究科	500,000円

※対象者には採用通知を送付いたします。
※博士課程前期課程において、３年コース、１年コースを希望される方は、給付金額が異なります。別途、お問い合わせください。

関西大学大学院給付奨学金・教育助成基金給付奨学金

学業成績が特に優秀で、かつ本学が定める家計基準を満たしている者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間	１年間（再出願可）	
給付金額	下表参照	

関西大学社会人大学院学生給付奨学金

関西大学大学院給付奨学金（教育助成基金給付奨学金）の家計基準を超える収入の社会人大学院学生で、成績に加え、各研究科で定める優秀な社会人業績を収めている者		
対象課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
給付期間	１年間（再出願可）	
給付金額	下表参照	

給付金額

≪関西大学大学院給付奨学金、教育助成基金給付奨学金、
関西大学社会人大学院学生給付奨学金共通≫

課　程	研　究　科	金額（年額）
前　期	法学、文学、経済学、商学、社会学、心理学（心理学専攻）、東アジア文化、ガバナンス、人間健康	250,000円
	外国語教育学	275,000円
	総合情報学、社会安全	300,000円
	心理学（心理臨床学専攻）	325,000円
	理工学	375,000円
後　期	全研究科	250,000円

※博士課程前期課程において、３年コース、１年コースを希望される方は、給付金額が異なります。別途、お問い合わせください。

関西大学法科大学院給付奨学金※４（2025年度予定）

対象者	法曹コース特別選抜入学試験合格者全員	卒業見込者特別入学試験合格者全員	一般入学試験および実務経験者特別入学試験の成績優秀者
給付金額	授業料の全額相当額	授業料の全額相当額	授業料の全額または半額相当額
給付期間	２年※１	法学既修者コース　：最長２年間※２ （長期履修学生制度適用者：最長３年間）※３ 法学未修者コース　：最長３年間※２	
給付方法	各学期の学費から給付額を差し引くことにより給付		

※１　原則、進級する（原級留置にならない）限り、連続した給付を行います。
※２　入学後2年目からは全在学生を対象として、前年度までの学業成績を基準に毎年審査を行います。
※３　原則、入学当初２年間は奨学金を給付します。
　　ただし、入学後３年目は入学当初２年間の成績を基に査定を行い、給付対象者を決定します。
※４　本研究科に在籍したことのある者が、入学試験により入学が認められた場合、本研究科在籍時の奨学金受給状況にかかわらず、給付候補者としません。

関西大学法科大学院 学習奨励金※４（2025年度予定）

法科大学院に在学する学生で関西大学法科大学院給付奨学金の対象にならなかった者	
給付期間※１	法学既修者コース　：最長２年間※１ （長期履修学生制度適用者　：最長３年間）※１※２ 法学未修者コース　：最長３年間※１
給付金額	本学の授業料から国立大学の法科大学院授業料を差し引いた金額相当額（2025年度は年額406,000円※３）
給付方法	各学期の授業料から給付額を差し引くことにより給付

※１　給付対象者は、在学年数が標準修業年限を超えていない者とする。ただし、進級できなかった場合（原級留置となった場合）は給付対象者から除きます。
※２　原則、入学当初２年間は奨励金を給付します。
※３　2025年度の長期履修学生制度適用者給付金額は年額324,000円です。
※４　本研究科に在籍したことのある者が、入学試験により入学が認められた場合、本研究科在籍時の奨学金受給状況にかかわらず、給付候補者としません。

関西大学会計専門職大学院給付奨学金（2025年度予定）

新入生は入学試験成績優秀者または簿記・会計に関する高度な資格取得者、在学生は前年度学業成績優秀者	
給付金額※	授業料の全額相当額（２年間） 授業料の全額相当額（１年間） 授業料の半額相当額（１年間）

※長期履修学生制度により入学した者については適用された在学年数（３年間または４年間）給付されることがあります。
※詳細は、2025年度学生募集要項を確認してください。

貸与奨学金制度

・日本学生支援機構大学院第一種奨学金 ※１，２
・日本学生支援機構大学院第二種奨学金

※１「特に優れた業績による奨学金返還免除内定制度」について
　博士課程前期課程（修士課程）及び専門職大学院へ進学予定であり、進学後、日本学生支援機構大学院第一種奨学金を貸与される方を対象として、奨学金全部または一部の返還が免除される内定制度が設けられています。
※２「国による大学院修士段階における『授業料後払い制度』」について
　博士課程前期課程（修士課程）及び専門職大学院の方を対象に、在学中の授業料を国が立て替え、修了後の所得に応じて国に返還を行う制度が設けられています。

奨学金制度の詳細については、奨学支援グループへお問い合わせください

緊急・応急奨学金制度および教育ローン制度、その他

・関西大学災害時支援給付奨学金
・緊急・応急奨学金
・日本政策金融公庫「国の教育ローン」
・オリエントコーポレーション「学費サポートプラン」
・関西大学家計急変者給付奨学金
・関西大学短期貸付金

奨学金採用・利用状況（専門職大学院生は除く）

●2023年度　在学定期募集　出願・採用状況

関西大学大学院（専門職除く）独自の給付奨学金（出願制・春学期のみ）

課　程	出願者数	採用者数
博士課程前期課程	512人	338人
博士課程後期課程	49人	39人

※採用者数には辞退者数を含む
※関西大学大学院入学前予約採用型給付奨学生を除く

日本学生支援機構奨学金

課　程	出願種別	出願者数	採用者数
博士課程前期課程（法科以外の専門職を含む）	第一種奨学金	120人	110人
	第二種奨学金		11人
博士課程後期課程	第一種奨学金	7人	7人
	第二種奨学金		0人

※採用者は延べ人数を示す（併採用者は各奨学金にそれぞれに計上している）
※採用者数には辞退者数を含む

●2023年度　給付・貸与奨学金の利用者数

【給付制】

奨学金種別	利用者数
関西大学大学院独自の給付奨学金※１	653人
私費外国人留学生入学前予約奨学金	84人
民間・地方団体等及び指定寄付に基づく奨学金	34人
合　計	771人

【貸与制】

奨学金種別	利用者数
日本学生支援機構第一種奨学金（2023年１月末現在）	428人
日本学生支援機構第二種奨学金（2023年１月末現在）	43人
合　計	471人

※１　専門職および私費外国人留学生入学前予約奨学金を除く

≪大学院生数≫1,729人（2023年５月１日）

入学試験日程

■博士課程前期課程（外国人研究生含む）・博士課程後期課程

Ⅰ　2025年度春学期（４月）入学者対象

M：博士課程前期課程　D：博士課程後期課程

研　究　科	試　験　種　別	M	D	募集月	Webエントリー期間／入学検定料・選考料納入期間／出願書類提出期間	試　験　日	合格者発表日
法学研究科	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	×				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	学内進学試験（早期卒業）	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	留学生別科特別入試	○	×			10月6日（日）	
	外国人研究生選考	―					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	全国社会保険労務士会連合会特別推薦入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	留学生別科特別入試	○	×				
	JICAプログラムによる外国人留学生特別入試	○	×			2025年2月22日（土）	
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	×				
	RHEP特別推薦入試（英　語コース）	○	×				
	外国人研究生選考	―					
文学研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	×				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	現職教員1年制入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			―	
	外国人研究生選考	―				10月6日（日）	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	飛び級入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			―	
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	―					
経済学研究科	外国人留学生特別推薦入試（研究生併用方式）	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	―	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	×				
	外国人留学生入試	○	×				
	社会人入試	○	×				
	学内進学試験（早期卒業）	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	外国人研究生選考	―				10月6日（日）	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	学内進学試験（早期卒業）	○	×				
	全国社会保険労務士会連合会特別推薦入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	―					
商学研究科	外国人留学生特別推薦入試（研究生併用方式）	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	―	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	5年一貫教育プログラム（早期卒業）	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	外国人研究生選考	―				10月6日（日）	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	全国社会保険労務士会連合会特別推薦入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	―					
社会学研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月5日（土） 6日（日） 【※1】	10月11日（金）
	一般入試	○	×				
	外国人留学生入試	○	×				
	社会人入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	外国人研究生選考	―				10月6日（日）	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月21日（金） 22日（土） 【※2】	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			―	
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	―					
総合情報学研究科	学内進学試験	○	×	6月募集	4月24日（木）～5月9日（木）	6月8日（土）	6月14日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月5日（土）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	外国人研究生選考	―					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○				
	外国人研究生選考	―					

M：博士課程前期課程　D：博士課程後期課程

研　究　科	試　験　種　別	M	D	募集月	Webエントリー期間／入学検定料・選考料納入期間／出願書類提出期間	試　験　日	合格者発表日
理工学研究科	学内進学試験	○	×	6月募集	4月24日（水）～5月9日（木）	6月9日（日）	6月14日（金）
	一般入試	○	×	8月募集	6月27日（木）～7月11日（木）	8月24日（土）	8月30日（金）
	一般入試	×	○	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	×	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	特別選抜	○	×				
	外国人留学生入試（英語コース）	○	○			【※3】	
	海外協定校特別推薦入試	○	○			—	
	留学生別科特別入試	○	×			2025年2月22日（土）	
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○				
	RHEP特別推薦入試（英　語コース）	○	○				
	外国人研究生選考	—					
外国語教育学研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	一般入試	○	×				
	社会人入試	○	×				
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	一般入試（アストンDD）	○	×				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	現職教員1年制入試	○	×				
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	12月募集	10月25日（金）～11月8日（金）	12月8日（日）	12月13日（金）
	一般入試	○	○				
	一般入試（アストンDD）	○	×				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	現職教員1年制入試	○	×				
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	飛び級入試	○	×				
	留学生別科特別入試	○	×				
	外国人研究生選考	—					
心理学研究科（心理学専攻）	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人研究生選考	—					
心理学研究科（心理臨床学専攻）	学内進学試験	○	—	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	一般入試	○	—	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	外国人研究生選考	—					
	外国人研究生選考	—		2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
社会安全研究科	学内進学試験	○	×	6月募集	4月24日（水）～5月9日（木）	6月8日（土）	6月14日（金）
	留学生別科特別入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試（研究生併用方式）	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	—	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月5日（土）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			—	
	留学生別科特別入試	○	×			10月5日（土）	
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人入試（英語コースPDM）	×	○			—	
	外国人留学生特別推薦入試	○	×				
	留学生別科特別入試	○	×			2025年2月22日（土）	
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○				
	RHEP特別推薦入試（英　語コース）	×	○				
	外国人研究生選考	—					
東アジア文化研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月7日（日）	7月12日（金）
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			—	
	外国人研究生選考	—				10月6日（日）	
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	飛び級入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			—	
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	—					
ガバナンス研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月6日（土）	7月12日（金）
	学内進学試験（早期卒業）	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試（研究生併用方式）	○	×			—	
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月6日（日）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	社会人1年制コース	○	×				
	学内進学試験（早期卒業）	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			—	
	留学生別科特別入試	○	×			10月6日（日）	
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	社会人1年制コース	○	×				
	全国社会保険労務士会連合会特別推薦入試	○	×				
	社会人（吹田市職員）特別推薦入試	○	×				
	外国人留学生特別推薦入試	○	×			—	
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	○			2025年2月22日（土）	
	外国人研究生選考	—					

M：博士課程前期課程　D：博士課程後期課程

研　究　科	試　験　種　別	M	D	募集月	Webエントリー期間／入学検定料・選考料納入期間／出願書類提出期間	試　験　日	合格者発表日
人間健康研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	5月16日（木）～5月30日（木）	7月6日（土）	7月12日（金）
	一般入試	○	×				
	外国人留学生入試	○	×				
	社会人入試	○	×				
	学内進学試験	○	×	10月募集	8月19日（月）～9月2日（月）	10月5日（土）	10月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	×				
	社会人入試	○	○				
	外国人研究生選考	—					
	学内進学試験	○	×	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	2025年2月22日（土）	2025年2月28日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	×				
	社会人入試	○	○				
	留学生別科特別入試	○	×				
	RHEP特別推薦入試（日本語コース）	○	×				
	外国人研究生選考	—					

【※1】社会学専攻および社会システムデザイン専攻は10月6日（日）に行う。メディア専攻は10月5日（土）・6日（日）の2日間で行う。
【※2】社会学専攻および社会システムデザイン専攻は2025年2月22日（土）に行う。メディア専攻は2025年2月21日（金）・22日（土）の2日間で行う。
【※3】理工学研究科留学生入試（英語コース）において試験を実施する場合は、2025年2月22日（土）に行う。

Ⅱ　2025年度秋学期（9月）入学者対象

M：博士課程前期課程　D：博士課程後期課程

研　究　科	試　験　種　別	M	D	募集月	Webエントリー期間／入学検定料・選考料納入期間／出願書類提出期間	試　験　日	合格者発表日
法学研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
文学研究科	一般入試	○	○	7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			—	
	留学生別科特別入試	○	×				
	外国人研究生選考	—				2025年7月6日（日）	
経済学研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
商学研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
社会学研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
総合情報学研究科	学内進学試験	○	×	7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月5日（土）	2025年7月11日（金）
	一般入試	○	○				
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	×				
	外国人研究生選考	—					
理工学研究科	学内進学試験（早期卒業者対象）	○	×	6月募集	2025年4月24日（木）～5月8日（木）	—	2025年6月13日（金）
	外国人留学生入試	○	○	7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
	外国人留学生入試（英語コース）	○	○			【※4】	
	海外協定校特別推薦入試	○	○			—	
	外国人研究生選考	—				2025年7月6日（日）	
	社会人入試	×	○	8月募集	2025年6月26日（木）～7月10日（木）	2025年8月23日（土）	2025年8月29日（金）
	留学生別科特別入試	○	×				
外国語教育学研究科	一般入試	×	○	7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
	社会人入試	×	○				
	外国人研究生選考	—					
心理学研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
社会安全研究科	外国人留学生入試（英語コースPDM）	×	○	2月募集	2024年12月20日（金）～2025年1月10日（金）	—	2025年2月28日（金）
	外国人留学生入試（英語コースPDM）	×	○	6月募集	2025年4月24日（木）～5月8日（木）	—	2025年6月13日（金）
	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
東アジア文化研究科	一般入試	○	○	7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月6日（日）	2025年7月11日（金）
	外国人留学生入試	○	○				
	社会人入試	○	○				
	外国人留学生特別推薦入試	○	○			—	
	留学生別科特別入試	○	×				
	外国人研究生選考	—				2025年7月6日（日）	
ガバナンス研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月5日（土）	2025年7月11日（金）
人間健康研究科	外国人研究生選考	—		7月募集	2025年5月15日（木）～5月29日（木）	2025年7月5日（土）	2025年7月11日（金）

【※4】理工学研究科留学生入試（英語コース）において試験を実施する場合は、2025年7月6日（日）に行う。

■専門職学位課程

2025年度春学期（4月）入学者対象

法科大学院

日　程	試験種別	出願期間（最終日消印有効）	試験日	合格者発表日
S日程	卒業見込者特別入試	7月15日（月）～7月22日（月）	既修・未修：8月3日（土）	8月9日（金）
	法曹コース特別選抜入試（開放型選抜）			
A日程	法曹コース特別選抜入試（5年一貫型教育選抜）	9月6日（金）～9月13日（金）	既修・未修：9月29日（日）	10月11日（金）
	一般入試			
	実務経験者特別入試			
B日程	一般入試	12月17日（火）～2025年1月7日（火）	既修：募集なし 未修：2025年1月19日（日）	2025年1月24日（金）

会計専門職大学院

日　程	試験種別※1					出願期間（最終日消印有効）	試験日	合格者発表日
	一般	学内	早期卒業	公募制推薦	資格・社会人			
7月募集	○	○	—	○	○	6月17日（月）～6月24日（月）	7月7日（日）	7月12日（金）
10月募集	○	○	○	—	○	9月30日（月）～10月7日（月）	10月20日（日）	10月25日（金）
1月募集	○	○	○	○	○	12月17日（火）～2025年1月7日（火）	2025年1月19日（日）	2025年1月24日（金）
3月募集	○※2	○	○	—	○	2025年2月10日（月）～2月17日（月）	2025年3月1日（土）	2025年3月7日（金）

※1　その他の入試として、指定校推薦入試および留学生別科特別入試を実施しています。詳細については、それぞれの対象者へお知らせします。
※2　一般入学試験［学力重視方式］のみ募集します。

2024 年度　入学試験結果（単位：人）

※ 2024 年度秋学期入学試験は未実施のため、内訳に含みません。

■ 博士課程前期課程

入学試験状況（総数）

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学	法　政　研　究	3	1	0	0
		高度専門職業人養成	55	36	27	24
		国　際　協　働	2	2	2	2
		計	60	39	29	26
文　学	総合人文学	英米文学英語学	2	1	0	0
		英　米　文　化	1	1	0	0
		国　語　国　文　学	27	24	15	13
		哲　　学	7	7	2	2
		芸術学美術史	3	3	1	1
		日　本　史　学	6	6	5	3
		世　界　史　学	5	5	4	3
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	6	5	4	4
		教　育　学	42	28	13	12
		文化共生学	4	2	1	1
		映　像　文　化	11	9	2	2
		計	114	91	47	41
経済学	経済学	研究者養成	11	7	2	2
		高度専門職業人養成	70	40	19	17
		計	81	47	21	19
商　学	商　学	研究者養成	46	31	3	2
		高度専門職養成	80	59	31	26
		計	126	90	34	28
社会学	社会学	専　門　研　究	7	5	0	0
		課　題　研　究	32	26	13	12
		計	39	31	13	12
	社会システムデザイン		1	1	1	1
	メディア		86	65	14	11
	計		126	97	28	24
総合情報学	社会情報学		12	12	7	7
	知識情報学		33	30	29	27
	計		45	42	36	34
理工学	システム理工学	数　　学	2	2	2	2
		物理・応用物理学	19	17	16	13
		機　械　工　学	88	85	79	75
		電気電子情報工学	56	54	53	50
		計	165	158	150	140
	環境都市工学	建　築　学	42	36	32	25
		都市システム工学	46	39	34	32
		エネルギー環境・化学工学	41	40	33	31
		計	129	115	99	88
	化学生命工学	化学・物質工学	144	140	136	129
		生命・生物工学	36	32	30	29
		計	180	172	166	158
	計		474	445	415	386
外国語教育学	外国語教育学		99	79	30	29
心理学	心理学		12	11	9	8
	心理臨床学		31	28	15	14
	計		43	39	24	22
社会安全	防災・減災		20	19	16	16
東アジア文化	文化交渉学		28	23	14	11
ガバナンス	ガバナンス		8	8	7	7
人間健康	人間健康		17	15	10	8
合　計			1241	1034	711	651

一般入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学	法　政　研　究	1	0	0	0
		高度専門職業人養成	10	4	3	3
		国　際　協　働	0	0	0	0
		計	11	4	3	3
文　学	総合人文学	英米文学英語学	1	0	0	0
		英　米　文　化	1	1	0	0
		国　語　国　文　学	6	6	3	3
		哲　　学	3	3	0	0
		芸術学美術史	0	0	0	0
		日　本　史　学	0	0	0	0
		世　界　史　学	0	0	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	1	1	1	1
		教　育　学	2	1	0	0
		文化共生学	0	0	0	0
		映　像　文　化	2	2	1	1
		計	16	14	5	5
経済学	経済学	研究者養成	2	2	0	0
		高度専門職業人養成	9	4	2	2
		計	11	6	2	2
商　学	商　学	研究者養成	2	1	0	0
		高度専門職養成	13	12	9	8
		計	15	13	9	8
社会学	社会学	専　門　研　究	2	1	0	0
		課　題　研　究	1	0	0	0
		計	3	1	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		6	6	2	0
	計		9	7	2	0
総合情報学	社会情報学		3	3	1	1
	知識情報学		4	2	2	2
	計		7	5	3	3
理工学	システム理工学	数　　学	0	0	0	0
		物理・応用物理学	8	7	6	4
		機　械　工　学	30	29	27	25
		電気電子情報工学	20	20	19	16
		計	58	56	52	45
	環境都市工学	建　築　学	20	18	17	10
		都市システム工学	15	12	12	12
		エネルギー環境・化学工学	18	17	10	9
		計	53	47	39	31
	化学生命工学	化学・物質工学	60	56	53	48
		生命・生物工学	8	5	4	3
		計	68	61	57	51
	計		179	164	148	127
外国語教育学	外国語教育学		13	11	6	5
心理学	心理学		0	0	0	0
	心理臨床学		16	14	2	1
	計		16	14	2	1
社会安全	防災・減災		3	3	2	2
東アジア文化	文化交渉学		2	1	1	0
ガバナンス	ガバナンス		0	0	0	0
人間健康	人間健康		3	2	1	1
合　計			285	244	184	157

外国人留学生入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学	法　政　研　究	2	1	0	0
		高度専門職業人養成	20	11	6	6
		国　際　協　働	0	0	0	0
		計	22	12	6	6
文　学	総合人文学	英米文学英語学	0	0	0	0
		英　米　文　化	0	0	0	0
		国　語　国　文　学	12	9	3	3
		哲　　学	3	3	1	1
		芸術学美術史	1	1	0	0
		日　本　史　学	1	1	0	0
		世　界　史　学	2	2	1	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	4	3	2	2
		教　育　学	37	24	12	11
		文化共生学	3	1	0	0
		映　像　文　化	9	7	1	1
		計	72	51	20	18
経済学	経済学	研究者養成	9	5	2	2
		高度専門職業人養成	57	32	14	13
		計	66	37	16	15
商　学	商　学	研究者養成	44	30	3	2
		高度専門職養成	59	39	15	12
		計	103	69	18	14
社会学	社会学	専　門　研　究	5	4	0	0
		課　題　研　究	29	24	11	11
		計	34	28	11	11
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		75	54	8	7
	計		109	82	19	18
総合情報学	社会情報学		5	5	3	3
	知識情報学		7	6	5	5
	計		12	11	8	8
理工学	システム理工学	数　　学	0	0	0	0
		物理・応用物理学	0	0	0	0
		機　械　工　学	14	12	8	6
		電気電子情報工学	3	1	1	1
		計	17	13	9	7
	環境都市工学	建　築　学	8	5	2	2
		都市システム工学	14	10	5	3
		エネルギー環境・化学工学	2	2	2	1
		計	24	17	9	6
	化学生命工学	化学・物質工学	1	1	0	0
		生命・生物工学	3	2	1	1
		計	4	3	1	1
	計		45	33	19	14
外国語教育学	外国語教育学		59	44	7	7
心理学	心理学		5	4	2	2
社会安全	防災・減災		5	5	3	3
東アジア文化	文化交渉学		21	17	8	6
ガバナンス	ガバナンス		4	4	3	3
人間健康	人間健康		12	11	7	6
合　計			535	380	136	120

社会人入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学	法　政　研　究	0	0	0	0
		高度専門職業人養成	19	15	12	10
		国　際　協　働	0	0	0	0
		計	19	15	12	10
文　学	総合人文学	英米文学英語学	1	1	0	0
		英　米　文　化	0	0	0	0
		国　語　国　文　学	0	0	0	0
		哲　　学	0	0	0	0
		芸術学美術史	0	0	0	0
		日　本　史　学	2	2	2	2
		世　界　史　学	0	0	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	0	0	0	0
		教　育　学	3	3	1	1
		文化共生学	0	0	0	0
		映　像　文　化	0	0	0	0
		計	6	6	3	3
経済学	経済学	研究者養成	0	0	0	0
		高度専門職業人養成	1	1	0	0
		計	1	1	0	0
商　学	商　学	研究者養成	0	0	0	0
		高度専門職養成	6	6	5	4
		計	6	6	5	4
社会学	社会学	専　門　研　究	0	0	0	0
		課　題　研　究	1	1	1	1
		計	1	1	1	1
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		0	0	0	0
	計		1	1	1	1
総合情報学	社会情報学		1	1	0	0
	知識情報学		0	0	0	0
	計		1	1	0	0
理工学	システム理工学	数　　学	0	0	0	0
		物理・応用物理学	0	0	0	0
		機　械　工　学	0	0	0	0
		電気電子情報工学	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
	環境都市工学	建　築　学	0	0	0	0
		都市システム工学	0	0	0	0
		エネルギー環境・化学工学	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
	化学生命工学	化学・物質工学	0	0	0	0
		生命・生物工学	0	0	0	0
		計	0	0	0	0
	計		0	0	0	0
外国語教育学	外国語教育学		17	15	12	12
心理学	心理学		2	2	2	2
社会安全	防災・減災		1	0	0	0
東アジア文化	文化交渉学		1	1	1	1
ガバナンス	ガバナンス		2	2	2	2
人間健康	人間健康		1	1	1	1
合　計			58	51	39	36

■ 博士課程後期課程

入学試験状況（総数）

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学		3	3	3	3
文　学	総合人文学	英米文学英語学	1	1	1	1
		国語国文学	4	4	4	4
		哲　　学	5	4	4	4
		史　　学	4	4	4	3
		ドイツ文学	1	1	1	1
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	1	1	1	1
		教　育　学	3	3	2	2
		映像文化専修	0	0	0	0
	計		19	18	17	16
経済学	経済学		2	2	1	1
商　学	商　学		1	1	1	1
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		1	1	1	1
	計		1	1	1	1
総合情報学	総合情報学		9	9	9	9
理工学	総合理工学		20	19	18	18
外国語教育学	外国語教育学		16	14	9	9
心理学	心理学		7	7	7	7
社会安全	防災・減災		5	5	4	4
東アジア文化	文化交渉学		12	11	10	10
ガバナンス	ガバナンス		3	3	3	3
人間健康	人間健康		4	4	4	4
合　計			102	97	87	86

一般入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学		3	3	3	3
文　学	総合人文学	英米文学英語学	1	1	1	1
		国語国文学	4	4	4	4
		哲　　学	2	2	2	2
		史　　学	3	3	3	2
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	0	0	0	0
		教　育　学	1	1	1	1
		映像文化専修	0	0	0	0
	計		11	11	11	10
経済学	経済学		0	0	0	0
商　学	商　学		1	1	1	1
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		0	0	0	0
	計		0	0	0	0
総合情報学	総合情報学		7	7	7	7
理工学	総合理工学		8	8	7	7
外国語教育学	外国語教育学		6	5	2	2
心理学	心理学		4	4	4	4
社会安全	防災・減災		0	0	0	0
東アジア文化	文化交渉学		3	2	2	2
ガバナンス	ガバナンス		1	1	1	1
人間健康	人間健康		1	1	1	1
合　計			45	43	39	38

外国人留学生入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学		0	0	0	0
文　学	総合人文学	英米文学英語学	0	0	0	0
		国語国文学	0	0	0	0
		哲　　学	1	1	1	1
		史　　学	0	0	0	0
		ドイツ文学	0	0	0	0
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	1	1	1	1
		教　育　学	0	0	0	0
		映像文化専修	0	0	0	0
	計		2	2	2	2
経済学	経済学		2	2	1	1
商　学	商　学		0	0	0	0
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		1	1	1	1
	計		1	1	1	1
総合情報学	総合情報学		2	2	2	2
理工学	総合理工学		4	4	4	4
外国語教育学	外国語教育学		6	5	3	3
心理学	心理学		0	0	0	0
社会安全	防災・減災		0	0	0	0
東アジア文化	文化交渉学		7	7	6	6
ガバナンス	ガバナンス		0	0	0	0
人間健康	人間健康		0	0	0	0
合　計			24	23	19	19

社会人入学試験

研究科	専　攻	コース・専修・分野	志願者	受験者	合格者	入学者
法　学	法学・政治学		0	0	0	0
文　学	総合人文学	英米文学英語学	0	0	0	0
		国語国文学	0	0	0	0
		哲　　学	2	1	1	1
		史　　学	1	1	1	1
		ドイツ文学	1	1	1	1
		フランス文学	0	0	0	0
		地　理　学	0	0	0	0
		教　育　学	2	2	1	1
		映像文化専修	0	0	0	0
	計		6	5	4	4
経済学	経済学		0	0	0	0
商　学	商　学		0	0	0	0
社会学	社会学		0	0	0	0
	社会システムデザイン		0	0	0	0
	メディア		0	0	0	0
	計		0	0	0	0
総合情報学	総合情報学		0	0	0	0
理工学	総合理工学		7	6	6	6
外国語教育学	外国語教育学		4	4	4	4
心理学	心理学		3	3	3	3
社会安全	防災・減災		5	5	4	4
東アジア文化	文化交渉学		1	1	1	1
ガバナンス	ガバナンス		2	2	2	2
人間健康	人間健康		3	3	3	3
合　計			31	29	27	27

■ 法科大学院（法務研究科）

日　程	コース	志願者	受験者	合格者	入学者
S日程	既修一般	50	50	8	1
	既修卒見	61	58	10	2
	未修一般	31	31	9	6
	未修卒見	43	43	4	2
	計	185	182	31	11
A日程	既修一般	113	105	11	6
	既修特別（開放型）	18	16	2	1
	既修特別（5年一貫型）	0	0	0	0
	未修一般	64	60	9	4
	未修実務	2	2	0	0
	計	197	183	22	11
B日程	既修一般	69	52	7	2
	未修一般	41	38	11	9
	計	110	90	18	11
合　計	既修者	311	281	38	12
	未修者	181	174	33	21
	計	492	455	71	33

■ 会計専門職大学院（会計研究科）

種　別	志願者	受験者	合格者	入学者
一般入学試験	155	134	45	27
学内進学試験	30	30	29	22
公募制推薦入試	10	9	9	8
指定校推薦入試	4	4	4	4
資格取得者・社会人入試	18	16	15	10
その他入試	6	6	5	3
合　計	223	199	107	74

2024年度進学説明会

説明会の日時およびプログラム内容については、やむを得ず変更することがあります。
また、本学独自で開催する説明会のほかにも、新聞社等主催の合同進学説明会や留学生対象進学説明会への参加を予定しています。詳細は、本大学院入試情報サイトまたは専門職大学院の各ウェブサイトで必ずご確認ください。

進学説明会

■ 博士課程前期課程・後期課程

1．合同進学説明会

日　程	時　間	場　所	対象研究科	プログラム
2024年6月15日（土）	12：00～16：00	千里山キャンパス	全研究科	プログラムの詳細につきましては、本大学院入試情報サイトでご確認ください。
2024年11月16日（土）	未定			

2．研究科単独説明会

下記以外の説明会も開催予定です。詳細は、本大学院入試情報サイトをご確認ください。

研究科	日程	時間	プログラム	場所
文学研究科	2024年5月8日（水）～2024年5月31日（金）	—	動画オンデマンド配信※2：研究科概要説明	—
経済学研究科	2024年7月1日（月）	12：20～12：50	対面／Zoom形式：研究科概要説明	千里山キャンパス（対面形式の場合）
	2024年12月 ＊開催日未定	12：20～12：50		
社会学研究科	2024年5月30日（木）※1	12：20～12：50	Zoom形式：研究科概要説明、個別相談	—
総合情報学研究科	2024年5月10日（金）	12：15～12：55	対面形式：研究科概要説明、個別相談	高槻キャンパス
	2024年10月18日（金）	12：15～12：55	対面形式：研究科概要説明、個別相談	
外国語教育学研究科	2024年5月4日（土）～2025年3月31日（月）	—	動画オンデマンド配信※2：研究科概要説明、奨学支援制度説明、研究紹介等	—
	2024年7月13日（土）	14：00～16：00	動画オンデマンド配信※2：研究科概要説明、奨学支援制度説明 対面／Zoom形式：研究科概要説明、研究紹介、研究対象言語別個別相談　等	千里山キャンパス（対面形式の場合）
	2024年10月12日（土）	14：00～16：00		
	2024年11月16日（土）	15：00～17：00		
心理学研究科 心理臨床学専攻	2024年7月13日（土）※1	13：00～15：00	対面形式：専攻概要説明、個別相談	千里山キャンパス
社会安全研究科	2024年5月中旬～2025年3月31日（月）	—	動画オンデマンド配信※2：研究科概要説明	高槻ミューズキャンパス（対面形式の場合）
	2024年7月22日（月）※1	12：20～12：50	対面／Zoom形式：個別相談会	
	2024年7月23日（火）※1			
	2024年7月24日（水）※1			
東アジア文化研究科	2024年5月8日（水）～2024年5月31日（金）	—	動画オンデマンド配信※2：研究科概要説明	—
人間健康研究科	2024年5月7日（火）※1	12：20～12：50	対面／Zoom形式：研究科概要説明、教員紹介　等	堺キャンパス（対面形式の場合）
	2024年12月3日（火）※1	12：20～12：50	対面／Zoom形式：研究科概要説明、教員紹介　等	

※1　事前申込が必要です。詳細は本大学院入試情報サイトをご確認ください。
※2　動画オンデマンド配信は一定期間掲載しております。詳細は本大学院入試情報サイトをご確認ください。

■ 専門職学位課程

説明会の開催については各専門職大学院のウェブサイトでご確認ください。

〈法科大学院〉　〈会計専門職大学院〉

入学試験に関する Q&A（博士課程前期課程・後期課程）

受験生の皆さんからよくある質問の一部を、ご紹介します。
本大学院入試情報サイトにも、多くのQ＆Aを掲載していますのでご参照ください。

お問い合わせ・Q＆A

Q 筆記試験の難易度を教えてください。

入学試験問題集を参考にしてください。
入学試験問題集の請求方法は８ページをご確認ください。

Q 時間割を知りたいのですが、どこで確認できますか。

各研究科 Web サイトの「カリキュラム」もしくは「関西大学シラバスシステム」によりご確認いただけます。

Q 口頭試問ではどのようなことが聞かれるのですか。

口頭試問は提出された志望理由書や研究計画書等に基づき行われますが、具体的な内容はお答えできません。
なお、外国語教育学研究科博士課程前期課程では、求める「基本的な知識」を『用語集』として本大学院入試情報サイトで公開しています。受験準備に際しての参考にしてください。

Q 授業は夜間にもありますか。また、夜間だけで修了できますか。

授業や修了要件については、法学、文学、経済学、商学、社会学、理工学、外国語教育学、心理学、東アジア文化研究科およびガバナンス研究科は教務センター各担当窓口に、総合情報学研究科は高槻キャンパスの総合情報学部オフィスに、社会安全研究科は高槻ミューズキャンパスのミューズオフィスに、人間健康研究科は堺キャンパスの堺キャンパス事務室に直接ご確認ください。
なお、「関西大学シラバスシステム」で現行の時間割を掲載しています。

Q 同日程での併願は可能ですか。

同一日程で複数の研究科を併願することはできません。ただし、研究科が同じ場合に限り、「外国人留学生入学試験（博士課程前期課程）」と「外国人研究生選考」の併願は可能です。
「外国人留学生入学試験（博士課程前期課程）」と「外国人研究生選考」の併願に関する詳細は、11 ページをご確認ください。

Q 地方入試を行っていますか。

地方入試は行っていません。法学、文学、経済学、商学、社会学、理工学、外国語教育学、心理学、東アジア文化研究科およびガバナンス研究科は千里山キャンパス、総合情報学研究科は高槻キャンパス、社会安全研究科は高槻ミューズキャンパス、人間健康研究科は堺キャンパスが試験場となります。

Q 出願時に届け出た在学コース（博士課程前期課程の2年または3年コース）の変更はできますか。

出願時に選択した在学コースを、合格後に変更を希望する場合は、所定の期日（例年、１月上旬）までに、大学院入試グループまでご連絡いただければ変更は可能です。ただし、２月募集の合格者は合格後にコース変更を申し出ることはできません。なお、在学期間の途中に変更を希望する場合は、２年次に進む段階で、各研究科において定められた条件を満たす場合に限り、願い出によって３年コースから２年コースへ変更することができます。詳細は、学生募集要項の「長期履修学生制度」をご確認ください。

Q 成績証明書や卒業証明書等は、日本語以外で作成されていてもよいですか。

学生募集要項に記載のとおり、日本語・英語・中国語で書かれている証明書を有効書類とします。その他の言語で作成された証明書は、出身大学や大使館・領事館等の公的機関で日本語または英語に翻訳（日本語学校や翻訳会社の翻訳文は不可）をしてもらってください。